

四字熟語	よみ	配当級	意味
哀哀父母	あいあいふぼ	3級	子を生み育ててくれた父母の苦労を悲しみ感謝すること。
合縁奇縁	あいえんきえん	4級	ふしぎな巡り合わせの縁。
愛縁奇縁	あいえんきえん	非見出し	ふしぎな巡り合わせの縁。⇒合縁奇縁
合縁機縁	あいえんきえん	非見出し	ふしぎな巡り合わせの縁。⇒合縁奇縁
相縁奇縁	あいえんきえん	非見出し	ふしぎな巡り合わせの縁。⇒合縁奇縁
愛屋及烏	あいおくきゅうう	非見出し	偏愛の例え。⇒屋烏之愛
哀毀骨立	あいきこつりつ	2級	悲しみの極み。親との死別にひどく哀しむこと。
愛及屋烏	あいきゅうおくう	準1級	偏愛の例え。人を愛するとその人に関わるものすべてがいとおしくなることのたとえ。⇒屋烏之愛
哀鴻遍地	あいこうへんち	非見出し	いたる所に戦いに敗れた兵士やさまよう難民がいるさま。⇒哀鴻遍野
哀鴻遍野	あいこうへんや	準1級	いたる所に戦いに敗れた兵士やさまよう難民がいるさま。
相碁井目	あいごせいもく	準2級	人の実力の差はさまざまで、何をするにも力の差はあるものだということ。
哀糸豪竹	あいしごうちく	3級	悲しげな音を出す琴と、生き生きとした強い音を出す笛。
愛多憎生	あいたぞうせい	3級	愛や恩を受けすぎると、必ず人のねたみや憎しみを買うことになるということ。
愛別離苦	あいべつりく	4級	別れのつらさをいう。
曖昧模糊	あいまいもこ	準1級	はっきりとしないさま。あやふや・不明瞭。
曖昧模糊	あいまいもこ	非見出し	はっきりとしないさま。あやふや・不明瞭。⇒曖昧模糊
哀鳴啾啾	あいめいしゅうしゅう	1級	鳥や虫が悲しげになくさま。
愛楊葉児	あいようように	準1級	物事の真理をより深く探求しようとしないうこと。
青息吐息	あおいきといき	4級	非常に困ったり苦しんだりするときに発するため息。また、そのようなときの状態。
惡衣惡食	あくいあくしょく	5級	質素で粗末な衣服や食物。
惡因惡果	あくいんあつか	5級	悪い行いには必ず悪い報いがあるということ。
惡因苦果	あくいんくか	非見出し	人の行いの善惡に応じてその報いがあらわれること。⇒因果応報
惡逆非道	あくぎゃくひどう	非見出し	人としての道にはずれた悪い行い。⇒惡逆無道
惡逆無道	あくぎゃくむどう	5級	人としての道にはずれた悪い行い。
惡事千里	あくじせんり	5級	悪いことは評判になりやすいというたとえ。
惡声狼藉	あくせいろうぜき	非見出し	評判を落として、それが回復しないこと。⇒声名狼藉
惡戰苦鬪	あくせんくとう	4級	困難を乗り越えようと非常な努力をすること。
惡人正機	あくにんしょうき	5級	阿弥陀仏の本願は、惡人を救うことにあるとする説。
握髮吐哺	あくはつとほ	2級	すぐれた人材を求めるのに熱心なこと。⇒吐哺握髮
惡木盜泉	あくぼくとうせん	4級	惡事に染まるのを戒める語。また、惡事に染まること。
淺瀨仇波	あさせあだなみ	準1級	思慮の浅い人は、とかくとるにたりない小さなことにも大さわぎすることのたとえ。
鴉雀無声	あじゃくむせい	1級	ひっそりとして声のないこと。静寂なさま。
阿世曲学	あせいきよくがく	準1級	学問の真理をまげて、世間や時勢に迎合すること。⇒曲学阿世
鴉巢生鳳	あそうせいほう	1級	愚鈍な親がすぐれた子を生むたとえ。また、貧しい家からすぐれた人が出るたとえ。
可惜身命	あたらしんみょう	準1級	体や命を大切にすること。
遏惡揚善	あつあくようぜん	1級	惡事を禁じて、善行をすすめること。
惡口雜言	あっこうぞうごん	5級	口にまかせてさまざまに惡口を言うこと。また、その言葉。
惡口罵詈	あっこうばり	非見出し	口にまかせてさまざまに惡口を言うこと。また、その言葉。⇒惡口雜言
阿鼻叫喚	あびきょうかん	準1級	非常に悲惨でむごたらしいさまのたとえ。
阿附迎合	あふげいごう	準1級	人に気に入られようとしてへつらい、おもねること。
阿付迎合	あふげいごう	非見出し	人に気に入られようとしてへつらい、おもねること。⇒阿附迎合
阿附雷同	あふらいどう	非見出し	自分の主義主張がなく、他人の言動に軽々しく同調すること。⇒附和雷同
蛙鳴雀噪	あめいじゃくそう	非見出し	役に立たない議論や、内容に乏しく下手な文章。⇒蛙鳴蟬噪

蛙鳴蟬噪	あめいせんそう	1級	役に立たない議論や、内容に乏しく下手な文章。
阿爺下頷	あやあがん	1級	物事の見分けがつかない愚か者のこと。また、間違いのこと。
阿諛曲従	あゆきよくしょう	非見出し	相手に気に入られようと、こびへつらうこと。⇒阿諛追従
阿諛傾奪	あゆけいだつ	1級	身分や権勢のある者におもねり他人の地位を傾け奪うこと。
阿諛苟合	あゆこうごう	非見出し	人に気に入られようとしてへつらい、おもねること。⇒阿附迎合
阿諛承迎	あゆしょうげい	非見出し	人に気に入られようとしてへつらい、おもねること。⇒阿附迎合
阿諛追従	あゆついしょう	1級	相手に気に入られようと、こびへつらうこと。
阿諛追随	あゆついでい	非見出し	相手に気に入られようと、こびへつらうこと。⇒阿諛追従
阿諛便佞	あゆべんねい	1級	口先でへつらって、人の気に入るようにずるがしこく立ち回ること。
阿諛逢迎	あゆほうげい	非見出し	人に気に入られようとしてへつらい、おもねること。⇒阿附迎合
阿諛奉承	あゆほうしょう	非見出し	人に気に入られようとしてへつらい、おもねること。⇒阿附迎合
阿輓輓地	あろくろくじ	1級	物事が滞ることなくうまく回転すること。また、次から次へと言葉が発せられること。
阿漉漉地	あろくろくじ	非見出し	物事が滞ることなくうまく回転すること。また、次から次へと言葉が発せられること。⇒阿輓輓地
暗雲低迷	あんうんていめい	4級	前途不安な状態が続くこと。
晏嬰狐裘	あんえい(の)こきゅう	1級	上に立つ者が儉約につとめ、職務に励むこと。
晏嬰脱粟	あんえいだつぞく	非見出し	中国春秋時代、斉の晏嬰が臣下としての節をまっとうしたこと。⇒晏子高節
安家楽業	あんからくぎょう	非見出し	置かれた状況などに心安らかに甘んじ、自分の仕事を楽しんですること。⇒安居楽業
安閑恬静	あんかんでんせい	1級	安らかでゆったりとして静かなこと。
安居危思	あんきょきし	5級	平穏無事なときにも、万一の場合を考えて常に用心を怠らないことが重要であるということ。
安居楽業	あんきょらくぎょう	5級	置かれた状況などに心安らかに甘んじ、自分の仕事を楽しんですること。
按軍不動	あんぐんふどう	非見出し	好機の到来を、様子をうかがいながらじっと待つこと。⇒按兵不動
暗香蒹葭	あんこうおうぼつ	配当外	どこからともなく香りが盛んに漂いくるさま。
暗香蒹勃	あんこうおうぼつ	非見出し	どこからともなく香りが盛んに漂いくるさま。⇒暗香蒹葭
按甲休兵	あんこうきゅうへい	準1級	戦いをやめること。
按甲寝兵	あんこうしんぺい	非見出し	戦いをやめること。⇒按甲休兵
暗香疎影	あんこうそえい	準2級	暗闇にただよう花の香りと、月光などに照らされて疎らに映る木々などの影の意で、梅の花や梅の木についていうことが多い。
暗香浮動	あんこうふどう	非見出し	どこからともなく香りが盛んに漂いくるさま。⇒暗香蒹葭
晏子高節	あんしのこうせつ	1級	中国春秋時代、斉の晏嬰が臣下としての節をまっとうしたこと。
安車軟輪	あんしゃなんりん	非見出し	老人をいたわり手厚く遇するたとえ。⇒安車蒲輪
安車蒲輪	あんしゃほりん	準1級	老人をいたわり手厚く遇するたとえ。
安心決定	あんしんけつじょう	非見出し	心を安らかに保って運命に身をまかせ、いかなる場合でも動揺しないこと。⇒安心立命
安心立命	あんじんりつめい	5級	心を安らかに保って運命に身をまかせ、いかなる場合でも動揺しないこと。
按図索驥	あんずさくき	1級	理論だけの実際には役立たない考えや意見のこと。
按図索駿	あんずさくしゅん	準1級	理論だけの実際には役立たない考えや意見のこと。⇒按図索驥
暗箭傷人	あんせんしょうじん	準1級	闇討ちをしたり、ひそかに中傷したりする卑劣な行いのこと。
暗送秋波	あんそうしゅうは	5級	かげで機嫌とりをすること。
安宅正路	あんたくせいろ	5級	仁と義のたとえ。
暗中飛躍	あんちゅうひやく	4級	人知れずひそかに活躍すること。
暗中摸索	あんちゅうもさく	準1級	手掛かりがないままに、あれこれとやってみること。
暗中摸索	あんちゅうもさく	非見出し	手掛かりがないままに、あれこれとやってみること。⇒暗中摸索
安土楽業	あんどらくぎょう	非見出し	置かれた状況などに心安らかに甘んじ、自分の仕事を楽しんですること。⇒安居楽業
安寧秩序	あんねいちつじょ	準2級	社会が落ち着いていて秩序立っていること。
安穩無事	あんのんぶじ	3級	変わったこともなくおだやかなこと。
安分守己	あんぶんしゅき	4級	身のほどをわきまえて生きること。

按兵不動	あんぺいふどう	準1級	好機の到来を、様子をうかがいながらじっと待つこと。
安養宝国	あんようほうこく	非見出し	仏教で、阿弥陀仏がいるという安楽の世界のこと。⇒極楽浄土
安楽浄土	あんらくじょうど	準2級	仏教で阿弥陀仏のいるところ。
安楽世界	あんらくせかい	非見出し	仏教で、阿弥陀仏がいるという安楽の世界のこと。⇒極楽浄土
帷幄上奏	いあくじょうそう	1級	旧憲法下で、軍事の機密事項について直接天皇に上奏すること。
以夷攻夷	いいこうい	非見出し	他人の力を用いて自分の利をはかること。⇒以夷征夷
以夷征夷	いいせい	準1級	他人の力を用いて自分の利をはかること。
以夷制夷	いいせい	非見出し	他人の力を用いて自分の利をはかること。⇒以夷征夷
唯唯諾諾	いいだくだく	準2級	物事のよしあしにかかわらず、なんでもはいはいと承知すること。相手の言葉に逆らわずおもねること。
伊尹負鼎	いいんふてい	1級	大望のために身を落とすたとえ。
易往易行	いおういぎょう	5級	たやすい修行で極楽往生できるという教え。
易往易修	いおういしゅう	非見出し	たやすい修行で極楽往生できるという教え。⇒易往易行
以管窺天	いかんきてん	非見出し	視野や見識が狭いことのたとえ。⇒用管窺天
衣冠盛事	いかんせいじ	3級	名門の家に生まれて勲功を立て、その家の盛んな名声を引き継ぐ者をいう。
遺憾千万	いかんせんばん	準2級	非常に残念なこと。
衣冠束帯	いかんそくたい	3級	昔の貴族・官僚の礼装。
以義割恩	いぎかつおん	非見出し	君国に報いるためには親兄弟もかえりみないということ。⇒大義滅親
意気軒昂	いきけんこう	準1級	意気込みが盛んで、奮い立つさま。
意気昂然	いきこうぜん	非見出し	非常に得意で威勢のよいさま。大変誇らしげに振る舞うこと。⇒意気揚揚
意気自若	いきじじゃく	非見出し	心の持ちかたがふだんと変わらず平静なこと。⇒意気自如
意気自如	いきじじょ	3級	心の持ちかたがふだんと変わらず平静なこと。
意気銷沈	いきしょうちん	1級	元気をなくして、しょげかえること。
意気消沈	いきしょうちん	非見出し	元気をなくして、しょげかえること。⇒意気銷沈
意気衝天	いきしょうてん	3級	このうえなく意気込みが盛んなこと。
意気相投	いきそうとう	非見出し	たがいの気持ちや考えなどがぴったりと合うこと。⇒意気投合
意気沮喪	いきそそう	1級	意気込みがくじけ弱り、元気を失うこと。
意気阻喪	いきそそう	非見出し	意気込みがくじけ弱り、元気を失うこと。⇒意気沮喪
意気投合	いきとうごう	5級	たがいの気持ちや考えなどがぴったりと合うこと。
易行易修	いぎょういしゅう	非見出し	たやすい修行で極楽往生できるという教え。⇒易往易行
意気揚揚	いきようよう	3級	非常に得意で威勢のよいさま。大変誇らしげに振る舞うこと。
異曲同工	いきよくどうこう	5級	外見は異なるが、内容は似たり寄ったりであること。⇒同工異曲
衣錦還郷	いきんかんきょう	2級	立身出世して故郷に帰ること。
衣錦尚絅	いきんしょうけい	1級	才能や徳を外にあらわに出さないこと。
衣錦之栄	いきんのえい	準1級	成功して故郷に錦を飾る名誉をいう。
衣錦夜行	いきんやこう	非見出し	功名をあげ、また出世しても故郷に錦を飾らなければ誰も知るものがないたとえ。⇒衣繡夜行
郁郁青青	いくいくせいせい	準1級	香りが盛んでかんばしく青々と生い茂るさま。
異口同音	いくどうおん	5級	みんなが口をそろえて同じことを言うこと。
異口同辞	いくどうじ	非見出し	みんなが口をそろえて同じことを言うこと。⇒異口同音
異口同声	いくどうせい	非見出し	みんなが口をそろえて同じことを言うこと。⇒異口同音
夷陰一節	いけんいつせつ	準1級	順境にも逆境にも節操を変えないこと。
韋弦之佩	いげんのはい	1級	自分の性格を改めて修養しようと戒めのための物を身につけること。
異国情緒	いこくじょうちょ	準2級	いかにも外国らしい風物がかもしだす雰囲気や気分。
異国情調	いこくじょうちょう	非見出し	いかにも外国らしい風物がかもしだす雰囲気や気分。⇒異国情緒
為虎添翼	いこてんよく	非見出し	強い者がさらに力をつけること。⇒為虎傳翼

為虎傅翼	いこふよく	1級	強い者がさらに力をつけること。
意在言外	いざいげんがい	5級	自分の思いを直接言葉で述べないで、相手の推察にまかせること。また、思うことを直接書かないで、字間や行間に含ませること。
為山止簣	いざんしき	非見出し	長い間の努力も最後のほんのちょっとした手違いから失敗に終わってしまうことのたとえ。⇔一簣之功
意識朦朧	いしきもうろう	1級	意識がかすんではっきりしないさま。
意志堅固	いしけんこ	追加	成し遂げようとする気持ちが強くて、ゆるがないこと。
意志薄弱	いしはくじゃく	4級	自分の明確な意志をもたないさま。
遺臭万載	いしゅうばんさい	準2級	悪名や悪い評判を後世まで残すこと。
遺臭万歳	いしゅうばんさい	非見出し	悪名や悪い評判を後世まで残すこと。⇒遺臭万載
衣繡夜行	いしゅうやこう	準1級	功名をあげ、また出世しても故郷に錦を飾らなければ誰も知るものがないたとえ。
渭樹江雲	いじゅこううん	1級	遠くにいる友人を思う情が切ないこと。
意匠惨澹	いしょうさんたん	1級	工夫を凝らすのに苦心すること。
意匠惨憺	いしょうさんたん	非見出し	工夫を凝らすのに苦心すること。⇒意匠惨澹
医食同源	いしょくどうげん	5級	日常の食事に注意することが、病氣予防の最善の策であるということ。
以身殉利	いしんじゅんり	準2級	つまらない人間は自分の利と欲のためにのみ生きるということ。
遺簪墜屨	いしんついく	配当外	なくしたかんざしと、落としたくつ。日頃使い慣れたものに愛着をもつたとえ。
以心伝心	いしんでんしん	5級	文字や言葉によらず心と心で通じ合うこと。
異人同辞	いじんどうじ	非見出し	みんなが口をそろえて同じことを言うこと。⇒異口同音
渭川漁父	いせんのぎよほ	非見出し	渭水のほとりで釣り糸をたれていた呂尚(太公望)のこと。⇒渭浜漁父
衣帶一江	いたいいつこう	非見出し	非常に近い関係のたとえ。⇒一衣帶水
衣帶中贊	いたいちゅうのさん	0	南宋の忠臣の文天祥が死に臨み衣帯の中に書き置いた賛辞。
異体同心	いたいどうしん	5級	体は別なものでも心は一つに固く結ばれていること。また、それほど関係が深いということ。
衣帶之水	いたいのみず	非見出し	非常に近い関係のたとえ。⇒一衣帶水
衣帶不解	いたいふかい	5級	あることに不眠不休で専念すること。⇒不解衣帶
為蛇画足	いだがそく	非見出し	無用なものをつけ足すこと。⇒画蛇添足
為蛇添足	いだてんそく	非見出し	無用なものをつけ足すこと。⇒画蛇添足
韋駄天走	いだてんぱしり	1級	非常に速く走ること。
異端邪説	いたんじゃせつ	3級	正統からはずれている思想・信仰・学説。
一意攻苦	いちいこうく	4級	ひとすじに考え込むこと。
一意専心	いちいせんしん	5級	ひたすら一つのことに心を集中すること。
一意搏心	いちいせんしん	非見出し	ひたすら一つのことに心を集中すること。⇒一意専心
一意専心	いちいせんしん	非見出し	ひたすら一つのことに心を集中すること。⇒一意専心
一衣帶水	いちいたいすい	5級	非常に近い関係のたとえ。
一飲一啄	いちいんいつたく	準1級	人が分に安んじてそれ以上求めないことのたとえ。
一韻到底	いちいんとうてい	準2級	古詩の韻の踏み方のひとつで、同一の韻を最初から最後まで用いること。
一榮一辱	いちえいいちじよく	3級	栄えたり衰えたりすること。
一詠一觴	いちえいいっしょう	1級	ひと杯の酒を飲んで、一つの詩を作る。酒を飲み楽しみながら詩を作ること。⇒一觴一詠
一往一來	いちおういちらい	5級	行ったり来たりすること。
一月三舟	いちがつさんしゅう	4級	仏道は一つであるのに人のさまざまな受け取り方で種々別々の意味にとらえられるたとえ。
一牛吼地	いちぎゅうこうち	非見出し	きわめて距離の近いこと。⇒一牛鳴地
一牛鳴地	いちぎゅうめいち	5級	きわめて距離の近いこと。
一行三昧	いちぎょうざんまい	2級	心を一つにして仏道修行に励むこと。
一言一行	いちげんいつこう	5級	一つの言葉と一つの行い。
一言九鼎	いちげんきゅうてい	非見出し	貴重なもの、重要な地位や名望のたとえ。⇒九鼎大呂
一言居士	いちげんこじ	準2級	事あるごとに自分の意見をひとこと言わなければ気のすまない人のこと。

一言千金	いちげんせんきん	非見出し	筆跡や詩文の表現を尊重して言う語。⇒一字千金
一元描写	いちげんびょうしゃ	4級	小説の作中人物を主人公の視点からのみ一元的に描写すべきであるとする小説作法。
一言片句	いちげんぺんく	非見出し	ほんの少しの短い言葉。⇒一言半句
一期一会	いちごいちえ	準2級	生涯に一度だけ会うこと。また、生涯に一度限りであること。
一伍一什	いちごいちじゅう	非見出し	はじめから終わりまで。はじめから終わりまでの詳しいいきさつすべて。⇒一部始終
一言一句	いちごんいっく	非見出し	ほんの少しの短い言葉。⇒一言半句
一言半句	いちごんはんく	5級	ほんの少しの短い言葉。
一言芳恩	いちごんほうおん	3級	ひとこと声をかけてもらったことを忘れず、感謝すること。
一時緩急	いちじかんきゅう	非見出し	ひとたび緊急の事態になったとき。いざという場合。⇒一旦緩急
一字千金	いちじせんきん	5級	筆跡や詩文の表現を尊重して言う語。
一日三秋	いちじつさんしゅう	5級	一日会わなかっただけで三年も会わなかったような気がする。相手を思慕する情の深いこと。
一日千秋	いちじつせんしゅう	5級	大変待ち遠しいことのたとえ。
一日之長	いちじつのちょう	準1級	経験や技能などが他より少しすぐれていること。
一時之傑	いちじのけつ	非見出し	その時代で最もすぐれた英雄。当代の最もすぐれた人物。⇒一世之雄
一字百金	いちじひゃっきん	非見出し	筆跡や詩文の表現を尊重して言う語。⇒一字千金
一字不識	いちじふしき	非見出し	ひとつの文字も知らず、読み書きがまったくできないこと。⇒一文不通
一字不説	いちじふせつ	5級	仏法の真理は他から得るものではなく、自ら体得するものだということ。
一字褒貶	いちじほうへん	1級	一字の使い分けによって、人を誉めたりけなしたりすること。
一汁一菜	いちじゅういっさい	準2級	質素な食事のたとえ。
一入再入	いちじゅうさいじゅう	準1級	布を幾度も染めること。染色の濃いこと。
一樹百穫	いちじゅひゃっかく	3級	人材の育成は、大きな利益をもたらすこと。
一上一下	いちじょういちげ	5級	場面に応じて適切に対応するたとえ。
一場春夢	いちじょうのしゅんむ	5級	人生の栄華がきわめてはかないことのたとえ。
一時流行	いちじりゅうこう	5級	俳諧で新しみを求め時とともに変化を重ねてゆくこと。
一字連城	いちじれんじょう	非見出し	筆跡や詩文の表現を尊重して言う語。⇒一字千金
一新紀元	いちしんきげん	5級	一つの新しい時代。
一族郎党	いちぞくろうとう	4級	血縁関係にある者とその従者や家臣。
一族郎等	いちぞくろうとう	非見出し	血縁関係にある者とその従者や家臣。⇒一族郎党
一大決心	いちだいきっしん	5級	非常に重大な決意。
一代英雄	いちだいのえいゆう	非見出し	その時代で最もすぐれた英雄。当代の最もすぐれた人物。⇒一世之雄
一諾千金	いちだくせんきん	3級	約束を重んじるたとえ。
一团和気	いちだんのわき	5級	なごやかな雰囲気。親しみやすい態度をいう。
一堂和気	いちどうのわき	非見出し	なごやかな雰囲気。親しみやすい態度をいう。⇒一团和気
一読三嘆	いちどくさんたん	4級	名文を読んで感銘すること。
一日不食	いちにちふしょく	5級	毎日、仕事に従事してからでないと食事をとらないこと。
一人当千	いちにんとうせん	5級	非常に力の強いこと。また、知能が優れていること。
一念通天	いちねんつうてん	非見出し	精神を集中して必死の思いで事にのぞめば、どんな困難なことでもできるということ。⇒射石飲羽
一念發起	いちねんほっき	4級	あることを成し遂げようと決意すること。
一念発心	いちねんほっしん	非見出し	あることを成し遂げようと決意すること。⇒一念發起
一暴十寒	いちばくじっかん	4級	努力が少なく怠ることが多いのを戒めた語。
一罰百戒	いちばつひゃっかい	4級	一人の過失や罪を罰することで、他の人々が同様な罪を犯さないよう戒めること。
一病息災	いちびょうそくさい	5級	持病を一つぐらい持っているほうが、健康に気をつけてかえって長生きできるということ。
一分一厘	いちぶいちりん	非見出し	ごくわずかなこと。⇒一糸一毫
一部始終	いちぶしじゅう	5級	はじめから終わりまで。はじめから終わりまでの詳しいいきさつすべて。

一分自慢	いちぶじまん	非見出し	自分のことを自分でほめること。⇒自画自賛
一別以来	いちべついらい	5級	一度別れてからこのかた。
一望千頃	いちぼうせんけい	準1級	ひと目でかなたまで広々と見渡されること。
一望千里	いちぼうせんり	5級	非常に見晴らしのよいことのたとえ。
一望無垠	いちぼうむぎん	1級	ひと目でかなたまで広々と見渡されること。
一木一草	いちぼくいっそう	5級	そこにあるすべてのもののこと。また、ほんのわずかなもののこと。
一枚看板	いちまいかんばん	5級	一座の中の代表的な役者。また、大勢の中の中心人物のこと。また、一着しかない衣服、人に見せられる唯一のもの。
一味同心	いちみどうしん	5級	同じ目的のために集まり心をつにすること。また、その仲間。
一味徒党	いちみととう	5級	同じ目的のために仲間となること。また、その仲間。
一味郎党	いちみろうとう	非見出し	同じ目的のために仲間となること。また、その仲間。⇒一味徒党
一網打尽	いちもうだじん	4級	ひとまとめてに悪人を捕らえ尽くすたとえ。
一毛不拔	いちもうふばつ	4級	物惜しみのはなはだしいこと。
一網無遺	いちもうむい	非見出し	ひとまとめてに悪人を捕らえ尽くすたとえ。⇒一網打尽
一目十行	いちもくじゅうぎょう	5級	書物を読むことが速いことのたとえ。
一目即了	いちもくそくりょう	非見出し	ちょっと見ただけではっきりとわかること。⇒一目瞭然
一目瞭然	いちもくりょうぜん	2級	ちょっと見ただけではっきりとわかること。
一目了然	いちもくりょうぜん	非見出し	ちょっと見ただけではっきりとわかること。⇒一目瞭然
一問一答	いちもんいっとう	5級	一つの問いに対して一つの答えをすること。
一文半銭	いちもんはんせん	5級	ごくわずかな金額のたとえ。
一文不知	いちもんふち	非見出し	ひとつの文字も知らず、読み書きがまったくできないこと。⇒一文不通
一文不通	いちもんふつう	5級	ひとつの文字も知らず、読み書きがまったくできないこと。
一夜検校	いちやけんぎょう	準1級	ごく短い間に裕福になること。
一夜檢校	いちやけんぎょう	非見出し	ごく短い間に裕福になること。⇒一夜検校
一夜十起	いちやじっき	5級	人間は、私情や私心に左右されること。
一遊一予	いちゆういちよ	5級	遊んだり楽しんだりする。天子が諸国を視察してまわること。
一葉知秋	いちようちしゅう	5級	わずかな兆しから、物事の衰亡や大勢を察知すること。
一陽来復	いちようらいふく	5級	物事が回復することのたとえ。
一落千丈	いちらくせんじょう	非見出し	事態・情勢が急に変化して、物事が解決し決着がつくこと。⇒急転直下
一利一害	いちりいちがい	5級	よいことがある一方、悪いこともあること。
一粒万倍	いちりゅうまんばい	4級	わずかなものから多くの利益を得るたとえ。
一竜一猪	いちりょういっちょ	準1級	学ぶと学ばぬとによって著しく賢愚の差ができることのたとえ。
一了百了	いちりょうひゃくりょう	3級	一つのこと が解決すれば、すべてが解決すること。また、一つのことから万事を推測すること。
一縷千鈞	いちるせんきん	1級	危険の甚だしいことの形容。
一蓮托生	いちれんたくしょう	準1級	事のよしあしにかかわらず行動や運命をともにする意。
一蓮託生	いちれんたくしょう	非見出し	事のよしあしにかかわらず行動や運命をともにする意。⇒一蓮托生
一劳永逸	いちろうえいいつ	準2級	一度苦労すれば、長くその利を得られること。また、わずかの苦労で多くの安楽が得られること。
一劳久逸	いちろうきゅういつ	非見出し	一度苦労すれば、長くその利を得られること。また、わずかの苦労で多くの安楽が得られること。⇒一劳永逸
一路順風	いちろじゅんぷう	5級	ものごとが順調に運ぶこと。
一路平安	いちろへいあん	5級	旅立つ人の途中の無事を祈っている語。
一攫千金	いっかくせんきん	1級	あまり苦労をせずに一時に大きい利益を得ること。
一獲千金	いっかくせんきん	非見出し	あまり苦労をせずに一時に大きい利益を得ること。⇒一攫千金
一攫万金	いっかくばんきん	非見出し	あまり苦労をせずに一時に大きい利益を得ること。⇒一攫千金
一家眷族	いっかけんぞく	1級	家族と血縁関係にある者。
一家団欒	いっかだんらん	1級	家族が集まってむつまじく楽しむこと。

一割之利	いっかつのり	準1級	鉛で作った切れ味の悪い刀でも一度は物を断ち切ることができる。凡庸な人でも時には力を出せるときがある。多く自分の微力を謙遜するという語。⇒鉛刀一割
一竿風月	いっかん(の)ふうげつ	準1級	自然の中で悠々自適に過ごすこと。
一喜一憂	いっきいちゆう	3級	状況の変化にしたがってそのつど、喜んだり心配したりすること。
一気呵成	いっきかせい	1級	ひといきに文章を書き上げること。また、ものごとを中断することなくひといきに仕上げてしまうこと。
一饋十起	いっきじっき	1級	賢者を求めるのに熱心なたとえ。
因機説法	いっきせっぽう	5級	その場に応じた説法を行い真理を悟らせること。
一騎当千	いっきとうせん	3級	一人の騎馬兵で千人もの敵を相手にできる。転じて、一人で千人を敵にできるほど実力のあること。
一簣之功	いっきのこう	1級	仕事を完遂する間際の最後の努力。最後のひとふんばり。
一簣之功	いっきのこう	非見出し	仕事を完遂する間際の最後の努力。最後のひとふんばり。⇒一簣之功
一丘一壑	いっきゅういちがく	1級	俗世間を離れ、自然の中に身を置いて、風流を楽しむこと。
一裘一葛	いっきゅういっかつ	1級	一枚のかわごろもと、一枚のくずかたびら。他に着替えがないことから、貧乏のたとえ。
一球入魂	いっきゅうにゅうこん	3級	悔いなき一球を投ずること。
一丘之貉	いっきゅうのかく	1級	同じ丘にすむむじな。似たようなもののたとえ。
一丘之貉	いっきゅうのかく	非見出し	同じ丘にすむむじな。似たようなもののたとえ。⇒一丘之貉
一虚一盈	いっきょいちえい	準1級	あるいはむなく、あるいは満ちる。常に変化して一定の形を保つことなく測りがたいことのたとえ。
一虚一実	いっきょいちじつ	3級	いろいろ変化して、物事の予測ができないこと。
一挙一動	いっきょいちどう	5級	ひとつひとつの動作、ふるまい。ちょっとしたしぐさ。
一虚一満	いっきょいちまん	非見出し	あるいはむなく、あるいは満ちる。常に変化して一定の形を保つことなく測りがたいことのたとえ。⇒一虚一盈
一挙双擒	いっきょそうきん	非見出し	一つのことをして二つの利益を得るたとえ。⇒一石二鳥
一挙両失	いっきょりょうしつ	5級	一つのことをするだけで同時に他の一つのこととも失うこと。
一挙両全	いっきょりょうぜん	非見出し	一つのことをするだけで、同時に二つの利益が得られること。⇒一挙両得
一挙兩得	いっきょりょうとく	5級	一つのことをするだけで、同時に二つの利益が得られること。
一琴一鶴	いっきんいっかく	準1級	役人が清廉なことのたとえ。
一薰一蕕	いっくんいちゆう	1級	善は消えやすく悪は除きがたいことのたとえ。
一蹶不振	いっけつふしん	1級	一度失敗して二度と立ち上がれないたとえ。
一件落着	いっけんらくちゃく	5級	ものごとが解決すること。
一劍両段	いっけんりょうだん	非見出し	物事を思い切って処理すること、ためらわずに決断することのたとえ。⇒一刀両断
一闔一關	いっこういちびやく	1級	あるいは閉じ、あるいは開く。陰と陽が消長するさま。
一口両舌	いっこうりょうぜつ	4級	前に言った内容とくい違うことを平気で言うこと。
一刻三礼	いっこくさんらい	非見出し	慎重かつ敬虔な態度で仕事をする事。⇒一刀三礼
一刻千金	いっこくせんきん	5級	時間の貴重なことのたとえ。
一刻千秋	いっこくせんしゅう	非見出し	大変待ち遠しいことのたとえ。⇒一日千秋
一顧傾国	いっこけいこく	非見出し	絶世の美人のたとえ。⇒一顧傾城
一顧傾城	いっこけいせい	準1級	絶世の美人のたとえ。
一壺千金	いっこせんきん	準1級	ふだんは価値がないものでも、時と場合によっては、それがはかり知れないほど役に立つこと。
一狐之腋	いっこのえき	1級	貴重なもののたとえ。
一切有情	いっさいいうじょう	4級	この世の生あるものすべて。生きとし生けるもの。
一切皆空	いっさいかいくう	非見出し	仏教で、人間界の現象・存在は一切空であるということ。⇒五蘊皆空
一切合切	いっさいがっさい	4級	何もかもすべて。
一切合財	いっさいがっさい	非見出し	何もかもすべて。⇒一切合切
一切衆生	いっさいしゅじょう	準2級	この世に生を受けたあらゆるもの。生きとし生けるもの。
一殺他生	いっさつたしょう	非見出し	ひとりの人間を犠牲にして多くの人を救い生かすこと。⇒一殺多生
一糸一毫	いっしいちごう	1級	ごくわずかなこと。
一弛一張	いっしーいっちょう	準1級	厳格にしたり寛大にしたりして人をほどよく扱うこと。⇒一張一弛

一士諤諤	いっしがくがく	1級	多くの者がおもねり追従している中で、一人だけ恐れはばからずに直言すること。
一死七生	いっししちしょう	5級	この世に生まれ変わる限りどこまでもということ。
一子相伝	いっしそうでん	5級	学問・技芸などの奥義を直系の子供一人にのみ伝えて他人にはもらさないこと。
一失一得	いっしついつとく	非見出し	一方で利益があると他方で損失を伴っていること。⇒一得一失
一視同仁	いっしどうじん	5級	差別することなくすべての人を見て愛すること。
一視之仁	いっしのじん	非見出し	差別することなくすべての人を見て愛すること。⇒一視同仁
一紙半銭	いっしはんせん	5級	一枚の紙と銭半銭。わずかなことのたとえ。また、軽少なもののたとえ。
一死報国	いっしほうこく	5級	いのちをかけて国に奉公すること。
一瀉千里	いっしゃせんり	1級	流れの非常に速いこと。転じて、文章や弁舌がよどみなく、すらすらできることのたとえ。また、ものごとが速やかに進みかたづくこと。
一瀉百里	いっしゃひゃくり	非見出し	流れの非常に速いこと。転じて、文章や弁舌がよどみなく、すらすらできることのたとえ。また、ものごとが速やかに進みかたづくこと。⇒一瀉千里
一種一瓶	いっしゅいっぺい	準1級	それぞれが一品の酒の肴と一瓶の酒を持ち寄って宴会をすること。
一宿一飯	いっしゅくいっばん	5級	通りすがりにちょっと世話になること。
一觴一詠	いっしょういちえい	1級	ひと杯の酒を飲んで、一つの詩を作る。酒を飲み楽しみながら詩を作ること。
一笑一嘖	いっしょういっぴん	1級	顔にあらわれるわずかな表情。ちょっと顔をしかめたり、ちょっと笑ったりすること。⇒一嘖一笑
一生懸命	いっしょうけんめい	準2級	命がけでものごとにあたること。いちずに苦心すること。
一倡三歎	いっしょうさんたん	1級	すぐれた詩文を賞賛する語。一度詠み上げれば何度も感嘆する意。
一唱三歎	いっしょうさんたん	非見出し	すぐれた詩文を賞賛する語。一度詠み上げれば何度も感嘆する意。⇒一倡三歎
一倡三嘆	いっしょうさんたん	非見出し	すぐれた詩文を賞賛する語。一度詠み上げれば何度も感嘆する意。⇒一倡三歎
壹倡三歎	いっしょうさんたん	非見出し	すぐれた詩文を賞賛する語。一度詠み上げれば何度も感嘆する意。⇒一倡三歎
一笑千金	いっしょうせんきん	4級	ひとたびほほえめば千金に値するほどの美人をいう。
一将万骨	いっしょうばんこつ	4級	上に立つ者だけに功名が与えられ、部下は犠牲にされることのたとえ。
一生不犯	いっしょうふぼん	準1級	仏教の戒律で、一生男女の交わりをしないこと。
一触即発	いっしょくそくはつ	4級	非常に緊迫した状況にさらされていること。
一所懸命	いっしょけんめい	準2級	真剣にものごとに打ちこむこと。
一所不住	いっしょふじゅう	非見出し	物事に執着せず、自然のなりゆきに任せて行動すること。⇒行雲流水
一心一意	いっしんいちい	非見出し	ひたすら一つのことに心を集中すること。⇒一意専心
一身一意	いっしんいちい	非見出し	一つのことに心を集中して他のことに心を奪われないこと。⇒一心不乱
一進一退	いっしんいつたい	5級	進んだり退いたりすること。また、情勢がよくなったり悪くなったりすること。
一心一徳	いっしんいつとく	5級	多くの人が、共通の利益のために心をつにして団結すること。⇒一徳一心
一心同体	いっしんどうたい	5級	複数の人間が心をつにして一人の人間のように固く結びつくこと。
一心不乱	いっしんふらん	5級	一つのことに心を集中して他のことに心を奪われないこと。
一心発起	いっしんほっき	4級	あることを成し遂げようと決意すること。
一水盈盈	いっすいえいえい	準1級	水満ちわたる一筋の川。互いに心ひかれながら、相見たり言葉を交わしたりできないたとえ。⇒盈盈一水
一醉千日	いっすいせんにち	3級	きわめてうまい酒のたとえ。
一炊之夢	いっすいのゆめ	準1級	人の世の栄華のはかないことのたとえ。⇒邯鄲之夢
一寸光陰	いっすんのこういん	4級	ほんのわずかな時間のこと。
一寸赤心	いっすんのせきしん	非見出し	うそいつわりのないまごころ。自分のまごころを謙遜するという語。⇒一寸丹心
一寸丹心	いっすんのたんしん	4級	うそいつわりのないまごころ。自分のまごころを謙遜するという語。
一世木鐸	いっせい(の)ぼくたく	準1級	世の中の人々を教え導く人のこと。
一世一代	いっせいいちだい	5級	一生のうちでただ一度。
一世一度	いっせいいちど	非見出し	一生のうちでただ一度。⇒一世一代
一世之冠	いっせいのかん	非見出し	その時代で最もすぐれた英雄。当代の最もすぐれた人物。⇒一世之雄
一世師表	いっせいのしひょう	非見出し	賢人のこと。⇒泰山梁木
一世之雄	いっせいのゆう	準1級	その時代で最もすぐれた英雄。当代の最もすぐれた人物。

一世風靡	いっせいふうび	1級	ある時代に非常に流行すること。
一石二鳥	いっせきにちょう	5級	一つのことをして二つの利益を得るたとえ。
一殺多生	いっせつたしょう	準2級	ひとりの人間を犠牲にして多くの人を救い生かすこと。
一銭一厘	いっせんいちりん	3級	わずかな金銭のこと。
一箭双雕	いっせんそうちょう	1級	弓を射るのがうまいこと。また、ただ一つの行為で二つの利益を得るたとえ。
一措一画	いっそいっかく	3級	漢字の一つの点、一つの画。⇒一点一画
一草一木	いっそういちぼく	非見出し	そこにあるすべてのもののこと。また、ほんのわずかなもののこと。⇒一木一草
一体分身	いったいぶんしん	5級	一つのがいくつかに分かれること。
一旦一夕	いったんいっせき	非見出し	ほんのわずかな期間。非常に短い時間のたとえ。⇒一朝一夕
一短一長	いったんいっちょう	5級	長所もあり短所もあり、完全でないこと。⇒一長一短
一旦緩急	いったんかんきゅう	2級	ひとたび緊急の事態になったとき。いざという場合。
一簞之食	いったんのし	非見出し	粗末な飲食物。また、つましい暮らし。⇒一瓢一簞
一治一乱	いっちいちらん	5級	この世の治乱の変転を述べた語。
一致団結	いっちだんけつ	非見出し	多くの人が、共通の利益のために心をつにして団結すること。⇒一徳一心
一知半解	いっちはんかい	5級	自分のものになっていない、なまはんかな知識や理解のこと。
一張一弛	いっちょういっし	準1級	厳格にしたり寛大にしたりして人をほどよく扱うこと。
一朝一夕	いっちょういっせき	4級	ほんのわずかな期間。非常に短い時間のたとえ。
一長一短	いっちょういったん	5級	長所もあり短所もあり、完全でないこと。
一超直入	いっちょうじきにゅう	3級	ひとたび迷いを超越すると、にわかに悟りの境地に入ることができるということ。
一朝之忿	いっちょうのいかり	1級	一時的な怒りをいう。
一朝之患	いっちょうのうれい	準1級	一時の心配をいう。また、思いがけず突然起こる心配事。
一朝富貴	いっちょうのふうき	準2級	にわかに富貴な身になること。
一枕黄粱	いっちんのこうりょう	非見出し	一生が夢幻のようにはかないことのたとえ。⇒黄粱一炊
一擲乾坤	いってきけんこん	非見出し	運命をかけて、一か八かの大勝負をすること。⇒乾坤一擲
一擲千金	いってきせんきん	1級	豪快な振る舞い、思い切りのよいことのたとえ。
一擲百万	いってきひやくまん	非見出し	豪快な振る舞い、思い切りのよいことのたとえ。⇒一擲千金
一点一画	いってんいっかく	5級	漢字の一つの点、一つの画。
一天四海	いってんしかい	5級	天の下と四方の海。天下のすべて、世界中の意。
一天万乗	いってんばんじょう	4級	天下を治める天子の意。
一刀三拝	いっとうさんばい	非見出し	慎重かつ敬虔な態度で仕事をする事。⇒一刀三礼
一刀三礼	いっとうさんらい	準2級	慎重かつ敬虔な態度で仕事をする事。
一刀両断	いっとうりょうだん	5級	物事を思い切って処理すること、ためらわずに決断することのたとえ。
一刀両段	いっとうりょうだん	非見出し	物事を思い切って処理すること、ためらわずに決断することのたとえ。⇒一刀両断
一得一失	いっとくいっしつ	5級	一方で利益があると他方で損失を伴っていること。
一徳一心	いっとくいっしん	5級	多くの人が、共通の利益のために心をつにして団結すること。
一登竜門	いっとうりゅうもん	準2級	その時代の有力者に認められれば、その人の価値は世間から十倍にも評価されるということ。
一敗塗地	いっばいとち	3級	戦いに大敗すること。
一髪千鈞	いっばつせんきん	1級	非常に危険なこと、きわめて無理なことのたとえ。
一発双貫	いっばつそうかん	非見出し	一つのことをして二つの利益を得るたとえ。⇒一石二鳥
一飯千金	いっばんせんきん	5級	わずかな恵みに対しても十分な恩返しをすること。
一飯之恩	いっばんのおん	準1級	一回の食事をごちそうになった恩義。ほんの少しの恵み。
一飯之徳	いっばんのとく	非見出し	わずかな恵みに対しても十分な恩返しをすること。⇒一飯千金
一飯之報	いっばんのむくい	非見出し	わずかな恵みに対しても十分な恩返しをすること。⇒一飯千金
一筆勾消	いっぴつこうしょう	2級	これまでのすべてを取り消すこと。

一筆勾銷	いっぴつこうしょう	非見出し	これまでのすべてを取り消すこと。⇒一筆勾消
一筆勾断	いっぴつこうだん	非見出し	これまでのすべてを取り消すこと。⇒一筆勾消
一筆抹殺	いっぴつまっさつ	準2級	よく考えることなく、事実や存在を全面的に否定すること。
一筆抹倒	いっぴつまっとう	非見出し	よく考えることなく、事実や存在を全面的に否定すること。⇒一筆抹殺
一瓢一簞	いっぴょういったん	準1級	粗末な飲食物。また、つましい暮らし。
一瓢之飲	いっぴょうのいん	非見出し	粗末な飲食物。また、つましい暮らし。⇒一瓢一簞
一嚥一笑	いっぴんいっしょう	1級	顔にあらわれるわずかな表情。ちょっと顔をしかめたり、ちょっと笑ったりすること。
一顰一笑	いっぴんいっしょう	非見出し	顔にあらわれるわずかな表情。ちょっと顔をしかめたり、ちょっと笑ったりすること。⇒一嚥一笑
一碧万頃	いっぺきばんけい	準1級	青い海や湖などが限りなく広々と広がっているさま。
一片氷心	いっぺんのひょうしん	4級	清く澄みきった心境のこと。
鷸蚌之争	いっぼうのあらそい	1級	両者が譲らずに争っていると第三者が骨を折らずに利益を横取りしてしまうことのたとえ。
一本調子	いっぼんちょうし	非見出し	多くのものが、どれも変わりばえがなくて面白みに欠けること。⇒千篇一律
乙夜之覧	いつやのらん	準1級	天子が書物を御覧になること。
意到心随	いとうしんずい	非見出し	詩文などを作るのに、心のまますらすらと作れること。⇒意到筆随
異榻同夢	いとうどうむ	非見出し	立場や仕事が異なる者でも、考え方や目的が同じであることのたとえ。⇔同床異夢
意到筆随	いとうひつずい	3級	詩文などを作るのに、心のまますらすらと作れること。
以毒攻毒	いどくこうどく	非見出し	悪を制するのに悪を用いることのたとえ。⇒以毒制毒
以毒制毒	いどくせいどく	5級	悪を制するのに悪を用いることのたとえ。
猗頓之富	いとんのとみ	1級	巨万の富、膨大な財産をいう。
倚馬七紙	いばしちし	1級	すらすらと名文を書き上げる才能。
意馬心猿	いばしんえん	準2級	煩惱や妄念のために心が乱れ落ち着かないことのたとえ。⇒心猿意馬
衣鉢相伝	いはちそうでん	準2級	弟子が師の教えを継ぐこと。また、法灯を継ぐこと。
倚馬之才	いばのさい	非見出し	すらすらと名文を書き上げる才能。⇒倚馬七紙
夷蛮戎狄	いばんじゅうてき	1級	中国周辺部にいた異民族の総称。四方の野蛮民族。えびす。
萎靡沈滞	いびちんたい	1級	物事の動きに活気や勢いがなくいこと。
渭浜漁父	いひんのぎょほ	1級	渭水のほとりて釣り糸をたれていた呂尚(太公望)のこと。
移風易俗	いふうえきぞく	4級	風俗をよい方へ移し変えること。
遺風残香	いふうざんこう	4級	むかしのすぐれた人や風俗のなごり。
威風堂堂	いふうどうどう	4級	威厳に満ち溢れてりっぱなこと。氣勢が大いに盛んなこと。
遺風余香	いふうよこう	非見出し	むかしのすぐれた人や風俗のなごり。⇒遺風残香
威風凜凜	いふうりんりん	非見出し	威厳に満ち溢れてりっぱなこと。氣勢が大いに盛んなこと。⇒威風堂堂
緯武経文	いぶけいぶん	4級	文武両道を重んじて国を治めること。
威武堂堂	いぶどうどう	非見出し	威厳に満ち溢れてりっぱなこと。氣勢が大いに盛んなこと。⇒威風堂堂
異聞奇譚	いぶんきたん	1級	きわめて珍しい話のこと。
韋編三絶	いへんさんぜつ	1級	書物を繰り返し読むこと。読書や学問に熱心なたとえ。
移木之信	いぼくのしん	準1級	約束を実行するたとえ。⇒徙木之信
意味深長	いみしんちょう	5級	人の行動や言葉、詩文などの意味や趣が非常に深く含みがあること。
倚門倚閭	いもんいりょ	非見出し	子を思う母の愛情のこと。⇒倚門之望
倚門之望	いもんのぼう	1級	子を思う母の愛情のこと。
衣履弊穿	いりへいせん	準1級	貧賤の人の服装をいう。
倚閭之望	いりよのぼう	非見出し	子を思う母の愛情のこと。⇒倚門之望
異類中行	いるいちゅうぎょう	5級	仏が人々を救うために、俗世に身を置くこと。また、禅僧が修行者を教え導くために、いろいろな方法を講じること。
異類無礙	いるいむげ	1級	異質なもののどうしが、なんの障害もなく互いに通じあうこと。
以蠡測海	いれいそくかい	非見出し	視野や見識が狭いことのたとえ。⇒用管窺天

異路同帰	いろうどうき	5級	方法は違っても結果は同じであるたとえ。
以和為貴	いはいき	非見出し	人と人とが仲よくすることが最もたいせつであるということ。⇒用和為貴
陰陰滅滅	いんいんめつめつ	3級	暗く陰気で気の滅入るさま。
飲灰洗胃	いんかいせんい	4級	前非を悔い改め再出発すること。
因果応報	いんがおうほう	5級	人の行いの善悪に応じてその報いがあらわれること。
因果観面	いんがてきめん	1級	悪事の報いがすぐに目の前にあらわれること。
飲河之願	いんがのねがい	非見出し	人にはそれぞれ分があり、分相応に満足すべきことをいう。⇒飲河満腹
飲河満腹	いんかまんぷく	5級	人にはそれぞれ分があり、分相応に満足すべきことをいう。
因果歴然	いんがれきぜん	非見出し	悪事の報いがすぐに目の前にあらわれること。⇒因果観面
殷鑑不遠	いんかんふえん	1級	失敗を戒める例は近くにあるたとえ。
姪虐暴戾	いんぎゃくぼうれい	1級	淫らな生活をし、乱暴で非道なこと。
淫虐暴戾	いんぎゃくぼうれい	非見出し	淫らな生活をし、乱暴で非道なこと。⇒姪虐暴戾
韻鏡十年	いんきょうじゅうねん	準2級	理解することが非常に難しいこと。
慇懃尾籠	いんぎんびろう	非見出し	表面はきわめて礼儀正しく丁寧であるが、実はひどく尊大であること。また、言葉づかいや態度などが丁寧すぎるのは、かえって無礼であること。⇒慇懃無礼
慇懃無礼	いんぎんぶれい	1級	表面はきわめて礼儀正しく丁寧であるが、実はひどく尊大であること。また、言葉づかいや態度などが丁寧すぎるのは、かえって無礼であること。
咽喉右臂	いんこうゆうひ	追加	国を守るために重要な、地勢の険しい土地。悪害の地。
飲至策勲	いんしさつくん	準2級	勝ち戦の後、先祖への報告の酒を飲み、その功績を竹の札に書き記すこと。
飲至之礼	いんしのれい	非見出し	勝ち戦の後、先祖への報告の酒を飲み、その功績を竹の札に書き記すこと。⇒飲至策勲
因循苟且	いんじゅんこうしよ	1級	古い習慣や方法にこだわって、その場しのぎの手段をとること。また、決断力に欠け、ぐずぐずしてためらうさま。
因循姑息	いんじゅんこそく	非見出し	古い習慣や方法にこだわって、その場しのぎの手段をとること。また、決断力に欠け、ぐずぐずしてためらうさま。⇒因循苟且
因循守旧	いんじゅんしゅきゅう	非見出し	古いしきたりを守り続けること。また、古いしきたりを固く守って融通のきかないこと。⇔吐故納新
因小失大	いんしょうしつだい	5級	小さな利益を得ようとして、かえって大きな損失をすること。
引縄排根	いんじょうはいこん	非見出し	力を合わせて他を排斥すること。また、先に慕い後に背を向けた者たちに報復して、恨みをはらすこと。⇒引縄批根
印象批評	いんしょうひひょう	5級	芸術作品の理解・評価において客観的基準によらず、あくまでも作品の自分に与える印象や個人的感動に基準をおく批評。
引縄批根	いんじょうへいこん	準1級	力を合わせて他を排斥すること。また、先に慕い後に背を向けた者たちに報復して、恨みをはらすこと。
飲食之人	いんしょくのひと	非見出し	これといった特技や才能もなく、ただ人並み以上に食べるだけのこと。⇒無芸大食
飲水思源	いんすいしげん	5級	物事の基本を忘れないたとえ。また、世話になった人の恩を忘れないこと。
飲水知源	いんすいちげん	非見出し	物事の基本を忘れないたとえ。また、世話になった人の恩を忘れないこと。⇒飲水思源
飲鳩止渴	いんちんしかつ	1級	目先のことだけを考えて後の結果を顧みないこと。
殷天動地	いんてんどうち	非見出し	世間をおおいに驚かせること。⇒驚天動地
陰徳陽報	いんとくようほう	4級	人知れずよい事をする者には、必ずはつきりしたよい報いがあるということ。
隱忍自重	いんにんじちょう	準2級	苦しみなどをじっとこらえて軽々しい行動をとらないこと。
允文允武	いんぶんいんぶ	準1級	文武とも秀ですぐれていること。
因病下藥	いんぺいかやく	非見出し	人の性格や理解力、状況に応じて適切な指導をすること。⇒応病与薬
陰謀詭計	いんぼうきけい	1級	人を欺くためのひそかなわるだくみ。
陰陽五行	いんようごぎょう	4級	天地間の万物を作り出す陰・陽の二気と、天地の間に循環して万物を生じるもととなる水・火・木・金・土の五元素。
飲流懷源	いんりゅうかいげん	非見出し	物事の基本を忘れないたとえ。また、世話になった人の恩を忘れないこと。⇒飲水思源
有為転変	ういてんぺん	4級	この世のすべての存在や現象は常にうつろいやまないこと。また、この世が無常ではかないことのたとえ。
有為無常	ういむじょう	4級	この世のさまざまな現象は常に移り変わりはかないこと。
烏焉成馬	うえんせいば	非見出し	文字の書き誤り。⇒烏焉魯魚
烏焉魯魚	うえんろぎょ	1級	文字の書き誤り。
右往左往	うおうさおう	5級	多くの人がうろたえて右に行ったり左に行ったり混乱すること。
羽翮飛肉	うかくひにく	配当外	小さなものでも数多く集まれば大きな力になるということ。
雨過天晴	うかてんせい	5級	物事の状況がよい方向へむかうこと。

雨過天青	うかてんせい	非見出し	物事の状況がよい方向へむかうこと。⇒雨過天晴
羽化登仙	うかとうせん	準2級	酒を飲むなどしてよい心持ちになることのたとえ。
雨奇晴好	うきせいこう	4級	晴雨どちらでもすばらしいながめ。⇒晴好雨奇
于公高門	うこうこうもん	1級	陰徳を積む家の子孫は繁栄することのたとえ。
禹行舜趨	うこうしゅんすう	1級	禹や舜の表面上の動作をまねるだけで実質的な聖人の徳を備えていないこと。
烏合之衆	うごうのしゅう	準1級	からすの群れのように規律も統制もなく、ただより集まっているだけの集団や軍隊。
右顧左顧	うこさこ	非見出し	右を見たり左を見たりためらい迷うこと。情勢を気にして決断できないこと。⇒右顧左眄
右顧左眄	うこさべん	1級	右を見たり左を見たりためらい迷うこと。情勢を気にして決断できないこと。
有財餓鬼	うざいがき	3級	欲が深く、金銭だけに夢中になる者のこと。
牛之一毛	うしのいちもう	非見出し	多くの中のきわめてわずかな部分。また、取るに足りない些細なこと。⇒九牛一毛
烏集之衆	うしゅうのしゅう	非見出し	からすの群れのように規律も統制もなく、ただより集まっているだけの集団や軍隊。⇒烏合之衆
有相無相	うそうむそう	非見出し	形があるものないものすべて。森羅万象。転じて、数が多いが種々雑多なつまらない人や物。⇒有象無象
有象無象	うぞうむぞう	4級	形があるものないものすべて。森羅万象。転じて、数が多いが種々雑多なつまらない人や物。
迂疎空闊	うそくうかつ	1級	まわりくどく実際に適応できないこと。事情にうとく実際に役に立たないこと。
迂疎空濶	うそくうかつ	非見出し	まわりくどく実際に適応できないこと。事情にうとく実際に役に立たないこと。⇒迂疎空闊
有智高才	うちこうさい	準1級	賢くてすぐれた才能に恵まれていること。
内股膏藥	うちまたこうやく	準1級	定見がなく、その時の都合であっちについたり、こっちについたりすること。
有頂天外	うちょうてんがい	4級	このうえもなく大喜びすること。
烏鳥私情	うちょうのしじょう	準1級	親に孝養をつくしたいという気持ちのこと。
烏鳥之情	うちょうのじょう	非見出し	親に孝養をつくしたいという気持ちのこと。⇒烏鳥私情
鬱鬱葱葱	うつうつそうそう	準1級	こんもり茂るさま。また、気の盛んなさま。
鬱鬱勃勃	うつうつぼつぼつ	2級	気が盛んに満ちるさま。
鬱肉漏脯	うつにくろうほ	1級	腐った肉や腐ったほじし。
鬱壘神荼	うつりつしんと	配当外	門を守る神のこと。⇒神荼鬱壘
禹湯文武	うとうぶんぶ	1級	夏・殷・周三代の始祖の名。
烏兔匆匆	うとそうそう	1級	歳月がはやく過ぎ去るたとえ。
烏兔忽忽	うとそうそう	非見出し	歳月がはやく過ぎ去るたとえ。⇒烏兔匆匆
烏白馬角	うはくばかく	準1級	世の中に絶対にありえないこと。
烏飛兔走	うひとそう	準1級	歳月がせわしく過ぎ去ること。⇒兔走烏飛
嫗伏孕鸞	うふうよういく	1級	鳥や獣が子を産み育てること。
禹歩舜趨	うほしゅんすう	1級	禹や舜の表面上の動作をまねるだけで実質的な聖人の徳を備えていないこと。⇒禹行舜趨
海千河千	うみせんかわせん	非見出し	いろいろな経験を積んで、物事の裏も表も知りつくしていて悪賢いこと。⇒海千山千
海千山千	うみせんやません	5級	いろいろな経験を積んで、物事の裏も表も知りつくしていて悪賢いこと。
有無相生	うむそうせい	4級	有と無が相対的な関係で存在すること。
有耶無耶	うやむや	準1級	あるのかないのかわからないこと。また、いいかげんなこと。
紆余委蛇	うよいだ	1級	山や林などがうねうねと屈曲しながら長く続くさま。
紆余曲折	うよきょくせつ	1級	曲がりくねること。また、事情が込み入り複雑なこと。
有余涅槃	うよねはん	非見出し	一切の煩惱を断じて涅槃に入っているが、まだ肉体を残していること。⇔無余涅槃
孟蘭盆会	うらばんえ	1級	仏教で七月十五日に祖先の霊をまつり冥福を祈る行事。
雨霖鈴曲	うりんれいきょく	1級	唐の玄宗の作った楽曲の名。
雨露霜雪	うろそうせつ	準2級	気象がいろいろ変化すること。また、日常生活におけるさまざまな困難のこと。
有漏無漏	うろむろ	配当外	煩惱のある者と煩惱のない者のこと。
雲雨之夢	うんうのゆめ	非見出し	男女の情交をいう。⇒雲雨巫山
雲雨巫山	うんうふざん	1級	男女の情交をいう。

雲烟過眼	うんえんかがん	1級	物事に深く執着しないたとえ。
雲煙過眼	うんえんかがん	非見出し	物事に深く執着しないたとえ。⇒雲烟過眼
雲烟万里	うんえんばんり	1級	非常に遠く離れていることのたとえ。
雲煙万里	うんえんばんり	非見出し	非常に遠く離れていることのたとえ。⇒雲烟万里
雲烟飛動	うんえんひどう	1級	筆勢が躍動して力強いことのたとえ。
雲煙飛動	うんえんひどう	非見出し	筆勢が躍動して力強いことのたとえ。⇒雲烟飛動
雲烟縹渺	うんえんひょうびょう	1級	雲や霞が遠くたなびくさま。
雲煙縹渺	うんえんひょうびょう	非見出し	雲や霞が遠くたなびくさま。⇒雲烟縹渺
雲烟縹眇	うんえんひょうびょう	非見出し	雲や霞が遠くたなびくさま。⇒雲烟縹渺
雲烟縹緲	うんえんひょうびょう	非見出し	雲や霞が遠くたなびくさま。⇒雲烟縹渺
雲霞之交	うんかのまじわり	準1級	俗世を超えた交友をいう。
雲間之鶴	うんかんのつる	非見出し	世俗から離れて高尚な境地にある人のたとえ。⇒雲中白鶴
運斤成風	うんきんせいふう	3級	人間離れしたすばらしい技術のこと。
雲散鳥没	うんきんちょうぼつ	3級	あとかたもなく消えてなくなること。
雲行雨施	うんこううし	3級	雲がめぐり動いて雨が降り万物をうるおすように、天子の恩沢が広く行きわたること。
雲合霧集	うんごうむしゅう	4級	雲や霧が集まりわくように、多くのものが一時に集まり来ること。
雲散霧消	うんさんむしょう	4級	雲が散り消え霧が消えなくなるように、跡形もなく消えてなくなること。
雲集霧散	うんしゅうむさん	4級	たくさんものが雲のようにむらがり集まったり、霧のようにたちまち散ったりすること。
雲消雨散	うんしょううさん	非見出し	雲が散り消え霧が消えなくなるように、跡形もなく消えてなくなること。⇒雲散霧消
雲消霧散	うんしょうむさん	非見出し	雲が散り消え霧が消えなくなるように、跡形もなく消えてなくなること。⇒雲散霧消
雲蒸竜騰	うんじょうりょうとう	非見出し	英雄や豪傑が時運に乗じて起こることをいう。⇒雲蒸竜変
雲蒸竜変	うんじょうりょうへん	準1級	英雄や豪傑が時運に乗じて起こることをいう。
雲心月性	うんしんげっせい	5級	名声や利益を求めることなく、超然としていること。
雲水行脚	うんすいあんぎゃ	準2級	修行僧が諸国をめぐって、仏法を修行すること。
雲中白鶴	うんちゅうのはっかく	準1級	世俗から離れて高尚な境地にある人のたとえ。
雲泥之差	うんでいのさ	非見出し	比較にならないほど大きな差異のこと。⇒雲泥万里
雲泥万天	うんでいばんてん	非見出し	比較にならないほど大きな差異のこと。⇒雲泥万里
雲泥万里	うんでいばんり	準2級	比較にならないほど大きな差異のこと。
雲濤煙浪	うんとうえんろう	準1級	はるかなかなたで雲に連なっている波のこと。
雲濤烟浪	うんとうえんろう	非見出し	はるかなかなたで雲に連なっている波のこと。⇒雲濤煙浪
運否天賦	うんぷてんぷ	準1級	人の運不運は天命による。また、運を天に任せること。
雲翻雨覆	うんぼんうふく	3級	世の人の態度や人情がうつろいやすいことのたとえ。
雲遊萍寄	うんゆうへいき	1級	物事に執着せず、自然のままに行動すること。また、諸国を修行してまわる僧のこと。
雲容烟態	うんようえんたい	1級	空の様子がさまざまに変化するさま。
雲容煙態	うんようえんたい	非見出し	空の様子がさまざまに変化するさま。⇒雲容烟態
雲竜井蛙	うんりょうせいあ	準1級	地位の上下や賢愚の差のはなはだしいことのたとえ。
盈盈一水	えいえいいっすい	準1級	水満ちわたる一筋の川。互いに心ひかれながら、相見たり言葉を交わしたりできないたとえ。
永永無窮	えいえいむきゅう	準2級	永久に続くことのたとえ。
永遠回帰	えいえんかいき	非見出し	同じものが永遠に繰り返してくる。生の絶対的肯定をいうニーチェ哲学の根本思想。⇒永劫回帰
永遠不滅	えいえんふめつ	非見出し	永久に消滅しないこと。⇒百世不磨
影駭響震	えいがいきょうしん	1級	ひどく驚き恐れること。ちょっとしたものに驚くこと。
栄諧伉儷	えいかいこうれい	1級	栄えて仲のよい夫婦のこと。
栄華秀英	えいかしゅうれい	3級	草木の花のこと。
栄華之夢	えいがのゆめ	非見出し	人の世の栄華のはかないことのたとえ。⇒邯鄲之夢

英華発外	えいかはつがい	3級	内面に隠れている美しさやすぐれた面が表に現れること。
永久不変	えいきゅうふへん	非見出し	永久に変わらないこと。⇒万古不易
永劫回帰	えいごうかいき	準1級	同じものが永遠に繰り返してくる。生の絶対的肯定をいうニーチェ哲学の根本思想。
永劫末世	えいごうまつせ	非見出し	永久に続くことのたとえ。⇒永永無窮
栄枯盛衰	えいこせいすい	3級	人や家などの栄えることと衰えること。
栄枯浮沈	えいこふちん	非見出し	人や家などの栄えることと衰えること。⇒栄枯盛衰
英姿颯爽	えいしさっそう	1級	男らしくりりしい容姿で、非常にさわやかなこと。
永字八法	えいじはっぽう	5級	「永」の一字に筆法のすべてが含まれているという書の教え。
英俊豪傑	えいしゅんごうけつ	準2級	多くの中で特にすぐれた人物。
郢書燕説	えいしょえんせつ	1級	こじつけること。
詠絮之才	えいじょのさい	非見出し	文才のある女性をいう。⇒詠雪之才
潁水隠士	えいすいのいんし	配当外	堯帝のとき、潁水のほとりにいた隠者の許由のこと。
永垂不朽	えいすいふきゅう	4級	榮譽や業績などが長く後世に伝えられ、決して滅びないこと。
永世無窮	えいせいむきゅう	非見出し	永久に続くことのたとえ。⇒永永無窮
影隻形単	えいせきけいたん	3級	独り身で孤独なこと。⇒形単影隻
詠雪之才	えいせつのさい	準1級	文才のある女性をいう。
盈則必虧	えいそくひつき	非見出し	物事が極点に達すればかえって災いを招くということ。満ちれば欠けるという道理をいう。⇒盈満之咎
永存不朽	えいぞんふきゅう	非見出し	榮譽や業績などが長く後世に伝えられ、決して滅びないこと。⇒永垂不朽
永伝不朽	えいでんふきゅう	非見出し	榮譽や業績などが長く後世に伝えられ、決して滅びないこと。⇒永垂不朽
盈満之咎	えいまんのとがめ	1級	物事が極点に達すればかえって災いを招くということ。満ちれば欠けるという道理をいう。
英明闊達	えいめいかったつ	1級	才知があり道理に明るく、しかも小事にこだわらないおおらかな性質のこと。
叡明闊達	えいめいかったつ	非見出し	才知があり道理に明るく、しかも小事にこだわらないおおらかな性質のこと。⇒英明闊達
英明豁達	えいめいかったつ	非見出し	才知があり道理に明るく、しかも小事にこだわらないおおらかな性質のこと。⇒英明闊達
英雄欺人	えいゆうぎじん	3級	傑出した能力をもつ人間は、すぐれたはかりごとで常人の考えつかない手段・行動をとるものであるということ。
栄耀栄華	えいようえいが	準1級	富や権勢を背景にしてぜいたくを極めること。人や家などが大いに栄えること。また、おごりたかぶること。
慧可断臂	えかだんぴ	1級	なみなみなめ決意を示すこと。
益者三楽	えきしゃさんごう	準1級	有益な三つの楽しみ。礼樂を折り目正しく行い、人の美点を言い、すぐれた友を多くもつ。
益者三友	えきしゃさんゆう	5級	交わってためになる三種類の友人。正直な人・誠実な人・知識のある人の三種類の友人をいう。
易姓革命	えきせいかくめい	4級	王朝が交代すること。
回光返照	えこうへんしょう	準2級	仏教で、自分のあるべき姿をふり返り、反省して修行に励むこと。
依怙曩肩	えこひいき	1級	片方に心をかたむけ助けること。好きな方だけ肩入れすること。
会者定離	えしゃじょうり	準2級	この世は無常であることのたとえ。
越犬吠雪	えっけんはいせつ	非見出し	教養のない者が、わかりもしないのに賢者の言行を非難すること。⇒蜀犬吠日
越俎代庖	えっそだいほう	1級	自分の分をこえて他人の権限を侵す罪。⇒越俎之罪
越俎之罪	えっそのつみ	1級	自分の分をこえて他人の権限を侵す罪。
越鳥南枝	えっちょうなんし	準2級	故郷が懐かしく忘れがたいこと。
越畔之思	えっばんのおもい	非見出し	自分の領分・職分を守って、他人の領域を侵さないようにする気持ち。⇔越俎之罪
越鵲楚乙	えつふそいつ	1級	場所や人によって同じ物でも呼び名が異なるたとえ。
得手勝手	えてかって	5級	わがまま放題のこと。
宴安酖毒	えんあんちんどく	1級	享樂におぼれてはいけないという教え。
宴安鴆毒	えんあんちんどく	非見出し	享樂におぼれてはいけないという教え。⇒宴安酖毒
烟雲過眼	えんうんかがん	1級	物事に深く執着しないたとえ。⇒雲烟過眼
煙雲月露	えんうんげつろ	非見出し	なんの役にも立たない、自然の風景を詠んだだけの詩文のこと。⇒風雲月露
蜿蜒長蛇	えんえんちょうだ	1級	へびのようにうねうねと長く続くこと。

蜿蜒長蛇	えんえんちょうだ	非見出し	へびのようにうねうねと長く続くこと。⇒蜿蜒長蛇
蜿蜒長蛇	えんえんちょうだ	非見出し	へびのようにうねうねと長く続くこと。⇒蜿蜒長蛇
鴛鴦交頸	えんおうこうけい	非見出し	夫婦の心のきずながきわめてかたいこと。⇒鴛鴦之契
鴛鴦之偶	えんおうのぐう	非見出し	夫婦の心のきずながきわめてかたいこと。⇒鴛鴦之契
鴛鴦之契	えんおうのちぎり	準1級	夫婦の心のきずながきわめてかたいこと。
遠隔操作	えんかくそうさ	追加	離れた場所にある機械や装置を、間接的に運転・制御すること。
円滑洒脱	えんかつしゃだつ	1級	物事をそつなくとりしきるさま。
烟霞痼疾	えんかのこしつ	1級	山水を愛でる心がきわめて強いこと。また、隠居すること。
煙霞痼疾	えんかのこしつ	非見出し	山水を愛でる心がきわめて強いこと。また、隠居すること。⇒烟霞痼疾
燕頷虎頸	えんがんこけい	1級	燕のようなあごと、虎のような頸。遠国の諸侯となる人相をいう。
燕頷虎頭	えんがんこうとう	1級	燕のようなあごと、虎のような頸。遠国の諸侯となる人相をいう。⇒燕頷虎頸
燕雁代飛	えんがんだいひ	準1級	人が互いにへだてられていることのたとえ。
燕頷投筆	えんがんとうひつ	1級	一大決心をして志を立てること。また、文筆をやめて武の道に進むこと。
婉曲迂遠	えんきょくうえん	1級	非常にまわりくどいこと。
延頸鶴望	えんけいかくぼう	非見出し	人の来訪を待ち望むさま。⇒延頸挙踵
延頸企踵	えんけいきしょう	非見出し	人の来訪を待ち望むさま。⇒延頸挙踵
延頸挙踵	えんけいきょしょう	1級	人の来訪を待ち望むさま。
遠交近攻	えんこうきんこう	4級	遠い国と仲良くし、近い国を挟み撃ちして攻める策。
猿猴取月	えんこうしゅげつ	1級	身のほど知らずが身を滅ぼすたとえ。
円孔方木	えんこうほうぼく	3級	物事がうまくかみ合わないことのたとえ。⇒円鑿方枘
円鑿方枘	えんさくほうぜい	配当外	物事がうまくかみ合わないことのたとえ。
縁山求魚	えんざんきゅうぎょ	非見出し	不可能なことのたとえ。⇒縁木求魚
掩耳盗鐘	えんじとうしょう	準1級	浅はかな考えや知恵で自分を欺くたとえ。
掩耳盗鈴	えんじとうりん	非見出し	浅はかな考えや知恵で自分を欺くたとえ。⇒掩耳盗鐘
掩耳偷鈴	えんじとうりん	非見出し	浅はかな考えや知恵で自分を欺くたとえ。⇒掩耳盗鐘
円首方足	えんしゅほうそく	5級	丸い頭と四角い足。人類のこと。⇒円顙方趾
燕照築台	えんしょうちくだい	非見出し	言い出した者から始めよの意。また、物事を手近なところからはじめることのたとえ。⇒先從隗始
怨女曠夫	えんじょこうふ	1級	適齡の年になっても相手のいない男と女。
遠水近火	えんすいきんか	5級	遠くにあるものは急場の役には立たないということ。
遠水近渴	えんすいきんかつ	非見出し	遠くにあるものは急場の役には立たないということ。⇒遠水近火
偃鼠飲河	えんそいんが	非見出し	人にはそれぞれ分があり、分相應に満足すべきことをいう。⇒飲河満腹
円頂黒衣	えんちょうこくい	5級	僧の姿のこと。
円頂緇衣	えんちょうしい	非見出し	僧の姿のこと。⇒円頂黒衣
円転滑脱	えんてんかつだつ	3級	物事をそつなくとりしきるさま。⇒円滑洒脱
宛転蛾眉	えんてんがび	準1級	顔かたちが美しいさま。美人の形容。
鉛刀一断	えんとういちだん	非見出し	鉛で作った切れ味の悪い刀でも一度は物を断ち切ることができる。凡庸な人でも時には力を出せるときがある。多く自分の微力を謙遜するという語。⇒鉛刀一割
鉛刀一割	えんとういつかつ	4級	鉛で作った切れ味の悪い刀でも一度は物を断ち切ることができる。凡庸な人でも時には力を出せるときがある。多く自分の微力を謙遜するという語。
円頭方足	えんとうほうそく	5級	人間のこと。
円頓止観	えんどんしかん	2級	人格を完成した究極の境地をいう。
円融三諦	えんにゅうさんだい	準1級	仏教で、空・仮・中の三つの真理がその立場を保ちながら、各々が他の二つを含む形で互いに解けあって、同時に成立していること。
延年益寿	えんねんえきじゅ	非見出し	齢を重ねてますます長生きすること。⇒延年転寿
延年転寿	えんねんでんじゅ	3級	齢を重ねてますます長生きすること。
焉馬之誤	えんばのあやまり	非見出し	文字の書き誤り。⇒烏焉魯魚
烟波縹渺	えんぱひょうびょう	1級	遠く広々とした水面がもやなどでけむって空と水面の境がはっきりとしないさま。

煙波縹渺	えんぱひょうびょう	非見出し	遠く広々とした水面がもやなどでけむって空と水面の境がはっきりとしないさま。⇒烟波縹渺
烟波縹眇	えんぱひょうびょう	非見出し	遠く広々とした水面がもやなどでけむって空と水面の境がはっきりとしないさま。⇒烟波縹渺
烟波縹緲	えんぱひょうびょう	非見出し	遠く広々とした水面がもやなどでけむって空と水面の境がはっきりとしないさま。⇒烟波縹渺
鳶飛魚躍	えんぴぎょやく	準1級	自然の本性に従いおのずから楽しみを得ることのたとえ。
猿臂之勢	えんぴのいきおい	1級	攻守や進退が自在にできる軍隊の体制をいう。また、遠方に陣地を設けること。
偃武恢文	えんぶかいぶん	非見出し	世の中が穏やかで平和なこと。⇒偃武修文
偃武修文	えんぶしゅうぶん	1級	世の中が穏やかで平和なこと。
閻浮檀金	えんぶだごん	1級	良質の金のたとえ。
厭聞飫聴	えんぶんよちょう	1級	聞きあきること。
婉婉聽従	えんべんちょうじゅう	1級	心がやさしく素直で、人の言うことに逆らわずに従うさま。
遠謀深慮	えんぼうしんりょ	非見出し	深く考え将来のことまで見通して計画を立てること。⇒深謀遠慮
縁木希魚	えんぼくきぎょ	非見出し	不可能なことのたとえ。⇒縁木求魚
縁木求魚	えんぼくきゅうぎょ	4級	不可能なことのたとえ。
円木警枕	えんぼくけいちん	準1級	苦勞して一生懸命勉強に励むこと。
円満具足	えんまんぐそく	5級	十分に満ち足りて不足がないこと。
衍曼流爛	えんまんりゅうらん	1級	悪が広くはびこり、世の中全体に広がっていくこと。
衍漫流爛	えんまんりゅうらん	非見出し	悪が広くはびこり、世の中全体に広がっていくこと。⇒衍曼流爛
延命息災	えんめいそくさい	5級	命を延ばして災いを取り去ること。
鳶目兎耳	えんもくとじ	準1級	とびのように目ざとく見つけることのできる目とうさぎのようによく聞こえる耳。
掩目捕雀	えんもくほじゃく	非見出し	浅はかな考えや知恵で自分を欺くたとえ。⇒掩耳盗鐘
轅門二竜	えんもんにりょう	1級	唐の烏承玘と族兄の烏承恩のこと。
延陵季子	えんりょうのきし	3級	春秋時代、呉の季札のこと。
遠慮会釈	えんりょえしゃく	準2級	他人のことを考えて応対をつつましく控え目にする事。
遠慮近憂	えんりょきんゆう	3級	先々のことを見通して行動しないと、身近なところに心配ごとが生じること。
円顚方趾	えんろほうし	1級	丸い頭と四角い足。人類のこと。
嘔唾嘲哂	おうあちょうたつ	1級	洗練されておらず、調子の狂った聞きぐるしい乱雑な音のこと。また、子供がやかましく騒ぎたてている声のこと。
枉駕来臨	おうがらいりん	1級	わざわざお越しいただきまして、ということ。
桜花爛漫	おうからんまん	1級	桜の花が見事に開き、満開になって咲き乱れているさま。
応機接物	おうきせつもつ	5級	相手に応じて適切に指導すること。
応急処置	おうきゅうしょち	非見出し	急場の間に合わせにする仮の処置。⇒応急措置
応急措置	おうきゅうそち	3級	急場の間に合わせにする仮の処置。
応機立断	おうきりつだん	非見出し	時機を失わずに、ただちに決断すること。⇒当機立断
横行闊歩	おうこうかっぽ	1級	威張って気ままに歩き回ること。
横行暴桀	おうこうごうけつ	非見出し	威張って気ままに歩き回ること。⇒横行闊歩
王侯将相	おうこうしょうしょう	準2級	王者と諸侯と将軍と大臣。高貴な身分のこと。
王公大人	おうこうたいじん	非見出し	王者と諸侯と将軍と大臣。高貴な身分のこと。⇒王侯将相
横行跋扈	おうこうばっこ	1級	のさばって勝手気ままにふるまうこと。
横行霸道	おうこうはどう	非見出し	威張って気ままに歩き回ること。⇒横行闊歩
往古来今	おうこらいこん	5級	昔から今にいたるまで。
往事渺茫	おうじびょうぼう	1級	過ぎ去った昔のことは遠くかすかで明らかでない。
往事茫茫	おうじぼうぼう	1級	過ぎ去った昔のことは遠くかすかで明らかでない。⇒往事渺茫
往生極楽	おうじょうごくらく	非見出し	この世を去ってのち、極楽浄土に生まれかわることまた、安らかに死ぬこと。⇒極楽往生
往生素懷	おうじょうそかい	準2級	仏教に帰依して死んだ後に極楽浄土に行こうと願う平素からの希望。
往生本懷	おうじょうのほんかい	非見出し	仏教に帰依して死んだ後に極楽浄土に行こうと願う平素からの希望。⇒往生素懷

枉尺直尋	おうせきちょくじん	1級	大きな利益を得るために、小さな犠牲をはらうこと。
横説縦説	おうせつじゅうせつ	非見出し	自由自在に弁舌をふるうこと。⇒横説豎説
横説豎説	おうせつじゅせつ	準1級	自由自在に弁舌をふるうこと。
横説豎説	おうせつじゅせつ	非見出し	自由自在に弁舌をふるうこと。⇒横説豎説
応接不暇	おうせつふか	4級	忙しくていちいち応じきれないこと。
佺緘懦弱	おうせんだじゃく	配当外	身体が弱く細くて気が弱いこと。
横草之功	おうそうのこう	準1級	きわめて簡単なことのたとえ。また、わずかな功績のたとえ。
横草之劳	おうそうのろう	非見出し	きわめて簡単なことのたとえ。また、わずかな功績のたとえ。⇒横草之功
王道楽土	おうどうらくど	5級	公明正大で思いやりのある政治が行われている平和で楽しい国土。
碗飯振舞	おうばんぶるまい	準1級	盛大なごちそう。また、気前よく物を与えたりごちそうしたりすること。
碗飯振舞	おうばんぶるまい	非見出し	盛大なごちそう。また、気前よく物を与えたりごちそうしたりすること。⇒碗飯振舞
横眉怒目	おうびどもく	2級	怒った顔つきのこと。
応病与薬	おうびょうよく	4級	人の性格や理解力、状況に応じて適切な指導をすること。
横眉立目	おうびりつもく	非見出し	怒った顔つきのこと。⇒横眉怒目
枉法徇私	おうほうじゅんし	1級	規則をまげて私利私欲にはしること。
甕牖繩枢	おうゆうじょうすう	1級	貧しく粗末な家の形容。
甕牖桑枢	おうゆうそうすう	非見出し	貧しく粗末な家の形容。⇒甕牖繩枢
王楊盧駱	おうようろらく	1級	初唐の四人の詩の大家。王勃、楊炯、盧照鄰、駱賓王。
甕裡醯鷄	おうりけいけい	1級	見識が狭く世間知らずな人のたとえ。
甕裏醯鷄	おうりけいけい	非見出し	見識が狭く世間知らずな人のたとえ。⇒甕裡醯鷄
大盤振舞	おおばんぶるまい	4級	盛大なごちそう。また、気前よく物を与えたりごちそうしたりすること。⇒碗飯振舞
岡目八目	おかめはちもく	2級	はたで見ているほうが、当事者よりも情勢を正確に判断できること。
傍目八目	おかめはちもく	非見出し	はたで見ているほうが、当事者よりも情勢を正確に判断できること。⇒岡目八目
屋烏之愛	おくうのあい	準1級	偏愛のたとえ。人を愛するとその人に関わるものすべてがいとおしくなることのたとえ。
屋下架屋	おくかかおく	非見出し	無駄なことを繰り返すたとえ。また、真似ばかりして独創性のないたとえ。⇒屋上架屋
屋上架屋	おくじょうかおく	3級	無駄なことを繰り返すたとえ。また、真似ばかりして独創性のないたとえ。
屋梁落月	おくりょうらくげつ	準1級	友人を思う情が切なこと。⇒落月屋梁
汚名返上	おめいへんじょう	追加	めざましい功績を挙げて、それまでに被った不名誉な評判を消し去ること。
親子団欒	おやこだんらん	非見出し	家族が集まってむつまじく楽しむこと。⇒一家団欒
恩威並行	おんいへいこう	4級	人を使う場合には、適当な賞罰が必要だということ。
厭穢欣浄	おんえごんじょう	非見出し	死後、極楽浄土に行けるように心から願うこと。⇒欣求浄土
温厚篤実	おんこうとくじつ	3級	穏やかであたたかく誠実なこと。
温故知新	おんこちしん	5級	前に習ったことや昔の事柄を復習し考えて新たな道理や知識を会得すること。
溫柔敦厚	おんじゅうとんこう	準1級	あたたかさがああり、やさしく手厚いこと。孔子が『詩経』（儒教の基本的古典である五経の一）の教化の力を評した語。
恩讎分明	おんしゅうぶんめい	1級	恩を受けたものには恩で報い、あだをうけたものにはあだで報いること。また、それをはっきりさせること。
怨親平等	おんしんびょうどう	2級	怨み敵対する者も憎まず、親しい者でもえこひいきしない。
音信不通	おんしんふつう	5級	便りや連絡がまったく絶えること。
遠塵離垢	おんじんりく	準1級	仏教で、現世での迷いを断ち切ること。
遠塵離苦	おんじんりく	非見出し	仏教で、現世での迷いを断ち切ること。⇒遠塵離垢
音声相和	おんせいそうわ	非見出し	音階と旋律は相対的な関係で存在すること。⇒有無相生
温清定省	おんせいていせい	1級	親に孝養を尽くすこと。
怨憎会苦	おんぞうえく	2級	怨み憎しみを抱く者と会わなければならない苦しみのこと。
怨敵退散	おんてきたいさん	2級	怨みに思っている敵よ、退散せよということ。
音吐朗朗	おんとろうろう	4級	音声が豊かではっきりしているさま。

乳母日傘	おんぼひがさ	準1級	子供が必要以上に大切に育てられること。
温文爾雅	おんぶんじが	準1級	態度や表情が穏やかで、言動が正しく美しいこと。
温文儒雅	おんぶんじゅが	非見出し	態度や表情が穏やかで、言動が正しく美しいこと。⇒温文爾雅
厭離穢土	おんりえど	1級	この世をけがれたものとして厭い離れること。
温良恭儉	おんりょうきょうけん	準2級	性質がおだやかで、つつましやかなこと。
温良篤厚	おんりょうとっこう	3級	あたたかさがあり、やさしく手厚いこと。孔子が『詩経』（儒教の基本的古典である五経の一）の教化の力を評した語。⇒溫柔敦厚
瑰意琦行	かいいきこう	配当外	考え方や行いが、並みの人と違ってすぐれていること。
解衣推食	かいいすいしょく	5級	人に慈悲を施すこと。また、人を重用すること。
誨淫誨盜	かいいんかいとう	1級	悪事を人に教えること。
開雲見日	かいうんけんじつ	非見出し	気がかりなことがなくなって希望が持てるようになること。⇒撥雲見日
外円内方	がいえんないほう	非見出し	外見は穏やかそうに見えるが、実際は意志が強いこと。⇒外柔内剛
怪怪奇奇	かいかいきき	非見出し	常識では考えられないようなふしぎなこと。また、許せないようなけしからぬこと。⇒奇奇怪怪
蓋瓦級輒	がいがきゅうせん	1級	屋根の瓦と階段の敷き瓦のこと。
海角天涯	かいかくてんがい	準2級	きわめて遠く離れていることのたとえ。⇒天涯地角
改過作新	かいかさくしん	非見出し	自分の過ちを改めて、気分を新たにすること。⇒改過自新
改過自新	かいかじしん	5級	自分の過ちを改めて、気分を新たにすること。
海闊天空	かいかつてんくう	1級	気性がさっぱりとしていて、心が広いこと。
蓋棺事定	がいかんじてい	2級	死んでからはじめて、その人物の評価が定まるということ。
開卷有益	かいかんゆうえき	5級	読書は大変ためになるものだということ。
開卷有得	かいかんゆうとく	非見出し	読書は大変ためになるものだということ。⇒開卷有益
荷衣蕙帯	かいけいたい	配当外	世俗を超越している人(仙人・隠者)の衣服のこと。
会稽之恥	かいけいのはじ	準1級	他人から受けた忘れることができない屈辱。
改弦易轍	かいげんえきてつ	準1級	法律や制度を改変すること。
開眼供養	かいげんくよう	準2級	新たに造った仏像に目を入れて、仏の魂を迎える儀式。
改弦更張	かいげんこうちょう	非見出し	法律や制度を改変すること。⇒改弦易轍
解甲帰田	かいこうきでん	非見出し	戦いに敗れ、戦意を失って逃げること。⇒棄甲曳兵
外交辞令	がいこうじれい	5級	口先だけのお世辞や形だけのお愛想のこと。
外巧内嫉	がいこうないしつ	2級	うわべはとりつくろっているが、内心ではねたんでいること。
外剛内柔	がいこうないじゅう	非見出し	内心は気が弱いのだが、外見は強そうに見えること。⇒内柔外剛
回光反照	かいこうへんしょう	準1級	人が死ぬまぎわに、一時もちなおすこと。また、物事が滅びる直前に、一瞬勢いを回復すること。
回顧之憂	かいこのうれい	非見出し	あとに残る気がかり。⇒後顧之憂
開權頭実	かいごんけんじつ	準2級	仮の姿であることをうち明けて、真の姿を明らかにすること。
睚眦之怨	がいさいのうらみ	1級	ほんのわずかなうらみ。
睚眦之怨	がいさいのうらみ	非見出し	ほんのわずかなうらみ。⇒睚眦之怨
開三頭一	かいさんけんいち	非見出し	仮の姿であることをうち明けて、真の姿を明らかにすること。⇒開權頭実
回山倒海	かいざんとうかい	4級	非常に勢いが盛んなこと。
海市蜃楼	かいししんろう	1級	現実性に乏しい考えや理論。また、根拠がなくありもしないこと。
亥豕之譌	がいしのか	1級	文字の書き誤りのこと。
開迹頭本	かいしゃくけんぼん	非見出し	仮の姿であることをうち明けて、真の姿を明らかにすること。⇒開權頭実
膾炙人口	かいしゃじんこう	1級	広く世間の評判となり、もてはやされていること。
鎧袖一触	がいしゅういつしょく	準1級	相手を容易に打ち負かしてしまうたとえ。
外柔中剛	がいじゅうちゅうごう	非見出し	外見は穏やかそうに見えるが、実際は意志が強いこと。⇒外柔内剛
外柔内剛	がいじゅうないごう	準2級	外見は穏やかそうに見えるが、実際は意志が強いこと。
下意上達	かいじょうたつ	5級	下の者の考えや気持ちが、上位の人によく通じること。

開心見誠	かいしんけんせい	5級	まごころをもって人に接し、隠しだてをしないこと。
灰心喪意	かいしんそうい	非見出し	失意のあまり元気をなくすこと。⇒灰心喪氣
灰心喪氣	かいしんそうき	準2級	失意のあまり元気をなくすこと。
回生起死	かいせいきし	5級	絶望的な状況を立て直し、もとに戻すこと。⇒起死回生
海誓山盟	かいせいさんめい	準2級	きわめて堅い誓い。
蓋世之才	がいせいのさい	準1級	意気盛んで才知に富み、世の中を圧倒するほどの人材。
蓋世之材	がいせいのざい	非見出し	意気盛んで才知に富み、世の中を圧倒するほどの人材。⇒蓋世之才
開誠布公	かいせいふこう	非見出し	まごころをもって人に接し、隠しだてをしないこと。⇒開心見誠
晦迹韜光	かいせきとうこう	非見出し	才能などを包み隠して表面にあらわさないこと。⇒韜光晦迹
怪絶奇絶	かいぜつきぜつ	非見出し	常識では考えられないようなふしぎなこと。また、許せないようなけしからぬこと。⇒奇奇怪怪
階前万里	かいぜんばんり	4級	天子が地方の政治の状況をよく知っていて、臣は天子を欺くことができないこと。
外孫齋白	がいそんせいきゅう	非見出し	二人の判断がまったく一致していること。また、解釈や判読がすばらしく正確なこと。⇒黄絹幼婦
海内奇士	かいだいのきし	4級	この世に類のないほどすぐれた人物。
海内無双	かいだいむそう	3級	世の中に並ぶものがないほどすぐれていること。
咳唾成珠	がいだせいしゅ	準1級	権勢の盛んなさま。また、詩文の才が豊かなさま。
街談巷議	がいだんこうぎ	非見出し	世間のつまらないいわさ。⇒街談巷語
街談巷語	がいだんこうご	準1級	世間のつまらないいわさ。
街談巷説	がいだんこうせつ	非見出し	世間のつまらないいわさ。⇒街談巷語
海中撈月	かいちゅうろうげつ	非見出し	実現不可能なことをやろうとして、余分な労力を費やすこと。⇒海底撈月
喙長三尺	かいちょうさんじゃく	1級	しゃべることがきわめて達者なこと。
海底撈月	かいていろうげつ	1級	実現不可能なことをやろうとして、余分な労力を費やすこと。
海底撈針	かいていろうしん	非見出し	実現不可能なことをやろうとして、余分な労力を費やすこと。⇒海底撈月
改轍易途	かいてつえきと	非見出し	法律や制度を改変すること。⇒改弦易轍
蓋天蓋地	がいてんがいち	2級	仏の教えがすべての世界に、広くすみずみまでゆきわたること。
回天事業	かいてんのじぎょう	5級	世の中の形勢を一変させるほどの大きな事業。
廻天事業	かいてんのじぎょう	非見出し	世の中の形勢を一変させるほどの大きな事業。⇒回天事業
廻天之力	かいてんのちから	準1級	不利な形勢を一変させるほどの力のこと。
開天闢地	かいてんへきち	1級	天地のはじまり。これまでの歴史にないような大きな出来事のこと。
開天辟地	かいてんへきち	非見出し	天地のはじまり。これまでの歴史にないような大きな出来事のこと。⇒開天闢地
誨盜誨淫	かいとうかいいん	1級	悪事を人に教えること。⇒誨淫誨盜
改頭換尾	かいとうかんび	非見出し	表面は変わったように見えて内実は変わらないことのたとえ。⇒改頭換面
改頭換面	かいとうかんめん	3級	表面は変わったように見えて内実は変わらないことのたとえ。
快刀乱麻	かいとうらんま	準2級	こじれた物事を、手ぎわよく処理・解決すること。
磴風春雨	がいふうしょうう	1級	物事の前兆のたとえ。
開物成務	かいぶつせいむ	5級	物を開発し、事業を成就させること。また、人知を開いて成功に導くこと。
槐門棘路	かいもんきょくろ	1級	政界の最高幹部のこと。
開門揖盜	かいもんゆうとう	準1級	みずから原因を作ってわざわざいを招くこと。
海約山盟	かいやくさんめい	非見出し	きわめて堅い誓い。⇒海誓山盟
傀儡政權	かいらいせいけん	1級	実権やみずからの意志をもたず、他国の意向のままになる政權のこと。
怪力乱神	かいりきらんしん	3級	人知の及ばないふしぎな現象、超自然的な物事の存在のたとえ。
魁壘之士	かいるいのし	準1級	さかんでたくましい人のこと。
偕老同穴	かいろうどうけつ	1級	夫婦の契りがかたく、仲むつまじいこと。
薤露蒿里	かいろうこうり	1級	人の人生のはかないことのたとえ。
夏雲奇峰	かうんきほう	4級	夏の入道雲が天空につくるめずらしい峰の形のこと。

瓦解土崩	がかいどほう	2級	物事が根底から崩れ、もはや手のほどこしようもない状態のこと。⇒土崩瓦解
柯会之盟	かかいのめい	1級	約束を果たして、信頼を得ること。
瓦解氷消	がかいひょうしょう	非見出し	物事が次々と崩れてばらばらになること。⇒氷消瓦解
花街柳巷	かがいりゅうこう	準1級	遊里・色町のこと。⇒柳巷花街
下学上達	かがくじょうたつ	5級	手近で初歩的なことから学んで、次第に高度で深い道に通じること。
蝸角之争	かかくのあらそい	1級	きわめてささいなつまらない争いのこと。
下学之功	かがくのこう	準1級	手近で初歩的なことから学んで、徐々に進歩向上してゆくこと。
呵呵大笑	かかたいしょう	1級	大声をあげて笑うこと。
夏下冬上	かかとうじょう	5級	炭火のおこし方。火種を夏は下に、冬は上にしかけるとよくおこるということ。
河漢斯言	かかんしげん	非見出し	言葉が天の川のように果てしなくとりとめのないこと。また、虚言(ほら)をいう。⇒河漢之言
河漢之言	かかんのげん	準1級	言葉が天の川のように果てしなくとりとめのないこと。また、虚言(ほら)をいう。
夏癸殷辛	かきいんしん	1級	夏王朝の桀王と殷王朝の紂王。ともに古代の暴君。
蝸牛角上	かぎゅうかくじょう	1級	きわめてささいなつまらない争いのこと。⇒蝸角之争
家給人足	かきゅうじんそく	5級	豊かで生活が安定していること。
科举压卷	かきよあっかん	5級	他よりずばぬけてすぐれたもの。
河魚之患	かぎょのかん	非見出し	国家が腐敗して、内部から崩壊すること。⇒河魚腹疾
河魚之疾	かぎょのしつ	非見出し	国家が腐敗して、内部から崩壊すること。⇒河魚腹疾
河魚腹疾	かぎょのふくしつ	3級	国家が腐敗して、内部から崩壊すること。
諤諤之臣	がくがくのしん	1級	遠慮することなく、ありのままに正論を述べる人のこと。
赫赫明明	かくかくめいめい	準1級	明らかに光りかがやくさま。⇒明明赫赫
隔岸觀火	かくがんかんか	3級	他人の災難をただ見物するだけで、救いの手をさしのべようとしないこと。
革旧鼎新	かくきゅうていしん	非見出し	古い制度や習慣を改めて新しいものにすること。⇒革故鼎新
革故鼎新	かくこていしん	準1級	古い制度や習慣を改めて新しいものにすること。
鶴寿千歳	かくじゅせんざい	準1級	長寿のこと。
各人各様	かくじんかくよう	非見出し	考え方ややり方などが、人によってそれぞれ違うこと。⇒三者三様
隔世之感	かくせいのかん	非見出し	今と昔を思い比べて、時世や境遇の大きな変化をしみじみ感じる気持ち。⇒今昔之感
廓然大公	かくぜんたいこう	準1級	私意や偏りがなくからりとして大いに公平であること。
格致日新	かくちにっしん	4級	物事の本質を追求して知識を高め、日々向上していくこと。
学知利行	がくちりこう	5級	人がふみ行うべき道を、後天的に学んで理解し、そのよさを認め、意識的に仁道を実践すること。
廓然大悟	かくねんたいご	準1級	心にわだかまりがなく、至高の境地で真理を悟ること。
鶴髮童顔	かくはつどうがん	追加	老いてなお精気盛んなこと。また、そういう人。
格物致知	かくぶつちち	4級	物事の本質をつきつめて理解し、知識を深めること。
鶴鳴之士	かくめいのし	準1級	用いられることなく、不遇な状態にある賢人のこと。
鶴翼之圀	かくよくのかこみ	準1級	左右に長く広がった陣形をめぐらすこと。
鶴翼之陣	かくよくのじん	非見出し	左右に長く広がった陣形をめぐらすこと。⇒鶴翼之圀
鶴立企佇	かくりつきちよ	1級	心から待ち望むこと。
鶴唳風声	かくれいふうせい	非見出し	ささいなことに驚いたりおじけづいたりすること。⇒風声鶴唳
嫁鶏随鶏	かけいずいけい	準2級	妻が夫に従うことのたとえ。
瓦鶏陶犬	がけいとうけん	2級	格好ばかりで役に立たないもののたとえ。⇒陶犬瓦鶏
家鶏野雉	かけいやち	1級	ありふれた古いものを遠ざけて、珍しくて新しいものを大切にすること。
家鶏野鷺	かけいやぼく	非見出し	ありふれた古いものを遠ざけて、珍しくて新しいものを大切にすること。⇒家鶏野雉
寡見少聞	かけんしょうぶん	準2級	見聞がせまく、わずかな知識しかないこと。⇒寡聞少見
嘉言善行	かげんぜんこう	準1級	人の戒めとなるよい言葉とよい行い。
寡見鮮聞	かけんせんぶん	非見出し	見聞がせまく、わずかな知識しかないこと。⇒寡聞少見

寡言沈黙	かげんちんもく	非見出し	口数が少なく無口なこと。落ち着いていて無口なこと。⇒沈黙寡言
夏侯拾芥	かこうしゅうかい	準1級	学問を修めるのが大切なこと。
歌功頌徳	かこうしょうとく	1級	人のてがらや徳をほめたたえて歌うこと。
花紅柳緑	かこうりゅうりよく	準2級	人の手を加えていない自然のままの美しさのこと。
画虎成狗	がこせいぐ	非見出し	才能のない者が本物をまねても、似ているだけで実際は違うものになってしまうということ。⇒画虎類狗
画虎類狗	がこるいく	準1級	才能のない者が本物をまねても、似ているだけで実際は違うものになってしまうということ。
華山帰馬	かざんきば	非見出し	戦いが終わり平和になるたとえ。⇒帰馬放牛
河山帶礪	かざんたいれい	準1級	永く変わらない堅い誓約のこと。また、国が永遠に栄えること。
河山帶厲	かざんたいれい	非見出し	永く変わらない堅い誓約のこと。また、国が永遠に栄えること。⇒河山帶礪
加持祈禱	かじきとう	準1級	病気や災難などを除くために神仏に祈ること。
和氏之璧	かしのへき	準1級	この世にめったにない宝物。
家常茶飯	かじょうきはん	4級	ごくありふれたこと。⇒日常茶飯
過剰防衛	かじょうぼうえい	準2級	自分を守るために一定の限度を超えて応戦すること。
花燭洞房	かしよくどうぼう	非見出し	新婚の夜のこと。また、新婚のこと。⇒洞房花燭
華燭之典	かしよくのてん	準1級	結婚式をいう。
華胥之国	かしよのくに	非見出し	よい夢。また、昼寝のこと。⇒華胥之夢
華胥之夢	かしよのゆめ	1級	よい夢。また、昼寝のこと。
家書万金	かしよばんきん	4級	家族からの手紙は、何よりもうれしいということ。
禾黍油油	かしよゆうゆう	準1級	物が勢いよくみごとに生長するさま。
画脂鏤氷	がしろうひょう	1級	苦勞して効果のないたとえ。また、力を無用なところに用いるたとえ。
雅人深致	がじん(の)しんち	4級	世俗を離れた風流な人の趣深いさま。
花晨月夕	かしんげっせき	非見出し	春秋の季節の楽しみをいう。⇒花朝月夕
佳人才子	かじんさいし	3級	非常にすぐれた男と女。⇒才子佳人
臥薪嘗胆	がしんしょうたん	準1級	目的を達成するために機会を待ち、苦勞を耐え忍ぶこと。
軻親断機	かしんだんき	1級	途中で志を捨ててはいけないという教え。
佳人薄命	かじんはくめい	3級	美人はとかく命が短い。美人はとかく薄幸である。
嘉辰令月	かしんれいげつ	準1級	めでたい月日のこと。
苛政猛虎	かせいもうこ	2級	民衆にとって過酷な政治は人食い虎よりももっと恐ろしいということ。
下井落石	かせいらくせき	非見出し	人の危機につけ込んでさらに痛めつけることをいう。⇒落井下石
禍棗災梨	かそうさいり	追加	価値が低くて無駄な書物を出版することを批判する言葉。
雅俗折衷	がぞくせっちゅう	準2級	風雅なものと卑俗なものとを適当に取捨して用いること。
家族団欒	かぞくだんらん	非見出し	家族が集まってむつまじく楽しむこと。⇒一家団欒
画蛇添足	がだてんそく	準2級	無用なものをつけ足すこと。
果断迅速	かだんじんそく	非見出し	物事をすばやく決断し、思いきって行うこと。⇒迅速果断
夏虫疑氷	かちゅうぎひょう	5級	見聞のせまい者が、自分の知識以外のものを信じようとしないこと。
花朝月夕	かちょうげっせき	4級	春秋の季節の楽しみをいう。
花朝月夜	かちょうげつや	非見出し	春秋の季節の楽しみをいう。⇒花朝月夕
花鳥諷詠	かちょうふうえい	1級	自然とそれにまつわる人事を、そのまま客観的に詠ずること。
花鳥風月	かちょうふうげつ	5級	自然の風景・風物。自然の美しさのたとえ。
隔靴搔痒	かつかそうよう	1級	思い通りにいかず、はがゆく、もどかしいこと。
隔靴搔癢	かつかそうよう	非見出し	思い通りにいかず、はがゆく、もどかしいこと。⇒隔靴搔痒
隔靴爬痒	かつかはよう	非見出し	思い通りにいかず、はがゆく、もどかしいこと。⇒隔靴搔痒
渴驥奔泉	かつきほんせん	1級	勢いが激しいこと。また、書の筆勢が力強いこと。
恪勤精励	かつきんせいれい	1級	力を尽くして学業や仕事に励むこと。⇒精励恪勤

葛屨履霜	かつくりそう	非見出し	物惜しみのなはだしいこと。⇒一毛不拔
活計歓楽	かつけいかんらく	4級	ぜいたくをして気ままに楽しむこと。
割鶏牛刀	かつけいぎゅうとう	3級	とるにたりないことを、大げさな方法で処理することの戒め。
確乎不動	かつこふどう	非見出し	意志がしっかりとしていて、動じないこと。⇒確乎不拔
確乎不拔	かつこふばつ	準1級	意志がしっかりとしていて、動じないこと。
活殺自在	かつさつじざい	5級	他を自分の思うとおりに扱うこと。
合従連横	がっしょうれんおう	非見出し	その時の利害に応じて、団結したり離れたりすること。⇒合従連衡
合従連衡	がっしょうれんこう	準2級	その時の利害に応じて、団結したり離れたりすること。
合縦連衡	がっしょうれんこう	非見出し	その時の利害に応じて、団結したり離れたりすること。⇒合従連衡
豁然大悟	かつぜんたいご	1級	迷いや疑いがにわかには解けて、真理を悟ること。
闊達自在	かつたつじざい	1級	心が広く物事にこだわらないさま。
闊達自由	かつたつじゆう	非見出し	心が広く物事にこだわらないさま。⇒闊達自在
豁達大度	かつたつたいど	1級	気持ちがからりとしていて、度量が広いこと。
勝手気儘	かつてきまま	非見出し	わがまま放題のこと。⇒得手勝手
活剥生吞	かつぱくせいどん	準1級	他人の詩や文章などをそのまま盗用すること。
活潑潑地	かつはつはつち	準1級	生き生きと活動すること。意気盛んで、なんの心配事もないこと。
刮目相看	かつもくそうかん	非見出し	人が著しく進歩・成長するのを待ち望むこと。また、今までとは違った見方で相手を見直すこと。⇒刮目相待
刮目相待	かつもくそうたい	1級	人が著しく進歩・成長するのを待ち望むこと。また、今までとは違った見方で相手を見直すこと。
華亭鶴唳	かていかくれい	1級	過去の栄華を懐かしく思い、現状を嘆くさま。
過庭之訓	かていのおしえ	準1級	父の教えのこと。また、家庭での教育のこと。
我田引水	がでんいんすい	4級	自分の都合のよいように、考えたり事を進めたりすること。
瓜田之履	かでんのり	非見出し	人に疑われるようなことはしないほうがよいというたとえ。⇒李下瓜田
瓜田李下	かでんりか	準1級	人に疑われるようなことはしないほうがよいというたとえ。⇒李下瓜田
寡頭政治	かとうせいじ	準2級	少数者が統治権をにぎって行う政治。
家徒四壁	かとしへき	4級	非常に貧しいさま。
家徒壁立	かとへきりつ	非見出し	非常に貧しいさま。⇒家徒四壁
河図洛書	かとらくしよ	準1級	めったに手に入れることができない図書のこと。
蛾眉皓齒	がびこうし	非見出し	美人のたとえ。⇒明眸皓齒
家貧孝子	かひんこうし	4級	家が貧しいと孝行な子供ができるということ。また、人は逆境のときにこそ真価があらわれるということ。
歌舞音曲	かぶおんきょく	追加	歌や踊りや音楽のこと。また、そのような華やかな遊芸のこと。
禍福倚伏	かふくいふく	1級	わざわいと幸せは互い違いにやってくるものだということ。
禍福糾纏	かふくきゅうぼく	配当外	福あれば禍ありということ。
禍福相倚	かふくそうい	非見出し	わざわいと幸せは互い違いにやってくるものだということ。⇒禍福倚伏
禍福相貫	かふくそうかん	非見出し	わざわいと幸せは互い違いにやってくるものだということ。⇒禍福倚伏
禍福同門	かふくどうもん	非見出し	わざわいや福はその人自身が招くものだということ。⇒禍福無門
禍福得喪	かふくとくそう	準2級	わざわいにあったり、幸いにあったり、成功して出世したり、位を失ったりすること。
禍福之転	かふくのてん	非見出し	わざわいと幸せは互い違いにやってくるものだということ。⇒禍福倚伏
禍福無門	かふくむもん	準2級	わざわいや福はその人自身が招くものだということ。
瓦釜雷鳴	がふらいめい	準1級	小人や讒言が用いられるたとえ。また、能もないのにいばりわめくこと。
寡聞少見	かぶんしょうけん	準2級	見聞がせまく、わずかな知識しかないこと。
瓜剖豆分	かぼうとうぶん	準1級	瓜や豆を割るように分裂・分割すること。
我武者者	がむしゃもの	非見出し	向こう見ずにひたすら突き進むこと。⇒我武者羅
我武者羅	がむしゃら	準2級	向こう見ずにひたすら突き進むこと。
烏之雌雄	からすのしゅう	準1級	物事の是非善悪がまぎらわしくて判断しにくいことのたとえ。

我利我利	がりがり	非見出し	欲深い者は、金のためならなんでもするということ。⇒貪夫徇財
花柳狭斜	かりゆうきょうしゃ	非見出し	遊里・色町のこと。⇒柳巷花街
下陵上替	かりょうじょうたい	3級	世の中が乱れたさま。
画竜点睛	がりょうてんせい	1級	物事の最も大切なところ。物事を完成するための最後の大切な仕上げ。
河梁之吟	かりょうのぎん	準1級	親しい人を送るときの別れがたい気持ちのこと。
河梁之誼	かりょうのよしみ	非見出し	親しい人を送るときの別れがたい気持ちのこと。⇒河梁之吟
迦陵頻伽	かりょうびんが	準1級	声が美しいもののたとえ。
臥竜鳳雛	がりょうほうすう	準1級	才能を持ちながら機会がなくて実力を発揮できない者のこと。
寡廉鮮恥	かれんせんち	準2級	心が清く正しくなく恥知らずなこと。
苛斂誅求	かれんちゅうきゅう	1級	税金などを情け容赦なく取りたてること。
餓狼之口	がろうのくち	準1級	非常に欲が深く、残忍な人のこと。
夏鑪冬扇	かろうせん	1級	無用なもの、役に立たないもののたとえ。
夏炉冬扇	かろうせん	非見出し	無用なもの、役に立たないもののたとえ。⇒夏鑪冬扇
銜哀致誠	がんあいちせい	1級	哀切な気持ちと誠の心をささげて死者を弔うこと。
含飴弄孫	がんいろうそん	準1級	老人が気楽に隠居生活をすること。
間雲孤鶴	かんうんこかく	非見出し	隠士の心境のたとえ。⇒閑雲野鶴
閑雲野鶴	かんうんやかく	準1級	隠士の心境のたとえ。
間雲野鶴	かんうんやかく	非見出し	隠士の心境のたとえ。⇒閑雲野鶴
含英咀華	がんえいしょか	1級	文章のすぐれた部分をよく味わい、心の中に蓄積すること。
檻猿籠鳥	かんえんろうちょう	1級	自由を奪われ自分の思いどおりに生きることのできない境遇のたとえ。⇒籠鳥檻猿
寒灰枯木	かんかいこぼく	非見出し	一度衰えた勢力が再び盛り返すこと。⇒死灰復然
韓海蘇潮	かんかいそちょう	準1級	韓愈と蘇軾の文体を評した語。
顔回簞瓢	がんかいたんぴょう	非見出し	清貧に甘んじるたとえ。⇒簞食瓢飲
寒灰復燃	かんかいふくねん	非見出し	一度衰えた勢力が再び盛り返すこと。⇒死灰復然
感慨無量	かんがいむりょう	3級	はかりしれないほど身にしみて感ずること。
干戈倥傯	かんかこうそう	1級	戦いで忙しいこと。
鰥寡孤独	かんかこどく	1級	身寄りもなく寂しいこと。
矜寡孤独	かんかこどく	非見出し	身寄りもなく寂しいこと。⇒鰥寡孤独
含牙戴角	がんがたいかく	2級	牙や角をもつもの。獣の類。
頷下之珠	がんかのしゅ	1級	めったに手に入れることができない貴重なもののこと。
轆轤不遇	かんかふぐう	1級	思いどおりに事が運ばず、地位や境遇に恵まれないこと。
坎軻不遇	かんかふぐう	非見出し	思いどおりに事が運ばず、地位や境遇に恵まれないこと。⇒轆轤不遇
坎坷不遇	かんかふぐう	非見出し	思いどおりに事が運ばず、地位や境遇に恵まれないこと。⇒轆轤不遇
坳坷不遇	かんかふぐう	非見出し	思いどおりに事が運ばず、地位や境遇に恵まれないこと。⇒轆轤不遇
緩歌慢舞	かんかまんぶ	3級	ゆるやかに歌い、ゆるやかに舞うこと。
侃侃諤諤	かんかんがくがく	1級	遠慮することなくさかんに議論をするさま。また、遠慮せず直言すること。
觀感興起	かんかんこうき	5級	目で見、心に感じ、感動して奮起すること。
寒巖枯木	かんがんこぼく	準1級	世俗を超越して無心の境地にあること。⇒枯木寒巖
関関雎鳩	かんかんしよきゅう	1級	非常に夫婦仲がよいこと。
官官接待	かんかんせつたい	5級	地方自治体の職員が中央官僚を公金(税金)を使ってもてなすこと。
歡喜雀躍	かんきじゃくやく	非見出し	大喜びすること。⇒欣喜雀躍
管窺之見	かんきのけん	非見出し	非常に見識が狭いこと。⇒管窺蠡測
歡喜抃舞	かんきべんぶ	1級	大喜びするたとえ。
緩急自在	かんきゅうじざい	3級	速度などを遅くしたり早くしたりして、思うままに操ること。

汗牛充棟	かんぎゅうじゅうとう	準2級	蔵書が非常に多いことのたとえ。
管窺蠡測	かんきれいそく	1級	非常に見識が狭いこと。
歓欣鼓舞	かんきんこぶ	準1級	大喜びするたとえ。⇒歓喜扑舞
甘言蜜語	かんげんみつご	2級	相手に取り入るための甘い言葉。
頑固一徹	がんごいつてつ	準2級	一度決めたらあくまでも意地をはって押し通すこと。
眼光炯炯	がんこうけいけい	1級	目が鋭く光るさま。
顔厚忸怩	がんこうじくじ	1級	あつかましい顔にもなお恥じる色があらわれる。
眼光紙背	がんこうしはい	5級	読解力が高いこと。
眼高手低	がんこうしゅてい	5級	理想は高いが実力が伴わないこと。また、批評はうまいが創作力がないこと。
寛洪大量	かんこうたいりょう	非見出し	心が広くて慈悲深く、度量が大きいこと。⇒寛仁大度
寒江独釣	かんこうどくちょう	準2級	冬の川で雪の中一人で釣りをする人の姿。
顔厚無慚	がんこうむざん	非見出し	あつかましくて、恥知らずなさま。⇒厚顔無恥
換骨奪胎	かんこつだつたい	3級	外形はもとのままで中身を取りかえること。また、外見は同じでも内容が違うこと。
還顧之憂	かんこのうれい	非見出し	あとに残る気がかり。⇒後顧之憂
冠婚葬祭	かんこんそうさい	3級	慶弔の儀式のこと。
冠婚喪祭	かんこんそうさい	非見出し	慶弔の儀式のこと。⇒冠婚葬祭
冠昏葬祭	かんこんそうさい	非見出し	慶弔の儀式のこと。⇒冠婚葬祭
翫歲愒日	がんさいかいじつ	1級	何もしないで怠惰な月日を過ごすこと。
寒山拾得	かんざんじつとく	準1級	唐の高僧、寒山と拾得のこと。
顔子一瓢	がんしいっぴょう	非見出し	極貧のたとえ。⇒朝齋暮塩
岸芷汀蘭	がんしていらん	配当外	花が香り高く咲き、葉が青々と茂っているさま。
含沙射人	がんしゃしゃじん	非見出し	陰險な方法で人に害を与えること。⇒含沙射影
含沙射影	がんしゃせきえい	準1級	陰險な方法で人に害を与えること。
顔常山舌	がんじょうざんのした	5級	苛酷な刑を受けてもなお、主君や国家に忠節を尽くすこと。
觀場矮人	かんじょうのわいじん	非見出し	見識のないことのたとえ。⇒矮子看戲
干将莫邪	かんしょうばくや	準1級	名劍の名。
干将莫耶	かんしょうばくや	非見出し	名劍の名。⇒干将莫邪
干将鑢錐	かんしょうばくや	非見出し	名劍の名。⇒干将莫邪
盱食宵衣	かんしょくしょうい	1級	天子が朝早くから夜遅くまで熱心に政治にはげむこと。⇒宵衣盱食
関雎之化	かんしょのか	1級	夫婦の仲がむつまじく、家庭がよく治まること。
玩人喪徳	がんじんそうとく	2級	人を軽くみてあなどると、自分の徳を失うことになるということ。
寛仁大度	かんじんたいど	準2級	心が広くて慈悲深く、度量が大きいこと。
韓信匍匐	かんしんほふく	1級	大きな目的のために一時の屈辱にも怒りを押さえ恥を忍ぶこと。
韓信蒲伏	かんしんほふく	非見出し	大きな目的のために一時の屈辱にも怒りを押さえ恥を忍ぶこと。⇒韓信匍匐
甘井先竭	かんせいせんけつ	1級	才能のある者ほど先に憂き目にあうということ。
埳井之鼃	かんせいのあ	配当外	広い世間を知らないで、自分だけの狭い見識にとらわれること。
坎井之鼃	かんせいのあ	非見出し	広い世間を知らないで、自分だけの狭い見識にとらわれること。⇒埳井之鼃
千戚羽旄	かんせきうぼう	1級	武の舞と文の舞のこと。
冠前絶後	かんぜんぜつご	3級	きわめて珍しいこと。
勸善懲惡	かんぜんちょうあく	準2級	善行を奨励して、悪行を懲らしめ、悪い行いをしないようにしむけること。
完全無欠	かんぜんむけつ	5級	どこから見ても、欠点や不足がまったくないこと。
官尊民卑	かんそんみんび	3級	政府や官吏・官営事業を尊び、民間人や民間事業を卑しむこと。
邯鄲学歩	かんだんがくほ	非見出し	自分本来のものを忘れて、やたらに他人のまねをしたため、両方ともうまくいかなくなってしまうたとえ。⇒邯鄲之歩
寒煖饑飽	かんだんきほう	1級	衣食が乏しくこごえ飢えることと、あたたかい着物をきてあきるまで食べること。

肝胆相照	かんたんそうしょう	3級	互いに心の底から理解しあって深くつきあうこと。
邯鄲之歩	かんたんのほ	1級	自分本来のものを忘れて、やたらに他人のまねをしたため、両方ともうまくいかなくなってしまうたとえ。
邯鄲之枕	かんたんのまくら	非見出し	人の世の栄華のはかないことのたとえ。⇒邯鄲之夢
邯鄲之夢	かんたんのゆめ	1級	人の世の栄華のはかないことのたとえ。
肝胆朋友	かんたんほうゆう	非見出し	互いに心の底から理解しあって深くつきあうこと。⇒肝胆相照
簡單明瞭	かんたんめいりょう	2級	簡単ではっきりとしていること。
奸智術策	かんちじゅっさく	非見出し	よこしまな知恵と計略。悪だくみ。⇒奸智術数
奸智術数	かんちじゅっすう	1級	よこしまな知恵と計略。悪だくみ。
姦智術数	かんちじゅっすう	非見出し	よこしまな知恵と計略。悪だくみ。⇒奸智術数
管中窺豹	かんちゅうさきひょう	準1級	見識の非常に狭いたとえ。
管仲随馬	かんちゅうずいば	3級	聖人の知恵を借りること。
眼中之釘	がんちゅうのくぎ	準1級	自分に害を与えるもののたとえ。
眼中之刺	がんちゅうのし	非見出し	自分に害を与えるもののたとえ。⇒眼中之釘
眼中之丁	がんちゅうのてい	非見出し	自分に害を与えるもののたとえ。⇒眼中之釘
眼中無人	がんちゅうむじん	非見出し	人前にもかかわらず、勝手に無遠慮な振る舞いをする事。⇒旁若無人
歡天喜地	かんてんきち	4級	非常に喜ぶこと。
早天慈雨	かんてんじう	1級	大いに困っているときに救われること。また、待望していたことが実現すること。
撼天動地	かんてんどうち	1級	活動のめざましいことの形容。また、音声の大きいことのたとえ。
甘棠之愛	かんとうのあい	1級	人民の善政を行う人に対する思慕の情が深いこと。
甘棠遺愛	かんとうのいあい	非見出し	人民の善政を行う人に対する思慕の情が深いこと。⇒甘棠之愛
甘棠之恵	かんとうのめぐみ	非見出し	人民の善政を行う人に対する思慕の情が深いこと。⇒甘棠之愛
環堵蕭然	かんとしょうぜん	1級	家が非常に狭くて、さびしくみすぼらしいさま。
環堵之室	かんとのしつ	非見出し	家が非常に狭くて、さびしくみすぼらしいさま。⇒環堵蕭然
艱難苦勞	かんなんくろう	非見出し	大変な苦勞。⇒艱難辛苦
艱難辛苦	かんなんしんく	1級	大変な苦勞。
奸佞邪心	かんねいじゃしん	非見出し	性格がひねくれていてずるがしこいこと。⇒奸佞邪智
奸佞邪智	かんねいじゃち	1級	性格がひねくれていてずるがしこいこと。
肝腦塗地	かんのうち	3級	戦場でむごたらしい死に方をする事。
汗馬之功	かんばのこう	非見出し	物事を成功させるためにいろいろ奔走する苦勞。また、物を遠くに運ぶ苦勞にもいう。⇒汗馬之勞
汗馬之勞	かんばのろう	準1級	物事を成功させるためにいろいろ奔走する苦勞。また、物を遠くに運ぶ苦勞にもいう。
銜尾相随	かんびそうずい	1級	車や動物などが切れ目なく連なって進むこと。
銜尾相属	かんびそうぞく	非見出し	車や動物などが切れ目なく連なって進むこと。⇒銜尾相随
完美無欠	かんびむけつ	非見出し	どこから見ても、欠点や不足がまったくないこと。⇒完全無欠
勸百諷一	かんびゃくふういつ	1級	益よりも害の多いこと。
玩物喪志	がんぶつそうし	2級	無用なものに熱中して、本業がおろそかになること。
感奮激厲	かんぶんげきれい	非見出し	物事に深く心を揺り動かされて奮い立つこと。⇒感奮興起
感奮興起	かんぶんこうき	5級	物事に深く心を揺り動かされて奮い立つこと。
緩兵之計	かんべいのけい	非見出し	敵との決戦を先延ばしにして、時間をつくって様子をうかがい、時機を待ってから攻撃を再開する戦法のこと。⇄速戦即決
管鮑之交	かんぼうのまじわり	1級	利害得失を超えた親密な友情のこと。
含哺鼓腹	がんぼこふく	2級	人々が豊かで平和な世を楽しむこと。
頑迷固陋	がんめいこうろう	1級	視野が狭く頑固で柔軟性に欠け、正しい判断ができないこと。
慣用手段	かんようしゅだん	非見出し	いつも決まってとられる手段。⇒常套手段
冠履顛倒	かんりてんとう	非見出し	上下の順序が乱れること。⇒冠履倒易
冠履倒易	かんりとうえき	準2級	上下の順序が乱れること。

冠履倒置	かんりとうち	非見出し	上下の順序が乱れること。⇒冠履倒易
頑廉儒立	がんれんだりつ	1級	高潔な人物に感化されて、良い方向にむかうこと。
閑話休題	かんわきゅうだい	準2級	それはさておき。それまでの雑談や前置きを打ち切って、話の本題にはいるときや、脇道にそれた話を、もとに戻すときに用いる語。
間話休題	かんわきゅうだい	非見出し	それはさておき。それまでの雑談や前置きを打ち切って、話の本題にはいるときや、脇道にそれた話を、もとに戻すときに用いる語。⇒閑話休題
気韻生動	きいんせいどう	準2級	絵画や文章などに、生き生きとした気品や情趣があふれていること。
気宇軒昂	きうけんこう	非見出し	心構えや発想が大きくて立派なこと。⇒気宇壮大
気宇壮大	きうそうだい	準2級	心構えや発想が大きくて立派なこと。
気宇雄豪	きうゆうごう	非見出し	心構えや発想が大きくて立派なこと。⇒気宇壮大
疑雲猜霧	ぎうんさいむ	1級	疑いのかかっていることを雲やかすみにとえた語。
気炎万丈	きえんばんじょう	4級	他を圧倒するほど意気盛んであること。
気焰万丈	きえんばんじょう	非見出し	他を圧倒するほど意気盛んであること。⇒気炎万丈
既往不咎	きおうふきゅう	1級	過ぎたことはとがめないということ。
祇園精舎	ぎおんしょうじゃ	準1級	釈迦の説法が行われたことで有名な寺院の名。
奇怪至極	きかいしごく	非見出し	常識では考えられないようなふしぎなこと。また、許せないようなけしからぬこと。⇒奇奇怪怪
機械之心	きかいのこころ	準1級	いつわりたくらむ心。
奇貨可居	きかかきよ	4級	絶好の機会はいまよく利用しなければならないというたとえ。
龜鶴之寿	きかくのじゅ	非見出し	長寿のこと。⇒鶴寿千歳
揮汗成雨	きかんせいう	非見出し	大勢の人があとからあとへと続くこと。⇒比肩随踵
鬼瞰之禍	きかんのわざわい	1級	よいことにはとかく邪魔が入りやすいということ。
危機一髪	ききいつぱつ	4級	非常に危ない瀬戸際。
奇技淫巧	きぎいんこう	2級	快樂のみを求めた好ましくないもののたとえ。
奇奇怪怪	ききかいかい	3級	常識では考えられないようなふしぎなこと。また、許せないようなけしからぬこと。
騏驥過隙	ききかげき	1級	ほんの一瞬の出来事のこと。また、時の過ぎることがきわめてはやい形容。
熙熙壤壤	ききじょうじょう	1級	多くの人々がやがやと忙しく往來するさま。
熙熙攘攘	ききじょうじょう	非見出し	多くの人々がやがやと忙しく往來するさま。⇒熙熙壤壤
奇奇妙妙	ききみょうみょう	非見出し	常識では考えられないようなふしぎなこと。また、許せないようなけしからぬこと。⇒奇奇怪怪
危急存亡	ききゅうそんぼう	5級	危険が迫っていて、生きるか死ぬかの瀬戸際のこと。
起居動作	ききょどうさ	非見出し	日常の立ち居振る舞いのこと。⇒举措進退
崎嶇坎坷	きくかんか	1級	不遇で世渡りに大変苦勞すること。
崎嶇坎坷	きくかんか	非見出し	不遇で世渡りに大変苦勞すること。⇒崎嶇坎坷
規矩準繩	きくじゅんじょう	準1級	物事や行為の標準・基準となるもの。
規矩繩墨	きくじょうぼく	非見出し	物事や行為の標準・基準となるもの。⇒規矩準繩
鬼臉嚇人	きけんかくじん	非見出し	見せかけの威力で人をおどしつけること。⇒鬼面嚇人
危言覈論	きげんかくろん	1級	激しく議論をたたかわせること。
危言危行	きげんきこう	5級	言葉を正しくし、品性のある行いをする事。また、厳しい言行のこと。
奇言奇行	きげんきこう	非見出し	人と違った言行をする意。≠危言危行
棄甲曳兵	きこうえいへい	準1級	戦いに敗れ、戦意を失って逃げる事。
跂行喙息	きこうかいそく	1級	生きもののこと。
規行矩步	きこうくほ	準1級	品行方正なこと。心や行動がきちんとして正しいこと。
疑行無名	ぎこうむめい	非見出し	疑いながら事を行うようでは、成功は期待できないということ。⇒疑事無功
鬼哭啾啾	きこくしゅうしゅう	1級	戦場などの鬼氣迫ったものすごいさま。
氣骨稜稜	きこつりょうりょう	準1級	自分の信念をゆるぎなく貫こうとする態度のこと。
旗鼓堂堂	きこどうどう	4級	整然として威厳があること。
騎虎之勢	きこのいきおい	準1級	物事にはずみがついて、途中でやめられなくなる事。

奇策妙計	きさくみょうけい	4級	人の意表をついた奇抜ですぐれたはかりごと。⇒妙計奇策
箕山之志	きざんのこころざし	準1級	世俗的な名利を捨てて隠棲し、自分の節操を守ること。
箕山之節	きざんのせつ	非見出し	世俗的な名利を捨てて隠棲し、自分の節操を守ること。⇒箕山之志
箕山之操	きざんのみさお	非見出し	世俗的な名利を捨てて隠棲し、自分の節操を守ること。⇒箕山之志
起死回生	きしかいせい	5級	絶望的な状況を立て直し、もとに戻すこと。
起死廻生	きしかいせい	非見出し	絶望的な状況を立て直し、もとに戻すこと。⇒起死回生
起死再生	きしさいせい	非見出し	絶望的な状況を立て直し、もとに戻すこと。⇒起死回生
旗幟鮮明	きしせんめい	1級	主義・主張・態度などがはっきりしていること。
貴耳賤目	きじせんもく	準1級	人から伝え聞くことを重んじて、自分が実際に目にすることを軽んずること。また、伝え聞いている過去を重んじ、現在を軽視すること。
疑事無功	ぎじむこう	5級	疑いながら事を行うようでは、成功は期待できないということ。
騎獣之勢	きじゅうのいきおい	非見出し	物事にはずみがついて、途中でやめられなくなること。⇒騎虎之勢
綺襦紈袴	きじゅがんこ	配当外	富貴の家の子弟をいう。
綺襦紈袴	きじゅがんこ	非見出し	富貴の家の子弟をいう。⇒綺襦紈袴
鬼出電入	きしゅつでんにゅう	4級	出入りが速くて、出没が予測できないこと。
貴種流離	きしゅりゅうり	4級	貴人が流離しつづける運命の中で苦難や恋を体験し帰国すること。
魏紫姚黄	ぎしようこう	非見出し	すばらしい香りと国一番の美しさ。牡丹の別名。⇒国色天香
起承転結	きしょうてんけつ	5級	文章の構成法や物事の順序のこと。
起承転合	きしょうてんごう	非見出し	文章の構成法や物事の順序のこと。⇒起承転結
机上空論	きじょうのくうろん	非見出し	机の上の考えだけで実際には役に立たない意見や考え。⇒机上之論
机上之論	きじょうのろん	準1級	机の上の考えだけで実際には役に立たない意見や考え。
喜色満面	きしょくまんめん	5級	顔いっぱい喜びの表情があふれているようす。
疑心暗鬼	ぎしんあんき	4級	疑いの心があると、何でもないことにまで不安や恐怖を覚えるようになってしまうこと。
貴紳淑女	きしんしゅくじょ	非見出し	教養があり、品格があつて、礼儀正しい男性と女性のこと。⇒紳士淑女
杞人天憂	きじんてんゆう	1級	無用の心配。取り越し苦労のこと。
規制緩和	きせいかんわ	3級	政府による産業や経済に関するさまざまな規制を廃止したり緩めたりすること。
規制強化	きせいきょうか	非見出し	政府による産業や経済に関するさまざまな規制を設けたり強めたりすること。⇔規制緩和
希世之雄	きせいのゆう	準1級	世に珍しい英雄のこと。
稀世之雄	きせいのゆう	非見出し	世に珍しい英雄のこと。⇒希世之雄
奇絶怪絶	きぜつかいぜつ	非見出し	常識では考えられないようなふしぎなこと。また、許せないようなけしからぬこと。⇒奇奇怪怪
羈縻之僕	きせつのぼく	1級	主人の旅の供をする者のこと。
羈縻之僕	きせつのぼく	非見出し	主人の旅の供をする者のこと。⇒羈縻之僕
巍然屹立	ぎぜんきつりつ	1級	人物が他よりひときわすぐれているさま。
貴賤上下	きせんじょうげ	準1級	身分の高い人と低い人。また、身分の高い人も低い人もすべて。
貴賤貧富	きせんひんぷ	非見出し	貧しい者と富める者、身分の貴い者と賤しい者。⇒貧富貴賤
奇想天外	きそうてんがい	4級	思いもよらないような奇抜なこと。
氣息奄奄	きそくえんえん	準1級	いまにも滅びそうな苦しいさま。
吉日良辰	きちじつりょうしん	準1級	縁起のよい日のこと。
機知縦横	きちじゅうおう	非見出し	臨機応変の策略を自在にめぐらし用いること。⇒機略縦横
吉祥悔過	きちじょうけか	準1級	毎年正月に、吉祥天を本尊として、罪を懺悔し国家安穩・五穀豊穡を祈願する法会のこと。
奇怪千万	きっかいせんばん	3級	ふだんと違っていたいそう不気味なこと。また、非常にけしからぬこと。
鞠躬尽瘁	きつきゅうじんすい	1級	ひたすら心を尽くして骨折り国事につとめること。
吉凶禍福	きつきょうかふく	準2級	幸いとわざわい。
佶屈晦渋	きくくつかいじゅう	非見出し	文章が難解で堅苦しく、理解しにくいこと。⇒佶屈聱牙
佶屈聱牙	きくくつごうが	配当外	文章が難解で堅苦しく、理解しにくいこと。

詰屈聱牙	きくくつごうが	非見出し	文章が難解で堅苦しく、理解しにくいこと。⇒佶屈聱牙
詰倔聱牙	きくくつごうが	非見出し	文章が難解で堅苦しく、理解しにくいこと。⇒佶屈聱牙
詰誦聱牙	きくくつごうが	非見出し	文章が難解で堅苦しく、理解しにくいこと。⇒佶屈聱牙
亀甲獸骨	きっこうじゅうこつ	2級	亀の甲羅と、けものの骨。
橘井杏林	きつせいきょうりん	追加	医者に対する敬称。
橘中之樂	きっちゅうのたのしみ	準1級	碁や将棋をする楽しみのこと。
儀狄之酒	ぎてきのさけ	非見出し	酒のこと。また、酒があらゆる薬の中で最もよく効くということ。⇒百薬之長
喜怒哀楽	きどあいらく	3級	人間の持っているさまざまな感情。
肌肉玉雪	きにくぎょくせつ	準1級	雪のように白く美しい女性の肌の形容。
帰馬放牛	きばほうぎゅう	5級	戦いが終わり平和になるたとえ。
杞人之憂	きひとのうれい	非見出し	無用の心配。取り越し苦労のこと。⇒杞人天憂
驥服塩車	きふくえんしゃ	1級	すぐれた人物が、低い地位にいたり、つまらない仕事をさせられること。
鬼斧神工	きふしんこう	準1級	人間わざとは思えないほどすぐれた細工や作品のこと。⇒神工鬼斧
季布一諾	きふのいちだく	3級	絶対に信頼できる堅い約束のこと。
帰命稽首	きみょうけいしゅ	非見出し	仏に心から帰依すること。⇒帰命頂礼
帰命頂礼	きみょうちょうらい	準2級	仏に心から帰依すること。
鬼面嚇人	きめんかくじん	準2級	見せかけの威力で人をおどしつけること。
鬼面仏心	きめんぶっしん	4級	見た目は恐ろしそうだが、本当は心がとてもやさしいこと。
龜毛兎角	きもうとかく	準1級	実在するはずがないこと。
逆施倒行	ぎやくしとうこう	非見出し	正しい道理にさからって物事を行うこと。⇒倒行逆施
逆取順守	ぎやくしゅじゅんしゅ	5級	道理にはずれた方法で取り、道理に従って守ること。
逆臣賊子	ぎやくしんぞくし	非見出し	国を乱す悪臣と親に背く子供。⇒乱臣賊子
客塵煩惱	きやくじんぼんのう	準1級	外的な要因で偶発的にもたらされるさまざまな心の迷いのこと。
喜躍抃舞	きやくべんぶ	非見出し	大喜びするたとえ。⇒歡喜抃舞
脚下照顧	きやつかしょうこ	3級	身近なことに気をつけるべきこと、自分のことをよく反省すべきことをいう。
牛飲馬食	ぎゅういんばしょく	5級	むやみにたくさん飲み食いをする事。
旧雨今雨	きゅううこんう	5級	古い友人と新しい友人のこと。
窮猿投林	きゅうえんとうりん	準2級	困っているときには、あれこれ選り好みなどしてられないということ。
九夏三伏	きゅうかさんぷく	3級	夏の最も暑い土用のころをいう語。
旧慣墨守	きゅうかんぼくしゅ	非見出し	古いしきたりを守り続けること。また、古いしきたりを固く守って融通のきかないこと。⇒旧套墨守
牛驥一皁	ぎゅうきいつそう	非見出し	賢者が愚者と同じ待遇を受けること。⇒牛驥同皁
牛驥共牢	ぎゅうききょうろう	非見出し	賢者が愚者と同じ待遇を受けること。⇒牛驥同皁
牛鬼蛇神	ぎゅうきだしん	準2級	作品などのきわめて奇怪なことのたとえ。また、人柄が卑しくて心がねじけている人のたとえ。
牛驥同皁	ぎゅうきどうそう	1級	賢者が愚者と同じ待遇を受けること。
九牛一毛	きゅうぎゅうのいちもう	5級	多くの中のきわめてわずかな部分。また、取るに足りない些細なこと。
汲汲忙忙	きゅうきゅうぼうぼう	準1級	非常に忙しいさま。
求魚緣木	きゅうぎょえんぼく	4級	不可能なことのたとえ。⇒緣木求魚
九棘三槐	きゅうきょくさんかい	1級	三公と九卿。⇒三槐九棘
鳩居鵲巢	きゅうきょじゃくそう	1級	他人の地位を横取りすること。また、女性が嫁いで夫の家をわが家とすること。⇒鵲巢鳩居
鳩形鵲面	きゅうけいこくめん	非見出し	飢えのためにひどくやせ衰えているさま。⇒鳥面鵲形
泣血漣如	きゅうけつれんじょ	準1級	非常に悲しみ涙が止めどもなく流れるさま。
躬行実践	きゅうこうじっせん	1級	自分自身の力で実際にすすんで行動してみること。⇒実践躬行
九皁鳴鶴	きゅうこうのめいかく	準1級	身を隠していても、名声が世にあらわれること。
窮山通谷	きゅうざんつうこく	非見出し	奥深くて静かな山と谷のこと。⇒窮山幽谷

丘山之功	きゅうざんのこう	準1級	偉大な功績のたとえ。
泣斬馬謖	きゅうざんばしょく	準1級	天下の法は私情で曲げられないたとえ。また、大きな目的のためには私情をすてるたとえ。
窮山幽谷	きゅうざんゆうこく	準2級	奥深くて静かな山と谷のこと。
九死一生	きゅうしいっしょう	5級	ほとんど助かる見込みのない命がかろうじて助かること。
宮車晏駕	きゅうしゃあんが	1級	天子が亡くなること。
宮車晩駕	きゅうしゃばんが	非見出し	天子が亡くなること。⇒宮車晏駕
牛溲馬勃	ぎゅうしゅうばぼつ	1級	無用なものや役に立たないもののたとえ。また、つまらないもののたとえ。
旧習墨守	きゅうしゅうぼくしゅ	非見出し	古いしきたりを守り続けること。また、古いしきたりを固く守って融通のきかないこと。⇒旧套墨守
鳩首協議	きゅうしゅきょうぎ	非見出し	額をつきあわせて熱心に相談すること。⇒鳩首凝議
鳩首凝議	きゅうしゅぎょうぎ	準1級	額をつきあわせて熱心に相談すること。
鳩首密議	きゅうしゅみつぎ	非見出し	額をつきあわせて熱心に相談すること。⇒鳩首凝議
九仞一簣	きゅうじんいつき	非見出し	長い間の努力も最後のほんのちょっとした手違いから失敗に終わってしまうことのたとえ。⇔一簣之功
救世済民	きゅうせいさいみん	5級	世の中をよくし、人々を苦しみから救うこと。
求全之毀	きゅうぜんのそしり	非見出し	万全を期して正しいことを行っても、かえって人に非難されることもあるということ。⇔不虞之誉
窮鼠噬猫	きゅうそごうびょう	準1級	弱者も追いつめられて必死になれば、強者に思いもよらない力で抵抗し勝つこともあるというたとえ。
窮鼠噬狸	きゅうそごうり	非見出し	弱者も追いつめられて必死になれば、強者に思いもよらない力で抵抗し勝つこともあるというたとえ。⇒窮鼠噬猫
旧態依然	きゅうたいいぜん	4級	昔のままで少しも進歩しないこと。
九腸寸断	きゅうちょうすんだん	5級	非常に辛くて悲しいこと。
窮鳥入懷	きゅうちょうにゅうかい	準2級	追いつめられた人が助けを求めすがること。
泣涕如雨	きゅうていじょう	非見出し	非常に悲しみ涙が止めどもなく流れるさま。⇒泣血漣如
九鼎大呂	きゅうていたいりょ	準1級	貴重なもの、重要な地位や名望のたとえ。
急転直下	きゅうてんちよっか	5級	事態・情勢が急に变化して、物事が解決し決着がつくこと。
牛刀割鶏	ぎゅうとうかけい	3級	とるにたりないことを、大げさな方法で処理することの戒め。⇒割鶏牛刀
弓道八節	きゅうどうはっせつ	4級	弓道での弓を射る八段階の方則のこと。
旧套墨守	きゅうとうぼくしゅ	準1級	古いしきたりを守り続けること。また、古いしきたりを固く守って融通のきかないこと。
窮途之哭	きゅうとのこく	1級	貧しくて生活に困窮した悲しみ。
窮途末路	きゅうとまつろ	準2級	追いつめられて苦境から逃れようもない状態。また、苦境におちいって困りはてること。
窮年累月	きゅうねんいげつ	非見出し	自分の生きている限り、孫子の代までも。いつまでも。⇒窮年累世
窮年累世	きゅうねんいせい	準2級	自分の生きている限り、孫子の代までも。いつまでも。
吸風飲露	きゅうふういんろ	4級	仙人などの清浄な生活のこと。
牛糞馬涎	ぎゅうふんばせん	非見出し	無用なものや役に立たないもののたとえ。また、つまらないもののたとえ。⇒牛溲馬勃
義勇奉公	ぎゅうほうこう	非見出し	忠義を尽くして国の恩に報いること。⇒尽忠報国
朽木之材	きゅうぼくのざい	非見出し	だめな人間やなまけ者は教育しがたいことのたとえ。また、手のほどこしようないもの、役にたたない者のたとえ。⇒朽木糞土
朽木糞牆	きゅうぼくふんしょう	1級	だめな人間やなまけ者は教育しがたいことのたとえ。また、手のほどこしようないもの、役にたたない者のたとえ。⇒朽木糞土
朽木糞土	きゅうぼくふんど	準1級	だめな人間やなまけ者は教育しがたいことのたとえ。また、手のほどこしようないもの、役にたたない者のたとえ。
窮余一策	きゅうよのいっさく	準2級	追いつめられて苦しまぎれに思いつく手段・方策。
九流百家	きゅうりゅうひゃっか	非見出し	中国の春秋戦国時代に活躍した多くの学者や学派、またその著書の総称。⇒諸子百家
急流勇退	きゅうりゅうゆうたい	5級	いさぎよく官職をやめること。
拳案齐眉	きょあんせいび	2級	夫婦の間に礼儀がいきとどいていること。
強惡強善	きょうあくきょうぜん	5級	悪人が悔いあらためると逆に考えられないほどの善人になるたとえ。
堯雨舜風	ぎょううしゅんぷう	非見出し	堯帝や舜帝の恵みや恩沢を雨や風にたとえていう語。転じて、太平の世をいう。⇒堯風舜雨
矯枉過正	きょうおうかせい	非見出し	物事を正そうとしても度を超してしまえばかえって新たな偏向や損害を招くたとえ。⇒矯枉過直
矯枉過直	きょうおうかちよく	1級	物事を正そうとしても度を超してしまえばかえって新たな偏向や損害を招くたとえ。
跽音空谷	きょうおんくうこく	1級	予期せぬ喜びのこと。また、非常に珍しいこと。⇒空谷跽音

堯階三尺	ぎょうかいさんじゃく	準1級	質素な生活をする事。
矯角殺牛	きょうかくさつぎゅう	準2級	少しの欠点を直そうとして、かえって全体をだめにしてしまう事。
鏡花水月	きょうかすいげつ	5級	むなしくはかないまぼろしの事。また、詩歌などの深遠な味わい。
強幹弱枝	きょうかんじゃくし	準2級	地方の権限を抑えて、中央の権力を強くすること。
仰観俯察	ぎょうかんふさつ	1級	仰いで天文を見、うつむいて地理を知ること。
澆季溷濁	ぎょうきこんだく	1級	人情や風俗が軽薄で、世の中が乱れている事。
澆季混濁	ぎょうきこんだく	非見出し	人情や風俗が軽薄で、世の中が乱れている事。⇒澆季溷濁
驚喜雀躍	きょうきじゃくやく	非見出し	大喜びすること。⇒欣喜雀躍
澆季之世	ぎょうきのよ	非見出し	人情や風俗が軽薄で、世の中が乱れている事。⇒澆季溷濁
澆季末世	ぎょうきまつせ	1級	時勢の衰えた末の世。
兢兢業業	きょうきょうぎょうぎょう	1級	つつしみおそれるさま。
恐恐謹言	きょうきょうきんげん	準2級	恐れながらつつしんで申し上げるということ。⇒恐惶謹言
狂喜乱舞	きょうきらんぶ	4級	非常に喜ぶさま。
胸襟秀麗	きょうきんしゅうれい	準2級	物事に対する考え方が正しくりっぱなこと。
恐懼感激	きょうくかんげき	1級	おそれかしこまって感激すること。
僑軍孤進	きょうぐんこしん	準1級	救援もなく孤立して戦い進むこと。
薑桂之性	きょうけいのせい	1級	年老いてますます剛直なこと。また、性質は簡単には変わらないたとえ。
教外別伝	きょうげべつでん	5級	悟りは言葉や経典で伝えられるものではなく、心から心へと伝えるものだということ。
狂言綺語	きょうげんきご	1級	小説や物語などをいやしめていう語。
恐惶謹言	きょうこうきんげん	1級	恐れながらつつしんで申し上げるということ。
恐惶敬白	きょうこうけいはく	非見出し	恐れながらつつしんで申し上げるということ。⇒恐惶謹言
匡衡壁鑿	きょうこうへきさく	1級	苦学することのたとえ。⇒鑿壁偷光
堯鼓舜木	ぎょうこしゅんぼく	準1級	人の善言をよく聞き入れること。
驚魂動魄	きょうこんどうはく	非見出し	心の底から深い感動をよび起こすこと。⇒驚心動魄
教唆煽動	きょうさせんどう	準1級	教えそそのかして人の心をあおりたてること。
教唆扇動	きょうさせんどう	非見出し	教えそそのかして人の心をあおりたてること。⇒教唆煽動
驕奢淫逸	きょうしゃいんいつ	1級	ぜいたくにふけり、淫らに走る事。
驕奢淫佚	きょうしゃいんいつ	非見出し	ぜいたくにふけり、淫らに走る事。⇒驕奢淫逸
行住坐臥	ぎょうじゅうざが	準1級	日常の振る舞いのこと。ふだん。つねづね。
翹首企足	ぎょうしゅきそく	非見出し	人の来訪を待ち望むさま。⇒延頸挙踵
拱手傍觀	きょうしゅぼうかん	1級	何もせず手をこまねいて、そばで見ている事。
彊食自愛	きょうしょくじあい	準1級	つとめて食事を取って体を大切にすること。
強食自愛	きょうしょくじあい	非見出し	つとめて食事を取って体を大切にすること。⇒彊食自愛
強食弱肉	きょうしょくじゃくにく	5級	弱い者が強い者の犠牲にされる事。⇒弱肉強食
驚心動魄	きょうしんどうはく	1級	心の底から深い感動をよび起こす事。
協心戮力	きょうしんりくりよく	1級	物事を一致協力して行うこと。
澆世季世	ぎょうせいきせい	非見出し	時勢の衰えた末の世。⇒澆季末世
翹足引領	ぎょうそくいんりょう	非見出し	人の来訪を待ち望むさま。⇒延頸挙踵
共存共栄	きょうぞんきょうえい	5級	互いに助けあって生存し、ともに栄える事。
驚地動天	きょうちどうてん	非見出し	世間をおおいに驚かせる事。⇒驚天動地
胸中成竹	きょうちゅうせいちく	5級	事前に成功の見込みをつけ、準備を整えておく事。
驚天駭地	きょうてんがいち	非見出し	世間をおおいに驚かせる事。⇒驚天動地
堯天舜日	ぎょうてんしゅんじつ	非見出し	堯帝や舜帝の恵みや恩沢を雨や風にたとえていう語。転じて、太平の世をいう。⇒堯風舜雨
驚天動地	きょうてんどうち	4級	世間をおおいに驚かせる事。

仰天不愧	ぎょうてんふき	1級	心にやましいことがなければ、天に対して恥じることはないということ。
堯年舜日	ぎょうねんしゅんじつ	準1級	堯や舜という聖天子をいただくような天下太平の世をいう。
器用貧乏	きようびんぼう	3級	器用なためにあちこち手を出し、かえって中途半端となり大成しないこと。
堯風舜雨	ぎょうふうしゅんう	準1級	堯帝や舜帝の恵みや恩沢を雨や風にたとえていう語。転じて、太平の世をいう。
驕兵必敗	きょうへいひっばい	1級	思い上がった軍隊は必ず敗れるということ。
嚮壁虚造	きょうへききょぞう	1級	抛り所もないのにむやみにないものを作り出すこと。
興味索然	きょうみさくぜん	準2級	関心が薄れていくこと。また、おもしろみがなく物足りないこと。
興味津津	きょうみしんしん	準2級	非常に関心があること。
興味本位	きょうみほんい	追加	面白ければいいと思う傾向。
狂瀾怒濤	きょうらんどとう	1級	物事がひどく乱れていること。
澆漓末代	ぎょうりまつだい	非見出し	時勢の衰えた末の世。⇒澆季末世
虚往実帰	きょおうじつき	3級	大いなる教化のたとえ。
拳棋不定	きょきふてい	3級	方針をたてないまま行動すること。また、物事を行うのになかなか決心がつかないこと。
虚気平心	きょきへいしん	3級	心をむなしくして落ちつけること。
虚虚实実	きょきょじつじつ	3級	互いに策略を尽くして必死に戦うこと。また、うそとまことをおりまぜて互いに腹を読みあうこと。
局外中立	きょくがいちゅうりつ	非見出し	紛争の際、どちらにも味方しないで、固くかたよらない立場を守ること。⇒厳正中立
曲学阿世	きょくがくあせい	準1級	学問の真理をまげて、世間や時勢に迎合すること。
玉肌香膩	ぎょくきこうじ	非見出し	雪のように白く美しい女性の肌の形容。⇒肌肉玉雪
曲肱之楽	きょくこうのたのしみ	準1級	清貧のなかでも、常に正しい道を行う楽しみ。
玉碎瓦全	ぎょくさいがぜん	2級	名誉を重んじて死ぬことと何をなすこともなく生きながらえること。
旭日昇天	きょくじつしょうてん	準1級	非常に勢いが盛んなこと。
旭日東天	きょくじつとうてん	非見出し	非常に勢いが盛んなこと。⇒旭日昇天
曲水之宴	きょくすいのえん	非見出し	曲折した水の流れに杯を浮かべ、それが自分の前を流れ過ぎないうちに詩を作り、杯の酒を飲むという風雅な遊び。⇒曲水流觴
曲水流觴	きょくすいりゅうしょう	1級	曲折した水の流れに杯を浮かべ、それが自分の前を流れ過ぎないうちに詩を作り、杯の酒を飲むという風雅な遊び。
玉石混淆	ぎょくせきこんこう	1級	すぐれたものと劣ったものが入り混じっていること。
玉石混交	ぎょくせきこんこう	非見出し	すぐれたものと劣ったものが入り混じっていること。⇒玉石混淆
玉石在間	ぎょくせきざいかん	非見出し	よいものと悪いもの、賢者と愚者が同じように扱われて区別がつかないたとえ。⇒玉石同匱
玉石雜糅	ぎょくせきざつじゅう	非見出し	よいものと悪いもの、賢者と愚者が同じように扱われて区別がつかないたとえ。⇒玉石同匱
玉石同架	ぎょくせきどうか	非見出し	すぐれたものと劣ったものが入り混じっていること。⇒玉石混淆
玉石同匱	ぎょくせきどうき	1級	よいものと悪いもの、賢者と愚者が同じように扱われて区別がつかないたとえ。
玉石同碎	ぎょくせきどうさい	準2級	よいものも悪いものも、賢者も愚者もともに滅びてなくなるたとえ。
曲折浮沈	きょくせつふちん	4級	曲がりくねること。また、事情が込み入り複雑なこと。⇒紆余曲折
玉蟾金兔	ぎょくせんきんと	1級	月のこと。⇒玉兔銀蟾
跼天踖地	きょくてんせきち	1級	非常に恐れて身のおきどころのない形容。また、肩身を狭くして世をはばかりて暮らすこと。
局天踖地	きょくてんせきち	非見出し	非常に恐れて身のおきどころのない形容。また、肩身を狭くして世をはばかりて暮らすこと。⇒跼天踖地
玉兔銀蟾	ぎょくとぎんせん	1級	月のこと。
曲突徙薪	きょくとつしん	1級	未然に災難を防ぐこと。
玉杯象箸	ぎょくはいぞうちょ	非見出し	ぜいたくなたとえ。⇒侈衣美食
曲筆舞文	きょくひつぶぶん	4級	事実を曲げて書き、いたずらに言辞をもてあそぶこと。
曲眉豊頬	きょくびほうきょう	準2級	美しい女性のたとえ。
玉葉金枝	ぎょくようきんし	準2級	天子の一族・子孫のこと。⇒金枝玉葉
居敬窮理	きょけいきゅうり	準2級	日常の振る舞いをつつしみ、物事の道理をきわめて正確な知識を得ること。
御溝紅葉	ぎょこうのこうよう	非見出し	紅葉が縁の仲人。⇒紅葉良媒
拳国一致	きょこくいっち	4級	国民が心をつにして団結すること。

举止進退	きょししんたい	5級	日常の立ち居振る舞いのこと。⇒举措進退
虚実皮膜	きょじつひまく	3級	芸術は事実と虚構との微妙な境界に成立するということ。
举止動作	きょしどうさ	非見出し	日常の立ち居振る舞いのこと。⇒举措進退
虚弱体質	きょじゃくたいしつ	非見出し	若いときから体質が虚弱なこと。⇒蒲柳之質
虚心坦懷	きょしんたんかい	準1級	心にわだかまりがなく、気持ちが素直でさっぱりしていること。
虚心平意	きょしんへいい	非見出し	心にわだかまりがなく、気持ちが素直でさっぱりしていること。⇒虚心坦懷
虚心平気	きょしんへいき	非見出し	心にわだかまりがなく、気持ちが素直でさっぱりしていること。⇒虚心坦懷
虚静恬淡	きょせいてんたん	1級	私心や私欲がなく、心が平静なこと。
虚静恬恢	きょせいてんたん	非見出し	私心や私欲がなく、心が平静なこと。⇒虚静恬淡
虚静恬憺	きょせいてんたん	非見出し	私心や私欲がなく、心が平静なこと。⇒虚静恬淡
虚静恬澹	きょせいてんたん	非見出し	私心や私欲がなく、心が平静なこと。⇒虚静恬淡
举世無双	きょせいむそう	非見出し	私心や私欲がなく、心が平静なこと。⇒虚静恬淡
举足轻重	きよそくけいちょう	5級	その言動によって、全体に影響を及ぼすような重要な人物のこと。
举措失当	きよそしつとう	3級	事にあたって対応の仕方が適当でないこと。
举措進退	きよそしんたい	3級	日常の立ち居振る舞いのこと。
举措動作	きよそどうさ	非見出し	日常の立ち居振る舞いのこと。⇒举措進退
玉昆金友	ぎょっこんきんゆう	準2級	才能や学問にすぐれた兄弟のこと。
虚堂懸鏡	きょどうけんきょう	準2級	心をむなしくして公平・無心にも物を見ることのたとえ。
漁夫之利	ぎょふのり	準1級	両者が争っているすきに、第三者が労せず利益を横取りすること。
毀誉褒貶	きよほうへん	1級	ほめたりけなしたりすること。
漁父之利	ぎょほのり	非見出し	両者が争っているすきに、第三者が労せず利益を横取りすること。⇒漁夫之利
虚無恬淡	きよむてんたん	非見出し	私心や私欲がなく、心が平静なこと。⇒虚静恬淡
虚無縹渺	きよむひょうびょう	1級	あるがままに果てもなく広がる風景の形容。
虚無縹眇	きよむひょうびょう	非見出し	あるがままに果てもなく広がる風景の形容。⇒虚無縹渺
虚無縹緲	きよむひょうびょう	非見出し	あるがままに果てもなく広がる風景の形容。⇒虚無縹渺
魚網鴻離	ぎょもうこうり	準1級	求めるものとは違うものが得られるたとえ。
魚目燕石	ぎょもくえんせき	準1級	本物とまぎらわしい偽物のこと。また、偽物が本物の価値をそこなうこと。
魚目混珠	ぎょもくこんしゅ	非見出し	本物とまぎらわしい偽物のこと。また、偽物が本物の価値をそこなうこと。⇒魚目燕石
許由巢父	きょゆうそうほ	準1級	世俗や名利を超越して悠々と楽しむたとえ。
魚爛土崩	ぎょらんどほう	1級	国家や物事が崩壊すること。
魚鱗鶴翼	ぎょりんかくよく	非見出し	左右に長く広がった陣形をめぐらすこと。⇒鶴翼之囲
機略縦横	きりやくじゅうおう	5級	臨機応変の策略を自在にめぐらし用いること。
騎驢覓驢	きろべきろ	1級	身近にあるものを、わざわざ他に求めるおろかさのこと。
岐路亡羊	きろぼうよう	3級	方針が多すぎて選択に迷うたとえ。⇒多岐亡羊
議論百出	ぎろんひゃくしゅつ	5級	さまざまな意見が戦わされること。
議論風生	ぎろんふうせい	非見出し	さまざまな意見が戦わされること。⇒議論百出
議論沸騰	ぎろんふつとう	非見出し	さまざまな意見が戦わされること。⇒議論百出
議論紛紛	ぎろんふんぷん	非見出し	さまざまな意見が戦わされること。⇒議論百出
锦衣玉食	きんいぎよくしよく	2級	ぜいたくな生活をする事。
金衣玉食	きんいぎよくしよく	非見出し	ぜいたくな生活をする事。⇒锦衣玉食
金烏玉兔	きんうぎよくと	準1級	日と月のこと。特に月日の速く過ぎる意に用いる。
金甌無欠	きんおうむけつ	1級	完全で欠点がないたとえ。特に、他国から侵略されたことがない堅固な国家のたとえ。
金塊珠礫	きんかいしゅれき	1級	並はずれて贅沢の限りをつくすたとえ。
槿花一日	きんかいいちじつ	非見出し	人の世の栄華のはかないたとえ。⇒槿花一朝

槿花一朝	きんかいっちょう	1級	人の世の栄華のはかないたとえ。
金科玉条	きんかぎよくじょう	5級	自分の主張や立場などの絶対的なよりどころとなる教訓や信条。
金科玉律	きんかぎよくりつ	非見出し	自分の主張や立場などの絶対的なよりどころとなる教訓や信条。⇒金科玉条
巾幗之贈	きんかくのぞう	1級	めめしい考えや行為をはずかしめること。
琴歌酒賦	きんかしゅふ	準1級	名利や世俗から離れた隠者の生活。
金亀換酒	きんきかんしゅ	2級	このうえなく酒を愛することの形容。
琴棋詩酒	きんきししゅ	非見出し	教養のある人のたしなみのこと。⇒琴棋書画
欣喜雀躍	きんきじゃくやく	準1級	大喜びすること。
琴棋書画	きんきしょが	準2級	教養のある人のたしなみのこと。
緊急措置	きんきゅうそち	非見出し	急場の間に合わせにする仮の処置。⇒応急措置
緊急防衛	きんきゅうぼうえい	非見出し	不当な暴行から身を守る権利。⇒正当防衛
欣喜踊躍	きんきようやく	非見出し	大喜びすること。⇒欣喜雀躍
金玉満堂	きんぎよくまんだう	5級	才能や学問が非常にすぐれていることのたとえ。
謹厳温厚	きんげんおんこう	非見出し	きわめてつつしみ深く誠実で正直なこと。⇒謹厳実直
謹厳実直	きんげんじつちよく	準2級	きわめてつつしみ深く誠実で正直なこと。
謹厳重厚	きんげんじゅうこう	非見出し	きわめてつつしみ深く誠実で正直なこと。⇒謹厳実直
勤儉尚武	きんけんしょうぶ	準2級	生活を質素にして、武芸に励むこと。
謹言慎行	きんげんしんこう	準2級	言葉や行いを慎重にすること。
勤儉力行	きんけんりっこう	3級	仕事に励み、儉約し、努力して精一杯行うこと。
金口木舌	きんこうぼくぜつ	4級	すぐれた言論で社会を指導する人のたとえ。
金谷酒数	きんこくのしゅすう	4級	詩が作れない者に対して、罰として飲ませる酒のこと。
緊蹙一番	きんこんいちばん	1級	気持ちを引き締めて物事に取り組むこと。
禽困覆車	きんこんふくしゃ	準1級	弱者もせっぱつまると、とてつもない大きな力を出すということ。
金枝花萼	きんしかがく	非見出し	天子の一族・子孫のこと。⇒金枝玉葉
金枝玉葉	きんしぎよくよう	準2級	天子の一族・子孫のこと。
琴瑟相和	きんしつそうわ	1級	人と人、特に夫婦仲のむつまじいことのたとえ。
琴瑟調和	きんしつちょうわ	非見出し	人と人、特に夫婦仲のむつまじいことのたとえ。⇒琴瑟相和
琴瑟之和	きんしつのわ	非見出し	人と人、特に夫婦仲のむつまじいことのたとえ。⇒琴瑟相和
琴瑟不調	きんしつふちょう	非見出し	人と人、特に夫婦の不仲のたとえ。⇨琴瑟相和
禽獸夷狄	きんじゅういてき	1級	中国周辺の異民族をさげすんで称したもの。
錦繡心肝	きんしゅうしんかん	非見出し	詩や文章の才能にすぐれていること。⇒錦心繡口
禽獸草木	きんじゅうそうもく	準1級	地に生きるすべてのもの。⇒草木禽獸
錦繡之腸	きんしゅうのはらわた	非見出し	詩や文章の才能にすぐれていること。⇒錦心繡口
錦繡綾羅	きんしゅうりょうら	非見出し	まばゆいほど美しく、華やかでぜいたくなさま。⇒豪華絢爛
擒縱自在	きんしょうじざい	1級	自分の思いのままに人を処遇すること。
金城鉄壁	きんじょうてつぺき	4級	非常に堅固で、つけこむすきがないこと。
錦上添花	きんじょうてんか	2級	よいもの美しいものの上にさらによいもの美しいものを加えること。
金城湯池	きんじょうとうち	5級	他から攻めこまれない堅固な備え。
近所合壁	きんじょがっぺき	4級	近所の家のこと。
錦心繡口	きんしんしゅうこう	準1級	詩や文章の才能にすぐれていること。
錦心繡腸	きんしんしゅうちょう	非見出し	詩や文章の才能にすぐれていること。⇒錦心繡口
金声玉振	きんせいぎよくしん	4級	才知と人徳を調和よく備えていること。また、偉大な人物として大成すること。
巾箱之寵	きんそうのちょう	準1級	箱に入れて常にかたわらに置き、離すことができないもの。
金殿玉楼	きんでんぎよくろう	3級	豪華できらびやかな建物のたとえ。

銀盃羽化	ぎんぱいうか	準1級	盗難にあうたとえ。
吟風弄月	ぎんぷうろうげつ	2級	詩人が自然の景色を題材に即興詩を作ること。
金友玉昆	きんゆうぎょっこん	準2級	才能や学問にすぐれた兄弟のこと。⇒玉昆金友
金蘭之契	きんらんのけい	非見出し	非常に強い友情で結ばれていること。⇒断金之交
空空寂寂	くうくうじゃくじゃく	4級	無心なこと。また、無関心なこと。
空空漠漠	くうくうばくばく	準2級	果てしもなく広いさま。また、非常にぼんやりしたさま。
空谷跫然	くうこくきょうぜん	非見出し	予期せぬ喜びのこと。また、非常に珍しいこと。⇒空谷跫音
空谷跫音	くうこくのきょうおん	1級	予期せぬ喜びのこと。また、非常に珍しいこと。
空谷足音	くうこくのそくおん	非見出し	予期せぬ喜びのこと。また、非常に珍しいこと。⇒空谷跫音
空前絶後	くうぜんぜつご	5級	きわめて珍しいこと。
偶像崇拜	ぐうぞうすうはい	準2級	偶像を宗教的な対象としてあがめ尊ぶこと。
空即是色	くうそくぜしき	4級	万物の本性は空だが、それがそのままこの世に実在する物の姿でもあるということ。
空中楼阁	くうちゅうのろうかく	3級	根拠のないこと、現実性に欠けることのたとえ。
空中楼台	くうちゅうろうだい	非見出し	根拠のないこと、現実性に欠けることのたとえ。⇒空中楼阁
空理空論	くうりくうろん	5級	実情からかけ離れていて、実際には役に立たない考え。
空梁月落	くうりょうげつらく	非見出し	友人を思う情が切なこと。⇒落月屋梁
苦学力行	くがくりっこう	5級	苦勞して学問をすること。
苦髮楽爪	くがみらくづめ	2級	人の世の苦樂のようす。⇒苦爪楽髮
区区之心	くくのこころ	準1級	取るに足りないつまらない心。自分の心や考えをいう謙讓語。
愚公移山	ぐこういざん	3級	根気よくひたすら努力をすれば最後には必ず成功するというたとえ。
苦口婆心	くこうばしん	3級	口をにがくして教えさとすこと。
愚妻愚息	ぐさいぐそく	非見出し	自分の妻と息子のことを謙遜するという語。⇒荆妻豚兒
愚者一得	ぐしゃのいっとく	3級	どんなに愚かな者でも、たまにはすぐれた考えをすることがあるということ。
苦心惨憺	くしんさんたん	1級	あれこれと心をくだいて苦勞を重ねること。
苦爪楽髮	くづめらくがみ	2級	人の世の苦樂のようす。
苦肉之策	くにくのさく	非見出し	苦しませるの手段や方法のこと。⇒苦肉之計
苦肉之計	くにくのはかりごと	準1級	苦しませるの手段や方法のこと。
九年面壁	くねんめんぺき	4級	長年わきめもふらず勉強すること。⇒面壁九年
狗吠緇衣	くはいしい	1級	いつも着ている服装を変えれば疑われるのは当然であるということ。
狗馬之心	くばのこころ	準1級	上位の者への忠誠心のこと。
狗尾続貂	くびぞくちょう	1級	官爵を乱発するのをののしる語。また、劣った者がすぐれた者のあとを続けることのたとえ。
九分九厘	くぶくりん	非見出し	ほとんど。⇒十中八九
求不得苦	ぐふとくく	準1級	求めているものが得られない苦しみ。
区聞販見	くぶんすうけん	1級	学問や見聞がせまく、かたよっていること。
九品浄土	くほんじょうど	非見出し	仏教で、阿弥陀仏がいるという安樂の世界のこと。⇒極樂浄土
九品之台	くほんのうてな	非見出し	往生した者が座るといふ極樂浄土にある蓮の葉の台。⇒九品蓮台
九品蓮台	くほんれんだい	準1級	往生した者が座るといふ極樂浄土にある蓮の葉の台。
愚昧無知	ぐまいむち	非見出し	知恵がなく、物事の道理がわからないこと。⇒無知蒙昧
愚問愚答	ぐもんぐとう	3級	実りのないつまらない問答のこと。的はずれのつまらない質問とばかげた回答のこと。
愚問賢答	ぐもんけんとう	非見出し	実りのある興味深い問答のこと。的はずれのつまらない質問と賢明な回答のこと。⇔愚問愚答
君恩海壑	くんおんかいがく	1級	君主の恩は海や谷のように深いこと。
群蟻附羶	ぐんぎふせん	1級	人々が利益のあるところにむらがることを卑しんでいうたとえ。
群蟻付羶	ぐんぎふせん	非見出し	人々が利益のあるところにむらがることを卑しんでいうたとえ。⇒群蟻附羶
群疑満腹	ぐんぎまんぷく	5級	多くの疑問で心がいっぱいになること。

群軽折軸	ぐんけいせつじく	3級	小さい力も数を集めれば大きな力となるたとえ。
群鷄一鶴	ぐんけいのいっかく	準1級	多くの凡人の中で、一人だけきわだってすぐれていること。⇒鷄群一鶴
焄蒿凄愴	くんこうせいそう	配当外	強い香りを放っていたましくすさまじいこと。香氣を発してぞくぞくっと人の心を悲壮にさせること。鬼神(死後の靈魂)の形容。
君子徳風	くんしとくふう	非見出し	人民は天子の徳によって教化され、自然とつき従うようになるということ。⇒草偃風従
君子九思	くんしのきゅうし	5級	君子が熟考しなければならない九つのこと。
君子三畏	くんしのさんい	2級	君子のおそれ慎むべき三つのこと。天命、有徳の大人、聖人の言をいう。
君子三戒	くんしのさんかい	4級	君子が自戒すべき三つの戒め。少年期の女色、壮年期の争い・喧嘩、老年期の物欲のこと。
君子三楽	くんしのさんらく	5級	君子の三つの楽しみ。父母が健在で兄弟に事故がないこと、心や行いが正しく人や天に恥じることがないこと、天下の英才を得てこれを教育すること。
君子万年	くんしばんねん	4級	徳の高い人は長寿であるということ。
君子豹変	くんしひょうへん	準1級	君子は時の推移に応じて自己変革を遂げ、豹の毛が抜け変わるように鮮やかに面目を一新すること。転じて、節操なく考えや態度をすぐ変えること。
君子不器	くんしふき	5級	すぐれた人(君子)はどんなことにも機に応じ対処できるものだの意。
葦酒山門	くんしゅさんもん	1級	寺門の禁忌。臭いものや酒を飲んで山門に入ることを禁じた語。
君臣同志	くんしんどうし	非見出し	身分の上下にかかわらず一致団結すること。⇒上下一心
君側之悪	くんそくのあく	準1級	君主の側近くにいる悪人。
君側之奸	くんそくのかん	非見出し	君主の側近くにいる悪人。⇒君側之悪
群雄割拠	ぐんゆうかつきょ	4級	多くの実力者が、互いに対立しあうこと。
群竜無首	ぐんりょうむしゅ	準1級	統べる者がいなく事がうまく運ばないこと。
鯨飲馬食	げいいんばしょく	3級	一度にたくさん飲み食いすること。
閨英闥秀	けいえいいしゅう	配当外	婦人のこと。また、すぐれた女性のたとえ。
形影一如	けいえいいちによ	準2級	仲のよい夫婦のたとえ。
閨英閣秀	けいえいかくしゅう	非見出し	婦人のこと。また、すぐれた女性のたとえ。⇒閨英闥秀
閨英閣香	けいえいかっこう	非見出し	婦人のこと。また、すぐれた女性のたとえ。⇒閨英闥秀
経営惨憺	けいえいさんたん	1級	心をくだき悩ましてあれこれ考え計画すること。⇒惨澹経営
形影相親	けいえいそうしん	非見出し	孤独で訪れる人もないさま。⇒形影相弔
形影相随	けいえいそうずい	非見出し	仲のよい夫婦のたとえ。⇒形影一如
形影相弔	けいえいそうちょう	準2級	孤独で訪れる人もないさま。
形影相同	けいえいそうどう	4級	心の善悪がその行為にあらわれるたとえ。
形影相伴	けいえいそうはん	非見出し	仲のよい夫婦のたとえ。⇒形影一如
繫影捕風	けいえいほふう	準1級	雲をつかむようなとりとめなくあてにならないたとえ。⇒繫風捕影
形骸土木	けいがいどぼく	非見出し	体を自然の土や石のようにする。人が飾らず自然のままでいることをいう。⇒土木形骸
傾蓋知己	けいがいのちき	2級	ちょっと語り合っただけなのに古くからの友人のようにうちとけて親しくなるたとえ。
桂冠詩人	けいかんしじん	準1級	イギリス王室において詩人として最高の地位のものに与えた称号。
傾危之士	けいきのし	準1級	詭弁を弄して国を危うくするような策謀の人。また、安心できない危険な人物をいう。
桂宮柏寝	けいきゅうはくしん	準1級	桂の宮殿と柏の居室。美しい宮室のたとえ。
輕裘肥馬	けいきゅうひば	1級	たいそう富貴なさま。また、富貴な人の外出のよそおい。⇒肥馬輕裘
荊棘叢裏	けいきよくそうり	1級	乱臣、逆臣の家の形容。
荊棘銅駝	けいきよくどうだ	1級	国の滅亡を嘆くことのたとえ。
桂玉之艱	けいぎよくのかん	1級	よそから物価高の土地に来て、生活に苦勞すること。
桂玉之地	けいぎよくのち	非見出し	よそから物価高の土地に来て、生活に苦勞すること。⇒桂玉之艱
輕挙妄動	けいきょもうどう	準2級	事の是非をわきまえず、輕はずみに行動すること。
鷄群孤鶴	けいぐんこかく	非見出し	多くの凡人の中で、一人だけきわだってすぐれていること。⇒鷄群一鶴⇒鷄群一鶴
鷄群一鶴	けいぐんのいっかく	準1級	多くの凡人の中で、一人だけきわだってすぐれていること。⇒鷄群一鶴
醢鷄甕裡	けいけいおうり	非見出し	見識が狭く世間知らずな人のたとえ。⇒甕裡醢鷄
鷄口牛後	けいこうぎゅうご	3級	大きな組織に隷属するよりは小さくても人の上に立つ方がよいということ。

迎合追従	げいごうついしょう	非見出し	人に気に入られようとしてへつらい、おもねること。⇒阿附迎合
傾国傾城	けいこくけいせい	非見出し	その美貌のため人心をまどわし国や城を傾けるほどの絶世の美人。⇒傾城傾国
経国済民	けいこくさいみん	非見出し	世の中を治め、人民を救うこと。⇒経世済民
傾国美女	けいこくのびじょ	4級	絶世の美人のこと。
傾国美人	けいこくびじん	非見出し	絶世の美人のこと。⇒傾国美女
刑故無小	けいこむしょう	3級	故意に犯した罪はたとえ小さな罪でも刑罰を科すということ。
荊妻豚児	けいさいとんじ	準1級	自分の妻と息子のことを謙遜するという語。
荊釵布裙	けいさいふくん	1級	粗末な服装のたとえ。
荊山之玉	けいざんのぎょく	準1級	優秀で賢い人のこと。
鶏尸牛従	けいしぎゅうしょう	1級	大きな組織に隷属するよりは小さくても人の上に立つ方がよいということ。⇒鶏口牛後
瓊枝玉葉	けいしぎょくよう	1級	天子の一門のこと。
瓊枝梅檀	けいしせんだん	1級	有徳の人の形容。またすばらしい詩文のたとえ。
稽首作礼	けいしゅされい	非見出し	頭と両手(両肘)、両足(両膝)を地面につけて行う拝礼。⇒五体投地
霓裳羽衣	げいしょううい	1級	うすい絹などで作った、女性の美しくて軽やかな衣裳のこと。また、舞曲の名。
卿相雲客	けいしょううんかく	準1級	公卿と殿上人。身分の高い人。
傾城傾国	けいせいけいこく	準1級	その美貌のため人心をまどわし国や城を傾けるほどの絶世の美人。
経世済民	けいせいさいみん	5級	世の中を治め、人民を救うこと。
景星鳳凰	けいせいほうおう	準1級	聖人や賢人の世にあらわれる瑞兆。
蛭雪之功	けいせつのこう	準1級	苦勞して勉学に励むこと。
蛭窓雪案	けいそうせつあん	準2級	苦勞して勉学に励むこと。⇒蛭雪之功
勁草之節	けいそうのせつ	準1級	節操や意志が固いこと。
傾側偃仰	けいそくえんぎょう	1級	よきにつけ悪しきにつけ浮き世まかせの暮らしにいう。
軽率短慮	けいそつたんりょ	非見出し	考えが軽薄でうわついていること。⇒軽佻浮薄
軽諾寡信	けいだくかしん	準2級	簡単にうけあう者は信用できないということ。
形单影隻	けいたんえいせき	3級	独り身で孤独なこと。
軽佻佻巧	けいちょうねいこう	非見出し	考えが軽薄でうわついていること。⇒軽佻浮薄
軽佻浮華	けいちょうふか	非見出し	考えが軽薄でうわついていること。⇒軽佻浮薄
軽佻浮薄	けいちょうふはく	1級	考えが軽薄でうわついていること。
軽窈浮薄	けいちょうふはく	非見出し	考えが軽薄でうわついていること。⇒軽佻浮薄
兄弟鬩牆	けいていげきしょう	非見出し	兄弟の仲が悪く、争い合うこと。⇒煮豆燃萁
敬天愛人	けいてんあいじん	5級	天をおそれ敬い、人を愛すること。
敬天愛民	けいてんあいみん	非見出し	天をおそれ敬い、人を愛すること。⇒敬天愛人
桂殿蘭宮	けいでんらんきゅう	準1級	非常に美しい宮殿。
軽薄短小	けいはくたんしょう	4級	うすっぺらで中身のないさま。
啓発激励	けいはつけきれい	非見出し	大声で励まして、奮いたたせること。⇒叱咤激励
鶏皮鶴髪	けいひかくはつ	準1級	年老いて衰えたさま。
繫風捕影	けいふうほえい	準1級	雲をつかむようなとりとめなくあてにならないたとえ。
係風捕景	けいふうほけい	非見出し	雲をつかむようなとりとめなくあてにならないたとえ。⇒繫風捕影
経文緯武	けいぶんいぶ	4級	文武の両道を兼ね備えていること。
刑鞭蒲朽	けいべんほきゅう	準1級	世の中が平和なたとえ。
輕妙洒脱	けいみょうしゃだつ	1級	洗練され気がきいており、俗っぽくなく爽やかなこと。
鶏鳴狗盜	けいめいくとう	準1級	つまらないことしかできない人のたとえ。また、つまらないことでも何かの役に立つことがあるというたとえ。
形名参同	けいめいさんどう	5級	口で言うことと実際の行動を一致させること。
刑名参同	けいめいさんどう	非見出し	口で言うことと実際の行動を一致させること。⇒形名参同

形名審合	けいめいしんごう	非見出し	口で言うことと実際の行動を一致させること。⇒形名参同
鶏鳴之助	けいめいのたすけ	準1級	内助の功のたとえ。
形容枯槁	けいようこう	1級	容貌がやせ衰えて生気がないさま。
形容枯槁	けいようこう	非見出し	容貌がやせ衰えて生気がないさま。⇒形容枯槁
軽盧浅謀	けいりょせんぼう	3級	あさはかな考えや計画。
桂林一枝	けいりんのいっし	準1級	容易に得がたい人物または出来事。また、高潔で世俗を超越した人柄。
撃壤鼓腹	げきじょうこふく	非見出し	理想的な政治がゆきとどいて、人々が平和な生活をする事。⇒鼓腹撃壤
撃壤之歌	げきじょうのうた	準1級	中国古代、帝堯の時代に、天下の泰平無事を謳歌した人民の歌のこと。
激濁揚清	げきだくようせい	3級	清潔なものの善なるものを押し上げ、汚濁のものの悪しきものを除去するたとえ。
灰身滅智	けしんめっち	準1級	身も心(智)も無にして悟りに達する境地をいう。
外題学問	げだいがくもん	4級	うわべだけの学問。
結縁灌頂	けちえんかんじょう	準1級	仏道に縁を結ばせるために行う灌頂の儀式。
結縁八講	けちえんはっこう	非見出し	仏縁を結ぶために僧を迎えて行う法華八講。⇒結縁灌頂
血脈相承	けちみやくそうじょう	準1級	仏の教えが師から弟子へと連綿と受け継ぎ伝えられるということ。
厥角稽首	けっかくけいしゅ	1級	相手に対して最敬礼すること。
月下推敲	げっかすいこう	1級	詩文の字句・表現をあれこれ工夫をこらし、完成をめざすこと。
月下氷人	げっかひょうじん	5級	仲人。媒酌人。
結跏趺坐	けっかふざ	1級	仏教の座法の一つ。
月下老人	げっかろうじん	非見出し	仲人。媒酌人。⇒月下氷人
血氣之勇	けっきのゆう	非見出し	考えることもなく、血気にはやるだけの勇氣。⇒匹夫之勇
譎詭变幻	けっきへんげん	1級	さまざまに奇異なようすにかわること。
月卿雲客	げっけいうんかく	準1級	公卿と殿上人。身分の高い人。⇒卿相雲客
齧指痛心	げっしつうしん	非見出し	母と子の気持ちが通じあうこと。⇒噬指棄薪
刖趾適屨	げっしてきく	配当外	本末を転倒して無理にものごとを行うこと。目先のことに目を奪われて根本を考えないこと。
刖趾適履	げっしてきり	非見出し	本末を転倒して無理にものごとを行うこと。目先のことに目を奪われて根本を考えないこと。⇒刖趾適屨
結繩之政	けつじょうのまつりごと	準1級	古代の政治のこと。
刖足適履	げっそくてきり	非見出し	本末を転倒して無理にものごとを行うこと。目先のことに目を奪われて根本を考えないこと。⇒刖趾適屨
月中蟾蜍	げつちゅうのせんじょ	1級	月にすむというひきがえる。
血脈貫通	けつみやくかんつう	3級	一編の文章が終始一貫していることのたとえ。
兼愛交利	けんあいこうり	4級	区別なく広く愛し互いに利しあう。
兼愛無私	けんあいむし	4級	区別なく広く人を愛すること。
堅白同異	けんあくどうい	4級	こじつけ、詭弁のたとえ。
言易行難	げんいこうなん	5級	口で言うのはたやすいが、言ったことを実行するのはなかなかむずかしいということ。
牽衣頓足	けんいとんそく	準1級	つらい別れを惜しむようす。
狷介孤高	けんかいこう	1級	固く自分の意志を守って、他人と和合しないこと。
狷介孤独	けんかいこどく	非見出し	固く自分の意志を守って、他人と和合しないこと。⇒狷介孤高
狷介固陋	けんかいこうろう	1級	固く志を守って世俗を受け容れないこと。
懸崖撒手	けんがいさっしゅ	準1級	勇気を奮い起こし思い切って事を行うたとえ。
狷介不羈	けんかいふき	1級	自分の意志を守り通し、何者にも束縛されないこと。
狷介不屈	けんかいふくつ	非見出し	固く自分の意志を守って、他人と和合しないこと。⇒狷介孤高
懸崖勒馬	けんがいろくば	1級	切り立った崖で馬を押さえ間一髪で落ちるのを防ぐように、情欲におぼれて危険になったときに忽然と後悔し悟ること。
減価償却	げんかしょうきやく	準2級	年数の経過で価値の減少する固定資産の減損額を、各会計年度に割りあてて回収する会計上の手続き。
犬牙相錯	けんがそうさく	非見出し	国境が入りくんでいて、たがいに牽制しあうこと。⇒犬牙相制
犬牙相制	けんがそうせい	2級	国境が入りくんでいて、たがいに牽制しあうこと。

懸河之弁	けんがのべん	準1級	まったくよどみのない弁舌のこと。
阮簡曠達	げんかんこうたつ	1級	人柄が大らかなたとえ。
元氣滄漭	げんきはつらつ	非見出し	いきいきとして気力、活気にあふれているさま。⇒生氣滄漭
牽強附会	けんきょうふかい	準1級	道理に合わなくても、自分の都合のよいようにこじつけること。
牽強付会	けんきょうふかい	非見出し	道理に合わなくても、自分の都合のよいようにこじつけること。⇒牽強附会
牽強附合	けんきょうふごう	非見出し	道理に合わなくても、自分の都合のよいようにこじつけること。⇒牽強附会
堅苦卓絶	けんくたくぜつ	非見出し	意志を固く持ち、どんな困難にも耐え心を動かさないこと。⇒堅忍不拔
元輕白俗	げんけいはくぞく	4級	唐の詩風は輕薄卑俗だということ。
劍戟森森	けんげきしんしん	準1級	気性が激しくきびしいことのたとえ。
喧喧囂囂	けんけんごうごう	1級	多くの人がやかましく騒ぐさま。
見賢思斉	けんけんしせい	準2級	賢人に接したときは見習って自分もそのような人になりたいと思うこと。
蹇蹇匪躬	けんけんひきゅう	1級	自分のことは二の次にして、主人や人に尽くすこと。
拳拳服膺	けんけんふくよう	1級	常に心に銘記して、決して忘れないこと。
言行一致	げんこういちち	4級	口で言うことと実際に行うことが一致していること。
言行相反	げんこうそうはん	非見出し	口で言うことと実際に行うことが矛盾していること。⇒言行齟齬
言行齟齬	げんこうそご	1級	口で言うことと実際に行うことが矛盾していること。
堅甲利刃	けんこうりじん	非見出し	堅固な鎧と鋭利な兵器。⇒堅甲利兵
元亨利貞	げんこうりてい	準1級	易で、天のもつ四つの徳。
堅甲利兵	けんこうりへい	3級	堅固な鎧と鋭利な兵器。
堅固不拔	けんごふばつ	非見出し	かたくてじょうぶなこと。じょうぶで動じたり破られたりしないこと。⇒堅牢堅固
乾坤一擲	けんこんいつてき	1級	運命をかけて、一か八かの大勝負をすること。
堅塞固圉	けんさいこるい	2級	非常に堅固なとりで。
嚴塞要徼	げんさいようきょう	1級	非常に堅固なとりで。
妍姿艷質	けんしえんしつ	1級	美しくあでやかな姿や肉体のこと。
言者不知	げんしゃふち	5級	物事をほんとうに知っているものは言わないものだ。⇒知者不言
減収減益	げんしゅうげんえき	5級	収入が減って利益が減ること。
現状維持	げんじょういじ	4級	現在の状態がそのままで変化しないこと。
玄裳緇衣	げんしょうこうい	準1級	鶴の別称。
見性悟道	けんしょうごどう	非見出し	おのれに本来備わる仏心を見極め、悟りの境地に達すること。⇒見性成仏
言笑自若	げんしょうじじゃく	4級	どのようなことがあっても平然としていることのたとえ。
見性成仏	けんしょうじょうぶつ	準2級	おのれに本来備わる仏心を見極め、悟りの境地に達すること。
現状凍結	げんじょうとうけつ	非見出し	現在の状態がそのままで変化しないこと。⇒現状維持
現状保持	げんじょうほじ	非見出し	現在の状態がそのままで変化しないこと。⇒現状維持
嚴正中立	げんせいちゅうりつ	5級	紛争の際、どちらにも味方しないで、固くかたよらない立場を守ること。
阮籍青眼	げんせきせいがん	1級	阮籍の青い眼。心から人を歓迎すること。
堅石白馬	けんせきはくば	非見出し	こじつけ、詭弁のたとえ。⇒堅白同異
乾端坤倪	けんたんこんげい	1級	天地の果てのこと。
懸頭刺股	けんとうしこ	2級	苦学のたとえ。
懸頭錐股	けんとうすいこ	非見出し	苦学のたとえ。⇒懸頭刺股
捲土重来	けんどちょうらい	準1級	一度失敗した者が、再び勢いを盛り返して巻き返しをすること。
卷土重来	けんどちょうらい	非見出し	一度失敗した者が、再び勢いを盛り返して巻き返しをすること。⇒捲土重来
犬兔之争	けんとのでらそい	非見出し	両者が争っているすきに、第三者が労せず利益を横取りすること。⇒漁夫之利
堅忍果決	けんになかけつ	準2級	我慢強く堪え忍び、いったん決めると果敢に断行すること。
堅忍持久	けんになじきゅう	非見出し	意志を固く持ち、どんな困難にも耐え心を動かさないこと。⇒堅忍不拔

堅忍質直	けんになしつちよく	準2級	我慢強くてまっすぐな気性をしていること。
堅忍不拔	けんになふばつ	準2級	意志を固く持ち、どんな困難にも耐え心を動かさないこと。
犬吠驢鳴	けんばいろめい	1級	拙劣でつまらない文章や聞くに値しない話のたとえ。⇒驢鳴犬吠
堅白異同	けんぱくいどう	非見出し	こじつけ、詭弁のたとえ。⇒堅白同異
剣拔弩張	けんぱつどちょう	1級	情勢が緊迫して今にも戦いがはじまりそうなたとえ。また、書道で筆力がはげしくて気迫がこもっているたとえ。
犬馬之心	けんばのこころ	非見出し	上位の者への忠誠心のこと。⇒狗馬之心
犬馬之年	けんばのとし	非見出し	自分の年齢の謙称。⇒犬馬之齒
犬馬之齒	けんばのよわい	準1級	自分の年齢の謙称。
犬馬之齡	けんばのよわい	非見出し	自分の年齢の謙称。⇒犬馬之齒
犬馬之勞	けんばのろう	準1級	主人や他人のために力を尽くすこと。
言文一致	げんぶんいっち	4級	話し言葉と書き言葉を一致させて文章を書くこと。
權謀術策	けんぼうじゅっさく	非見出し	人をあざむくための策略。⇒權謀術数
權謀術数	けんぼうじゅっすう	3級	人をあざむくための策略。
玄圃積玉	げんぼせきぎよく	準1級	玄圃にあるという多くの珠玉。美しい文章のたとえ。
肩摩轂擊	けんまこくげき	1級	人や車の往来が多く、混雑しているさま。都会の雑踏。
賢明愚昧	けんめいぐまい	2級	かしこいことと、愚かで道理にくらいこと。
絢爛華麗	けんらんかれい	非見出し	まばゆいほど美しく、華やかでぜいたくなさま。⇒豪華絢爛
絢爛豪華	けんらんごうか	1級	まばゆいほど美しく、華やかでぜいたくなさま。⇒豪華絢爛
懸梁刺股	けんりょうしこ	非見出し	苦学のたとえ。⇒懸頭刺股
懸梁錐股	けんりょうすいこ	非見出し	苦学のたとえ。⇒懸頭刺股
賢良方正	けんりょうほうせい	3級	かしこくて行いが正しいこと。
彦倫鶴怨	げんりんかくえん	準1級	彦倫がいなくなって鍾山の鶴も悲しみ怨む意。
牽攀乖隔	けんれんかいかく	1級	心は互いに引かれ合いながら遠く隔たっていること。
堅牢堅固	けんろうけんこ	準1級	かたくてじょうぶなこと。じょうぶで動じたり破られたりしないこと。
黔驢之技	けんろのぎ	1級	自分の腕が悪いのを自覚せず恥をかくこと。また、とるにたりない腕前にもいう。
懸腕直筆	けんわんちよくひつ	準2級	書法の一つ。筆を垂直に持ち、腕をあげ、ひじを脇から離して字を書くこと。
懸腕枕腕	けんわんちんわん	準1級	腕を宙に浮かせて肘を下につけないで書く書法と、左手の掌を伏せて紙の上に置きそれを右手の枕のようにして構える書法。
举一反三	こいちはんさん	非見出し	一つのことを挙げ示せば三つのことを知り悟る意。理解のはやいことをいう。⇒举一反三
举一反三	こいちみょうさん	準1級	一つのことを挙げ示せば三つのことを知り悟る意。理解のはやいことをいう。
縞衣綦巾	こういききん	1級	白い衣服とよもぎ色のスカーフ。中国、周代の身分の低い女性の質素な服装。転じて、自分の妻の謙称。
香囿粉陣	こういふんじん	4級	多くの美人にとりかこまれるたとえ。
黄衣廩食	こういりんしょく	1級	黄衣を身につけ俸禄を受ける者。宦官をいう。
光陰如箭	こういんじょぜん	準1級	月日がたつのが速いことのたとえ。
光陰流水	こういんりゅうすい	非見出し	月日がたつのが速いことのたとえ。⇒光陰如箭
行雲流水	こううんりゅうすい	5級	物事に執着せず、自然のなりゆきに任せて行動すること。
光焰万丈	こうえんばんじょう	準1級	詩文や議論などが、雄大で勢いがありすぐれているたとえ。
光炎万丈	こうえんばんじょう	非見出し	詩文や議論などが、雄大で勢いがありすぐれているたとえ。⇒光焰万丈
光燄万丈	こうえんばんじょう	非見出し	詩文や議論などが、雄大で勢いがありすぐれているたとえ。⇒光焰万丈
後悔噬臍	こうかいぜいせい	1級	あとになって悔やんでもどうしようもない。
慷慨悲歌	こうがいひか	非見出し	道理に反することや社会の不正・乱れをいきどおって嘆くこと。⇒悲歌慷慨
慷慨悲憤	こうがいひふん	非見出し	激しく憤りなげくこと。⇒慷慨憤激
慷慨憤激	こうがいふんげき	1級	激しく憤りなげくこと。
慷慨撝腕	こうがいやくわん	非見出し	激しく憤りなげくこと。⇒慷慨憤激
口角飛沫	こうかくひまつ	準1級	激しく議論するさま。

豪華絢爛	ごうかけんらん	1級	まばゆいほど美しく、華やかでぜいたくなさま。
篝火狐鳴	こうかこめい	1級	かがり火と狐の鳴き声。衆を惑わすことをいう。
膏火自煎	こうかじせん	準1級	才があることでかえってわざわざに遭うこのたとえ。
高牙大纛	こうがだいとう	1級	将軍の陣営のしるし。また、高官のしるし。
効果覲面	こうかてきめん	1級	ききめや報いがただちに現れること。
広廈万間	こうかばんげん	1級	広く大きな家。転じて、貧しい人を庇護すること。
高歌放吟	こうかほうぎん	準2級	あたりかまわず大声で歌い吟ずること。
鴻雁哀鳴	こうがんあいめい	準1級	かりが悲しげに鳴く。離散してさすらう民が窮状を訴えるたとえ。
鴻鴈哀鳴	こうがんあいめい	非見出し	かりが悲しげに鳴く。離散してさすらう民が窮状を訴えるたとえ。⇒鴻雁哀鳴
紅顔可憐	こうがんかれん	準1級	時の推移の無常なこと。
合歡綢繆	ごうかんちゅうびゅう	1級	男女が深く愛しあうこと。
紅顔薄命	こうがんはくめい	非見出し	美人はとかく命が短い。美人はとかく薄幸である。⇒佳人薄命
傲岸不屈	ごうがんふくつ	非見出し	思いあがって、人に従おうとしないさま。⇒傲岸不遜
傲岸不遜	ごうがんふそん	2級	思いあがって、人に従おうとしないさま。
傲岸無礼	ごうがんぶれい	非見出し	思いあがって、人に従おうとしないさま。⇒傲岸不遜
厚顔無恥	こうがんむち	4級	あつかましくて、恥知らずなさま。
功虧一簣	こうきいっき	非見出し	長い間の努力も最後のほんのちよっとの手違いから失敗に終わってしまうことのたとえ。⇔一簣之功
剛毅果敢	ごうきかかん	非見出し	意志が強くて決断力があること。⇒剛毅果断
剛毅果断	ごうきかだん	準1級	意志が強くて決断力があること。
綱紀嚴正	こうきげんせい	非見出し	国家や社会の規律・秩序が厳格に守られること。⇔綱紀廢弛
光輝燦然	こうきさんぜん	準1級	ひとときわ鮮やかに光り輝くこと。
光暉燦然	こうきさんぜん	非見出し	ひとときわ鮮やかに光り輝くこと。⇒光輝燦然
光熙燦然	こうきさんぜん	非見出し	ひとときわ鮮やかに光り輝くこと。⇒光輝燦然
綱紀肅正	こうきしゅくせい	準2級	乱れた規律を正すこと。
巧偽拙誠	こうぎせっせい	準2級	巧みに偽ることと、拙くともまごころがあること。
剛毅直諒	ごうきちょくりょう	準1級	意志が強く正直で誠実なこと。
好機到来	こうきとうらい	4級	ちょうどよい機会がくること。
綱紀廢弛	こうきはいし	準1級	国家や社会の規律・秩序が乱れゆるむこと。
香氣馥郁	こうきふくいく	非見出し	よい香りがあたり一面にただようこと。⇒香氣芬芬
香氣芬芬	こうきふんぶん	1級	よい香りがあたり一面にただようこと。
剛毅木訥	ごうきぼくとつ	1級	意志が強くて、飾りけがないこと。
剛毅朴訥	ごうきぼくとつ	非見出し	意志が強くて、飾りけがないこと。⇒剛毅木訥
剛毅木訥	ごうきぼくとつ	非見出し	意志が強くて、飾りけがないこと。⇒剛毅木訥
剛毅勇敢	ごうきゆうかん	非見出し	意志が強くて決断力があること。⇒剛毅果断
綱举網疏	こうきょもうそ	準1級	大綱を挙げて細目をあらくする。おおもとをつかむことに意を用いて末節にはこだわらないこと。
敲金戛玉	こうきんかつぎょく	非見出し	詩文の美しい響きやリズムのたとえ。⇒敲金擊石
敲金擊石	こうきんげきせき	1級	詩文の美しい響きやリズムのたとえ。
公卿大夫	こうけいたいふ	非見出し	政界の最高幹部のこと。⇒槐門棘路
高下在心	こうげさいしん	5級	事が成るか否かは心がけ次第で決まること
高下相傾	こうげそうけい	非見出し	高いところと低いところが相対的な関係で存在すること。⇒有無相生
皓月千里	こうげつせんり	1級	明るく輝く月が、遠くまで照りわたるさま。
皎月千里	こうげつせんり	非見出し	明るく輝く月が、遠くまで照りわたるさま。⇒皓月千里
黄絹色糸	こうけんしきし	非見出し	二人の判断がまったく一致していること。また、解釈や判読がすばらしく正確なこと。⇒黄絹幼婦
剛健質実	こうけんしつじつ	準2級	飾りけがなくまじめで、心身ともに強くたくましいこと。⇒質実剛健

高軒寵過	こうけんちょうか	準1級	貴人の来訪をいう。
黄絹幼婦	こうけんようふ	準2級	二人の判断がまったく一致していること。また、解釈や判読がすばらしく正確なこと。
巧言乱徳	こうげんらんとく	3級	うまくとりつくろった言葉は人を惑わしついには徳をも乱すということ。
巧言令色	こうげんれいしょく	3級	愛想のよいことをいったり、顔色をつくろって、人に媚びへつらうこと。
槁項黄馘	こうこうこうかく	1級	貧乏などでやつれきった顔のたとえ。
槁項黄馘	こうこうこうかく	非見出し	貧乏などでやつれきった顔のたとえ。⇒槁項黄馘
恍恍惚惚	こうこうこつこつ	1級	何かに心を奪われて、うっとりすること。
膏盲之疾	こうこうのしつ	準1級	不治の難病のこと。
膏盲之病	こうこうのやまい	非見出し	不治の難病のこと。⇒膏盲之疾
紅口白牙	こうこうはくが	非見出し	美人のこと。⇒紅粉青蛾
鴻鵠之志	こうこくのこころざし	準1級	遠大なこころざしのこと。
後顧之憂	こうこのうれい	準1級	あとに残る気がかり。
後顧之患	こうこのうれい	非見出し	あとに残る気がかり。⇒後顧之憂
高材逸足	こうざいいっそく	非見出し	すぐれた才能と手腕があること。⇒高材疾足
高材疾足	こうざいしっそく	3級	すぐれた才能と手腕があること。
高才疾足	こうざいしっそく	非見出し	すぐれた才能と手腕があること。⇒高材疾足
光彩奪目	こうさいだつもく	3級	目をみはるばかりに色どりが鮮やかで美しいこと。
幸災樂禍	こうさいらくか	準2級	他人の不幸を見てよろこぶこと。
光彩陸離	こうさいりくり	4級	美しい光が、まばゆいばかりに輝くさま。
光采陸離	こうさいりくり	非見出し	美しい光が、まばゆいばかりに輝くさま。⇒光彩陸離
巧詐拙誠	こうさせっせい	非見出し	巧みに偽ることと、拙くともまごころがあること。⇒巧偽拙誠
高山景行	こうざんけいこう	5級	徳が高く行いがりっぱなことのたとえ。
高山流水	こうざんりゅうすい	5級	すぐれて巧みな音楽のこと。また、妙なる演奏のこと。
公子王孫	こうしおうそん	非見出し	富裕な家に生まれた者のたとえ。⇒膏粱子弟
口耳講説	こうじこうせつ	4級	聞いたことをよく消化しないで、すぐにそのまま人に話すこと。
公私混同	こうしこんどう	追加	公的なことと私的なことをけじめをつけずに扱うこと。
行尸走肉	こうしそうにく	1級	才能も学問もなく、なんの存在価値もない人のこと。
好事多阻	こうじたそ	非見出し	よいことには往々にして邪魔が入りやすいたとえ。⇒好事多魔
好事多魔	こうじたま	3級	よいことには往々にして邪魔が入りやすいたとえ。
好事多磨	こうじたま	非見出し	よいことには往々にして邪魔が入りやすいたとえ。⇒好事多魔
曠日持久	こうじつじきゅう	非見出し	むだに長期間の日を過ごすこと。⇒曠日弥久
膠漆之交	こうしつのまじわり	非見出し	友情が深く堅いこと。⇒雷陳膠漆
膠漆之約	こうしつのやく	非見出し	友情が深く堅いこと。⇒雷陳膠漆
曠日弥久	こうじつびきゅう	1級	むだに長期間の日を過ごすこと。
口耳之学	こうじのがく	準1級	聞きかじりの学問。⇒口耳四寸
口耳末学	こうじまつがく	非見出し	聞きかじりの学問。⇒口耳四寸
高車駟馬	こうしゃしば	1級	高位高官にある人の乗り物。転じて、高貴な人。
厚酒肥肉	こうしゅひにく	非見出し	肥えてうまい肉とうまい酒。贅沢な酒食。⇒肥肉厚酒
考証該博	こうしょうがいぱく	非見出し	広く資料を引用し、根拠をあげて事を論ずること。⇒博引旁証
鉤繩規矩	こうじょうきく	準1級	曲線・直線・円形・直角を書いたり、はかり定めたりする道具。転じて、物事の法則や基準。
鉤章棘句	こうしょうきよくく	1級	非常に読みにくく難しい文章のこと。奇怪で難解な文章。
鉤章棘句	こうしょうきよくく	非見出し	非常に読みにくく難しい文章のこと。奇怪で難解な文章。⇒鉤章棘句
黄裳元吉	こうしょうげんきつ	準1級	中正柔順な臣は主家の大黒柱であるということ。
向上機縁	こうじょうのきえん	4級	昇天の機会のこと。

攻城野戦	こうじょうやせん	4級	城を攻め野原で戦うこと。
苟且偷安	こうしゅとうあん	1級	物事をなおざりにして一時の安楽をむさぼること。
公序良俗	こうじょりょうぞく	4級	公共の秩序と善良な風俗・習慣のこと。
口耳四寸	こうじよんすん	4級	聞きかじりの学問。
嚆矢濫觴	こうしらんしょう	1級	物事のはじまり、おこり。
鉤心鬪角	こうしんとうかく	準1級	建物が高く並びたち、びっしりと密集している形容。
黄塵万丈	こうじんばんじょう	準1級	黄色い土けむりが空高くもうもうと舞い上がること。
後生可畏	こうせいかい	2級	年少者は、大きな可能性を秘め、将来どんな力量をあらわすかわからないのでおそれ敬うべきである。
曠世之感	こうせいのかん	1級	世に類例がないような感じのこと。
曠世之才	こうせいのさい	1級	この世に比類のないすぐれた才能。
曠世之度	こうせいのど	非見出し	この世に比類のないすぐれた才能。⇒曠世之才
公正平等	こうせいびょうどう	非見出し	一方にかたよることなく平等で、個人的な感情や利害に左右されないこと。⇒公平無私
曠世不羈	こうせいふき	1級	長く手なずけることができないこと。
後世菩提	こうせいぼだい	非見出し	来世に極楽往生して悟りをひらくこと。⇒後生菩提
功成名遂	こうせいめいすい	3級	りっぱな業績をあげて、世間から高い評価を受けること。
荒瘠斥鹵	こうせきせきろ	1級	土地が荒れやせていること。
孔席墨突	こうせきぼくとつ	3級	物事に忙しく奔走して休む暇のないたとえ。
考績幽明	こうせきゆうめい	3級	成績を調べて賢明な者を進め、暗愚な者を退けること。
口是心非	こうぜしんひ	非見出し	言葉と気持ちが一致していないこと。口では賛成していても、心の中では反対していること。⇒言行齟齬
曠前空後	こうぜんくうご	非見出し	きわめて珍しいこと。⇒空前絶後
曠前絶後	こうぜんぜつご	非見出し	きわめて珍しいこと。⇒空前絶後
恍然大悟	こうぜんたいご	1級	思い定まらないでいるときに、一瞬のひらめきから悟りを得ること。
浩然之氣	こうぜんのき	準1級	何ものにもとらわれないのびのびとした心持ち。
宏大無辺	こうだいむへん	準1級	限りなく広くて大きいこと。
广大無辺	こうだいむへん	非見出し	限りなく広くて大きいこと。⇒宏大無辺
洪大無辺	こうだいむへん	非見出し	限りなく広くて大きいこと。⇒宏大無辺
高談闊歩	こうだんかつぽ	1級	自由に議論して大股に歩くこと。気ままなさま。
高談放論	こうだんほうろん	非見出し	声高に談論すること。とうとうと議論すること。⇒高談雄弁
荒誕無稽	こうたんむけい	非見出し	言説に根拠がなく、現実性に欠けること。でたらめ。⇒荒唐無稽
高談雄弁	こうだんゆうべん	4級	声高に談論すること。とうとうと議論すること。
巧遅拙速	こうちせつそく	準2級	じょうずで遅いより、へたでも速いほうがよいの意。
黄中内潤	こうちゅうないじゅん	3級	才能や徳を表に出さず、内に秘めていること。
口中雌黄	こうちゅうのしおう	4級	一度口にしたことをすぐ取り消し訂正するたとえ。転じてでまかせをいうこと。
孝悌忠信	こうていちゅうしん	準1級	真心をつくして、目上の人によく仕えること。
孝弟忠信	こうていちゅうしん	非見出し	真心をつくして、目上の人によく仕えること。⇒孝悌忠信
向天吐唾	こうてんとだ	2級	人に害を加えようとして、逆に自分がその害を受けることになること。
黄道吉日	こうどうきちにち	3級	日がらのよい日。吉日。
交頭接耳	こうとうせつじ	5級	ひそひそ話のこと。
荒唐無稽	こうとうふけい	非見出し	言説に根拠がなく、現実性に欠けること。でたらめ。⇒荒唐無稽
荒唐無稽	こうとうむけい	2級	言説に根拠がなく、現実性に欠けること。でたらめ。
紅灯緑酒	こうとうりよくしゅ	5級	歓楽と飽食のたとえ。また、繁華街・歓楽街のようす。
紅桃緑柳	こうとうりよくりゅう	非見出し	紅の桃の花と緑あざやかな柳におおわれた春景色の美しさのこと。⇒桃紅柳緑
皇統連綿	こうとうれんめん	5級	天皇の血筋が絶えることなく続いていること。
皇統連綿	こうとうれんめん	非見出し	天皇の血筋が絶えることなく続いていること。⇒皇統連綿

功德兼隆	こうとくけんりゅう	3級	成しとげた事績と備わっている人徳とがきわめて盛んなこと。
狡兎三窟	こうとさんくつ	1級	身を守るのに用心深いこと。また、困難をさけるのにたくみであること。
狡兎三穴	こうとさんけつ	非見出し	身を守るのに用心深いこと。また、困難をさけるのにたくみであること。⇒狡兎三窟
狡兎走狗	こうとそうく	非見出し	利用価値のある間は用いられるが、無用になると捨てられること。⇒兎死狗烹
孔突墨席	こうとつぼくせき	非見出し	物事に忙しく奔走して休む暇のないたとえ。⇒孔席墨突
狡兎良狗	こうとりょうく	1級	かつて重用された者も状況が変わり用がなくなれば見捨てられることのたとえ。
項背相望	こうはいそうぼう	4級	人の往来がはげしいことの形容。
侯霸臥轍	こうはがてつ	準1級	立派な人の留任を希望して引き留めること。
黄髪垂髪	こうはつすいちょう	1級	老人と子供のこと。
黄髪番番	こうはつはは	準1級	白髪が黄色味をおびるようになった老人。
洪範九疇	こうはんきゅうちゅう	1級	模範となる大切な政治道德のこと。
香美脆味	こうびぜいみ	準1級	豪華でぜいたくなすばらしい食事のこと。
敲氷求火	こうひょうきゅうか	1級	方法を誤ったり見当違いのことをしても目的は達せられないたとえ。
好評嘖嘖	こうひょうさくさく	1級	評判がよく、人々からほめそやされるさま。
光風霽月	こうふうせいげつ	1級	心が清らかでわだかまりがなく、爽快であること。
咬文嚼字	こうぶんしゃくじ	1級	文字使いなど表面的な技巧にばかりこだわり文章の内容や意味をおろそかにすること。また、ぐずぐず言う。いろいろ言う。
紅粉青蛾	こうふんせいが	準1級	美人のこと。
公平無私	こうへいむし	5級	一方にかたよることなく平等で、個人的な感情や利害に左右されないこと。
光芒一閃	こうぼういっせん	1級	事態が急激に瞬間的に変化すること。
好謀善断	こうぼうぜんだん	非見出し	よくよく考えて、物事を巧みに処理すること。⇒多謀善断
黄茅白葦	こうぼうはくい	準1級	黄色のちがやと白のあし。やせた土地の形容。
光芒万丈	こうぼうばんじょう	非見出し	詩文や議論などが、雄大で勢いがありすぐれているたとえ。⇒光焰万丈
高鳳漂麦	こうほうひょうばく	準1級	学問に熱心なたとえ。
豪放磊落	ごうほうらいらく	1級	気持ちが大らかで、小さなことにこだわらないこと。
稿木死灰	こうぼくしかい	1級	衰えて生気がないさま。また、意欲に乏しいさま。無為自然の境地にあること。
毫末之利	ごうまつのり	1級	ほんのわずかな利益のこと。
傲慢不遜	ごうまんふそん	非見出し	思いあがって、人に従おうとしないさま。⇒傲岸不遜
黄霧四塞	こうむしそく	2級	黄色のきりが四方に満ち満ちる。天下の乱れる兆し。
孔明臥竜	こうめいがりょう	準1級	まだ世に知られていないすぐれた人物のこと。
公明正大	こうめいせいだい	5級	公正で私心がなく、やましいところがないこと。
鴻毛山岳	こうもうさんがく	非見出し	へだたりの甚だしいことのたとえ。⇒泰山鴻毛
毫毛斧柯	ごうもうふか	1級	わざわざは小さいうちに取り除くべきだということ。
紅毛碧眼	こうもうへきがん	準1級	西洋人のこと。
孔孟老荘	こうもうろうそう	準1級	古代中国の思想家、孔子・孟子・老子・荘子のこと。
鴻門之会	こうもんのかい	準1級	漢の高祖劉邦と楚王項羽とが、鴻門(中国、陝西省にある地名)で会したこと。
鴻門玉斗	こうもんのぎょくと	準1級	漢の高祖劉邦が鴻門で項羽の臣范増に贈った玉製のひしゃくのこと。
衡陽雁断	こうようがんだん	準1級	音信が絶えることのたとえ。
衡陽帰雁	こうようきがん	非見出し	音信が絶えることのたとえ。⇒衡陽雁断
高陽酒徒	こうようのしゅと	5級	酒飲みをいう。
紅葉良媒	こうようりょうばい	準2級	紅葉が縁の仲人。
孔翊絶書	こうよくぜっしょ	1級	政治に私情をさしはさまないたとえ。
洽覧深識	こうらんしんしき	1級	見聞が広く知識が深く豊富であること。
毫釐千里	ごうりせんり	1級	初めを慎むべきことをいう。初めはほんのわずかの違いであるが結果は非常に大きな過ちとなる。
黄梁一炊	こうりょういっすい	1級	一生が夢幻のようにはかないことのたとえ。

膏粱子弟	こうりょうしてい	1級	富裕な家に生まれた者のたとえ。
蛟竜毒蛇	こうりょうどくだ	1級	不気味で恐ろしいもののたとえ。
黄粱之夢	こうりょうのゆめ	非見出し	一生が夢幻のようにはかないことのたとえ。⇒黄粱一炊
亢竜有悔	こうりょうゆうかい	1級	きわめて高い地位にある者。栄達をきわめた者は、失敗をするおそれがあることを戒める言葉。
羹藜含糗	こうれいがんきゅう	配当外	粗末な食べ物のとえ。
高楼大廈	こうろうたいか	1級	大きな建物のこと。⇒大廈高樓
光祿池台	こうろくのちだい	準1級	りっぱな邸宅のこと。
甲論乙駁	こうろんおつばく	準1級	互いに主張しあい、議論がまとまらないこと。
高論卓説	こうろんたくせつ	3級	すぐれた意見や議論。
高論名説	こうろんめいせつ	非見出し	すぐれた意見や議論。⇒高論卓説
五蘊皆空	ごうんかいくう	1級	仏教で、人間界の現象・存在は一切空であるということ。
孤雲野鶴	こうんやかく	準1級	世俗から遠ざかった隠者のたとえ。
孤影子然	こえいげつぜん	非見出し	ひとりぼっちでしょんぼりしているさま。⇒孤影悄然
孤影悄然	こえいしょうぜん	1級	ひとりぼっちでしょんぼりしているさま。
孤影蕭然	こえいしょうぜん	非見出し	ひとりぼっちでしょんぼりしているさま。⇒孤影悄然
孤影寥寥	こえいりょうりょう	非見出し	ひとりぼっちでしょんぼりしているさま。⇒孤影悄然
吳越同舟	ごえつどうしゅう	準2級	仲の悪い者どうしが、同じ場所や境遇にいること。もとは、反目しあいながらも利害が一致するときには協力しあう意。
古往今来	こおうこんらい	5級	昔から今に至るまで。昔から。
五陰盛苦	ごおんじょうく	準1級	人間の身心を形成する五つの要素から生ずる苦痛のこと。
狐仮虎威	こかこい	準1級	権力のあるものをかさにきて、自分勝手に振る舞うことのたとえ。
吳下阿蒙	ごかのあもう	準1級	いっこうに進歩のない昔のままの人のこと。また、無学な者のたとえ。
孤寡不穀	こかふこく	準2級	王侯の自称。
胡漢陵轢	こかんりょうれき	1級	北方(西方)の異民族と漢民族がたがいにおかし争うこと。
狐疑逡巡	こぎしゅんじゅん	1級	事にのぞんで決心がつかず、ぐずぐずしていること。
狐裘羔袖	こきゅうこうしゅう	1級	全体としてはりっぱだがよく見れば多少の難があるというたとえ。
呼牛呼馬	こぎゅうこば	5級	相手の言うのにまかせて逆らわないこと。他人から誉められようとけなされようと取り合わず勝手にさせておくこと。
吳牛喘月	ごぎゅうぜんげつ	1級	誤解して必要以上におびえるたとえ。また、思い過ごしから要らぬ苦労をするたとえ。
狐裘蒙戎	こきゅうもうじゅう	1級	富貴の人の行いが治まらず国家が乱れることのたとえ。
五行相剋	ごぎょうそうこく	1級	木・火・土・金・水の五つが互いに力を減じ合うこと。
五行相勝	ごぎょうそうしょう	非見出し	木・火・土・金・水の五つが互いに力を減じ合うこと。⇒五行相剋
五行相生	ごぎょうそうしょう	非見出し	五行説で、五行に相生の関係があると見て順序だてること。また、その説。五行は、木火土金水の順に循環するという考え。⇔五行相剋
枯魚銜索	こぎょかんさく	1級	親には孝養を尽くすべきであるという教え。
虎虚之誤	こきょのあやまり	非見出し	文字の書き誤りのこと。⇒亥豕之譌
極惡非道	ごくあくひどう	4級	このうえなく悪くて、道義にはずれていること。
哭岐泣練	こくききゅうれん	1級	人は習慣や心がけ次第で、善人にも悪人にもなるということ。
哭遼泣練	こくききゅうれん	非見出し	人は習慣や心がけ次第で、善人にも悪人にもなるということ。⇒哭岐泣練
轂擊肩摩	こくげきけんま	1級	人や車の往来が多く、混雑しているさま。都会の雑踏。⇒肩摩轂撃
刻鵠類鶩	こくこくるいぼく	非見出し	才能のない者が本物をまねても、似ているだけで実際は違うものになってしまうということ。⇒画虎類狗
告朔餼羊	こくさくのきよう	配当外	実を失って、形式だけが残っているたとえ。
黒齒彫題	こくしちょうだい	3級	おはぐろをした歯と入れ墨をした額のこと。
黒齒雕題	こくしちょうだい	非見出し	おはぐろをした歯と入れ墨をした額のこと。⇒黒齒彫題
黒子之地	こくしのち	非見出し	きわめて狭い土地のたとえ。⇒彈丸黒子
国士無双	こくしむそう	3級	国内に並ぶ者がいないほどすぐれた人物のこと。
刻舟求劍	こくしゅうきゅうけん	4級	時勢の推移を知らず、古い考えや習慣を固守する愚かさのたとえ。

国色天香	こくしょくてんこう	4級	すばらしい香りと国一番の美しさ。牡丹の別名。
黒貂之裘	こくちょうのきゅう	1級	非常に高価なものたとえ。
克伐怨欲	こくばつえんよく	2級	勝ち気・自ら誇る・うらむ・むさぼるの四つの悪心のこと。
黒白混淆	こくびやくこんこう	1級	よい事と悪い事の区別をわきまえないこと。
黒白混交	こくびやくこんこう	非見出し	よい事と悪い事の区別をわきまえないこと。⇒黒白混淆
黒白分明	こくびやくぶんめい	非見出し	事の是非や善悪の区別がはっきりしているさま。⇔黒白混淆
黒風白雨	こくふうはくう	5級	暴風雨。
国歩艱難	こくほかんなん	1級	国勢が振るわず、国家の運命が危ういこと。
国民主権	こくみんしゅけん	追加	国を統治する最高権力が、国民にあるという考え。⇒主権在民
鵠面鳩形	こくめんきゅうけい	非見出し	飢え疲れてやせ衰えているさま。⇒鵠面鳥形
鵠面鳥形	こくめんちょうけい	準1級	飢え疲れてやせ衰えているさま。
極楽往生	ごくらくおうじょう	4級	この世を去ってのち、極楽浄土に生まれかわることまた、安らかに死ぬこと。
極楽浄土	ごくらくじょうど	準2級	仏教で、阿弥陀仏がいるという安楽の世界のこと。
極楽世界	ごくらくせかい	非見出し	仏教で、阿弥陀仏がいるという安楽の世界のこと。⇒極楽浄土
極楽蜻蛉	ごくらくとんぼ	1級	事の重大さをまったく考えない気楽なのんき者のこと。
国利民福	こくりみんぶく	5級	国家の利益と民衆の幸福。
孤苦零丁	こくれいてい	3級	身寄りがなく生活に苦しむこと。
孤苦伶仃	こくれいてい	非見出し	身寄りがなく生活に苦しむこと。⇒孤苦零丁
刻露清秀	こくろせいしゅう	4級	すがすがしい秋の景色のたとえ。
孤軍奮闘	こぐんふんとう	3級	支援する者がいない中で、一人で懸命に努力すること。
虎溪三笑	こけいさんしょう	2級	あることに熱中するあまり、他のことをすべて忘れてしまうこと。
虎穴虎子	こけつこし	2級	危険を冒さなければ功名は立てられないということ。
孤高之士	ここうのし	非見出し	世俗から遠ざかった隠者のたとえ。⇒孤雲野鶴
股肱之臣	ここうのしん	準1級	君主の手足となり輔佐する大臣。また、そのような部下。
股肱之力	ここうのちから	非見出し	君主の手足となり輔佐する大臣。また、そのような部下。⇒股肱之臣
股肱之良	ここうのりょう	非見出し	君主の手足となり輔佐する大臣。また、そのような部下。⇒股肱之臣
虎口拔牙	ここうばつが	非見出し	危険を冒さなければ功名は立てられないということ。⇒虎穴虎子
五穀豊穰	ごこくほうじょう	準1級	穀物がよく実ること。
五穀豊登	ごこくほうとう	非見出し	穀物がよく実ること。⇒五穀豊穰
古今東西	ここんとうざい	5級	いつでもどこでも。
古今独歩	ここんどっぽ	5級	昔から今に至るまで、並ぶものがないほどすぐれていること。
古今無双	ここんむそう	3級	昔から今に至るまで、匹敵するものがないこと。
古今無比	ここんむひ	非見出し	昔から今に至るまで、匹敵するものがないこと。⇒古今無双
古今無類	ここんむるい	非見出し	昔から今に至るまで、匹敵するものがないこと。⇒古今無双
狐死首丘	こししゅきゅう	準1級	故郷を忘れないたとえ。また、物事の根本を忘れないたとえ。
虎視眈眈	こしたんたん	1級	すきがあればつけこもうと、じっと機会をねらうこと。
五十知命	ごじゅうちめい	5級	五十歳で天命を知ること。
枯樹生華	こじゅせいか	3級	非常な困難の中で活路が開かれるたとえ。また、老い衰えた人が生氣を取り戻すことのたとえ。
枯樹生花	こじゅせいか	非見出し	非常な困難の中で活路が開かれるたとえ。また、老い衰えた人が生氣を取り戻すことのたとえ。⇒枯樹生華
五盛陰苦	ごじょうおんく	準1級	人間の身心を形成する五つの要素から生ずる苦痛のこと。⇒五陰盛苦
後生大事	ごしょうだいじ	5級	常に心をこめて物事に励むこと。また、物を大切に保持すること。
股掌之臣	こしょうのしん	非見出し	君主の手足となり輔佐する大臣。また、そのような部下。⇒股肱之臣
虎嘯風生	こしょうふうしょう	1級	すぐれた人が時を得て奮起するたとえ。
虎嘯風冽	こしょうふうれつ	非見出し	すぐれた人が時を得て奮起するたとえ。⇒虎嘯風生

後生菩提	ごしょうぼだい	準1級	来世に極楽往生して悟りをひらくこと。
孤城落月	こじょうらくげつ	非見出し	零落して昔の勢いを失い、助けもなく心細いさま。⇒孤城落日
孤城落日	こじょうらくじつ	3級	零落して昔の勢いを失い、助けもなく心細いさま。
五濁悪世	ごじよくあくせ	準1級	末世のこと。
古色古香	こしょくここう	非見出し	見るからに古めかしく、趣のあるさま。⇒古色蒼然
古色蒼然	こしょくそうぜん	準1級	見るからに古めかしく、趣のあるさま。
故事来歴	こじらいれき	5級	物事の由来や歴史。また、物事がそういう結果になった理由やいきさつ。
古事来歴	こじらいれき	非見出し	物事の由来や歴史。また、物事がそういう結果になった理由やいきさつ。⇒故事来歴
古人糟魄	こじんのそうはく	1級	言葉や文章では聖人・賢人の本質を伝えるのは不可能だということ。
古人糟粕	こじんのそうはく	非見出し	言葉や文章では聖人・賢人の本質を伝えるのは不可能だということ。⇒古人糟魄
胡説八道	こせつはちどう	非見出し	筋の通らないでたらめなことば。⇒胡説乱道
鼓舌揺脣	こぜつようしん	1級	盛んにしゃべりたてること。
鼓舌揺唇	こぜつようしん	非見出し	盛んにしゃべりたてること。⇒鼓舌揺脣
胡説乱道	こせつらんどう	準1級	筋の通らないでたらめなことば。
五臓六腑	ごぞうろっぷ	1級	からだの中すべて。また、心の中。
梧鼠五技	ごそごぎ	非見出し	専門のないことのたとえ。⇒梧鼠之技
梧鼠五能	ごそごのう	非見出し	専門のないことのたとえ。⇒梧鼠之技
梧鼠之技	ごそごぎ	準1級	専門のないことのたとえ。
鼯鼠之技	ごそごぎ	非見出し	専門のないことのたとえ。⇒梧鼠之技
胡孫入袋	こそんにゅうたい	準1級	官職につくなどして自由を奪われるたとえ。また、自由にものごとができないたとえ。
獼猴入袋	こそんにゅうたい	非見出し	官職につくなどして自由を奪われるたとえ。また、自由にものごとができないたとえ。⇒胡孫入袋
五体投地	ごたいとうち	5級	頭と両手(両肘)、両足(両膝)を地面につけて行う拝礼。
誇大妄想	こだいもうそう	準2級	自分の現状を実際以上に想像して事実のように思いこむこと。
胡蝶之夢	こちょうのゆめ	準1級	万物一体観に立つ人の心境・境地。また、人生のはかないことのたとえ。
蝴蝶之夢	こちょうのゆめ	非見出し	万物一体観に立つ人の心境・境地。また、人生のはかないことのたとえ。⇒胡蝶之夢
克己復礼	こっきふくれい	3級	私欲を抑制し、社会の規範や礼儀にかなった行動をすること。
刻苦精励	こっくせいれい	非見出し	非常に苦勞して、ひたすら仕事や勉学に励むこと。⇒刻苦勉励
刻苦勉励	こっくべんれい	3級	非常に苦勞して、ひたすら仕事や勉学に励むこと。
国君含垢	こっくんがんこう	準1級	君主が恥を忍ぶこと。
滑稽洒脱	こっけいしゃだつ	1級	知力にとみ弁舌さわやかな口調で会話をあやつり、俗気がなくさっぱりとしていること。
骨肉相軌	こつにくそうき	非見出し	肉親どうしが争うこと。⇒骨肉相食
骨肉相食	こつにくそうしょく	5級	肉親どうしが争うこと。
虎擲竜拏	こてきりょうだ	配当外	英雄が戦うたとえ。
涸轍鮒魚	こてつのふぎょ	1級	危機や困難が目の前にさしせまっていること。また、窮地に立たされた人のたとえ。
梧桐一葉	ごどういちよう	準1級	物事が衰える兆しのこと。
虎頭蛇尾	ことうだび	2級	初めは盛んで、終わりがふるわないたとえ。
孤独矜寡	こどくかんか	1級	四種の苦しみで訴えるところのない人。
孤独鰥寡	こどくかんか	非見出し	非常に苦勞して、ひたすら仕事や勉学に励むこと。⇒刻苦勉励
孤独狷介	こどくけんかい	非見出し	固く自分の意志を守って、他人と和合しないこと。⇒狷介孤高
胡馬北風	こばほくふう	準1級	故郷を懐かしむたとえ。
寤寐思服	ごびしふく	1級	寝ても覚めても忘れないこと。
虎尾春氷	こびしゅんびょう	2級	きわめて危険なことのたとえ。
虎皮羊質	こひようしつ	非見出し	外見は立派だが中身がないこと。⇒羊質虎皮
五風十雨	ごふうじゅうう	5級	世の中が平穩であるたとえ。

鼓腹撃壤	こぶくげきじょう	準2級	理想的な政治がゆきとどいて、人々が平和な生活をする事。
鼓舞激励	こぶげきれい	3級	盛んにふるいたたせ励ますこと。
虎吻鴟目	こふんしもく	非見出し	冷酷で義理人情をわきまえない人のこと。⇒人面獸心
孤峰絶岸	こほうぜつがん	3級	文章や詩などが他より格段に優れているたとえ。
枯木寒巖	こぼくかんがん	準1級	世俗を超越して無心の境地にあること。
枯木死灰	こぼくしかい	非見出し	衰えて生気がないさま。また、意欲に乏しいさま。無為自然の境地にあること。⇒稿木死灰
枯木生花	こぼくせいか	非見出し	非常な困難の中で活路が開かれるたとえ。また、老い衰えた人が生氣を取り戻すことのたとえ。⇒枯樹生華
枯木生葉	こぼくせいよう	非見出し	非常な困難の中で活路が開かれるたとえ。また、老い衰えた人が生氣を取り戻すことのたとえ。⇒枯樹生華
枯木逢春	こぼくほうしゅん	非見出し	苦境を脱して生を得るたとえ。また、生命力を回復するたとえ。⇒枯木竜吟
枯木竜吟	こぼくりょうぎん	準1級	苦境を脱して生を得るたとえ。また、生命力を回復するたとえ。
枯木冷灰	こぼくれいかい	非見出し	衰えて生気がないさま。また、意欲に乏しいさま。無為自然の境地にあること。⇒稿木死灰
虚融澹泊	こゆうたんぱく	1級	悟りの境地に至ること。
孤立無援	こりつむえん	3級	ひとりぼっちで頼るものがないこと。
孤立無親	こりつむしん	非見出し	ひとりぼっちで頼るものがないこと。⇒孤立無援
五里霧中	ごりむちゅう	4級	物事の手がかりがつかめずとまどうこと。
狐狸妖怪	こりようかい	準1級	人間をだましたり怖がらせたりする悪い生き物や化け物のこと。また、ひそかに悪事を働く者のたとえ。
五倫五常	ごりんごじょう	準2級	人としてふみ守らなければならない道德のこと。
五倫十起	ごりんじっき	1級	清廉公正な者にも私心はあるということ。
孤陋寡聞	こうろうかぶん	準2級	学問が偏っていて狭く、見聞が少ないこと。
虎狼之心	こうろうのこころ	非見出し	野心の盛んなさま。また、無道で食欲なさま。⇒狼貪虎視
虎狼之毒	こうろうのどく	非見出し	野心の盛んなさま。また、無道で食欲なさま。⇒狼貪虎視
渾金璞玉	こんきんはくぎょく	1級	人の素質がすぐれていて飾りけのないたとえ。⇒璞玉渾金
困苦欠乏	こんくけつぼう	3級	生活するのに必要な物の不足で苦しむこと。
欣求浄土	こんぐじょうど	準1級	死後、極楽浄土に行けるように心から願うこと。
金剛堅固	こんごうけんご	非見出し	きわめて堅固でこわれないこと。また、志をかたく守って変えないたとえ。⇒金剛不壊
金剛不壊	こんごうふえ	準1級	きわめて堅固でこわれないこと。また、志をかたく守って変えないたとえ。
言語道断	こんごどうだん	5級	言葉で言い表せないほどひどいこと。
渾渾沌沌	こんこんとんとん	1級	入り乱れて明らかでないさま。
混混沌沌	こんこんとんとん	非見出し	入り乱れて明らかでないさま。⇒渾渾沌沌
崑山片玉	こんざんへんぎょく	非見出し	容易に得がたい人物または出来事。また、高潔で世俗を超越した人柄。⇒桂林一枝
今昔之感	こんじゃくのかん	準1級	今と昔を思い比べて、時世や境遇の大きな変化をしみじみ感じる気持ち。
困獸猶闘	こんじゅうゆうとう	非見出し	弱者も追いつめられて必死になれば、強者に思いもよらない力で抵抗し勝つこともあるというたとえ。⇒窮鼠嚙猫
魂銷魄散	こんしょうはくさん	非見出し	おおいに驚き恐れること。⇒魂飛魄散
根深柢固	こんしんていこ	1級	物事の基礎をしっかりと固めること。⇒深根固柢
今是非	こんぜさくひ	4級	今になって過去のあやまちに気づくこと。
懇切周到	こんせつしゅうとう	非見出し	ねんごろに真心から親切を尽くすこと。⇒懇到切至
懇切丁寧	こんせつていねい	非見出し	ねんごろに真心から親切を尽くすこと。⇒懇到切至
渾然一体	こんぜんいつたい	1級	別々のものが溶けあって区別がつかないさま。
混然一体	こんぜんいつたい	非見出し	別々のものが溶けあって区別がつかないさま。⇒渾然一体
困知勉行	こんちべんこう	5級	苦しんで学び努力して物事を実行すること。
昏定晨省	こんていしんせい	1級	親に孝行をつくすこと。
懇到切至	こんとうせつし	準2級	ねんごろに真心から親切を尽くすこと。
猥到切至	こんとうせつし	非見出し	ねんごろに真心から親切を尽くすこと。⇒懇到切至
蒟蒻問答	こんにゃくもんどう	1級	まとはずれでとんちんかんな問答や返事。

魂飛胆裂	こんひたんれつ	非見出し	おおいに驚き恐れること。⇒魂飛魄散
魂飛魄散	こんひはくさん	1級	おおいに驚き恐れること。
今来古往	こんらいこおう	非見出し	昔から今に至るまで。昔から。⇒古往今来
金輪奈落	こんりんならく	2級	物事の極限のこと。また、どこまでも・絶対にの意。
渾崙吞棗	こんろんどんそう	1級	人の教えをただ鵜呑みにするだけでは、その真理を会得することはできないということ。
塞翁失馬	さいおうしつば	2級	人生の幸不幸は予測できないので、いたずらに一喜一憂すべきではないということ。
塞翁之馬	さいおうのうま	非見出し	人生の幸不幸は予測できないので、いたずらに一喜一憂すべきではないということ。⇒塞翁失馬
齋戒沐浴	さいかいもくよく	1級	神仏にお祈りする前に、飲食や行動を慎み身を洗い清めること。
採菓汲水	さいかきっすい	準1級	厳しい仏道修行をすること。
採果汲水	さいかきっすい	非見出し	厳しい仏道修行をすること。⇒採菓汲水
採花汲水	さいかきっすい	非見出し	厳しい仏道修行をすること。⇒採菓汲水
歳寒三友	さいかん(の)さんゆう	4級	冬に友とすべき三つの植物、松と竹と梅。
歳寒松柏	さいかん(の)しょうはく	準1級	逆境にあっても志や節操を変えないたとえ。
才氣横溢	さいきおういつ	非見出し	機転がきき、才能があふれていること。⇒才氣煥発
才氣煥発	さいきかんぱつ	1級	機転がきき、才能があふれていること。
歲月不待	さいげつふたい	4級	年月はすみやかに過ぎさり、人の都合などを待ってはくれないということ。
罪業消滅	ざいごうしょうめつ	準2級	現世での悪い行いも、仏道修行によって消し去ることができるということ。
碎骨粉身	さいこつふんしん	非見出し	全力を尽くして努力すること。また、骨身惜しまず働くこと。⇒粉骨碎身
在在所所	ざいざいしょしょ	5級	あちらこちら。また、いたるところ。
再三再四	さいさんさいし	5級	たびたび。何度も何度も。
才子佳人	さいしかじん	3級	非常にすぐれた男と女。
在邇求遠	ざいじきゅうえん	1級	人としての正しい道は自分自身の中に求めるべきなのに、とかく人は遠い所にそれを求めようとするということ。
妻子眷族	さいしけんぞく	1級	妻と子、家族と血縁関係にある親族のこと。
妻子眷属	さいしけんぞく	非見出し	妻と子、家族と血縁関係にある親族のこと。⇒妻子眷族
才子多病	さいしたびょう	5級	才能のある人はとかく病気がちだということ。
犀舟勁楫	さいしゅうけいしゅう	配当外	堅牢な舟と強いかい。
載舟覆舟	さいしゅうふくしゅう	3級	君主は人民によって支えられ、また、人民によって滅ぼされるということ。転じて、人は味方になることもあれば、敵にまわることもあるということ。
才色兼備	さいしょくけんび	4級	女性がすぐれた才能と美しい容姿の両方に恵まれていること。
採薪汲水	さいしんきゅうすい	準1級	自然の中で簡素な生活を営むこと。
采薪汲水	さいしんきゅうすい	非見出し	自然の中で簡素な生活を営むこと。⇒採薪汲水
採薪之憂	さいしんのうれい	準1級	自分が病気を患っていることを謙遜していう語。
采薪之憂	さいしんのうれい	非見出し	自分が病気を患っていることを謙遜していう語。⇒採薪之憂
碎身粉骨	さいしんふんこつ	非見出し	全力を尽くして努力すること。また、骨身惜しまず働くこと。⇒粉骨碎身
細心翼翼	さいしんよくよく	非見出し	気が小さくて、びくびくしているさま。⇒小心翼翼
祭政一致	さいせいいつち	4級	神を祭ることと政治は一体であるという考え。
祭政分離	さいせいぶんり	非見出し	政治と宗教の結びつきを切ること。⇔祭政一致
載籍浩瀚	さいせきこうかん	1級	書物が多いことのたとえ。
差以千里	さいせんり	非見出し	初めを慎むべきことをいう。初めはほんのわずかの違いであるが結果は非常に大きな過ちとなる。⇒毫釐千里
灑掃應對	さいそうおうたい	1級	日常生活に必要な仕事や作法のこと。
洒掃薪水	さいそうしんすい	追加	家事労働のこと。
裁断批評	さいだんひひょう	5級	裁判官が判決を下すように、文芸作品を一段高いある基準で判定する批評の方法。
採長補短	さいちょうほたん	5級	人の長所をとり入れ、自分の短所を補うこと。
采椽不斷	さいてんふたく	配当外	質素な建物のこと。
妻梅子鶴	さいばいしかく	非見出し	俗世を離れた清らかで風雅な隠遁生活のたとえ。⇒梅妻鶴子

西方浄土	さいほうじょうど	準2級	阿弥陀仏の在す極楽浄土。
彩鳳随鴉	さいほうずいあ	1級	自分より劣る人に嫁がされること。また、それに不満をもつこと。
西方世界	さいほうせかい	非見出し	仏教で、阿弥陀仏がいるという安楽の世界のこと。⇒極楽浄土
才貌両全	さいぼうりょうぜん	非見出し	女性がすぐれた才能と美しい容姿の両方に恵まれていること。⇒才色兼備
菜圃麦隴	さいほばくろう	1級	水をたたえずに、野菜や穀類を栽培する農耕地、すなわち畑のこと。
豺狼当路	さいろうとうろ	1級	暴虐で非道な人が枢要な地位にあることのたとえ。また、権力を握っている者の暴虐のたとえ。
左往右往	さおうおう	5級	多くの人がうろたえて右に行ったり左に行ったり混乱すること。⇒右往左往
坐臥行歩	ざがこうほ	準1級	立ち居振る舞いをいう。
座臥行歩	ざがこうほ	非見出し	立ち居振る舞いをいう。⇒坐臥行歩
鑿齒尺牘	さくしせきとく	1級	晋の習鑿齒は手紙で議論するのにすぐれていた。
作史三長	さくしのさんちょう	5級	史書を著作する史家に必要な三つの長所。才知・学問・識見のこと。
削株掘根	さくしゅくっこん	非見出し	災いを根こそぎ除きさること。問題を根本から解決するたとえ。⇒翦草除根
鑿窓啓牖	さくそうけいゆう	1級	さまざまな考え方に学んで、見識を広めること。
削足適履	さくそくてきり	準2級	目先のことに気をとられて、大事なことを忘れてしまうこと。
昨非今是	さくひこんぜ	4級	今になって過去のあやまちに気づくこと。⇒今是非昨
作文三上	さくぶんさんじょう	5級	文章の構想を練るのに適した三つの場所。馬上・枕上・廁上の三つをいう。
鑿壁偷光	さくへきとうこう	1級	苦学することのたとえ。
左建外易	さけんがいえき	5級	道理にもとるやり方で勢力や権力を増すこと。
左顧右盼	さこうはん	非見出し	右を見たり左を見たりためらい迷うこと。情勢を気にして決断できないこと。⇒右顧左眄
左顧右眄	さこうべん	1級	右を見たり左を見たりためらい迷うこと。情勢を気にして決断できないこと。⇒右顧左眄
瑣碎細膩	ささいさいじ	1級	情のこまやかなこと。
坐作進退	ざさしんたい	準1級	立ち居振る舞い。
座作進退	ざさしんたい	非見出し	立ち居振る舞い。⇒坐作進退
坐視不救	ざしふきゅう	非見出し	他人の災難をただ見物するだけで、救いの手をさしのべようとしないこと。⇒隔岸觀火
左支右吾	さしゅうご	準1級	いろいろ手を尽くして難を避けること。
左枝右梧	さしゅうご	非見出し	いろいろ手を尽くして難を避けること。⇒左支右吾
砂上楼閣	さじょうのろうかく	3級	長続きしない物事のたとえ。また、空想するだけで実現不可能な計画。
坐薪懸胆	ざしんけんたん	準1級	将来の成功のためにひどく苦勞するたとえ。
左戚右賢	させきゆうけん	2級	親戚の者を低い地位(左)におき、賢者を高い地位(右)におくこと。
蹉跎歲月	さたさいげつ	1級	ただ時間をむだにして、むなしく過ごすこと。
蹉跎白髮	さたはくはつ	非見出し	ただ時間をむだにして、むなしく過ごすこと。⇒蹉跎歲月
沙中偶語	さちゅうのぐうご	2級	臣下が謀反の相談をすること。
察言觀色	さつげんかんしき	5級	言葉や顔つきから、相手の性格や考え方を見抜くこと。
左提右挈	さていゆうけつ	追加	左右の手で携えること。互いに助け合うこと。
左武右文	さぶゆうぶん	非見出し	文武両道を兼ね備えること。⇒右文左武
左文右武	さぶんゆうぶ	非見出し	文武の両道を兼ね備えていること。⇒経文緯武
左眄右顧	さべんうこ	1級	右を見たり左を見たりためらい迷うこと。情勢を気にして決断できないこと。⇒右顧左眄
左右傾側	さゆうけいそく	非見出し	右を見たり左を見たりためらい迷うこと。情勢を気にして決断できないこと。⇒右顧左眄
沙羅双樹	さらそうじゅ	2級	釈迦が涅槃に入ったとき、その四方に二本ずつあったという沙羅の木。
娑羅双樹	さらそうじゅ	非見出し	釈迦が涅槃に入ったとき、その四方に二本ずつあったという沙羅の木。⇒沙羅双樹
栈雲峽雨	さんうんきょうう	準2級	かけ橋の付近に起こる雲と谷あい以降る雨。
三槐九棘	さんかいきゅうきよく	1級	三公と九卿。
山海之盟	さんかいのめい	非見出し	きわめて堅い誓い。⇒海誓山盟
三界無安	さんがいむあん	5級	この世に生きることは、いろいろ苦勞が多く少しも心が安まることがないこと。

三界流転	さんがいるてん	準2級	いのちあるものはすべて、前世・現世・来世の三世にわたって、生死を繰り返し迷いつづけるということ。
山河襟帯	さんがきんたい	準2級	自然の要害のこと。
三寒四温	さんかんしおん	5級	寒かったり暖かかったりすること。
山簡倒載	さんかんとうさい	4級	大酒飲みのたとえ。
三跪九叩	さんききゅうこう	1級	清朝の敬礼法。三度ひざまずき、九度頭を地につけて拝礼すること。
三跪九拝	さんききゅうはい	非見出し	清朝の敬礼法。三度ひざまずき、九度頭を地につけて拝礼すること。⇒三跪九叩
残虐非道	ざんぎゃくひどう	非見出し	むごたらしくて人道にそむいた行い。⇒残酷非道
山窮水尽	さんきゅうすいじん	非見出し	追いつめられて苦境から逃れようもない状態。また、苦境におちいって困りはてること。⇒窮途末路
三疊三浴	さんきんさんよく	1級	相手を大切に思う心をあらわす語。
三薰三沐	さんくんさんもく	1級	相手を大切に思う心をあらわす語。⇒三疊三浴
三軍暴骨	さんぐんぱくこつ	4級	戦いに大敗すること。
三綱五常	さんこうごじょう	3級	三つの根本的な道徳と常に行うべき五つの道。
残膏賸馥	ざんこうしょうふく	配当外	すぐれた人物や詩文の形容。
山光水色	さんこうすいしょく	非見出し	山の形と水のようにす。⇒山容水態
山高水長	さんこうすいちょう	5級	人の品性が高大で高潔なたとえ。
山肴野蔌	さんこうやそく	配当外	山野の肉や野菜。山の幸、野の幸。
残羹冷炙	ざんこうれいしゃ	非見出し	恥辱を受けるたとえ。⇒残杯冷炙
残酷非道	ざんこくひどう	準2級	むごたらしくて人道にそむいた行い。
三顧之礼	さんこのれい	準1級	礼を尽くして有能な人材を招くこと。
斬衰斉衰	ざんさいしさい	準1級	喪服の種類。
三三五五	さんさんごご	5級	ばらばらと。ちらほらと。数人ずつかたまって道を行くさま。
残山剩水	ざんざんじょうすい	準2級	戦乱のあとに残った荒廃した山や川の自然。⇒剩水残山
三三两两	さんさんりょうりょう	非見出し	ばらばらと。ちらほらと。数人ずつかたまって道を行くさま。⇒三三五五
三豕己亥	さんしきがい	非見出し	文字の誤り。文字を誤って読んだり書いたりすること。⇒三豕涉河
三豕金根	さんしきんこん	非見出し	文字の誤り。文字を誤って読んだり書いたりすること。⇒三豕涉河
三思後行	さんしこうこう	5級	物事を行う場合に、よくよく考えたのちにはじめて実行に移すこと。
三豕涉河	さんししょうか	1級	文字の誤り。文字を誤って読んだり書いたりすること。
山紫水明	さんしすいめい	4級	自然の景観が清らかで美しいこと。
三豕渡河	さんしとか	非見出し	文字の誤り。文字を誤って読んだり書いたりすること。⇒三豕涉河
三枝之礼	さんしのれい	準1級	親に対して礼儀と孝行を重んじること。
三尺秋水	さんじゃく(の)しゅうすい	5級	よくみがかれた剣。
三者三様	さんしゃさんよう	5級	考え方ややり方などが、人によってそれぞれ違うこと。
三舍退避	さんしゃたいひ	4級	相手にとてもかなわないと思って遠慮する、恐れ避けること。
三者鼎談	さんしゃていだん	準1級	三人が向かい合って話し合うこと。
三者鼎立	さんしゃていりつ	準1級	三者が分かれて並び立つこと。
三十而立	さんじゅうじりつ	準1級	三十歳で学識や道徳上の自信を得て思想が確立すること。
三十六計	さんじゅうろくけい	5級	逃げるべきときには逃げるのがどんな策より一番安全の策である。
三種神器	さんしゅのじんぎ	5級	皇位の標識とした三つの宝物。
蚕食鯨吞	さんしょくげいどん	追加	大国が弱小国を侵略・併合していくこと。
斬新奇拔	ざんしんきばつ	2級	物事の着想が独特で、これまでにない新しさを兼ね備えていること。
三寸不律	さんずんふりつ	5級	短い筆。
三世一爨	さんせいいつさん	1級	三代の家族が一つの家に同居すること。
三聖吸酸	さんせいきゅうさん	5級	儒教の蘇軾、道教の黄庭堅、仏教の僧仏印の三人が、桃花酸という酢をなめて三人ともそのすっぱさに顔をしかめたということ。
山清水秀	さんせいすいしゅう	非見出し	自然の景観が清らかで美しいこと。⇒山紫水明

三世同居	さんせいどうきょ	非見出し	三代の家族が一つの家に同居すること。⇒三世一爨
三世同爨	さんせいどうさん	非見出し	三代の家族が一つの家に同居すること。⇒三世一爨
三世同堂	さんせいどうどう	非見出し	三代の家族が一つの家に同居すること。⇒三世一爨
三牲之養	さんせいのよう	準1級	親にご馳走をして親孝行をする。
三尺童子	さんせきのどうじ	準1級	七、八歳の子供。
三千世界	さんぜんせかい	5級	この世のすべてをいう。
山藪蔵疾	さんそうぞうしつ	準1級	大事をなす大人物は多少欠点はあるてもあらゆる人を包み込む度量があるたとえ。
残息奄奄	ざんそくえんえん	準1級	いまにも滅びそうな苦しいさま。⇒氣息奄奄
三足鼎立	さんそくていりつ	非見出し	三者が分かれて並び立つこと。⇒三者鼎立
三諦円融	さんだいえんにゆう	準1級	仏教で、空・仮・中の三つの真理がその立場を保ちながら、各々が他の二つを含む形で互いに解けあって、同時に成立していること。⇒円融三諦
三多三上	さんたさんじょう	非見出し	文章の構想を練るのに適した三つの場所。馬上・枕上・厠上の三つをいう。⇒作文三上
慘憺経営	さんたんけいえい	1級	心をくだき悩ましてあれこれ考え計画すること。
慘澹経営	さんたんけいえい	非見出し	心をくだき悩ましてあれこれ考え計画すること。⇒慘憺経営
山中暦日	さんちゅうれきじつ	4級	俗世を離れて悠々と暮らすこと。
三徴七辟	さんちょうしちへき	非見出し	礼を尽くして有能な人材を招くこと。⇒三顧之礼
斬釘截鉄	ざんていせってつ	1級	釘や鉄を断ち切る。毅然として決断力があるたとえ。
参天弑地	さんてんじち	準1級	天地と徳を等しくする。
讒諂面諛	ざんてんめんゆ	1級	人の悪口を言ってこびへつらうこと。
山濤識量	さんとうしきりょう	準1級	すぐれた識見や器量をもつ人のたとえ。
残忍酷薄	ざんにんこくはく	準2級	思いやりがなくむごいこと。
三人成虎	さんにんせいこ	2級	真実でないことも、多くの人が言うといつのまにか真実であるかのようにになってしまうたとえ。
残忍非道	ざんにんひどう	非見出し	むごたらしくて人道にそむいた行い。⇒残酷非道
三人文殊	さんにんもんじゅ	3級	一人ではよい知恵が浮かばなくても、三人が協力すればよい考えが出るものだ。
三人文珠	さんにんもんじゅ	非見出し	一人ではよい知恵が浮かばなくても、三人が協力すればよい考えが出るものだ。⇒三人文殊
残念至極	ざんねんしごく	非見出し	非常にくやしいこと。⇒残念無念
残念無念	ざんねんむねん	5級	非常にくやしいこと。
三拝九叩	さんばいきゅうこう	非見出し	何度も頭を下げて人にものを頼むこと。⇒三拝九拝
三拝九拝	さんばいきゅうはい	5級	何度も頭を下げて人にものを頼むこと。
残杯冷肴	ざんばいれいこう	非見出し	恥辱を受けるたとえ。⇒残杯冷炙
残杯冷炙	ざんばいれいしゃ	1級	恥辱を受けるたとえ。
三百代言	さんびゃくだいげん	5級	詭弁を弄すること。
賛否両論	さんぴりょうろん	追加	賛成と反対の両方の意見。
散文精神	さんぶんせいしん	5級	浪漫的・詩的感覚を排し、人生の実態をリアリズムの立場で冷静、客観的に見つめようとする小説執筆上の精神のありかた。
三分鼎足	さんぶんていそく	準1級	鼎の足のように天下を三分して三つの国が並び立つこと。
三分鼎立	さんぶんていりつ	非見出し	鼎の足のように天下を三分して三つの国が並び立つこと。⇒三分鼎足
三平二満	さんぺいじまん	5級	じゅうぶんではないが、心がやすらかで満足していること。
残編断簡	ざんぺんだんかん	5級	書物の切れ端。
讒謗罵詈	ざんぼうばり	1級	ありとあらゆる悪口をいうこと。⇒罵詈謗
山木自寇	さんぼくじこう	非見出し	才があることでかえってわざわざに遭うこのたとえ。⇒膏火自煎
三位一体	さんみいったい	5級	別々の三つのものが一つのように緊密に結びつくこと。また、三者が心をあわせること。
山明水秀	さんめいすいしゅう	非見出し	自然の景観が清らかで美しいこと。⇒山紫水明
三面六臂	さんめんろっぴ	1級	一人で数人分の働きをしたり、多方面で活躍したりすること。
山容水色	さんようすいしょく	非見出し	山の形と水のようにす。⇒山容水態
山容水態	さんようすいたい	5級	山の形と水のようにす。

三浴三薰	さんよくさんくん	準2級	相手を大切に思う心をあらわす語。⇒三疊三浴
山礪河帶	さんれいかたい	準1級	永く変わらない堅い誓約のこと。また、国が永遠に栄えること。⇒河山帶礪
三令五申	さんれいごしん	4級	くどくどと言い聞かすこと。
暫勞永逸	ざんろうえいつ	非見出し	一度苦勞すれば、長くその利を得られること。また、わずかの苦勞で多くの安樂が得られること。⇒一勞永逸
三老五更	さんろうごこう	4級	徳の高い長老。
思案投首	しあんなげくび	5級	あれこれ考えあぐんで困っているさま。
詩歌管弦	しいかかんげん	準2級	文学と音楽のこと。
詩歌管絃	しいかかんげん	非見出し	文学と音楽のこと。⇒詩歌管弦
尸位素餐	しいそさん	1級	ある地位にいて職責を果たさずにむだに禄をもらっていること。
侈衣美食	しいびしょく	1級	ぜいたくなたとえ。
子為父隱	しいふいん	4級	お互いに悪いところがあってもそれを隠し、かばいあうことが父と子の正しい道であるということ。
時雨之化	じうのか	準1級	いつくしみ深い君主の教化が及ぶことのたとえ。
慈烏反哺	じうはんぼ	準1級	親に恩を返すこと。
持盈保泰	じえいほたい	準1級	満ち足りて安らかな状態を長く保つこと。
四海兄弟	しかいけいてい	4級	世界中の人々はみな兄弟のように仲良くすべきだということ。
四海同胞	しかいどうほう	3級	世界中の人々はみな兄弟のように仲良くすべきだということ。⇒四海兄弟
死灰復然	しかいふくねん	4級	一度衰えた勢力が再び盛り返すこと。
死灰復燃	しかいふくねん	非見出し	一度衰えた勢力が再び盛り返すこと。⇒死灰復然
駟介旁旁	しかいほうほう	1級	鎧を装備した四頭立ての馬の引く戦車が戦場を駆け巡る。
爾雅温文	じがおんぶん	準1級	態度や表情が穏やかで、言動が正しく美しいこと。⇒温文爾雅
四角四面	しかくしめん	非見出し	一つの基準ですべてを決めようとして、応用や融通がきかないこと。⇒杓子定規
自画自賛	じがじさん	5級	自分のことを自分でほめること。
自画自讃	じがじさん	非見出し	自分のことを自分でほめること。⇒自画自賛
止渴飲鳩	しかついんちん	1級	目先のことだけを考えて後の結果を顧みないこと。⇒飲鳩止渴
齒豁頭童	しかつとうどう	非見出し	老人のこと。⇒頭童齒豁
自家撞着	じかどうちゃく	準1級	同じ人の言動や文章が前と後で矛盾していること。
自家撞著	じかどうちゃく	非見出し	同じ人の言動や文章が前と後で矛盾していること。⇒自家撞着
齒牙余論	しがのよろん	2級	わずかな言葉。
自家薬籠	じかやくろう	2級	いつでも役に立てられるもの。わが手中のもの。
紫幹翠葉	しかんすいよう	準1級	山の木々がみずみずしく美しいさま。
只管打坐	しかんたざ	準1級	雑念をすててひたすら座禅すること。
祇管打坐	しかんたざ	非見出し	雑念をすててひたすら座禅すること。⇒只管打坐
自棄自暴	じきじぼう	非見出し	すてばちで、やけくそになる。⇒自暴自棄
時期尚早	じきしょうそう	準2級	ある事を行うには、まだ時期が早すぎる。
時機尚早	じきしょうそう	非見出し	ある事を行うには、まだ時期が早すぎる。⇒時期尚早
色即是空	しきそくぜくう	4級	万物の本質は空である。
時機到来	じきとうらい	非見出し	ちょうどよい機会がくること。⇒好機到来
識途老馬	しきとろうば	非見出し	長い経験を積んで得たすぐれた知恵や知識。⇒老馬之智
自給自足	じきゅうじそく	5級	必要な物を自分でまかない十分に足りるようにすること。
至恭至順	しきょうしじゅん	準2級	人の言動にいたってすなおに従うこと。
史魚屍諫	しぎょしかん	準1級	史魚は自分のしかばねで主君の靈公をいさめた故事。
史魚尸諫	しぎょしかん	非見出し	史魚は自分のしかばねで主君の靈公をいさめた故事。⇒史魚屍諫
史魚黜殯	しぎょちゅつひん	非見出し	史魚は自分のしかばねで主君の靈公をいさめた故事。⇒史魚屍諫
史魚之直	しぎょのちよく	非見出し	史魚は自分のしかばねで主君の靈公をいさめた故事。⇒史魚屍諫

四弘誓願	しぐぜいがん	準1級	すべての仏や菩薩のもつ四つの願い。
四衢八街	しくはちがい	1級	大通りが四方八方に通じている大きな街のこと。
四苦八苦	しくはっく	5級	さんざん苦勞すること。非常な苦しみ。
舳艫千里	じくろせんり	1級	多数の舟がはるか彼方まで連なること。
子見南子	しけんなんし	5級	礼の道を守るため、回りの意見にまどわされず、自分の考えを通すこと。
子建八斗	しけんはっと	3級	すぐれた才能を賞賛した語。
自己暗示	じこあんじ	5級	自分で自分に暗示をかけること。
舐糠及米	しこうきゅうまい	1級	被害がだんだん拡大すること。
試行錯誤	しこうさくご	3級	試みと失敗をくりかえしながら適切な方法を見つけること。
自業自得	じごうじとく	準2級	自分から出たものは自分にかえるという意。
自業自縛	じごうじばく	非見出し	自分から出たものは自分にかえるという意。⇒自業自得
至公至平	しこうしへい	5級	きわめて公平である。
豕交獸畜	しこうじゅうちく	1級	人をけだもの同様に扱うこと。
師曠清耳	しこうせいじ	非見出し	耳が鋭敏なことのたとえ。⇒師曠之聡
師曠之聡	しこうのそう	1級	耳が鋭敏なことのたとえ。
四荒八極	しこうはつきょく	4級	世界中のあらゆる地域のこと。世界のすみずみ。
市虎三伝	しこさんでん	2級	真実でないことも、多くの人が言うといつのまにか真実であるかのようにになってしまうたとえ。⇒三人成虎
事後承諾	じごしょうだく	3級	事がすんだあとで、それについての承諾をすること。また、承諾を与えること。
自己韜晦	じことうかい	1級	自分の才能・地位・本心などをかくして表に出さないこと。
自己撞着	じこどうちゃく	非見出し	同じ人の言動や文章が前と後で矛盾していること。⇒自家撞着
刺股読書	しこどくしょ	非見出し	苦学のたとえ。⇒懸頭刺股
自己満足	じこまんぞく	追加	これでよしとして、今の自分に満足すること。
自己矛盾	じこむじゅん	4級	同一人物の考えや行動が前後でつじつまが合わなくなること。
而今而後	じこんじご	準1級	今からのち。
士魂商才	しこんしょうさい	3級	武士の心と商人としての才能とを持ちあわせていること。
自在奔放	じざいほんぼう	非見出し	気がねなしに自分の思うままに行動するさま。⇒自由奔放
思索生知	しさくせいち	準2級	筋道をたどって物事をよく考えることによって、知恵がうまれるということ。
屍山血河	しざんけつが	準1級	非常に激しい戦闘のたとえ。
四散五裂	しさんごれつ	非見出し	ばらばらに分裂すること。⇒四分五裂
時時刻刻	じじこくこく	5級	時を追ってつぎつぎと。
志士仁人	ししじんじん	5級	学問修養に志す人と人徳のある人。
獅子身中	しししんちゅう	準1級	内部からわざわざいが生じること。また、恩をうけておきながら、逆に害悪を与えること。
師資相承	しししょうしょう	5級	師の教えを受け継ぐこと。また師から弟子へ学問・技術などを受け継いでいくこと。
子子孫孫	ししそんそん	5級	末代まで。
事実無根	じじつむこん	5級	事実に基づいていないこと。
舐痔得車	しじとくしゃ	1級	卑しいことをしてまで、大きな利益を手に入れること。
獅子搏兔	ししはくと	1級	やさしいと思われることでも、全力をあげて努めるべきだということ。
事事物物	じじぶつぶつ	5級	あらゆる物事。
獅子奮迅	ししふんじん	準1級	猛烈な勢いで活動すること。
刺字漫滅	しじまんめつ	3級	長いあいだ人を訪問しない。
耳視目食	じしもくしょく	非見出し	外見にとらわれ、衣食の本源を忘れてぜいたくに流れること。⇒目食耳視
四百四病	ししゃくしびょう	5級	人のかかるあらゆる病気。
四十不惑	しじゅうふわく	4級	四十歳であれこれ迷わなくなること。
耳熟能詳	じじゅくのうしょう	4級	何度も聞きなれていることは、詳しく説明することができるということ。また、物事を知りつくしていること。

自主独立	じしゅどくしつ	非見出し	人に頼らずに自分の尊厳を保つこと。⇒独立自尊
自縄自縛	じじょうじばく	準2級	自分の心がけや言動によって、動きがとれなくなり苦しむこと。
紙上談兵	しじょうだんぺい	5級	理屈だけで、実際にはまったく役に立たないこと。
事上磨錬	じじょうまれん	準2級	実際に行動や実践をしながら知識や精神をみがき修養すること。
梓匠輪輿	ししょうりんよ	準1級	大工と家具職人や車台・車輪を作る職人。
姿色端麗	ししょくたんれい	非見出し	姿かたちの美しいこと。⇒容姿端麗
四書五経	ししょごきょう	4級	聖人や賢人の言行や教えなどを記した儒教の聖典。
死屍累累	ししるい	準1級	多くの死体が重なりあっているむごたらしいさま。
徙薪曲突	ししんきょくとつ	非見出し	未然に災難を防ぐこと。⇒曲突徙薪
詩人蛻骨	しじんぜいこつ	1級	銘茶をたたえる語。また、銘茶のこと。
四神相応	しじんそうおう	5級	四神に応じた最もよいとされる地相のこと。
詩人墨客	しじんぼっかく	非見出し	詩を作ったり書や絵をかいたりする風流人。⇒騷人墨客
詩人墨卿	しじんぼっけい	非見出し	詩を作ったり書や絵をかいたりする風流人。⇒騷人墨客
死生契闊	しせいけいかつ	1級	生死を共にすることを約束し、共に苦しみ努力すること。
市井之臣	しせいのしん	非見出し	官職に就かない民間人。⇒草莽之臣
死生有命	しせいゆうめい	5級	人の生き死には天命であり、人の力ではどうすることもできない。
咫尺之功	しせきのこう	非見出し	わずかな功績。⇒尺寸之功
咫尺之書	しせきのしょ	1級	短い書状。
志節堅固	しせつけんご	非見出し	主義や考えなどを堅く守って変えないこと。⇒志操堅固
時節到来	じせつとうらい	非見出し	ちょうどよい機会がくること。⇒好機到来
自然選択	しぜんせんたく	非見出し	適しているものだけが自然に選ばれて残ること。⇒自然淘汰
自然淘汰	しぜんとうた	準1級	適しているものだけが自然に選ばれて残ること。
四戦之国	しせんのかくに	非見出し	山や川の險しいところがなく、四方から攻撃される土地。⇄四塞之国
四戦之地	しせんのかち	非見出し	山や川の險しいところがなく、四方から攻撃される土地。⇄四塞之国
紫髯緑眼	しぜんりよくがん	1級	西洋人。
志操堅確	しそうけんかく	非見出し	主義や考えなどを堅く守って変えないこと。⇒志操堅固
志操堅固	しそうけんご	4級	主義や考えなどを堅く守って変えないこと。
四塞之国	しそくのかくに	準1級	四方を山や川に囲まれて攻めにくく守りやすい要害の国をいう。
四塞之地	しそくのかち	非見出し	四方を山や川に囲まれて攻めにくく守りやすい要害の国をいう。⇒四塞之国
止足之分	しそくのぶん	非見出し	節度を超えた欲望をもつことを戒めたもの。⇒知足不辱
志大才疎	しだいさいそ	準2級	志は大きいが才能が乏しいこと。
時代錯誤	じだいさくご	3級	時代の流れに合わない昔ながらの考え方。
至大至剛	しだいしごう	準2級	ものすごく大きくて、ものすごく強い。
志大智小	しだいちしょう	非見出し	志は大きいが才能が乏しいこと。⇒志大才疎
舌先三寸	したさきさんずん	5級	口先だけで誠実さがない。
四通八達	したつはつつう	非見出し	道路が四方八方に広がっているさま。⇒四通八達
七擒七縱	しちきんしちしょう	非見出し	敵を捕らえたり逃がしたりして味方にすること。⇒七縱七擒
七死七生	しちししちしょう	非見出し	この世に生まれ変わる限りどこまでもということ。⇒一死七生
七嘴八舌	しちしはちぜつ	1級	意見の多いこと。また、あちこちから意見の出ること。
七十古稀	しちじゅうこき	準1級	七十歳の高齢まで生きられるのは古来より稀である。
七十古希	しちじゅうこき	非見出し	七十歳の高齢まで生きられるのは古来より稀である。⇒七十古稀
七種菜羹	しちしゅのさいこう	1級	七種の野菜の汁物。また、七種がゆ。七草がゆ。
七縱七擒	しちしょうしちきん	1級	敵を捕らえたり逃がしたりして味方にすること。
七縱八横	しちしょうはちおう	非見出し	何事も思いのままにすること。⇒自由自在

七生報国	しちしょうほうこく	非見出し	いのちをかけて国に奉公すること。⇒一死報国
四地相応	しちそうおう	非見出し	四神に応じた最もよいとされる地相のこと。⇒四神相応
七転八起	しちてんはつき	5級	失敗を重ねても、くじけることなく奮起すること。
七顛八起	しちてんはつき	非見出し	失敗を重ねても、くじけることなく奮起すること。⇒七転八起
七顛八倒	しちてんぱっとう	準1級	激しい苦痛に転げまわってもがくこと。
七転八倒	しちてんぱっとう	非見出し	激しい苦痛に転げまわってもがくこと。⇒七顛八倒
七堂伽藍	しちどうがらん	準1級	七つの堂のそろった寺。
七難九厄	しちなんくやく	準2級	七と九との年まわり(十七歳や四十九歳など)では、男女とも災厄にあいがちだという俗信。
七難八苦	しちなんはっく	5級	ありとあらゆる災難・苦難のこと。
七歩成詩	しちほせいし	非見出し	すぐれた詩文をすばやく作る才能。⇒七歩之才
七歩之才	しちほのさい	準1級	すぐれた詩文をすばやく作る才能。
七歩八叉	しちほはっさ	準1級	詩文を作るすぐれた才能。
死中求活	しちゅうきゅうかつ	5級	死ぬ覚悟で難関を切り抜ける。
死中求生	しちゅうきゅうせい	非見出し	死ぬ覚悟で難関を切り抜ける。⇒死中求活
史籀大篆	しちゅうだいてん	1級	史籀が大篆という書体を作った。
市中閑居	しちゅうのかんきょ	非見出し	真の隠遁者は山中などにいるのではなく、一見一般の人と変わらない生活をしているものだということ。⇒大隠朝市
視聴言動	しちょうげんどう	3級	見ること、聞くこと、言うこと、行動すること。また、この四者を慎むこと。
詩腸鼓吹	しちょうのこすい	4級	詩を作る情をかきたてるうぐいすの声をいう。
四鳥別離	しちょうべつり	4級	親と子の悲しい別れのこと。
七里結界	しちりけっかい	5級	ある人を嫌って寄せつけないこと。
四通五達	しつうごたつ	非見出し	道路が四方八方に広がっているさま。⇒四通八達
四通八達	しつうはったつ	5級	道路が四方八方に広がっているさま。
悉皆成仏	しっかいじょうぶつ	準1級	生きとし生ける一切の有情のものが、すべて成仏すること。
十寒一暴	じっかんいちばく	4級	努力が少なく怠ることが多いのを戒めた語。⇒一暴十寒
質疑応答	しつぎおうとう	5級	疑わしい点を問いただしたり、それに応えたりする。
日月星辰	じつげつせいしん	準1級	空のこと。
日月逾邁	じつげつゆまい	1級	月日がどんどん過ぎていくこと。また、年老いて死期が近くなること。
疾言遽色	しつげんきょしょく	1級	落ち着きがない。
執行猶予	しっこうゆうよ	追加	有罪判決を受けて刑を言い渡された者について、情状によって一定期間その刑の執行を猶予し、猶予期間を問題無く経過したときには刑を科さない制度。
失魂喪魄	しっこんそうはく	非見出し	ひどく驚き、あわてふためく。⇒失魂落魄
失魂落魄	しっこんらくはく	1級	ひどく驚き、あわてふためく。
十死一生	じっしいっしょう	5級	ほとんど助かる見込みのないところをкаろうじて命拾いすること。
実事求是	じつじきゅうぜ	4級	事実の実証にもとづいて物事の真理を追求すること。
質実剛健	しつじつごうけん	準2級	飾りけがなくまじめで、心身ともに強くたくましいこと。
失笑噴飯	しっしょうふんぱん	4級	あまりのおかしさを押さえきれずに、食べている飯を吹き出して笑ってしまうこと。
漆身吞炭	しっしんどんたん	準1級	仇討ちのためにさまざまな苦勞をすること。
失神落魄	しっしんらくはく	非見出し	ひどく驚き、あわてふためく。⇒失魂落魄
疾声大呼	しっせいたいこ	非見出し	大声で激しく叫ぶこと。⇒大声疾呼
実践躬行	じっせんきゅうこう	1級	自分自身の力で実際にすすんで行動してみること。
叱咤激励	しったげきれい	1級	大声で励まして、奮いたたせること。
叱咤督励	しったとくれい	非見出し	大声で励まして、奮いたたせること。⇒叱咤激励
十中八九	じっちゅうはっく	5級	ほとんど。
七珍万宝	しっちんまんぼう	4級	多くの宝物のこと。
疾風勁草	しっふうけいそう	1級	苦境に立ったとき、はじめてその人物の真価がわかるというたとえ。

疾風迅雷	しっふうじんらい	準2級	行動がすばやく激しいさま。
疾風怒濤	しっふうどとう	準1級	時代が激しく変化することのたとえ。
櫛風沐雨	しっふうもくう	1級	非常に苦勞することのたとえ。
櫛風浴雨	しっふうよくう	非見出し	非常に苦勞することのたとえ。⇒櫛風沐雨
失望落胆	しつぼうらくたん	3級	希望を失い、非常にがっかりすること。
耳提面訓	じていめんくん	非見出し	懇切に教え諭すことのたとえ。⇒提耳面命
耳提面命	じていめんめい	4級	懇切に教え諭すことのたとえ。⇒提耳面命
紫電一閃	しでんいつせん	準1級	刀劍などがきらめく形容。転じて、きわめて短い時間。
紫電清霜	しでんせいそう	準2級	容姿がすぐれて節操の堅い形容。
舐犢之愛	しとくのあい	1級	親が子をむやみに愛すること。
自然法爾	じねんほうに	準1級	少しも人為的な力が加わらないあるがままの姿であること。
士農工商	しのうこうしょう	5級	武士・農民・工人・商人の職分による身分階級。
慈眉善目	じびぜんもく	2級	やさしくて、善良そうな顔つきのこと。
慈悲忍辱	じひにんにく	準1級	いつくしみの心が深く、どんな苦難も耐えしのぶこと。
雌伏雄飛	しふくゆうひ	3級	将来を期して人につき従い、やがて盛んに活躍すること。
四分五割	しぶんごかつ	非見出し	ばらばらに分裂すること。⇒四分五裂
四分五剖	しぶんごぼう	非見出し	ばらばらに分裂すること。⇒四分五裂
四分五落	しぶんごらく	非見出し	ばらばらに分裂すること。⇒四分五裂
四分五裂	しぶんごれつ	3級	ばらばらに分裂すること。
資弁捷疾	しべんしょうしつ	準1級	生まれつき弁舌が巧みで、行動がすばやいこと。
自暴自棄	じぼうじき	3級	すてばちで、やけくそになる。
子墨客卿	しばくかくけい	準1級	詩文を作る人。
子墨兔毫	しばくとうごう	1級	文人。詩文をつくる人。
徒木之信	しばくのしん	1級	約束を実行するたとえ。
慈母敗子	じぼはいし	3級	教育には時には厳しさが必要なたとえ。
揣摩臆測	しまおくそく	1級	物事を自分の心だけでいいかげんに推測すること。
揣摩億測	しまおくそく	非見出し	物事を自分の心だけでいいかげんに推測すること。⇒揣摩臆測
七五三縄	しめなわ	準1級	神前や神事の場所に張る縄。
四面楚歌	しめんそか	準1級	周囲のすべての人から非難されていることのたとえ。
鴟目虎吻	しもくこふん	1級	残忍で凶暴な人相のたとえ。
四門出遊	しもんしゅつゆう	非見出し	釈迦がまだ太子であったとき、王城の四方の門から郊外に出かけ、老・病・死の苦を見て人生の無常を感じ、出家を決意したということ。⇒四門遊観
四門遊観	しもんゆうかん	5級	釈迦がまだ太子であったとき、王城の四方の門から郊外に出かけ、老・病・死の苦を見て人生の無常を感じ、出家を決意したということ。
車胤聚螢	しゃいんしゅうけい	1級	苦学のたとえ。
社燕秋鴻	しゃえんしゅうこう	準1級	出会ったかと思うとまたすぐ別れることのたとえ。
舍近求遠	しゃきんきゅうえん	5級	身近に良いものがあることがわからず、遠くまでさがし求めること。
舍近謀遠	しゃきんぼうえん	非見出し	身近に良いものがあることがわからず、遠くまでさがし求めること。⇒舍近求遠
枳根灌枝	しゃくこんかんし	準1級	大切でない部分に心を奪われて、物事の根本を忘れること。また、本質的な原因を探索しないで結果だけを問題にすること。
枳根注枝	しゃくこんちゅうし	非見出し	大切でない部分に心を奪われて、物事の根本を忘れること。また、本質的な原因を探索しないで結果だけを問題にすること。⇒枳根灌枝
杓子果報	しゃくしかほう	準1級	運にめぐまれること。
杓子定規	しゃくしじょうぎ	準1級	一つの基準ですべてを決めようとして、応用や融通がきかないこと。
鵲巢鳩居	じゃくそうきゅうきょ	1級	他人の地位を横取りすること。また、女性が嫁いで夫の家をわが家とすること。
鵲巢鳩占	じゃくそうきゅうせん	1級	他人の地位を横取りすること。また、女性が嫁いで夫の家をわが家とすること。⇒鵲巢鳩居
弱肉強食	じゃくにくきょうしょく	5級	弱い者が強い者の犠牲にされること。
弱能制強	じゃくのうせいきょう	非見出し	弱いものがかえって強い者に打ち勝つ。⇒柔能制剛

寂滅為樂	じゃくめついらく	3級	迷いから解放された悟りの境地に、真の安楽があるということ。
酌量減輕	しゃくりょうげんけい	非見出し	犯罪の諸事情を酌み量って刑罰を軽くすること。⇒情状酌量
車蚩孫雪	しゃけいそんせつ	準2級	苦学のたとえ。
社交辞令	しゃこうじれい	非見出し	口先だけのお世辞や形だけのお愛想のこと。⇒外交辞令
舍虎逢狼	しゃこほうろう	非見出し	つぎつぎと災難・危害におそわれるたとえ。⇒前虎後狼
捨根注枝	しゃこんちゅうし	準2級	大切でない部分に心を奪われて、物事の根本を忘れること。また、本質的な原因を探索しないで結果だけを問題にすること。⇒釈根灌枝
車載斗量	しゃさいとりょう	3級	人や物の数や量が多くてはかりきれないことのたとえ。
奢侈淫侠	しゃしいんいつ	1級	度をこしたぜいたくをし、不道德な楽しみにふけること。
奢侈淫逸	しゃしいんいつ	非見出し	度をこしたぜいたくをし、不道德な楽しみにふけること。⇒奢侈淫侠
奢侈文弱	しゃしぶんじゃく	1級	おごり、ぜいたくをつくし、文事ばかりにふけて、おとなしく、気がよわいこと。
洒洒落落	しゃしゃらくらく	1級	性格や言動がさっぱりしていて、物事にこだわらないさま。
灑灑落落	しゃしゃらくらく	非見出し	性格や言動がさっぱりしていて、物事にこだわらないさま。⇒洒洒落落
射将先馬	しゃしょうせんば	5級	目的を達成するためには、まず相手がよりどころとしているものを攻めるのがよいということ。
社稷之臣	しゃしょくのしん	1級	国家の重臣。
社稷之守	しゃしょくのまもり	1級	国家の守りとなる臣。
車水馬竜	しゃすいばりょう	準1級	車馬の往来のにぎやかなさま。
舍生取義	しゃせいしゅぎ	非見出し	ゆつたりと落ち着いて、恐れることなく正義のために身を投げ出すこと。⇒従容就義
射石飲羽	しゃせきいんう	4級	精神を集中して必死の思いで事にのぞめば、どんな困難なことでもできるということ。
邪説異端	じゃせついたん	3級	正統からはずれている思想・信仰・学説。⇒異端邪説
舍短取長	しゃたんしゅちょう	5級	短所や欠点をすてて、長所をのぼすこと。また、つまらないものを排除して、よいものを取りあげること。
邪智奸佞	じゃちかんねい	1級	性格がひねくれていてずるがしこいこと。⇒奸佞邪知
寂光浄土	じゃっこうじょうど	準2級	仏の住んでいる世界。
煮豆燃萁	しゃとうねんき	1級	兄弟の仲が悪く、争い合うこと。
煮豆然萁	しゃとうねんき	非見出し	兄弟の仲が悪く、争い合うこと。⇒煮豆燃萁
遮二無二	しゃにむに	準2級	がむしゃらに。
射法八節	しゃほうはっせつ	非見出し	弓道での弓を射る八段階の方則のこと。⇒弓道八節
舍本事末	しゃほんじまつ	非見出し	物事の根幹となることをおろそかにして、つまらないことに関心をもつこと。⇒舍本逐末
舍本逐末	しゃほんちくまつ	準2級	物事の根幹となることをおろそかにして、つまらないことに関心をもつこと。
捨本逐末	しゃほんちくまつ	非見出し	物事の根幹となることをおろそかにして、つまらないことに関心をもつこと。⇒舍本逐末
醜惡奸邪	しゅうあくかんじゃ	1級	非常にみにくくよこしまなこと。
醜惡姦邪	しゅうあくかんじゃ	非見出し	非常にみにくくよこしまなこと。⇒醜惡奸邪
拾遺補闕	しゅういほけつ	1級	見逃している過失をみつけて、それを正し補うこと。
縦横自在	じゅうおうじざい	非見出し	自由自在に振る舞うさま。また、思う存分振る舞うさま。⇒縦横無尽
縦横無礙	じゅうおうむげ	非見出し	自由自在に振る舞うさま。また、思う存分振る舞うさま。⇒縦横無尽
縦横無尽	じゅうおうむじん	4級	自由自在に振る舞うさま。また、思う存分振る舞うさま。
秀外惠中	しゅうがいきいちゅう	4級	容姿が美しく心もやさしいこと。また、外見が立派で心もさといこと。
自由闊達	じゅうかつたつ	1級	のびのびとして心が広く物事にこだわらないさま。
自由豁達	じゅうかつたつ	非見出し	のびのびとして心が広く物事にこだわらないさま。⇒自由闊達
衆寡不敵	しゅうかふてき	準2級	少数は多数にかなわない。
羞花閉月	しゅうかへいげつ	2級	美しい女性のこと。⇒羞月閉花
衆議一決	しゅうぎいつけつ	5級	多くの人の議論・相談の結果、意見が一致し結論が出ること。
衆蟻慕羶	しゅうぎぼせん	非見出し	人々が利益のあるところにむらがることを卑しんでいうたとえ。⇒群蟻附羶
十行俱下	じゅうぎょうぐか	非見出し	書物を読むことが速いことのたとえ。⇒一目十行
愁苦辛勤	しゅうくしんきん	準2級	ひじょうに憂え苦しむこと。

羞月閉花	しゅうげつへいか	2級	美しい女性のこと。
衆賢茅茹	しゅうけんぼうじょ	1級	多くの賢人が協力しあうこと。
衆口一致	しゅうこういち	4級	全員の言うことがぴったり合うこと。
衆口鑠金	しゅうこうしゃくきん	非見出し	多くの人々のことば、特に世評の無責任さ、恐ろしさなどをたとえた語。⇒衆蚊成雷
重厚長大	じゅうこうちょうだい	4級	どっしりとして大きいさま。
秋毫之末	しゅうごうのすえ	1級	ほんの少し。
秋高馬肥	しゅうこうばひ	5級	空高く澄み渡ったさわやかな秋の季節をいう。
十五志学	じゅうごしがく	5級	十五歳で学問の道にこころざす。
修己治人	しゅうこちじん	5級	自分に徳を積んで世を治めること。
聚散十春	しゅうさんじっしゅん	1級	別離のあとまたたくまに歳月が経過したということ。
集散離合	しゅうさんりごう	4級	離れたり集まったりすること。また、協力したり反目したりすること。⇒離合集散
終始一貫	しゅうしいっかん	3級	始めから終わりまで言動や態度が変わらないこと。
自由自在	じゅうじざい	5級	何事も思いのままにすること。
獸聚鳥散	じゅうしゅうちょうさん	1級	統率や規律のとれていない集まりのたとえ。
囚首喪面	しゅうしゅそうめん	準2級	容貌を飾らないことのたとえ。
袖手旁觀	しゅうしゅぼうかん	1級	何もしないでそばで見ていること。
袖手傍觀	しゅうしゅぼうかん	非見出し	何もしないでそばで見ていること。⇒袖手旁觀
周章狼狽	しゅうしょうろうばい	準1級	思いがけないことに出あって、あわてふためくこと。
修飾辺幅	しゅうしょくへんぷく	非見出し	うわべ(外見)を飾ること。⇒辺幅修飾
衆人環視	しゅうじんかんし	追加	多くの人が周りを取り囲んで見ていること。
修身齊家	しゅうしんせい家	準2級	自分の身を修め行いを正し円満な家庭を築くこと。
衆醉独醒	しゅうすいどくせい	2級	周囲の人はみな道はずれており、自分だけが正しいということ。
十全十美	じゅうぜんじゅうび	5級	すべてが完全で整っていること。
秋霜三尺	しゅうそうさんじゃく	準2級	研ぎすました刀剣。
秋霜烈日	しゅうそうれつじつ	準2級	刑罰・権威・意志などがきわめて厳しいたとえ。
周知徹底	しゅうちてつてい	準2級	世間一般、広くすみずみまで知れわたるようにすること。
舟中敵国	しゅうちゅうてきこく	4級	自分の味方だと思っていた側近や親近者がそむき離れるたとえ。
獸蹄鳥跡	じゅうていちょうせき	準1級	世の中が乱れてけものや鳥が横行すること。
重蹈覆轍	じゅうとうふくてつ	非見出し	先人の失敗を戒めとせず、同じ失敗を繰り返すこと。⇔前車覆轍
縦塗横抹	じゅうとおうまつ	準2級	乱暴に書きなぐること。
就毒攻毒	しゅうどくこうどく	非見出し	悪を制するのに悪を用いることのたとえ。⇒以毒制毒
終南捷徑	しゅうなんしょうけい	準1級	終南山には仕官の近道がある。また、正規の段階をふむことなく官職につく法をいう。
十人十色	じゅうにんといろ	5級	人の好みや考え方、性格などはそれぞれ違うということ。
十人十腹	じゅうにんとはら	非見出し	人の好みや考え方、性格などはそれぞれ違うということ。⇒十人十色
十年一日	じゅうねんいちじつ	5級	長年経っても変わらないこと。
十年一劍	じゅうねんいつけん	4級	長年武芸の修養をつんで、力を発揮する機会を待つこと。
十年一昔	じゅうねんひとむかし	5級	世の中の移りかわりが激しいことのたとえ。
柔能克剛	じゅうのうこくごう	非見出し	弱いものがかえって強い者に打ち勝つ。⇒柔能制剛
柔能制剛	じゅうのうせいごう	準2級	弱いものがかえって強い者に打ち勝つ。
戎馬倥傯	じゅうばこうそう	1級	戦場にあって忙しく軍務を行うこと。
十風五雨	じゅうふうごう	5級	世の中が平穏であるたとえ。⇒五風十雨
秋風索莫	しゅうふうさくばく	準1級	勢いが衰えてものさびしいさま。
秋風索漠	しゅうふうさくばく	非見出し	勢いが衰えてものさびしいさま。⇒秋風索莫
秋風索寞	しゅうふうさくばく	非見出し	勢いが衰えてものさびしいさま。⇒秋風索莫

秋風寂莫	しゅうふうせきばく	非見出し	勢いが衰えてものさびしいさま。⇒秋風索莫
秋風落莫	しゅうふうらくばく	準1級	勢いが衰えてものさびしいさま。⇒秋風索莫
秋風凜冽	しゅうふうりんれつ	非見出し	秋の風のきびしくつめたいさま。⇒秋風冽冽
秋風冽冽	しゅうふうれつれつ	1級	秋の風のきびしくつめたいさま。
秋風冽冽	しゅうふうれつれつ	非見出し	秋の風のきびしくつめたいさま。⇒秋風冽冽
衆蚊成雷	しゅうぶんせいらい	1級	小さなものもたくさん集まると大きな力になるということ。また、多くの人が口をそろえて言いたてて、害悪を生じること。
自由奔放	じゅうほんぼう	準2級	気がねなしに自分の思うままに行動するさま。
十万億土	じゅうまんおくど	5級	極楽浄土のこと。
衆妙之門	しゅうみょうのもん	準1級	万物の出てくる根源。
自由無礙	じゅうむげ	非見出し	何事も思いのままにすること。⇒自由自在
襲名披露	しゅうめいひろう	準2級	親または師匠の名前を継いだことを公表すること。
戢鱗潜翼	しゅうりんせんよく	配当外	志を抱いて時機の到来をじっと待つたとえ。
酒甕飯囊	しゅおうはんのう	1級	無知無能の人。
主客転倒	しゅかくてんとう	4級	物事の順序・立場・重要度などが逆転すること。
主客顛倒	しゅかくてんとう	非見出し	物事の順序・立場・重要度などが逆転すること。⇒主客転倒
樹下石上	じゅかせきじょう	5級	出家行脚の境遇のこと。
縮衣節食	しゅくいせつしょく	5級	節約・儉約すること。
夙興夜寢	しゅくこうやしん	準1級	朝は早く起き、夜はおそく寝て、日夜、職務に精励すること。
夙興夜寐	しゅくこうやび	非見出し	朝は早く起き、夜はおそく寝て、日夜、職務に精励すること。⇒夙興夜寢
熟思黙想	じゅくしもくそう	4級	物事を沈黙してじっくりと考えること。
縮地補天	しゅくちほてん	5級	政治上の改革を行うこと。
熟読玩味	じゅくどくがんみ	2級	文章の意味をじっくり考えて読み味わうこと。
夙夜夢寤	しゅくやむご	非見出し	朝早くから夜おそくまで。また、寝てもさめても、終日絶えずということ。⇒夙夜夢寐
夙夜夢寐	しゅくやむび	1級	朝早くから夜おそくまで。また、寝てもさめても、終日絶えずということ。
熟慮断行	じゅくりょだんこう	4級	よくよく考えたうえで、思いきって実行すること。
主権在民	しゅけんざいみん	追加	国を統治する最高権力が、国民にあるという考え。
輸攻墨守	しゅこうぼくしゅ	準1級	攻める方も守る方も知略を尽くすたとえ。
取捨選択	しゅしゃせんたく	3級	必要なものを取り不必要なものを捨てて選ぶ。
珠襦玉匣	しゅじゅぎょっこう	1級	美しいもののたとえ。
種種雑多	しゅじゅざった	5級	いろいろなものが入り混じっていること。
種種様様	しゅじゅさまざま	非見出し	いろいろなものが入り混じっていること。⇒種種雑多
守株待兔	しゅしゅたいと	準1級	古いしきたりにとらわれて融通がきかないこと。また、偶然の幸運をあてにすること。
衆生済度	しゅじょうさいど	準2級	仏道によって生きているものすべてを迷いから救い、悟りの境地へ導くこと。
酒色財氣	しゅしょくざいき	非見出し	心身に害を及ぼす事物のたとえ。女色におぼれたり、偶然の幸運をあてにすること。⇒伐性之斧
首施両端	しゅしりょうたん	非見出し	どっちつかずの曖昧な態度。⇒首鼠両端
朱脣皓齒	しゅしんこうし	1級	美人の形容。
朱脣皓齒	しゅしんこうし	非見出し	美人の形容。⇒朱脣皓齒
殊俗埽風	しゅぞくきふう	非見出し	異郷の異なる風俗や習慣に従い染まること。⇒入境問禁
寿則多辱	じゅそくたじよく	3級	長生きをするということは、それだけ恥をかくことも多いということ。
首鼠両端	しゅそりょうたん	準1級	どっちつかずの曖昧な態度。
受胎告知	じゅたいこくち	3級	キリスト教で、天使ガブリエルが聖母マリアにキリストのみごもりを告げたこと。
酒池肉林	しゅちにくりん	5級	ぜいたくの限りを尽くした豪奢な宴会。
取長補短	しゅちょうほたん	非見出し	人の長所をとり入れ、自分の短所を補うこと。⇒採長補短
朮羹艾酒	じゅっこうがいしゅ	1級	朮でつくった羹(吸い物)とよもぎがはいった酒のこと。

出谷遷喬	しゅつこくせんきょう	準1級	出世すること。
出将入相	しゅつしょうにゅうしょう	4級	文武の才を兼ね備えた人物のたとえ。
出处進退	しゅつしよしんたい	5級	現在の職にとどまるか辞めてしまうかという身のふり方。
出藍之誉	しゅつらんのほまれ	準1級	弟子が師よりもまさるたとえ。
殊塗同帰	しゅとどうき	3級	帰着するところは同じだが、そこに到る道が異なること。
酒囊飯袋	しゅのうはんたい	準1級	無知無能の人。⇒酒囊飯囊
首尾一貫	しゅびいっかん	3級	初めから終わりまで、方針や態度が変わらないこと。
首尾相応	しゅびそうおう	非見出し	初めから終わりまで、方針や態度が変わらないこと。⇒首尾一貫
手舞足踏	しゅぶそくとう	4級	うれしくて思わず小躍りすることのたとえ。
朱墨爛然	しゅぼくらんぜん	1級	学問や研究に専念することのたとえ。
儒名墨行	じゅめいぼくこう	非見出し	表面は儒者と称しながら、実際には墨子の教えに合った行いをする事。⇔墨名儒行
儒林棟梁	じゅりんのとうりょう	準1級	儒学者の世界で、重任にある人のこと。
珠聯玉映	しゅれんぎよくえい	非見出し	りっぱな才能のある人々が集まるたとえ。⇒珠聯璧合
珠聯璧合	しゅれんへきごう	準1級	りっぱな才能のある人々が集まるたとえ。
珠連璧合	しゅれんへきごう	非見出し	りっぱな才能のある人々が集まるたとえ。⇒珠聯璧合
株連蔓引	しゅれんまんいん	準1級	株やつるがつらなっているように、関係した者が残らず罰せられること。
春蛙秋蟬	しゅんあしゅうぜん	準1級	無用の言論。
純一無雜	じゅんいつむざつ	5級	まったく混じりけがないこと。また、性質がすなおで偽りや邪念がない人物のこと。
春蚓秋蛇	しゅんいんしゅうだ	追加	悪筆のたとえ。
春花秋月	しゅんかしゅうげつ	非見出し	自然の風景・風物。自然の美しさのたとえ。⇒花鳥風月
春寒料峭	しゅんかんりょうしょう	1級	春になっても寒さが残り、春風が肌にうすら寒く感じられるさま。
蓴羹鱸膾	じゅんこうろかい	1級	故郷を懐かしく思う情。
春恨秋懷	しゅんこんしゅうかい	非見出し	春の日の物憂さと秋の日の物思い。⇒春愁秋思
舜日堯年	しゅんじつぎょうねん	準1級	天下太平で盛んな世の中。
春日遲遲	しゅんじつちち	4級	春の日が長く、のどかなさま。
春愁秋思	しゅんしゅうしゅうし	準2級	春の日の物憂さと秋の日の物思い。
春秋筆削	しゅんじゅうのひっさく	非見出し	言葉づかいや文章の細やかな筆づかいの中に賞賛や批判の意味を暗に含ませること。また、公正な態度で厳しく批判すること。⇒春秋筆法
春秋筆法	しゅんじゅうのひっぽう	5級	言葉づかいや文章の細やかな筆づかいの中に賞賛や批判の意味を暗に含ませること。また、公正な態度で厳しく批判すること。
春樹暮雲	しゅんじゅぼうん	非見出し	遠くの友を切になつかしむ情。⇒暮雲春樹
春宵一刻	しゅんしょういつこく	準2級	春の夜は何よりも趣深く、その一刻はなにものにもかえがたい価値があるということ。
純情可憐	じゅんじょうかれん	準1級	すなおで邪念がなく清らかで愛らしい。
循常習故	じゅんじょうしゅうこ	非見出し	今までのやり方を受け継いでそのとおりにしてゆくこと。⇒蹈常襲故
純真可憐	じゅんしんかれん	非見出し	すなおで邪念がなく清らかで愛らしい。⇒純情可憐
純真無垢	じゅんしんむく	準1級	けがれの無い心を持っていること。
純粹無垢	じゅんすいむく	非見出し	けがれの無い心を持っていること。⇒純真無垢
駿足長阪	しゅんそくちょうはん	準1級	すぐれた人物が、困難を恐れずに自分の才能を試してみたいと思うこと。
駿足長坂	しゅんそくちょうはん	非見出し	すぐれた人物が、困難を恐れずに自分の才能を試してみたいと思うこと。⇒駿足長阪
準備万端	じゅんびばんたん	追加	諸般の準備、あるいは準備の全て、などの意味の表現。一般的には、準備万端整っているさま、万全の用意ができている状態などを意味するものとして用いられる。
春風駘蕩	しゅんぷうたいとう	1級	何事もなく平穏なさま。また、穏和でのんびりとした人柄のこと。
醇風美俗	じゅんぷうびぞく	準1級	人情が厚くうるわしい風俗や習慣。
淳風美俗	じゅんぷうびぞく	非見出し	人情が厚くうるわしい風俗や習慣。⇒醇風美俗
順風満帆	じゅんぷうまんぱん	3級	物事がすべて順調に進んでいるさま。
春風満面	しゅんぷうまんめん	非見出し	顔いっぱいに喜びの表情があふれているようす。⇒喜色満面
順理成章	じゅんりせいしょう	非見出し	話や考えの筋道がよく通っていること。⇒理路整然

春和景明	しゅんわけいめい	5級	穏やかでひざしが明るい春の陽気のこと。
叙位叙勲	じょいじょくん	準2級	位を授けたり、勲等により勲記・勲章を授けたりすること。また、位を与えられたり、勲記・勲章を与えられたりすること。
上意下達	じょういかたつ	5級	上の者の意志や命令を、下の者によく徹底させること。
宵衣旰食	しょういかんしょく	1級	天子が朝早くから夜遅くまで熱心に政治にはげむこと。
情意投合	じょういとうごう	5級	お互いの気持ちがよく通じ合うこと。
冗員淘汰	じょういんとうた	準1級	官庁などでむだな人員を整理すること。
上援下推	じょうえんかすい	4級	適任者として上から引き立てられ、下からも推されること。
硝煙彈雨	しょうえんだんう	準2級	戦闘が非常に激しいこと。
硝烟彈雨	しょうえんだんう	非見出し	戦闘が非常に激しいこと。⇒硝煙彈雨
上下一心	しょうかいっしん	準2級	身分の上下にかかわらず一致団結すること。
上下天光	しょうかてんこう	準2級	空も水も一様に光り輝くこと。
傷化敗俗	しょうかはいぞく	非見出し	風紀を乱して社会に害を及ぼすこと。⇒傷風敗俗
小家碧玉	しょうかへきぎょく	準1級	貧しい家庭に育った美しい娘のこと。また、とるにたりないような家の大事な宝物のこと。
商鑑不遠	しょうかんふえん	非見出し	失敗を戒める例は近くにあるたとえ。⇒殷鑑不遠
上求菩提	じょうぐぼだい	準1級	菩薩が上に向かって悟りの道を求めること。
笙磬同音	しょうけいどうおん	1級	人が心を合わせて仲良くするたとえ。
小隙沈舟	しょうげきちんしゅう	非見出し	ほんの些細なことが、大きな事件や事故の原因となること。⇒螻蟻潰堤
条件反射	じょうけんはんしゃ	追加	ある刺激を与えたときに、決まって引き起こされる一定の体の反応のこと。
証拠隠滅	しょうこいんめつ	3級	事実を証明する根拠となるものをなくすこと。
証拠堙滅	しょうこいんめつ	非見出し	事実を証明する根拠となるものをなくすこと。⇒証拠隠滅
証拠湮滅	しょうこいんめつ	非見出し	事実を証明する根拠となるものをなくすこと。⇒証拠隠滅
上行下効	じょうこうかこう	5級	上の者がすると、下の者がそれを見習うこと。
上行下従	じょうこうかじゅう	非見出し	上の者がすると、下の者がそれを見習うこと。⇒上行下効
小国寡民	しょうこくかみん	準2級	国土が小さくて、人口が少ないこと。
城狐社鼠	じょうこしゃそ	準1級	権力者のかげに隠れて悪事をはたらく者のたとえ。
常山蛇陣	じょうざんだじん	非見出し	どこから見てもすきや欠点がないこと。⇒常山蛇勢
商山四皓	しょうざんのしこう	1級	商山に隠れた四人の老人。
常山蛇勢	じょうざんのだせい	準2級	どこから見てもすきや欠点がないこと。
生死事大	しょうじじだい	5級	人の世は、無常でうつろいやすいこと。
笑止千万	しょうしせんばん	4級	非常にくだらなくて、ばかばかしいこと。
生死無常	しょうじむじょう	非見出し	人の世は、無常でうつろいやすいこと。⇒生死事大
銷鑠縮栗	しょうしゃくしゅくりつ	1級	意気が阻喪して縮み上がっておそれること。
乗車之会	じょうしゃのかい	非見出し	武力によって諸侯を会合させること。⇒兵車之会
盛者必衰	じょうしゃひっすい	準2級	勢いの盛んな者はいつか必ず衰えること。
生者必滅	しょうじゃひつめつ	3級	生きているものは必ず死ぬこと。
盛者必滅	じょうしゃひつめつ	非見出し	勢いの盛んな者はいつか必ず衰えること。⇒盛者必衰
常住坐臥	じょうじゅうざが	準1級	座っているときも寝ているときも。いつも。また、ふだん・平生。
常住不断	じょうじゅうふだん	5級	ずっと続いていて絶えないこと。
漿酒霍肉	しょうしゅかくにく	1級	非常にぜいたくなことのたとえ。
晝牀架屋	じょうしょうかおく	1級	余計なことを重ね行うことのたとえ。
咕囁耳語	しょうしょうじご	非見出し	ひそひそ話のこと。⇒交頭接耳
牀上施牀	しょうじょうししょう	1級	重複すること、余計なことをするたとえ。
清浄寂滅	しょうじょうじゃくめつ	準2級	道家の教えと仏家の教え。
情状酌量	じょうじょうしゃくりょう	準2級	犯罪の諸事情を酌み量って刑罰を軽くすること。

生生世世	しょうじょうせぜ	5級	未来永劫、いつまでも。
霄壤之差	しょうじょうのさ	非見出し	物事の隔たりがはなはだしく大きいことのたとえ。⇒天淵之差
瀟湘八景	しょうしょうはっけい	1級	瀟湘付近の景色のよい八つの場所。
掌上明珠	しょうじょうめいしゅ	非見出し	自分にとって最も大切なもののこと。また、最愛の妻や子供のこと。⇒掌中之珠
相如四壁	しょうじょしへき	3級	貧しいことのたとえ。
情緒纏綿	じょうしよてんめん	準1級	感情がいつまでもまつわりついて離れないさま。
生死流転	しょうじるてん	準2級	生と死をくり返すこと。
小人閑居	しょうじんかんきょ	準2級	つまらない人間は、人目につかずひとりでぶらぶらしていると、とかくよくないことをしがちである。
小人間居	しょうじんかんきょ	非見出し	つまらない人間は、人目につかずひとりでぶらぶらしていると、とかくよくないことをしがちである。⇒小人閑居
焦唇乾舌	しょうしんかんぜつ	準2級	非常に悩み苦しむこと。
焦唇乾舌	しょうしんかんぜつ	非見出し	非常に悩み苦しむこと。⇒焦唇乾舌
焦心苦慮	しょうしんくりょ	3級	気をもんであれこれ考え苦しむこと。
精進潔斎	しょうじんけっさい	準2級	飲食を慎み、心身を清めてけがれのない平静な状態にしておくこと。
小心狷介	しょうしんけんかい	非見出し	固く志を守って世俗を受け容れないこと。⇒狷介固陋
正真正銘	しょうしんしょうめい	準2級	まったくうそ偽りがなく、本物であること。
小人之勇	しょうじんのゆう	準1級	血気にはやるあさはかな勇氣。
小心翼翼	しょうしんよくよく	4級	気が小さくて、びくびくしているさま。
剩水残山	じょうすいざんざん	準2級	戦乱のあとに残った荒廃した山や川の自然。
小水之魚	しょうすいのうお	非見出し	危機や困難が目の前にさしせまっていること。また、窮地に立たされた人のたとえ。⇒涸轍鮒魚
匠石運斤	しょうせきうんきん	非見出し	人間離れたすばらしい技術のこと。⇒運斤成風
支葉碩茂	しょうせきも	準1級	支族まで繁栄する。本家はもとより分家まで栄えること。
枝葉碩茂	しょうせきも	非見出し	支族まで繁栄する。本家はもとより分家まで栄えること。⇒支葉碩茂
饒舌多弁	じょうぜつたべん	非見出し	口数がたいへん多いさま。おしゃべり。口が達者なこと。⇔沈黙寡言
少壮気鋭	しょうそうきえい	準2級	年が若く意気盛んであること。
少壮有為	しょうそうゆうい	非見出し	ある分野に新しく登場し、意気込みが盛んで将来性があること。⇒新進気鋭
消息盈虚	しょうそくえいきょ	準1級	時の移り変わり。
躡足附耳	じょうそくふじ	1級	人に注意する場合には、相手の立場を考え相手を傷つけないような配慮が必要であるということ。
称体裁衣	しょうたいさいい	非見出し	状況に応じて物事を現実的に処理すること。⇒量体裁衣
掌中之珠	しょうちゅうのたま	準1級	自分にとって最も大切なもののこと。また、最愛の妻や子供のこと。
笑中有刀	しょうちゅうゆうとう	非見出し	表面は柔和で当たりがよいが、ひそかに悪意を抱いていること。⇒綿裏包針
常套手段	じょうとうしゅだん	準1級	いつも決まるとられる手段。
焦頭爛額	しょうとうらんがく	1級	根本を忘れ瑣末なことを重視すること。また、物事を非常に苦勞してすること。
燃頭爛額	しょうとうらんがく	非見出し	根本を忘れ瑣末なことを重視すること。また、物事を非常に苦勞してすること。⇒焦頭爛額
浄土往生	じょうどおうじょう	非見出し	この世を去ってのち、極楽浄土に生まれかわることまた、安らかに死ぬこと。⇒極楽往生
松柏之質	しょうはくのしつ	非見出し	体の強いことのたとえ。また、節操や意志のきわめて固い氣質のたとえ。⇔蒲柳之質
松柏之寿	しょうはくのじゅ	準1級	ながいき。
松柏之操	しょうはくのみさお	非見出し	逆境にあっても志や節操を変えないたとえ。⇒歳寒松柏
賞罰之柄	しょうばつのへい	準1級	賞罰を行う権力。
笑比河清	しょうひかせい	4級	厳格でほとんど笑顔を見せないこと。
攘臂疾言	じょうひしつげん	1級	得意なさま。
焦眉之急	しょうびのきゅう	準1級	非常にさし迫った急務。
烧眉之急	しょうびのきゅう	非見出し	非常にさし迫った急務。⇒焦眉之急
常備不懈	じょうびふかい	1級	日ごろから気をゆるめることなく準備を整えておくこと。
蕉風俳諧	しょうふうはいかい	準1級	江戸時代の俳人、松尾芭蕉およびその一派の俳諧のこと。

正風俳諧	しょうふうはいかい	非見出し	江戸時代の俳人、松尾芭蕉およびその一派の俳諧のこと。⇒蕉風俳諧
傷風敗俗	しょうふうはいぞく	4級	風紀を乱して社会に害を及ぼすこと。
乗風破浪	じょうふうはろう	非見出し	物事がすべて順調に進んでいるさま。⇒順風満帆
嘯風弄月	しょうふうろうげつ	1級	自然の風景に親しみ、風流を好んで楽しむこと。
蕭敷艾栄	しょうふがいえい	非見出し	何の取り柄もない者が漠然と生きることをいう。⇔蘭摧玉折
昭穆倫序	しょうぼくりんじょ	準1級	廟の昭穆には一定の序列があること。
枝葉末節	しょうまつせつ	準2級	本質からはずれた些細なこと。
枝葉末端	しょうまつたん	非見出し	本質からはずれた些細なこと。⇒枝葉末節
上命下達	じょうめいかたつ	非見出し	上の者の意志や命令を、下の者によく徹底させること。⇒上意下達
鐘鳴鼎食	しょうめいていしょく	準1級	富貴の人の生活。
生滅滅已	しょうめつめつい	1級	生と滅、生きることと死ぬことがなくなって、ともに存しないこと。
笑面夜叉	しょうめんやしや	準1級	顔は笑っていても心の底に一物あること。
笑面老虎	しょうめんろうこ	非見出し	顔は笑っていても心の底に一物あること。⇒笑面夜叉
将門有将	しょうもんゆうしょう	5級	立派な家柄からは必ずすぐれた人材が出るということ。
相門有相	しょうもんゆうしょう	非見出し	立派な家柄からは必ずすぐれた人材が出るということ。⇒将門有将
逍遙自在	しょうようじざい	1級	俗事をはなれて気ままに楽しむこと。
従容就義	しょうようしゅうぎ	準2級	ゆったりと落ち着いて、恐れることなく正義のために身を投げ出すこと。
縦容就義	しょうようしゅうぎ	非見出し	ゆったりと落ち着いて、恐れることなく正義のために身を投げ出すこと。⇒従容就義
従容不迫	しょうようふはく	準2級	ゆったりと落ち着いていて、あわてないこと。
縦容不迫	しょうようふはく	非見出し	ゆったりと落ち着いていて、あわてないこと。⇒従容不迫
逍遙法外	しょうようほうがい	1級	法律を犯した者が罰を受けないで自由に生活していること。
乗輿車駕	じょうよしやが	準1級	天子の乗る車。天子の使う物。転じて、天子のこと。
乗輿播越	じょうよはえつ	準1級	天子が都を落ちのびて他国をさすらうこと。
笑裏蔵刀	しょうりぞうとう	5級	外見はおだやかでやさしそうでありながら、内心は陰険なものをもつこと。
小利大害	しょうりたいがい	非見出し	わずかの利益を得ようとして、かえって大損をしてしまうこと。⇒小利大損
小利大損	しょうりだいそん	5級	わずかの利益を得ようとして、かえって大損をしてしまうこと。
常鱗凡介	じょうりんぼんかい	準1級	ごくありふれた人のたとえ。凡人。
上漏下湿	じょうろうかしゅう	準1級	貧乏なあばら屋のさま。
生老病死	しょうろうびょうし	5級	人として免かれえない四つの苦悩のこと。
上漏旁風	じょうろうぼうふう	非見出し	貧乏なあばら屋のさま。⇒上漏下湿
除旧更新	じょきゅうこうしん	非見出し	古いものを排除し、新しいものを取り入れること。⇒吐故納新
杵臼之交	しよきゅうのまじわり	準1級	身分にこだわらない交際。
諸行無常	しよぎょうむじょう	5級	人生ははかないものであるという仏教の根本思想。
食牛之氣	しよくぎゅうのき	非見出し	気持ちが広く大きいこと。⇒吞牛之氣
食玉炊桂	しよくぎょくすいけい	非見出し	よそから物価高の土地に来て、生活に苦勞すること。⇒桂玉之艱
食前方丈	しよくぜんほうじょう	4級	ひじょうにぜいたくな食事のこと。
嗇夫利口	しよくふりこう	1級	身分は低いが、口が達者な男のこと。
初志貫徹	しよしかんてつ	準2級	初めに思い立った志を、最後まで貫き通すこと。
諸子百家	しよしひゃっか	5級	中国の春秋戦国時代に活躍した多くの学者や学派、またその著書の総称。
練裳竹筥	しよしょうちくし	配当外	娘の嫁入り仕度を謙遜するという語。
所所在在	しよしよざいざい	非見出し	あちらこちら。また、いたるところ。⇒在在所所
処女脱兎	しよじょだっと	準1級	始めはたいしたことのないように見せかけて、後には見違えるほどの力を発揮するたとえ。
处处方方	しよしよほうほう	非見出し	あちらこちら。また、いたるところ。⇒在在所所
諸説紛紛	しよせつふんぷん	3級	いろいろな意見や説が入り乱れてまとまりがつかないさま。

諸説芬芬	しょせつふんぷん	非見出し	いろいろな意見や説が入り乱れてまとまりがつかないさま。⇒諸説紛紛
助長拔苗	じょちょうばつびょう	準2級	成長を助けようとして力をかすことがかえって成長を妨げること。
助長補短	じょちょうほたん	非見出し	人の長所をとり入れ、自分の短所を補うこと。⇒採長補短
蜀犬吠日	しょっけんはいじつ	1級	教養のない者が、わかりもしないのに賢者の言行を非難すること。
職権濫用	しょっけんらんよう	3級	公務員などが職務にかこつけて、実際には職務でない行為を不当に行うこと。
職権乱用	しょっけんらんよう	非見出し	公務員などが職務にかこつけて、実際には職務でない行為を不当に行うこと。⇒職権濫用
初転法輪	しょてんぼうりん	5級	釈尊が悟りを開いたのち、はじめて行った鹿野苑の説法のこと。
初唐四傑	しょとうのしけつ	非見出し	初唐の四人の詩の大家。王勃、楊炯、盧照鄰、駱賓王。⇒王楊盧駱
諸法無我	しょほうむが	4級	いかなる存在も不変の本質を有しないという仏教の根本思想。
黍離之歎	しよりのたん	準1級	国が滅びたことの嘆き。
除狼得虎	じょろうとくこ	非見出し	つぎつぎと災難・危害におそわれるたとえ。⇒前虎後狼
白河夜船	しらかわよふね	5級	知ったかぶりをいう。また、何も知らないほど、ぐっすり寝こんでしまうこと。
白河夜舟	しらかわよふね	非見出し	知ったかぶりをいう。また、何も知らないほど、ぐっすり寝こんでしまうこと。⇒白河夜船
白川夜船	しらかわよふね	非見出し	知ったかぶりをいう。また、何も知らないほど、ぐっすり寝こんでしまうこと。⇒白河夜船
白波之賊	しらなみのぞく	非見出し	盗賊の異名。⇒緑林白波
芝蘭玉樹	しらんぎょくじゅ	準1級	すぐれた人材。すぐれた子弟。
芝蘭結契	しらんけっけい	準1級	美しくうるわしい交際。⇒芝蘭之交
芝蘭之室	しらんのしつ	準1級	善人(良き友)のたとえ。
芝蘭之交	しらんのまじわり	準1級	美しくうるわしい交際。
自力更生	じりきこうせい	4級	他人に頼らず自分の力で生活を改めていくこと。
自力甦生	じりきこうせい	非見出し	他人に頼らず自分の力で生活を改めていくこと。⇒自力更生
私利私欲	しりしよく	5級	自分の利益だけを考えて行動しようとする欲望。
私利私慾	しりしよく	非見出し	自分の利益だけを考えて行動しようとする欲望。⇒私利私欲
至理名言	しりめいげん	5級	きわめて道理にかなったすぐれた言葉のこと。
事理明白	じりめいはく	5級	物事の道理・筋道がきわめてはっきりしている。
支離滅裂	しりめつれつ	3級	ばらばらで筋道が立っていないこと。
持梁齒肥	じりょうしひ	1級	ご馳走を食べること。また、ご馳走を食べられる身分になること。
思慮分別	しりょふんべつ	4級	物事に深く考えをめぐらし判断すること。
緇林杏壇	しりんきょうだん	1級	学問所・講堂のこと。
砥礪切磋	しれいせっさ	1級	つとめみがく。学問や品性をはげみ修養して大成を期すること。
眚裂髮指	しれつはっし	1級	激しくいきどおるさま。
指鹿為馬	しろくいば	準1級	道理の通らないことを無理に押し通すこと。また、間違いを認めず押し通すこと。
四六時中	しろくじちゅう	5級	一日じゅう。いつも。
尸禄素餐	しろくそさん	非見出し	ある地位にいて職責を果たさずにむだに禄をもらっていること。⇒尸位素餐
四六駢儷	しろくべんれい	1級	四字句と六字句の対句を多く用いた修辭的な文体。
人為淘汰	じんいとうた	準1級	動植物の遺伝・突然変異を利用して人工的に優秀な新種を作ること。
人員整理	じんいんせいり	非見出し	官庁などでむだな人員を整理すること。⇒冗員淘汰
神韻縹渺	しんいんひょうびょう	1級	芸術作品のもつたいそう奥深くすぐれた趣のこと。
神韻縹眇	しんいんひょうびょう	非見出し	芸術作品のもつたいそう奥深くすぐれた趣のこと。⇒神韻縹渺
神韻縹緲	しんいんひょうびょう	非見出し	芸術作品のもつたいそう奥深くすぐれた趣のこと。⇒神韻縹渺
心猿意馬	しんえんいば	準2級	煩惱や妄念のために心が乱れ落ち着かないことのたとえ。
人海作戰	じんかいさくせん	非見出し	多数の人員を投じて仕事を完成させること。⇒人海戦術
人海戦術	じんかいせんじゅつ	5級	多数の人員を投じて仕事を完成させること。
心願成就	しんがんじょうじゅ	準2級	神仏などに心から念じていると願いはかなえられる。

人間青山	じんかんせいざん	5級	世の中は広いので、志を貫くには故郷を離れてどこに死に場所を求めようともかまわないこと。
心寛体舒	しんかんたいじょ	非見出し	心が広く穏やかであれば、外見上の体もゆったりと落ち着いて見えるということ。⇒心広体胖
心機一転	しんきいつてん	5級	なにかをきっかけとして、気持ちがすっかり変わること。
心悸亢進	しんきこうしん	1級	心臓の鼓動が速く激しくなること。
心悸昂進	しんきこうしん	非見出し	心臓の鼓動が速く激しくなること。⇒心悸亢進
新鬼故鬼	しんきこき	4級	新たに死んで靈魂となったものと昔からの靈魂。
神機妙算	しんきみょうさん	4級	人知では思いつかないようなすばらしいはかりごと。
神機妙道	しんきみょうどう	非見出し	人知では思いつかないようなすばらしいはかりごと。⇒神機妙算
新旧交替	しんきゅうこうたい	非見出し	古いものを排除し、新しいものを取り入れること。⇒吐故納新
晨去暮来	しんきよぼらい	1級	朝方に去って夕暮れにもどる。
辛苦遭逢	しんくそうほう	準1級	ひどい困難や苦しみにてあうこと。
身軽言微	しんけいげんび	4級	身分が低くて、言うことが人に重んじられないこと。
神経衰弱	しんけいすいじゃく	非見出し	精神が衰弱して判断力が乏しくなり正常な行動ができないこと。⇒心神耗弱
人権蹂躪	じんけんじゅうりん	1級	国家が国民の基本的人権を侵害すること。また、強い立場の者が弱い立場の者の人権を侵犯すること。
真剣勝負	しんけんしょうぶ	追加	全力を出して本気になって立ち向かうこと。
身言書判	しんげんしょはん	5級	人物を登用するときの基準とするもの。
人権侵害	じんけんしんがい	非見出し	国家が国民の基本的人権を侵害すること。また、強い立場の者が弱い立場の者の人権を侵犯すること。⇒人権蹂躪
心慌意乱	しんこういらん	準2級	あわてふためいて何がなんだかわからなくなる。
信口開河	しんこうかいが	非見出し	一度口にしたことをすぐ取り消し訂正するたとえ。転じてでまかせをいうこと。⇒口中雌黄
人口膾炙	じんこうかいしゃ	1級	広く世間の評判となり、もてはやされていること。⇒膾炙人口
神工鬼斧	しんこうきふ	準1級	人間わざとは思えないほどすぐれた細工や作品のこと。
深溝高壘	しんこうこうるい	準2級	深い堀割と高いとりで。堅固な城塞。また、守りの堅牢なこと。
信口雌黄	しんこうしおう	非見出し	一度口にしたことをすぐ取り消し訂正するたとえ。転じてでまかせをいうこと。⇒口中雌黄
心広体胖	しんこうたいはん	1級	心が広く穏やかであれば、外見上の体もゆったりと落ち着いて見えるということ。
人口稠密	じんこうちゅうみつ	1級	人や人家がびっしりとすきまなく集まっていること。
塵黄土飯	じんこうとはん	非見出し	実際にはなんの役にも立たないもの、とるに足りないもののこと。⇒塵飯塗羹
深根固柢	しんこんこてい	1級	物事の基礎をしっかりと固めること。
深根固蒂	しんこんこてい	非見出し	物事の基礎をしっかりと固めること。⇒深根固柢
尋言逐語	じんごんちくご	非見出し	こまかいところに気をとられ、大局的な物の見方ができないこと。⇒尋章摘句
神采英拔	しんさいえいばつ	2級	心も風采も、人にぬきん出てすぐれていること。
神彩英拔	しんさいえいばつ	非見出し	心も風采も、人にぬきん出てすぐれていること。⇒神采英拔
神算鬼謀	しんさんきぼう	3級	人間離れした巧みな計略のこと。
深山幽谷	しんざんゆうこく	3級	人が踏み入れていない、奥深く静かな自然のこと。
慎始敬終	しんしけいしゅう	4級	物事を始めから終わりまで気を引き締めてやりとおすこと。
心地公明	しんじこうめい	非見出し	心が清らかで正しく広いこと。⇒心地光明
参差錯落	しんしさくらく	準1級	ふぞろいな物が入り混じっているさま。
紳士淑女	しんししゅくじょ	準2級	教養があり、品格があって、礼儀正しい男性と女性のこと。
真実一路	しんじついちろ	5級	嘘いつわりのないまことひとすじ。
人事天命	じんじてんめい	5級	人間として最善の努力を尽くして、結果は静かに運命にまかせること。
参差不齐	しんしふせい	非見出し	ふぞろいな物が入り混じっているさま。⇒参差錯落
人事不省	じんじふせい	5級	病気や怪我などで意識を失うこと。
脣齒輔車	しんしほしや	1級	お互いに助け合う密接な関係。⇒輔車脣齒
斟酌折衷	しんしゃくせつちゅう	1級	事情をくみとってほどよくはからい、その中をとること。
斟酌折中	しんしゃくせつちゅう	非見出し	事情をくみとってほどよくはからい、その中をとること。⇒斟酌折衷

仁者不憂	じんしゃふゆう	3級	仁徳者は常に正しい道を行くので悩むことがない。
仁者無敵	じんしゃむてき	5級	仁徳者には天下に敵対する者のないことをいう。
仁者楽山	じんしゃらくざん	5級	仁徳者は安らかにゆったりとして心が動くことがないから、どっしりと安定して動かない山を愛する。
進取果敢	しんしゅかかん	3級	物事に積極的に取り組み、決断力に富んでいること。
人主逆鱗	じんしゅげきりん	準1級	君主や権力者のひどい怒りを買うことのたとえ。
神出鬼行	しんしゅつきこう	非見出し	出入りが速くて、出没が予測できないこと。⇒鬼出電入
神出鬼没	しんしゅつきぼつ	3級	すばやく現れたり隠れたりすること。
浸潤之譖	しんじゅんのそしり	1級	水が次第に物にしみこむように、中傷の言葉が徐々に深く信じられるようになること。
尋常一様	じんじょういちよう	4級	他と変わりなく、ごくあたりまえなさま。
尋章摘句	じんしょうてきく	4級	こまかいところに気をとられ、大局的な物の見方ができないこと。
参商之隔	しんしょうのへだて	準1級	遠く離れて会うことのないたとえ。また夫婦や兄弟の別離や仲たがいのたとえ。
信賞必罰	しんしょうひつばつ	4級	賞罰を厳正に行うこと。
針小棒大	しんしょうぼうだい	5級	物事を実際より大げさにいう。
神色自若	しんしょくじじやく	4級	落ち着いて顔色一つ変えないさま。
心織筆耕	しんしょくひっこう	準2級	文筆で生活すること。
身心一如	しんしんいちによ	準2級	仏教で、肉体と精神は分けることができないもので、一つのものの両面であるということ。
心身一如	しんしんいちによ	非見出し	仏教で、肉体と精神は分けることができないもので、一つのものの両面であるということ。⇒身心一如
人心一新	じんしんいつしん	5級	人々の気持ちをすっかり新しくすること。
薪尽火滅	しんじんかめつ	3級	人が死ぬこと。
新進気鋭	しんしんきえい	4級	ある分野に新しく登場し、意気込みが盛んで将来性があること。
人心洶洶	じんしんきょうきょう	1級	世間の人々の心が騒ぎ動揺すること。
心神耗弱	しんしんこうじゃく	準2級	精神が衰弱して判断力が乏しくなり正常な行動ができないこと。
人心収攬	じんしんしゅうらん	1級	多くの人の気持ちをうまくつかんでまとめること。また、人々の信頼を得ること。
人心大快	じんしんたいかい	非見出し	人々を痛快な気持ちにさせる。⇒大快人心
真人大観	しんじんたいかん	5級	道理を極めた人は、物事の全体を見通すので判断を誤らないということ。⇒達人大観
人心籠絡	じんしんろうらく	非見出し	多くの人の気持ちをうまくつかんでまとめること。また、人々の信頼を得ること。⇒人心収攬
薪水之劳	しんすいのろう	準1級	人に仕えて骨身を惜しまず働くこと。
人生行路	じんせいこうろ	5級	人として生きてゆく道。
晨星落落	しんせいらくらく	1級	しだいに仲のよい友人がいなくなること。また、友人が年とともにだんだん死んでいなくなること。
人跡未踏	じんせきみとう	4級	まだ一度も人が足を踏み入れたことがないこと。
神仙思想	しんせんしそう	準2級	俗世から抜け出して不老・長生の世界に生きようという考え。
尽善尽美	じんぜんじんび	4級	完璧で欠けるものがないこと。
深層心理	しんそうしんり	5級	日常的な生活の中では意識されていない奥深くかくれている心理のこと。
迅速果敢	じんそくかかん	非見出し	物事をすばやく決断し、思いきって行うこと。⇒迅速果断
迅速果断	じんそくかだん	準2級	物事をすばやく決断し、思いきって行うこと。
進退出処	しんたいしゅつしょ	非見出し	現在の職にとどまるか辞めてしまうかという身のふり方。⇒出处進退
身体髮膚	しんたいはつぷ	4級	からだ全体のこと。
進退両難	しんたいりょうなん	5級	にっちもさっちもゆかないこと。
心地光明	しんちこうめい	5級	心が清らかで正しく広いこと。
震地動天	しんちどうてん	非見出し	世間をおおいに驚かせること。⇒驚天動地
尽忠報国	じんちゅうほうこく	4級	忠義を尽くして国の恩に報いること。
新陳代謝	しんちんたいしゃ	3級	新しいものが古いものにとって代わること。
震天駭地	しんてんがいち	非見出し	筆跡や詩文の表現を尊重して言う語。⇒撼天動地
震天動地	しんてんどうち	4級	大変な出来事。

陣頭指揮	じんとうしき	追加	指揮官や責任者が現場の先頭に立って部下を指揮すること。
人頭畜鳴	じんとうちくめい	非見出し	冷酷で義理人情をわきまえない人のこと。⇒人面獣心
神荼鬱壘	しんとうつりつ	配当外	門を守る神のこと。
心頭滅却	しんとうめつきゃく	5級	心の中の雑念を取り去ること。
塵飯塗羹	じんぱんとうこう	1級	実際にはなんの役にも立たないもの、とるに足りないもののこと。
振臂一呼	しんぴいっこ	1級	つとめてみずから奮起するたとえ。
人微言輕	じんびげんけい	非見出し	身分が低くて、言うことが人に重んじられないこと。⇒身輕言微
人品骨柄	じんぴんこつがら	4級	ひとがらや風采。
神仏混淆	しんぶつこんこう	1級	神道と仏教を融合し調和させること。
神仏混交	しんぶつこんこう	非見出し	神道と仏教を融合し調和させること。⇒神仏混淆
神仏習合	しんぶつしゅうごう	非見出し	神道と仏教を融合し調和させること。⇒神仏混淆
神仏分離	しんぶつぶんり	非見出し	神仏習合をやめ、神道と仏教との区別を明確にしようとする、明治初期における維新政府の宗教政策⇔神仏混淆
神変出没	しんぺんしゅつぽつ	非見出し	すばやく現れたり隠れたりすること。⇒神出鬼没
深謀遠慮	しんぼうえんりょ	3級	深く考え将来のことまで見通して計画を立てること。
唇亡齒寒	しんぼうしかん	1級	密接な関係にあるものの一方が減びると片方も危うくなること。
唇亡齒寒	しんぼうしかん	非見出し	密接な関係にあるものの一方が減びると片方も危うくなること。⇒唇亡齒寒
心滿意足	しんまんいそく	5級	きわめて満ち足りた気分になること。
人面獣心	じんめんじゅうしん	4級	冷酷で義理人情をわきまえない人のこと。
人面獣身	じんめんじゅうしん	4級	顔は人間で身体は獣。
人面桃花	じんめんとうか	4級	美人の顔と桃の花。かつて美人と出会った場所に行っても、今はもう会えないという場合にいう言葉。
瞋目張胆	しんもくちょうたん	1級	大いに勇気をうちふるうさま。
晨夜兼道	しんやけんどう	1級	昼夜の区別なく急行すること。仕事を急いで行うこと。
神佑天助	しんゆうてんじょ	非見出し	天のたすけと神のたすけ。⇒天佑神助
迅雷風烈	じんらいふうれつ	準2級	はげしいかみなりと猛烈な風。
森羅万象	しんらばんしょう	準2級	宇宙に存在するすべてのもの。
新涼灯火	しんりょうとうか	準2級	初秋の涼しさは読書にふさわしい。
深慮遠謀	しんりょえんぼう	3級	深く考え将来のことまで見通して計画を立てること。⇒深謀遠慮
深厲淺揭	しんれいせんけい	1級	その場の状況に応じて適切な処理をすること。
蜃楼海市	しんろうかいし	1級	現実性に乏しい考えや理論。また、根拠がなくありもしないこと。⇒海市蜃楼
辛劳辛苦	しんろうしんく	3級	辛い苦勞のこと。
随鴉彩鳳	ずいあさいほう	1級	自分より劣る人に嫁がされること。また、それに不満をもつこと。⇒彩鳳随鴉
吹影鏤塵	すいえいろうじん	1級	無駄な努力。やりがいのないことのたとえ。
隋和之材	ずいかのざい	非見出し	この世にまたとない貴重な宝物。この世の至宝ともいうべき宝玉。⇒隋珠和璧
隋和之宝	ずいかのたから	非見出し	この世にまたとない貴重な宝物。この世の至宝ともいうべき宝玉。⇒隋珠和璧
随感随筆	ずいかんずいひつ	3級	感じるままに書きつけること。また、その文。
醉眼朦朧	すいがんもうろう	1級	酒に酔って物がはっきり見えないさま。
隨機応変	ずいきおうへん	3級	状況や事態の変化に応じて適切な処置をすること。⇒隨機応変
随喜渴仰	ずいきかつごう	準2級	喜んで仏に帰依し、心から信仰すること。また、ある物事に深くうちこんで熱中すること。
随宜所説	ずいぎしょせつ	準2級	仏法を受け入れる衆生の素質や能力に応じて説いた言葉をいう。
随宜説法	ずいぎせっぽう	非見出し	仏法を受け入れる衆生の素質や能力に応じて説いた言葉をいう。⇒随宜所説
推究根源	すいきゅうこんげん	非見出し	物事の根源を究め求めること。⇒推本溯源
垂拱之化	すいきょうのか	1級	天子の徳化によって自然と天下が平穩に治まること。
垂拱之治	すいきょうのち	非見出し	天子の徳化によって自然と天下が平穩に治まること。⇒垂拱之化
水魚之親	すいぎよのしん	非見出し	非常に親密な交際や友情のたとえ。⇒水魚之交

水魚之交	すいぎょのまじわり	準1級	非常に親密な交際や友情のたとえ。
炊金饌玉	すいきんせんぎょく	1級	たいへんなご馳走。
水月鏡花	すいげつきょうか	5級	むなしくはかないまぼろしのこと。また、詩歌などの深遠な味わい。⇒鏡花水月
水月鏡像	すいげつきょうぞう	非見出し	むなしくはかないまぼろしのこと。また、詩歌などの深遠な味わい。⇒鏡花水月
随侯之珠	ずいこうのたま	準1級	貴重な宝玉、天下の至宝をいう。
隋侯之珠	ずいこうのたま	非見出し	貴重な宝玉、天下の至宝をいう。⇒随侯之珠
水紫山明	すいしさんめい	非見出し	自然の景観が清らかで美しいこと。⇒山紫水明
隋珠和璧	ずいしゅかへき	1級	この世にまたとない貴重な宝物。この世の至宝ともいうべき宝玉。
随珠弹雀	ずいしゅだんじゃく	準1級	用いるものが適当でないたとえ。また、得るところが少なく失うことが多いたとえ。
随珠弹鹄	ずいしゅだんじゃく	非見出し	用いるものが適当でないたとえ。また、得るところが少なく失うことが多いたとえ。⇒随珠弹雀
隋珠弹雀	ずいしゅだんじゃく	非見出し	用いるものが適当でないたとえ。また、得るところが少なく失うことが多いたとえ。⇒随珠弹雀
翠色冷光	すいしょくれいこう	準1級	冷ややかな青い光の形容。
水随方円	すいずいほうえん	3級	人民の善悪は、為政者によって感化されるということ。また、人の考え方や性格は、友人や環境によってよくも悪くもなるということ。
水清無魚	すいせいむぎょ	5級	人になつかれないたとえ。
醉生夢死	すいせいむし	3級	何をなすこともなく、ぼんやりと生涯を過ごすこと。
垂涎三尺	すいぜんさんじゃく	1級	あるものをひどくほしがるとえ。
水村山郭	すいそんさんかく	3級	水辺の村と山ざと。
吹竹弹糸	すいちくだんし	非見出し	詩文の美しい響きやリズムのたとえ。⇒敲金擊石
水中撈月	すいちゅうろうげつ	非見出し	実現不可能なことをやろうとして、余分な労力を費やすこと。⇒海底撈月
翠帳紅閨	すいちょうこうけい	1級	高貴な女性の寝室のこと。
垂髻戴自	すいちょうたいはく	1級	幼児と老人。
水滴石穿	すいてきせきせん	準1級	わずかな力でも積み重なると非常に大きな力を発揮すること。⇒点滴穿石
水天一色	すいてんいつしょく	非見出し	空と海とがともに青々としてただ一色に連なり、区別がつかないさま。⇒水天一碧
水天一碧	すいてんいつぺき	準1級	空と海とがともに青々としてただ一色に連なり、区別がつかないさま。
水天髣髴	すいてんほうふつ	1級	遠い海上の水と空とがひと続きになって、見分けがつきにくいさま。
水天彷彿	すいてんほうふつ	非見出し	遠い海上の水と空とがひと続きになって、見分けがつきにくいさま。⇒水天髣髴
水到魚行	すいとうぎょこう	非見出し	学問をきわめると自然に徳もそなわるということ。また、物事は時期がくれば自然に成就するということ。⇒水到渠成
水到渠成	すいとうきょせい	準1級	学問をきわめると自然に徳もそなわるということ。また、物事は時期がくれば自然に成就するということ。
垂頭喪気	すいとうそうき	準2級	元気がなく、しょげているさま。
随波逐流	ずいはちくりゅう	準2級	自分の考えや主張をもたず、ただ世の中の流れに従うこと。
垂髮戴白	すいはつたいはく	非見出し	幼児と老人。⇒垂髻戴自
随波漂流	ずいはひょうりゅう	非見出し	自分の考えや主張をもたず、ただ世の中の流れに従うこと。⇒随波逐流
彗汜画塗	すいはんがと	1級	きわめて容易なことのたとえ。
酔歩蹢躅	すいほまんさん	1級	酒に酔ってふらふら歩くさま。
推本溯源	すいほんそげん	準1級	物事の根源を究め求めること。
推本遡源	すいほんそげん	非見出し	物事の根源を究め求めること。⇒推本溯源
垂名竹帛	すいめいちくはく	1級	名前が歴史に残るような功績のこと。⇒竹帛之功
吹毛求疵	すいもうきゅうし	1級	やたらと人のあらさがしをすること。
吹毛之求	すいもうのもとめ	非見出し	やたらと人のあらさがしをすること。⇒吹毛求疵
随類応同	ずいるいおうどう	3級	それぞれの性格や考え方に応じて指導すること。
鄒衍降霜	すうえんこうそう	1級	鄒衍が天に訴えて夏に霜を降らせた。
騶衍降霜	すうえんこうそう	非見出し	鄒衍が天に訴えて夏に霜を降らせた。⇒鄒衍降霜
趨炎附勢	すうえんふせい	非見出し	時の権力のある者につき従うこと。⇒趨炎附熱
趨炎附熱	すうえんふねつ	準1級	時の権力のある者につき従うこと。

趨炎奉勢	すうえんほうせい	非見出し	時の権力のある者につき従うこと。⇒趨炎附熱
鄒魯遺風	すうろいふう	1級	孔子と孟子の教えのこと。
鄒魯之学	すうろのがく	非見出し	孔子と孟子の教えのこと。⇒鄒魯遺風
頭寒足暖	ずかんそくだん	非見出し	頭を冷やし足をあたためること。また、その状態。健康によいとされる。⇒頭寒足熱
頭寒足熱	ずかんそくねつ	5級	頭を冷やし足をあたためること。また、その状態。健康によいとされる。
杜撰脱漏	ずさんだつろう	準1級	粗末で誤りの多いこと。ぞんざいで誤脱も多いこと。
寸指測淵	すんしそくえん	準1級	愚かなこと。また、不可能なこと。
寸善尺魔	すんぜんしゃくま	3級	世の中にはよいことが少なくて悪いことが多いたとえ。
寸草春暉	すんそうしゅんき	1級	父母の恩は大きくその万分の一も報いることが難しいことのたとえ。
寸草之心	すんそうのこころ	非見出し	父母の恩は大きくその万分の一も報いることが難しいことのたとえ。⇒寸草春暉
寸鉄殺人	すんてつさつじん	5級	短い警句で人の急所を批判するたとえ。
寸田尺宅	すんでんしゃくたく	5級	ほんのわずかな財産のこと。
寸土尺地	すんどしゃくち	非見出し	ほんのわずかな財産のこと。⇒寸田尺宅
寸馬豆人	すんばとうじん	5級	遠くの人馬が小さく見えること。
寸歩不離	すんぽふり	4級	すぐそばにいること。また、関係が非常に密接であること。
青鞋布韎	せいあいふべつ	1級	旅行のときの服装のこと。⇒布韎青鞋
井蛙之見	せいあのけん	非見出し	見聞のせまい者が、自分の知識以外のものを信じようとししないこと。⇒夏虫疑氷
晴雲秋月	せいうんしゅうげつ	5級	純真でけがれない心のたとえ。
青雲之志	せいうんのこころざし	準1級	徳をみがいてりっぱな人物になろうとする志。また、立身出世しようとする功名心。
精衛填海	せいえいてんかい	準1級	不可能なことを企て、徒労に終わること。また、いつまでも悔やみ続けること。
清音幽韻	せいおんゆういん	準2級	すぐれた文章のたとえ。
臍下丹田	せいかたんでん	1級	へその三寸下あたりのところ。漢方医学ではここに力を集めると元氣や勇氣がわいてくるという。
星火燎原	せいかりょうげん	1級	初めは小さな勢力でも次第に成長して侮れなくなる。
誠歛誠喜	せいかんせいき	4級	まことに喜ばしい。臣下が天子に奉る書に用いる言葉。
旌旗卷舒	せいきけんじょ	1級	戦いが続くことのたとえ。
生寄死帰	せいきしき	5級	人が生きているのは、仮にこの世に身を寄せているだけで、死は自分の住居に帰るように、本来のところに落ちつくことだということ。
旌旗堂堂	せいきどうどう	非見出し	整然として威厳があること。⇒旗鼓堂堂
生氣滂漑	せいきはつらつ	1級	いきいきとして気力、活気にあふれているさま。
生氣滂刺	せいきはつらつ	非見出し	いきいきとして気力、活気にあふれているさま。⇒生氣滂漑
政教一致	せいきょういっち	非見出し	神を祭ることと政治は一体であるという考え。⇒祭政一致
政教分離	せいきょうぶんり	非見出し	政治と宗教の結びつきを切ること。⇔祭政一致
精金良玉	せいきんりょうぎょく	5級	性格が穏やかで純粋なこと。
齊驅並駕	せいくへいが	準1級	力や能力に差がないこと。⇒並駕齊驅
晴好雨奇	せいこううき	4級	晴雨どちらでもすばらしいながめ。
晴耕雨読	せいこううどく	5級	田園で悠々自適の生活をする事。
性行淑均	せいこうしゅくきん	準2級	性質がすなおで、行動がかたよらないこと。
誠惶誠恐	せいこうせいきょう	1級	まことに恐れかしこまる。
生殺与奪	せいさつよだつ	3級	他のものを自分の思うままに支配すること。
青史汗簡	せいしかんかん	4級	歴史書のこと。
噬指棄薪	ぜいしきしん	1級	母と子の気持ちが通じあうこと。
生死存亡	せいしそんぼう	非見出し	危険が迫っていて、生きるか死ぬかの瀬戸際のこと。⇒危急存亡
生死肉骨	せいしにくこつ	5級	落ち目の者を救いあげること。
齊紫敗素	せいしはいそ	準2級	賢者が事をなせばわざわいを福に転じるように、失敗を成功へと導くことができるというたとえ。
西施捧心	せいしほうしん	準1級	病に悩む美女のようす。

静寂閑雅	せいじやくかんが	準2級	ひっそり静かでみやびやかな趣のあること。
西戎東夷	せいじゅうとうい	準1級	西方と東方の異民族。また異民族の総称。えびす。
西狩獲麟	せいしゅかくりん	準1級	魯の哀公十四年、西方に狩りに行って麒麟を得た故事。
清浄潔白	せいじょうけっぱく	非見出し	心や行いが清く、私欲や不正などまったくないさま。⇒清廉潔白
清浄無垢	せいじょうむく	準1級	清らかで汚れのないこと。
青松落色	せいしょうらくしょく	5級	交友が途絶えそうになることのたとえ。
精神一到	せいしんいっとう	4級	全精神を一つに集中すればどんなことでも成し遂げられる。
聖人君子	せいじんくんし	5級	知識・人格ともにすぐれた立派な人物。
聖人賢者	せいじんけんじゃ	非見出し	知識・人格ともにすぐれた立派な人物。⇒聖人君子
誠心誠意	せいしんせいいい	5級	純粋なまごころ。
精神統一	せいしんとういつ	5級	心のはたらきを一点に集中すること。
聖人糟粕	せいじんのそうはく	非見出し	言葉や文章では聖人・賢人の本質を伝えるのは不可能だということ。⇒古人糟魄
聖人無夢	せいじんむむ	5級	徳を身につけた聖人は、けっして憂いや雑念を持たないので、夢を見ることはない。
淒淒切切	せいせいせつせつ	2級	きわめてものさびしいこと。
清聖濁賢	せいせいだくけん	3級	酒の異称。
濟濟多士	せいせいたし	非見出し	すぐれた人材が多いこと。⇒多士濟濟
正正堂堂	せいせいどうどう	5級	手段や態度が正しくて立派なこと。また、陣容が整って意気盛んなこと。
生生流転	せいせいゐてん	準2級	万物が絶えず生じては変化し、移り変わってゆくこと。
井渫不食	せいせつふしょく	1級	賢者が登用されないままにいること。
清泉濯足	せいせんたくそく	非見出し	殺風景なことのたとえ。⇒焚琴煮鶴
青錢万選	せいせんばんせん	4級	すぐれた文章のたとえ。
悽愴流涕	せいそうりゅうてい	1級	悼み悲しんで涙を流す。
淒愴流涕	せいそうりゅうてい	非見出し	悼み悲しんで涙を流す。⇒悽愴流涕
淒愴流涕	せいそうりゅうてい	非見出し	悼み悲しんで涙を流す。⇒悽愴流涕
盛粧麗服	せいそうれいふく	準1級	盛んによそおい美しい服を着る。
生存競争	せいぞんきょうそう	非見出し	環境に最も適したものが生き残り、適していないものは淘汰され滅びること。⇒適者生存
正大之氣	せいだいのき	非見出し	何ものにもとらわれないのびのびとした心持ち。⇒浩然之氣
贅沢三昧	ぜいたくざんまい	1級	したい放題の贅沢をすること。
清濁併呑	せいだくへいどん	準1級	度量が大きく、どんなことでも受け入れること。
清淡虚無	せいたんきょむ	3級	心にわだかまりがなく静かに落ち着いた境地。
生知安行	せいちあんこう	5級	生まれながらにして人のふみ行うべき道を熟知し、心安んじてそれを行うこと。
井底之蛙	せいていのあ	準1級	広い世間を知らないで、自分だけの狭い見識にとらわれること。⇒埳井之鼃
青天霹靂	せいてんのへきれき	1級	思いもかけない出来事。
青天白日	せいてんはくじつ	5級	晴れわたった青空と日の光で快晴の意から転じて、心にやましいことがまったくないことのたとえ。
正当防衛	せいとうぼうえい	5級	不当な暴行から身を守る権利。
正当防御	せいとうぼうぎょ	非見出し	不当な暴行から身を守る権利。⇒正当防衛
齊東野語	せいとうやご	準2級	聞くにたえない下品で愚かな言葉。また、信じがたい妄説のこと。
盛徳大業	せいとくたいぎょう	4級	盛んな徳と大きな事業。
聖読庸行	せいどくようこう	準2級	聖人のすぐれた文を読んで学んでもその行いは凡人と異なること。
生吞活剥	せいどんかつぱく	準1級	他人の詩や文章などをそのまま盗用すること。⇒活剥生吞
萋斐貝錦	せいひばいきん	配当外	巧みに言い立てて人を罪に陥れるたとえ。また、讒言のたとえ。
精疲力尽	せいひりきじん	4級	つかれはてること。⇒疲労困憊
清風故人	せいふうこじん	5級	秋になってさわやかな風が吹いてくるのは、久しぶりに友人が訪ねてくれたようだということ。
清風明月	せいふうめいげつ	5級	夜の静かで清らかなたたずまいの形容。清らかな美しい自然の形容。また、風雅な遊びのこと。

清風朗月	せいふうろうげつ	非見出し	夜の静かで清らかなたたずまいの形容。清らかな美しい自然の形容。また、風雅な遊びのこと。⇒清風明月
精明強幹	せいめいきょうかん	5級	物事によく通じていて、仕事を処理する能力が高いこと。
声名狼藉	せいめいろうぜき	1級	評判を落として、それが回復しないこと。
星羅雲布	せいらうんぷ	準2級	星のように点々と連なり、雲のように多く群がり集まること。
星羅棋布	せいらきふ	非見出し	星のように点々と連なり、雲のように多く群がり集まること。⇒星羅雲布
青藍氷水	せいらんひょうすい	2級	弟子が師よりもまさるたとえ。
生離死絶	せいりしぜつ	非見出し	このうえなく悲痛な別れ。⇒生離死別
生離死別	せいりしべつ	4級	このうえなく悲痛な別れ。
精力旺盛	せいりょくおうせい	非見出し	心身の活力が抜群に盛んなこと。⇒精力絶倫
精力絶倫	せいりょくぜつりん	準2級	心身の活力が抜群に盛んなこと。
勢力伯仲	せいりょくはくちゅう	準2級	互いの力が接近していて、優劣がつけにくいこと。
精励恪勤	せいいいかつきん	1級	力を尽くして学業や仕事に励むこと。
精励勤勉	せいいいきんべん	非見出し	力を尽くして学業や仕事に励むこと。⇒精励恪勤
清廉潔白	せいいんけっぱく	3級	心や行いが清く、私欲や不正などまったくないさま。
世運隆替	せうりんりゅうたい	3級	世の機運が時代とともにあるいは盛んとなり、あるいは衰えること。
世外桃源	せがいとうげん	4級	俗世間から離れた別天地、理想郷のこと。⇒武陵桃源
世外之交	せがいのまじわり	非見出し	俗世を超えた交友をいう。⇒雲霞之交
是耶非耶	ぜかひか	準1級	善悪の判断に迷うこと。
積悪之報	せきあくのむくい	非見出し	悪事の報いがすぐに目の前にあらわれること。⇒因果観面
積悪余殃	せきあくのよおう	1級	悪事をかさねた報いが子孫にまで及ぶこと。
積羽沈舟	せきうちんしゅう	4級	小さなものでもたくさん集まれば大きな力になるということ。
碩学鴻儒	せきがくこうじゅ	非見出し	小さなものでもたくさん集まれば大きな力になるということ。⇒積羽沈舟
碩学大儒	せきがきたいじゅ	準1級	学問の奥義をきわめた大学者のこと。
碩学名家	せきがくめいか	非見出し	大学者や名声の高い人。大いなる徳を備えた人や声望のある人。⇒碩師名人
惜玉憐香	せきぎょくれんこう	非見出し	香や玉をいつくしむ。⇒憐香惜玉
積金累玉	せききんるいぎよく	非見出し	非常に多くの富を集めること。⇒堆金積玉
跼狗吠堯	せきくはいぎょう	1級	人はそれぞれ自分の仕える主人に忠を尽くすもので、善悪をわきまえて尽くすわけではないということ。
積厚流光	せきこうりゅうこう	4級	蓄積されたものが厚ければ、それだけその恩恵も大きいということ。
尺吳寸楚	せきごすんそ	非見出し	高い山から見下ろす景觀。⇒尺山寸水
尺山寸水	せきざんすんすい	準1級	高い山から見下ろす景觀。
隻紙断絹	せきしだんけん	準2級	文字を記したごくわずかの紙や絹布。
積日累久	せきじつるいきゅう	準2級	官吏などが年功を積むこと。
碩師名人	せきしめいじん	準1級	大学者や名声の高い人。大いなる徳を備えた人や声望のある人。
赤手空拳	せきしゅくうけん	2級	なんの助けもかりずに独力で物事を行うこと。
赤縄繫足	せきじょうけいそく	非見出し	仲人。媒酌人。⇒月下氷人
石上樹下	せきじょうじゅか	非見出し	出家行脚の境遇のこと。⇒樹下石上
石心鉄腸	せきしんてつちょう	5級	強い精神、堅い意志のたとえ。⇒鉄腸石心
積薪之嘆	せきしんのたん	準1級	後から来た者が重用され、以前からいる者が下積みの苦労をする悩みのこと。
積薪之歎	せきしんのたん	非見出し	後から来た者が重用され、以前からいる者が下積みの苦労をする悩みのこと。⇒積薪之嘆
赤心奉国	せきしんほうこく	3級	真心をもって国のために尽くすこと。
積水成淵	せきすいせいえん	準1級	小さなものでもたくさん集まれば大きな力になるということ。また、努力を重ねれば物事が成就するということ。
尺寸之功	せきすんのこう	準1級	わずかな功績。
尺寸之効	せきすんのこう	非見出し	わずかな功績。⇒尺寸之功
尺寸之地	せきすんのち	準1級	ほんの少しの土地。

尺寸之柄	せきすんのへい	準1級	わずかの権力。
積善余慶	せきぜんのよけい	準2級	善行を積んだ家は子孫まで必ず幸福がおよぶ。
刺草之臣	せきそうのしん	準1級	一般の人民。
尺沢之鯢	せきたくのげい	1級	見聞の狭いたとえ。
尺短寸長	せきたんすんちょう	準1級	どんなにすぐれた人にも短所があり、どんなに劣った人にも長所があるということ。
積土成山	せきどせいざん	非見出し	小さなものでもたくさん集まれば大きな力になるということ。また、努力を重ねれば物事が成就するということ。⇒積水成淵
責任回避	せきにんかいひ	追加	自らに対する責任を避けようとする言動のこと
責任転嫁	せきにんてんか	準2級	責任を他になすりつけること。
積年累月	せきねんるいげつ	非見出し	自分の生きている限り、孫子の代までも。いつまでも。⇒窮年累世
石破天驚	せきはてんきょう	4級	このうえなく音楽が巧妙なこと。また、詩文が非常に奇抜ですぐれていること。
尺璧非宝	せきへきひほう	準1級	時間は何よりも貴重であるということ。
隻履西帰	せきりせいき	準2級	達磨がくつの片方を手に持って西に帰る。
鶺鴒之情	せきれいのじょう	非見出し	兄弟が仲良くむつまじくする情。兄弟のうるわしい愛情。⇒棣鄂之情
世辞追従	せじつuishō	非見出し	相手に気に入られようと、こびへつらうこと。⇒阿諛追従
是生滅法	ぜしょうめつぽう	3級	生ある者は必ず滅びる。
是是非非	ぜぜひひ	4級	客観的・公平に物事を判断すること。
雪案螢窓	せつあんけいそう	準2級	苦労して勉学に励むこと。⇒螢窓雪案
節衣縮食	せついしゆくしょく	非見出し	節約・儉約すること。⇒縮衣節食
窃位素餐	せついそさん	準1級	ある地位にいて職責を果たさずにむだに禄をもらっていること。⇒尸位素餐
雪萼霜葩	せつがくそうは	1級	梅のこと。雪や霜のように白く、雪や霜をしのいで咲くのでいう。
折花攀柳	せつかはんりゅう	1級	色街で遊女と遊ぶこと。
折檻諫言	せつかんかんげん	1級	臣下が君主を厳しくいさめること。
窃玉偷香	せつぎよくとうこう	1級	こっそり女に手を出して女色にふけること。
雪月風花	せつげつふうか	5級	四季折々の自然の美しい景観のこと。
接見応対	せっけんおうたい	5級	対面して受け答えすること。
節儉力行	せっけんりっこう	3級	節約につとめ励む。
絶巧棄利	ぜっこうきり	3級	文明によって人為的に作られたものをすてて、自然に戻ることに。
切磋琢磨	せつさたくま	1級	学問や修養によって自分を磨きあげる。
切磋琢磨	せつさたくま	非見出し	学問や修養によって自分を磨きあげる。⇒切磋琢磨
截趾適屨	せつしてきく	配当外	本末を転倒して無理に物事を行うこと。
切齒腐心	せつしふしん	4級	非常に激しく怒ること。
切齒扼腕	せつしやくわん	1級	非常に悔しがるさま。
切齒搥腕	せつしやくわん	非見出し	非常に悔しがるさま。⇒切齒扼腕
撰取不捨	せつしゆふしゃ	3級	仏がすべての生き物を見捨てず救うこと。
折衝禦侮	せつしょうぎよぶ	準1級	武勇によって敵をくじき、敵の侮りを防ぎとめ恐れさせる。
殺生禁断	せつしょうきんだん	準2級	鳥・獣・魚などを捕ったり殺したりすることを禁ずること。
殺生与奪	せつしょうよだつ	非見出し	他のものを自分の思うままに支配すること。⇒生殺与奪
絶世独立	ぜっせいどくりつ	5級	美人の形容。
切切惓惓	せつせつしし	準1級	ねんごろに事こまかく善をすすめ励ますこと。
絶体絶命	ぜつたいぜつめい	5級	せつぱつまってどうにも逃れられない状態。
舌端月旦	ぜつたんげつたん	2級	口先で人を評論すること。
截断衆流	せつだんしゅる	1級	俗世間の雑念妄想をたちきること。
雪中四友	せつちゅうのしゅう	非見出し	画題となる四つの花。雪の降る頃に咲く玉梅・臘梅・茶梅(さざんか)・水仙の称。⇒歳寒三友
雪中松柏	せつちゅうのしょうはく	準1級	志や節操が堅いことのたとえ。

雪泥鴻爪	せつでいのこうそう	準1級	人間の行為など一時的ではかないものであることのたとえ。
刹那主義	せつなしゅぎ	2級	人生はその場その場がよければそれでいいという考え。
雪魄氷姿	せっぱくひょうし	1級	雪のように清らかな魂魄と氷のような姿。梅の形容。また、高潔な人のたとえ。
窃鉄之疑	せつぷのぎ	配当外	確かな証拠もないのに人に疑いをかけること。
切問近思	せつもんきんし	5級	すべての事を身近な問題として切実に取りあげ、自分のこととして考えること。
雪裏清香	せつりせいこう	4級	梅のこと。
世道人心	せどうじんしん	5級	世の中の道徳とそれを守る人の心のこと。
是非曲直	ぜひきょくちよく	4級	物事の善悪・正不正のこと。
是非善悪	ぜひぜんあく	4級	物事のよしあし。
是非之心	ぜひのこころ	準1級	物事の是と非を正しく判別できる能力。
潜移暗化	せんいあんか	3級	環境や他人の影響で知らず知らずのうちに気質や思想などが変化していること。
潜移默化	せんいもくか	非見出し	環境や他人の影響で知らず知らずのうちに気質や思想などが変化していること。⇒潜移暗化
前因後果	ぜんいんこうか	非見出し	人の行いの善悪に応じてその報いがあらわれること。⇒因果応報
善因善果	ぜんいんぜんか	5級	善い行いには善い果報があるということ。
扇影衣香	せんえいいこう	4級	貴婦人が多く寄り集うさま。
遷客騷人	せんかくそうじん	準2級	左遷された人や心に愁いを抱く人。詩人墨客のこと。
浅学短才	せんがくたんさい	非見出し	学識が浅く、才能も乏しいこと。⇒浅学非才
浅学非才	せんがくひさい	4級	学識が浅く、才能も乏しいこと。
浅学菲才	せんがくひさい	非見出し	学識が浅く、才能も乏しいこと。⇒浅学非才
千巖万壑	せんがんばんがく	1級	岩山と溪谷の景観。
先義後利	せんぎこうり	5級	まず道理を第一に考えて、利益は二の次にすること。
千客万来	せんきやくばんらい	4級	商売繁盛のたとえ。
善巧方便	ぜんぎょうほうべん	準1級	機に応じた方法にきわめて巧みなこと。また、その方法。
饌玉炊金	せんぎょくすいきん	1級	たいへんなご馳走。⇒炊金饌玉
羨魚結網	せんぎょけつもう	非見出し	いたずらに空しい望みを抱くたとえ。⇒臨淵羨魚
前倨後恭	ぜんきょこうきょう	1級	それまでの態度をがらりと変えて、相手にへつらうこと。
千金一刻	せんきんいつこく	5級	時間の貴重なことのたとえ。⇒一刻千金
千金一笑	せんきんいっしょう	非見出し	ひとたびほほえめば千金に値するほどの美人をいう。⇒一笑千金
千金一擲	せんきんいつてき	1級	豪快な振る舞い、思い切りのよいことのたとえ。⇒一擲千金
千鈞一髮	せんきんいつぱつ	1級	非常に危険なこと、きわめて無理なことのたとえ。⇒一髮千鈞
千金笑面	せんきんしょうめん	非見出し	表向きは陰湿ではあるが内面は柔和なこと。⇔笑面夜叉
千金之子	せんきんのこ	非見出し	富裕な家に生まれた者のたとえ。⇒膏粱子弟
千金之諾	せんきんのだく	非見出し	絶対に信頼できる堅い約束のこと。⇒季布一諾
千金弊帚	せんきんへいそう	1級	身のほどを知らないで思いあがるたとえ。⇒弊帚千金
先苦後甜	せんくこうてん	非見出し	仁徳者は難事を先にして利益は後のこととすること。⇒先難後獲
千軍万馬	せんぐんばんば	4級	多くの兵士、軍馬。大規模で強い軍をいう。転じて、多くの辛酸をなめ、経験が豊富な老練の人をいう。
千荊万棘	せんけいばんきょく	1級	非常に多くの困難があること。困難なことのたとえ。
鮮血淋漓	せんけつりんり	1級	血がしたたり落ちるさま。
旋乾転坤	せんけんてんこん	準1級	国の政局を一新すること。
先見之識	せんけんのしき	非見出し	将来を見通す聡明さ。⇒先見之明
先見之明	せんけんのめい	準1級	将来を見通す聡明さ。
千言万句	せんげんばんく	非見出し	多くのことばを尽くして言うこと。また、あれこれ長たらしく言うこと。⇒千言万語
千言万言	せんげんばんげん	非見出し	多くのことばを尽くして言うこと。また、あれこれ長たらしく言うこと。⇒千言万語
千言万語	せんげんばんご	4級	多くのことばを尽くして言うこと。また、あれこれ長たらしく言うこと。

洗垢求癥	せんこうきゅうはん	非見出し	他人の欠点や誤りをどこまでも追求してほじくりだすたとえ。⇒洗垢索癥
先庚後庚	せんこうこうこう	準1級	物事を過ちのないようにていねいにする事。
洗垢索癥	せんこうさくはん	1級	他人の欠点や誤りをどこまでも追求してほじくりだすたとえ。
千紅万紫	せんこうばんし	4級	色とりどりの花が咲き乱れているさま。
千孔百瘡	せんこうひやくそう	非見出し	短所や欠点がたくさんあること。⇒百孔千瘡
前虎後狼	ぜんこうろう	準1級	つぎつぎと災難・危害におそわれるたとえ。
前後相随	ぜんごそうずい	非見出し	前と後ろが相対的な関係で存在すること。⇒有無相生
千呼万喚	せんこばんかん	3級	何度もくり返し呼び叫ぶこと。
千古不易	せんこふえき	5級	永久に変わらないこと。
前後不覚	ぜんごふかく	5級	正体がなくなること。
千古不朽	せんこふきゅう	非見出し	永久に滅びない。⇒千古不磨
千古不拔	せんこふばつ	非見出し	永久に変わらないこと。⇒千古不易
千古不變	せんこふへん	非見出し	永久に変わらないこと。⇒千古不易
千古不磨	せんこふま	準2級	永久に滅びない。
潜在意識	せんざいいしき	3級	心の奥底にひそみかくれている、自覚されない意識。
千載一会	せんざいいちえ	非見出し	またとないよい機会。⇒千載一遇
千載一遇	せんざいいちぐう	3級	またとないよい機会。
千載一合	せんざいいちごう	非見出し	またとないよい機会。⇒千載一遇
千載一時	せんざいいちじ	非見出し	またとないよい機会。⇒千載一遇
仙才鬼才	せんさいきさい	準2級	人並みはずれたすぐれた才。凡俗を超えた才。
千載不易	せんざいふえき	非見出し	永久に変わらないこと。⇒千古不易
千錯万綜	せんさくばんそう	準1級	さまざまに入り交じること。
千差万別	せんさばんべつ	4級	さまざまな種類や違いがあること。
千山万水	せんざんばんすい	4級	山また山、川また川の広大で奥深い自然をいう。
漸至佳境	ぜんしかきょう	非見出し	状況や話などが、最も興味深い部分にさしかかること。⇒漸入佳境
仙姿玉質	せんしぎょくしつ	準2級	とびぬけた美人に対する形容。
仙姿玉色	せんしぎょくしよく	非見出し	とびぬけた美人に対する形容。⇒仙姿玉質
善始善終	ぜんしぜんしゅう	非見出し	物事を始めから終わりまで気を引き締めてやりとおすこと。⇒慎始敬終
千思万考	せんしばんこう	4級	あれこれと思いをめぐらすこと。
千紫万紅	せんしばんこう	4級	色とりどりの花が咲き乱れているさま。⇒千紅万紫
千思万想	せんしばんそう	非見出し	あれこれと思いをめぐらすこと。⇒千思万考
千姿万態	せんしばんたい	4級	種々さまざまな姿かたち。
千思万慮	せんしばんりょ	非見出し	あれこれと思いをめぐらすこと。⇒千思万考
浅酌低唱	せんしゃくていしょう	準2級	少々酒を飲んで小声で歌を口ずさむこと。⇒浅斟低唱
浅酌微吟	せんしゃくびぎん	非見出し	少々酒を飲んで小声で歌を口ずさむこと。⇒浅斟低唱
前車覆轍	ぜんしゃのふくてつ	準1級	先人の失敗は、後の人の戒めになるということ。
千射万箭	せんしゃばんせん	準1級	弓道で射手の心構えを説いた語。千本、万本の矢を射る場合でも、あとの矢をたのむことなしに、今射る一本をおろそかにしてはならないということ。
先從隗始	せんじゅうかいし	1級	言い出した者から始めよの意。また、物事を手近なところからはじめることのたとえ。
千秋万古	せんしゅうばんこ	4級	永遠の歲月。
千秋万歳	せんしゅうばんざい	4級	非常に長い年月のこと。また、長寿を祝うことば。
千種万別	せんしゅばんべつ	非見出し	さまざまな種類や違いがあること。⇒千差万別
千種万様	せんしゅばんよう	非見出し	さまざまな種類や違いがあること。⇒千差万別
千乗之国	せんじょうのくに	準1級	兵車千台を出すことのできる諸侯の国。
川上之歎	せんじょうのたん	準1級	時間が過ぎ去ることへの嘆き。

川上之嘆	せんじょうのたん	非見出し	時間が過ぎ去ることへの嘆き。⇒川上之歎
千乗万騎	せんじょうばんき	3級	非常に多数の車と騎馬のこと。
千状万態	せんじょうばんたい	4級	いろいろ、さまざまな様子。
禅譲放伐	ぜんじょうほうばつ	準2級	中国古代の政権交代の二つの方法。君主が位を世襲せず仁徳ある者に譲る禅譲と暴政を行う君主を臣下が追放したり討伐したりして位を奪う放伐のこと。
僭賞濫刑	せんしょうらんけい	1級	適正を欠いた賞罰。
千緒万端	せんしょばんたん	準2級	種々雑多な事柄のこと。
千緒万縷	せんしょばんる	非見出し	種々雑多な事柄のこと。⇒千緒万端
専心一意	せんしんいちい	5級	ひたすら一つのことに関心すること。⇒一意専心
専心専意	せんしんせんい	非見出し	ひたすら一つのことに関心すること。⇒一意専心
全心全意	ぜんしんぜんい	非見出し	ひたすら一つのことに関心すること。⇒一意専心
全心全力	ぜんしんぜんりょく	非見出し	その人の体力と気力のすべて。⇒全身全霊
全身全霊	ぜんしんぜんれい	3級	その人の体力と気力のすべて。
浅斟低唱	せんしんていしょう	1級	少々酒を飲んで小声で歌を口ずさむこと。
千仞之谿	せんじんのたに	1級	非常に深い谷。
千辛万苦	せんしんばんく	3級	さまざまな苦しみや難儀のこと。
前人未到	ぜんじんみとう	4級	今までに誰も到達していないこと。
前人未踏	ぜんじんみとう	非見出し	今までに誰も到達していないこと。⇒前人未到
煎水作氷	せんすいさくひょう	2級	まったく不可能なこと。
先制攻撃	せんせいこうげき	4級	先手を取って相手を攻めること。
全生全帰	ぜんせいぜんき	5級	親からもらった体を傷つけることなく生を全うするのが、真の親孝行だということ。
先聖先師	せんせいせんし	5級	孔子の尊称。
泉石膏肓	せんせきこうこう	1級	自然や山水の中で暮らしたいという気持ちが非常に強いこと。
戦戦兢兢	せんせんきょうきょう	1級	恐れてびくびくするさま。
戦戦恐恐	せんせんきょうきょう	非見出し	恐れてびくびくするさま。⇒戦戦兢兢
瞻前顧後	せんぜんこご	非見出し	事にのぞんで決心がつかず、ぐずぐずしていること。⇒狐疑逡巡
戦戦慄慄	せんせんりつりつ	2級	恐れつつしむさま。また、びくびくして、ふるえ恐れるさま。
蟬噪蛙鳴	せんそうあめい	1級	役に立たない議論や、内容に乏しく下手な文章。⇒蛙鳴蟬噪
前爪後距	ぜんそうこうきょ	非見出し	足の前方に爪を、後方に蹴爪を持つもの。獣の類。
剪草除根	せんそうじょこん	1級	災いを根こそぎ除きさること。問題を根本から解決するたとえ。
千瘡百孔	せんそうひゃくこう	非見出し	短所や欠点がたくさんあること。⇒百孔千瘡
吮疽之仁	せんそのじん	1級	大將が部下を手あつくいたわること。
千村万落	せんそんばんらく	4級	多くの村落。
千態万状	せんたいばんじょう	非見出し	種々さまざまな姿かたち。⇒千姿万態
千態万様	せんたいばんよう	非見出し	種々さまざまな姿かたち。⇒千姿万態
前代未聞	ぜんだいみもん	準2級	今まで聞いたことがないような変わったこと。
川沢納汚	せんたくのうお	非見出し	大事をなす大人物は多少欠点はあってもあらゆる人を包み込む度量があるたとえ。⇒山藪藏疾
千朵万朵	せんだばんだ	1級	多くの花がついた枝。
梅檀双葉	せんだんのふたば	準1級	偉大な人物は小さいときからすぐれているということ。
梅檀二葉	せんだんのふたば	非見出し	偉大な人物は小さいときからすぐれているということ。⇒梅檀双葉
先知先覚	せんちせんがく	5級	一般の人より先に道理を知りさること。
全知全能	ぜんちぜんのう	5級	神の能力。あらゆることを理解しあらゆることを実行できる能力をもっていること。
全智全能	ぜんちぜんのう	非見出し	神の能力。あらゆることを理解しあらゆることを実行できる能力をもっていること。⇒全知全能
浅知短才	せんちたんさい	非見出し	学識が浅く、才能も乏しいこと。⇒浅学非才
扇枕温衾	せんちんおんきん	1級	親孝行なことのたとえ。

扇枕温被	せんちんおんぴ	非見出し	親孝行なことのたとえ。⇒扇枕温衾
前程遠大	ぜんていえんだい	非見出し	これからの道のりが非常に遠いこと。また、将来の可能性や希望が大きいこと。⇒前程万里
前程万里	ぜんていばんり	4級	これからの道のりが非常に遠いこと。また、将来の可能性や希望が大きいこと。
先手必勝	せんてひっしょう	5級	相手より先に攻撃すれば必ず勝つ。
旋轉圍繞	せんてんいじょう	1級	相手を取り囲むこと。ぐるぐる回って取り囲むこと。
千頭万緒	せんとうばんしよ	非見出し	種々雑多な事柄のこと。⇒千緒万端
前途多難	ぜんとたなん	4級	行く先に多くの困難が予想されること。
前途万里	ぜんとばんり	非見出し	これからの道のりが非常に遠いこと。また、将来の可能性や希望が大きいこと。⇒前程万里
前途有為	ぜんとゆうい	非見出し	将来に大いに見込みがあること。⇒前途有望
前途有望	ぜんとゆうぼう	4級	将来に大いに見込みがあること。
前途洋洋	ぜんとようよう	4級	将来が明るく希望に満ちていること。
前途遼遠	ぜんとりょうえん	準1級	行く先の道のりがはるかに遠いこと。
千成瓢箪	せんなりびょうたん	準1級	豊臣秀吉の馬印。
先難後獲	せんなんこうかく	4級	仁徳者は難事を先にして利益は後のこととすること。
善男信女	ぜんなんしんにょ	非見出し	仏教を信仰する人々。⇒善男善女
善男善女	ぜんなんぜんによ	4級	仏教を信仰する人々。
漸入佳境	ぜんにゅうかきょう	準2級	状況や話などが、最も興味深い部分にさしかかること。
浅薄皮相	せんぱくひそう	非見出し	物の見方がうわべだけで底が浅いこと。また、知識や学問などに深みがないこと。⇒皮相浅薄
前跋後蹇	ぜんぱつこうち	配当外	進むことも退くこともできず、どうにもならない困難な状態に追いこまれること。
全豹一斑	ぜんびょういっばん	準1級	物事の一部分を見て全体を批評すること。
仙風道骨	せんふうどうこつ	準2級	俗っぽさがなく非凡な姿のこと。
前覆後戒	ぜんぷくこうかい	3級	先人の失敗は、後の人の戒めになるということ。⇒前車覆轍
千兵万馬	せんべいばんば	非見出し	多くの兵士、軍馬。大規模で強い軍をいう。転じて、多くの辛酸をなめ、経験が豊富な老練の人をいう。⇒千軍万馬
穿壁引光	せんぺきいんこう	準1級	苦学のたとえ。貧困にもかかわらず、熱心に学問に励むこと。
千篇一律	せんぺんいちりつ	準1級	多くのものが、どれも変わりばえがなくて面白みに欠けること。
千編一律	せんぺんいちりつ	非見出し	多くのものが、どれも変わりばえがなくて面白みに欠けること。⇒千篇一律
千篇一体	せんぺんいつたい	非見出し	多くのものが、どれも変わりばえがなくて面白みに欠けること。⇒千篇一律
千變万化	せんぺんばんか	4級	さまざまに変化すること。
瞻望咨嗟	せんぼうしさ	1級	遠くのぞみ見てその素晴らしさにため息を吐く。
羨望咨嗟	せんぼうしさ	非見出し	遠くのぞみ見てその素晴らしさにため息を吐く。⇒瞻望咨嗟
千方百計	せんぼうひゃっけい	非見出し	あれこれと思いをめぐらすこと。⇒千思万考
千万無量	せんまんむりょう	5級	はかり知れないほど多いこと。
先憂後樂	せんゆうこうらく	3級	先に心配事・苦痛に思うことを片付け、楽しみは後回しにすること。
千里同風	せんりどうふう	5級	世の中が平和であること。⇒万里同風
千里之駕	せんりのが	非見出し	はるかな遠方からおいでになること。⇒千里命駕
千里結言	せんりのけつげん	5級	遠方の友と約束した言葉。
千里比隣	せんりひりん	非見出し	故郷を遠く離れていても、すぐとなりにいるような親しい関係のこと。⇒天涯比隣
千里無烟	せんりむえん	1級	民衆の生活が窮乏をきわめていること。
千里無煙	せんりむえん	非見出し	民衆の生活が窮乏をきわめていること。⇒千里無烟
千里命駕	せんりめいが	準1級	はるかな遠方からおいでになること。
全力投球	ぜんりょくとうきゅう	非見出し	悔いなき一球を投ずること。⇒一球入魂
千慮一失	せんりょのいっしつ	4級	どんなに賢い者にも多くの考えの中には一つぐらい誤りがある。
千慮一得	せんりょのいっとく	4級	愚者の考えの中にも一つくらいはよいものがある。
善隣友好	ぜんりんゆうこう	4級	隣の国と友人のように仲良くすること。

賤斂貴出	せんれんきしゅつ	非見出し	物価が安いときに買い入れて、物価が高騰したときに安く売り出す物価安定策のこと。⇒賤斂貴発
賤斂貴発	せんれんきはつ	1級	物価が安いときに買い入れて、物価が高騰したときに安く売り出す物価安定策のこと。
前狼後虎	ぜんろうこうこ	準1級	つぎつぎと災難・危害におそわれるたとえ。⇒前虎後狼
粗衣粗食	そいそしょく	3級	質素な生活・貧しい生活のたとえ。
粗衣糲食	そいれいしょく	非見出し	質素で粗末な衣服や食物。⇒悪衣悪食
創意工夫	そういくふう	4級	新しいことを考え出し、いろいろ手段をめぐらすこと。
草偃風従	そうえんふうじゅう	1級	人民は天子の徳によって教化され、自然とつき従うようになるということ。
滄海一滴	そうかいいつてき	非見出し	多くの中のきわめてわずかな部分。また、取るに足りない些細なこと。⇒九牛一毛
滄海桑田	そうかいそうでん	1級	世の変転のはなはだしいたとえ。
滄海遺珠	そうかいのいしゅ	1級	世に埋もれた有能な人材のたとえ。
滄海一粟	そうかいのいちぞく	1級	比較にならないほど小さいもののたとえ。
滄海揚塵	そうかいようじん	非見出し	世の変転のはなはだしいたとえ。⇒滄海桑田
総角之交	そうかくのまじわり	非見出し	幼な友だちとの交わり。⇒総角之好
総角之好	そうかくのよしみ	準1級	幼な友だちとの交わり。
喪家之狗	そうかのいぬ	準1級	ひどくやつれて元気がない人。また、身の寄せ所がなく、うろつきまわる者。
喪家之犬	そうかのいぬ	非見出し	ひどくやつれて元気がない人。また、身の寄せ所がなく、うろつきまわる者。⇒喪家之狗
桑間濮上	そうかんぼくじょう	配当外	淫乱な音楽のこと。また、国を滅亡にみちびく亡国の音楽のこと。
僧伽藍摩	そうぎやらんま	準1級	寺院の建物の総称。寺院の意。
創業守成	そうぎょうしゅせい	5級	新しい事業を始めるのはやさしくその成果を守り維持してゆくのは難しい。
創業守文	そうぎょうしゅぶん	非見出し	新しい事業を始めるのはやさしくその成果を守り維持してゆくのは難しい。⇒創業守成
喪旗乱轍	そうきらんてつ	非見出し	軍隊などが敗走する形容。⇒轍乱旗靡
瘦軀長身	そうくちょうしん	準1級	背が高く痩せていること。⇒長身瘦軀
蒼狗白衣	そうくはくい	準1級	世の変化のはやいたとえ。⇒白衣蒼狗
叢輕折軸	そうけいせつじく	準1級	小さなものでもたくさん集まると大きな力になるということ。
造言蜚語	ぞうげんひご	1級	根拠のないでたらめなうわさ。
造言飛語	ぞうげんひご	非見出し	根拠のないでたらめなうわさ。⇒造言蜚語
糟糠之妻	そうこうのつま	準1級	貧しいときから苦労を共にしてきた妻のこと。
宋弘不諧	そうこうふかい	非見出し	貧しいときから苦労を共にしてきた妻のこと。⇒糟糠之妻
糟糠不飽	そうこうふほう	非見出し	非常にぜいたくなことのたとえ。⇒漿酒霍肉
草行露宿	そうこうろしゅく	4級	草の生い茂った野原を分けて進み、野宿しながら旅をすること。
送故迎新	そうこげいしん	4級	前任者を送り、新任の人を迎えること。
瘦骨窮骸	そうこつきゅうがい	2級	やせて窮乏している身。
桑弧蓬矢	そうこほうし	準1級	男子が志を立てること。
草根木皮	そうこんぼくひ	5級	漢方薬の原料のこと。
走尸行肉	そうしこうにく	1級	生きていてもなにも役立たない者をけなしている言葉。
相思相愛	そうしそうあい	5級	男女が互いに慕い合い愛し合っていること。
造次顛沛	ぞうじてんぱい	1級	あわただしいとき。とっさのとき。
增收增益	ぞうしゅうぞうえき	非見出し	収入が増えて利益が増えること。⇔減収減益
莊周之夢	そうしゅうのゆめ	準1級	万物一体観に立つ人の心境・境地。また、人生のはかないことのたとえ。⇒胡蝶之夢
簇酒斂衣	そうしゅかんい	非見出し	貧しい生活のたとえ。⇒簇酒敝衣
双宿双飛	そうしゅくそうひ	3級	夫婦の仲がむつまじく、つねに起居をともにすること。
簇酒敝衣	そうしゅれんい	1級	貧しい生活のたとえ。
宋襄之仁	そうじょうのじん	1級	無用の情けをかけること。
壮士凌雲	そうしりょううん	準1級	俗世間を遠く超越したいと願う高尚なころざし。⇒凌雲之志

蚤寝晏起	そうしんあんき	1級	夜はやく寝て、朝おそく起きる。赤子や幼児のさま。
曾参殺人	そうしんさつじん	準1級	誤ったうわさも多くの人が口にしていうちに誰でも信じるようになるたとえ。⇒曾母投杼
瘦身長軀	そうしんちょうく	非見出し	背が高く痩せていること。⇒長身瘦軀
曾参歌声	そうしんのかせい	準1級	貧しくても高潔で私欲にとらわれないことのたとえ。
甑塵釜魚	そうじんふぎょ	準1級	非常に貧しいことのたとえ。
騷人墨客	そうじんぼっかく	3級	詩を作ったり書や絵をかいたりする風流人。
瘦身矮軀	そうしんわいく	1級	やせていて小さい。やせて背が低い。
漱石枕流	そうせきちんりゅう	1級	強情で負け惜しみの強いこと。⇒枕流漱石
蒼然暮色	そうぜんぼしょく	準1級	夕暮れどきのあたりが薄暗くなっている様子。⇒暮色蒼然
草創守文	そうそうしゅぶん	非見出し	新しい事業を始めるのはやさしくその成果を守り維持してゆくのは難しい。⇒創業守成
滄桑之变	そうそうのへん	1級	世の中の変化が激しいこと。
相即不離	そうそくふり	4級	密接な関係で切り離すことができないこと。
象箸玉杯	ぞうちょぎょくはい	準1級	ぜいたくな生活をすること。
桑田滄海	そうでんそうかい	1級	世の変転のはなはだしいたとえ。⇒滄海桑田
桑田碧海	そうでんへきかい	準1級	世の中の変化が激しいこと。⇒滄桑之变
桑土綢繆	そうどちゅうびゅう	1級	災難を事前に防ぐため準備をすること。
走馬看花	そうばかんか	5級	物事を大ざっぱに見て、その本質を窮めようとしないこと。
造反無道	ぞうはんむどう	5級	体制に背いて道理にはずれた行いをする事。
造反無理	ぞうはんむり	非見出し	体制に背くことに道理はない。⇔造反有理
造反有理	ぞうはんゆうり	5級	体制に背くのにもそれなりの道理がある。
草茅危言	そうぼうきげん	準1級	民間人の国政に対するきびしい批判の声。
双眸炯炯	そうぼうけいけい	非見出し	目が鋭く光るさま。⇒眼光炯炯
桑蓬之志	そうほうのこころざし	準1級	男子が志を立てること。⇒桑弧蓬矢
草茅之臣	そうぼうのしん	非見出し	官職に就かない民間人。⇒草莽之臣
桑濮之音	そうぼくのおん	配当外	淫乱な音楽のこと。また、国を滅亡にみちびく亡国の音楽のこと。⇒桑間濮上
曾母投杼	そうぼとうちょ	1級	誤ったうわさも多くの人が口にしていうちに誰でも信じるようになるたとえ。
草滿囷圀	そうまんれいご	1級	善政で国がよく治まっていること。
聰明叡知	そうめいえいち	準1級	聖人の四つの徳。
聰明叡智	そうめいえいち	非見出し	聖人の四つの徳。⇒聰明叡知
窓明几潔	そうめいきけつ	非見出し	清潔で快適に勉強できる書斎。⇒明窓浄几
争名競利	そうめいきょうり	非見出し	名誉と利益を争い奪う。⇒争名争利
争名争利	そうめいそうり	5級	名誉と利益を争い奪う。
争名奪利	そうめいだつり	非見出し	名誉と利益を争い奪う。⇒争名争利
草莽之臣	そうもうのしん	1級	官職に就かない民間人。
草木皆兵	そうもくかいへい	4級	ひどく恐れるたとえ。
草木禽獸	そうもくきんじゅう	準1級	地に生きるすべてのもの。
装模作様	そうもさくよう	5級	気どったり、みえをはったりすること。
蒼蠅驥尾	そうようきび	1級	凡人が賢人のおかげで功績をあげることのたとえ。
相利共生	そうりきょうせい	非見出し	生物が共生によって相互に利益を得ている場合にいう。⇔片利共生
総量規制	そうりょうきせい	5級	汚染物質の総排出量を規制する制度。
巢林一枝	そうりんいつし	準2級	分相応に満足すること。
草廬三顧	そうろさんこ	1級	礼を尽くして有能な人材を招くこと。⇒三顧之礼
楚越同舟	そえつどうしゅう	準1級	仲の悪い者どうしが、同じ場所や境遇にること。もとは、反目しあいながらも利害が一致するときには協力しあう意。⇒呉越同舟
足音跫然	そくおんきょうぜん	1級	足音のひびくさま。転じて、得難い来客。また、得難い人物に遭遇するたとえ。

束錦加璧	そくきんかへき	非見出し	一束の帛の上に璧をのせる。昔、最高の礼物。⇒束帛加璧
息災延命	そくさいえんめい	非見出し	病気をしないで健康であること。⇒無病息災
息災無事	そくさいぶじ	非見出し	心配事やわざわいがなく平穩に暮らしていること。⇒無事息災
粟散辺地	ぞくさんへんち	準1級	粟つぶの散らばったような世界の果ての小さな国。
粟散辺土	ぞくさんへんど	非見出し	粟つぶの散らばったような世界の果ての小さな国。⇒粟散辺地
即時一杯	そくじいっぱい	4級	後の大きな利益や喜びより、たとえ小さくても今のそれの方がいいということ。
俗臭芬芬	ぞくしゅうふんぷん	1級	非常に俗っぽくて、気品に欠けること。
俗臭紛紛	ぞくしゅうふんぷん	非見出し	非常に俗っぽくて、気品に欠けること。⇒俗臭芬芬
即身成仏	そくしんじょうぶつ	準2級	生きたまま仏になること。
即身是仏	そくしんぜぶつ	非見出し	生きたまま仏になること。⇒即身成仏
即身菩薩	そくしんぼさつ	非見出し	生きたまま仏になること。⇒即身成仏
束皙竹簡	そくせきちくかん	1級	束皙は古墓などから出土した竹簡を解説して博学を称された。
速戦即決	そくせんそっけつ	4級	短時間で決着をつけること。
即断即決	そくだんそっけつ	4級	間をおかず決断すること。
続短断長	ぞくたんだんちょう	5級	過不足がないよううまい具合に整えること。
俗談平話	ぞくだんへいわ	非見出し	日常の会話で使われるごくふつうの言葉。⇒平談俗語
続貂之譏	ぞくちょうのそしり	非見出し	官爵を乱発するのをのしる語。また、劣った者がすぐれた者のあとを続けることのたとえ。⇒狗尾続貂
則天去私	そくてんきよし	5級	私心を捨てて自然のままに生きること。
束帛加璧	そくはくかへき	1級	一束の帛の上に璧をのせる。昔、最高の礼物。
束髮封帛	そくはつふうはく	1級	妻が堅く貞操を守ること。
属毛離裏	ぞくもうりり	4級	子と父母との深いつながりのこと。
鏃礪括羽	ぞくれいかつう	1級	学識をみがいて、世に役立つ人材になること。
狙公配事	そこうはいじ	非見出し	目先の違いにこだわり、事柄の本質を理解しないこと。⇒朝三暮四
楚材晋用	そざいしんよう	準1級	ある部署の人材を他の部署でうまく重用すること。
麤枝大葉	そしたいよう	1級	細かい規則にとらわれず大らかに書いた文章。
粗枝大葉	そしたいよう	非見出し	細かい規則にとらわれず大らかに書いた文章。⇒麤枝大葉
咀嚼英華	そしゃくえいか	非見出し	文章のすぐれた部分をよく味わい、心の中に蓄積すること。⇒含英咀華
素車白馬	そしゃはくば	5級	葬式用の馬車。
楚囚南冠	そしゅうなんかん	準1級	捕らわれの身になっても故国を忘れないこと。
粗酒粗肴	そしゅそこう	非見出し	粗末な酒と食事のこと。⇒粗酒粗餐
粗酒粗餐	そしゅそさん	準1級	粗末な酒と食事のこと。
粗製濫造	そせいらんぞう	3級	質の悪い品をやたらに多くつくること。
粗製乱造	そせいらんぞう	非見出し	質の悪い品をやたらに多くつくること。⇒粗製濫造
鼠窃狗盗	そせつくとう	準1級	こそどろのたとえ。
即決即断	そっけつそくだん	4級	間をおかず決断すること。⇒即断即決
率先躬行	そっせんきゅうこう	1級	人がするまえに自分から進んで実行すること。
率先垂範	そっせんすいはん	4級	人に先立って模範を示すこと。
率先励行	そっせんれいこう	非見出し	人に先立って模範を示すこと。⇒率先垂範
啐啄同時	そったくどうじ	準1級	逸することのできない好機。また、熟した機をとらえ悟りに導くこと。
率土之滨	そつとのひん	準1級	国中。全国。
素波銀濤	そはぎんとう	準1級	白い波。また白い雲やもやのたとえ。
楚夢雨雲	そむううん	準1級	男女が情を交わすこと。
孫康映雪	そんこうえいせつ	5級	苦学することのたとえ。
損者三楽	そんしゃさんごう	非見出し	人が楽しむものの中で、有害な三つのもの。⇨益者三楽

損者三友	そんしゃさんゆう	5級	交わって損をする三種類の友人。便辟(体裁だけ)の人・善柔(こびへつらう)の人・便佞(口先だけ)の人の三種類の友人をいう。
樽俎折衝	そんそせっしょう	1級	なごやかに交渉すること。
尊俎折衝	そんそせっしょう	非見出し	なごやかに交渉すること。⇒樽俎折衝
孫楚漱石	そんそそうせき	1級	強情で負け惜しみの強いこと。⇒枕流漱石
尊皇攘夷	そんのうじょうい	1級	天皇を尊び外敵を打ち払うこと。
尊王攘夷	そんのうじょうい	非見出し	天皇を尊び外敵を打ち払うこと。⇒尊皇攘夷
飡風宿水	そんふうしゅくすい	非見出し	富んで位高く幸福なこと。⇒富貴福沢
大安吉日	たいあんきちじつ	3級	物事を行うのに最も縁起のよいという日。
大異小同	だいいしょうどう	非見出し	全体としては違いが大きくて、一致するところは僅かしかないということ。
大隠朝市	たいいんちょうし	4級	真の隠遁者は山中などにいるのではなく、一見一般の人と変わらない生活をしているものだということ。
太液芙蓉	たいえきのふよう	準1級	美人のこと。
大海一滴	たいかいいつてき	非見出し	多くの中のきわめてわずかな部分。また、取るに足りない些細なこと。⇒九牛一毛
大快人心	たいかいじんしん	5級	人々を痛快な気持ちにさせる。
大海撈針	たいかいろうしん	1級	ほとんど実現不可能なこと。
大厦高楼	たいかこうろう	1級	大きな建物のこと。
大喝一声	だいかついつせい	準2級	大声でどなりつけたり、しかりつけたりすること。
大厦棟梁	たいかのとうりょう	1級	国の重要な任務になう人材のたとえ。
大旱慈雨	だいかんじう	非見出し	大いに困っているときに救われること。また、待望していたことが実現すること。⇒旱天慈雨
大願成就	たいがんじょうじゅ	準2級	大きな望みがかなうこと。
对岸火災	たいがんのかさい	5級	自分には関係のないできごとのたとえ。
大器小用	たいきしょうよう	5級	すぐれた才をもった人を使いこなせないたとえ。また、人材の用い方が不当なたとえ。
大器晚成	たいきばんせい	5級	大人物は往々にして、遅れて頭角をあらわすことのたとえ。
大義名分	たいぎめいぶん	5級	ある行為の根拠となる正当な理由や道理。
大義滅親	たいぎめっしん	3級	君国に報いるためには親兄弟もかえりみないということ。
大逆無道	たいぎゃくむどう	5級	道理や人の道をふみはずした行い。
对牛弹琴	たいぎゅうだんきん	準2級	なんの効果もなく無駄なこと。
耐久之朋	たいきゅうのとも	非見出し	非常に強い友情で結ばれていること。⇒断金之交
大驚失色	たいきょうしっしょく	4級	たいそう驚き恐れ顔色を失う。
堆金積玉	たいきんせきぎよく	2級	非常に多くの富を集めること。
大衾長枕	たいきんちょうちん	1級	兄弟の仲むつまじいこと。また交情が親密なこと。
大桀小桀	たいけつしょうけつ	1級	悪い為政者。
大月小月	たいげつしょうげつ	5級	大きい月と小さい月。大の月と小の月。
戴月被星	たいげつひせい	2級	朝早くから夜遅くまで一生懸命働くこと。⇒被星戴月
体元居正	たいげんきよせい	5級	善を身につけて正しい立場に身をおくこと。
大賢虎変	たいけんこへん	2級	すぐれた賢人が時の推移に従って日ごとに新たに自己変革をとげること。⇒大人虎変
大言壮語	たいげんそうご	準2級	口では大きなことを言っても、実行がとまなわないこと。
滯言滯句	たいげんたいく	3級	言葉にばかりこだわって、真の道理が理解できないこと。
太羹玄酒	たいこうげんしゅ	1級	規則のみにしぼられた淡白で面白みのない文章のたとえ。
大羹玄酒	たいこうげんしゅ	非見出し	規則のみにしぼられた淡白で面白みのない文章のたとえ。⇒太羹玄酒
大巧若拙	たいこうじゃくせつ	準2級	このうえなく巧みなものは一見稚拙にみえる。本当に技量のあるものはかえって不器用に見える。
大公無私	たいこうむし	非見出し	公正で私心がなく、やましいところがないこと。⇒公明正大
大悟徹底	たいごてってい	準2級	仏教で完全に煩惱をすて、悟りきること。
大才小用	たいさいしょうよう	非見出し	すぐれた才をもった人を使いこなせないたとえ。また、人材の用い方が不当なたとえ。⇒大器小用
大材小用	たいざいしょうよう	非見出し	すぐれた才をもった人を使いこなせないたとえ。また、人材の用い方が不当なたとえ。⇒大器小用

大才晩成	たいさいばんせい	非見出し	大人物は往々にして、遅れて頭角をあらわすことのたとえ。⇒大器晩成
泰山鴻毛	たいざんこうもう	準1級	へだたりの甚だしいことのたとえ。
太山鴻毛	たいざんこうもう	非見出し	へだたりの甚だしいことのたとえ。⇒泰山鴻毛
泰山之安	たいざんのやすき	準1級	泰山のように、どっしりと安定して揺るぎのないこと。
太山之安	たいざんのやすき	非見出し	泰山のように、どっしりと安定して揺るぎのないこと。⇒泰山之安
泰山府君	たいざんふくん	準2級	中国の泰山の山神。
太山府君	たいざんふくん	非見出し	中国の泰山の山神。⇒泰山府君
泰山北斗	たいざんぼくと	準2級	学問や芸術などある分野の第一人者。
大山鳴動	たいざんめいどう	5級	騒ぎだけ大きくて結果は意外に小さいことのたとえ。
太山鳴動	たいざんめいどう	非見出し	騒ぎだけ大きくて結果は意外に小さいことのたとえ。⇒大山鳴動
泰山梁木	たいざんりょうぼく	準1級	賢人のこと。
太山梁木	たいざんりょうぼく	非見出し	賢人のこと。⇒泰山梁木
大死一番	だいしいちばん	5級	ここぞと意を決すること。
大慈大悲	だいじだいひ	3級	限りなく大きい仏の慈悲。
大時不斉	たいじふせい	非見出し	四季はそれぞれ異なるが、休むことなく永久に運行して、何よりも正確に時間を守っている。⇒大道不器
対症下薬	たいしょうかやく	準2級	問題点を確認したうえで、解決策を講ずること。
対牀風雪	たいしょうふうせつ	1級	夜通し隣どうしの寢床の中で語り合うこと。
対牀夜雨	たいしょうやう	1級	兄弟や友人の間柄がたいへん親密なたとえ。⇒夜雨対牀
大所高所	たいしょこうしょ	5級	細部にこだわらないで全体を見通す大きな観点のこと。
大処着墨	たいしょちゃくぼく	3級	もっとも大切なポイントを押さえて物事を行うこと。
大処落墨	たいしょらくぼく	非見出し	もっとも大切なポイントを押さえて物事を行うこと。⇒大処着墨
大人虎変	たいじんこへん	2級	すぐれた賢人が時の推移に従って日ごとに新たに自己変革をとげること。
達人大観	たいじんたいかん	非見出し	道理を極めた人は、物事の全体を見通すので、判断を誤らないということ。⇒達人大観
大信不約	たいしんふやく	5級	ほんとうの信頼関係はあらかじめ約束するような瑣末なものではない。
大声一喝	たいせいいっかつ	非見出し	大声でどなりつけたり、しかりつけたりすること。⇒大喝一声
大声疾呼	たいせいしっこ	3級	大声で激しく叫ぶこと。
大成若欠	たいせいじゃくけつ	非見出し	このうえなく完成したものは一見欠陥があるようにみえる。本当に技量のあるものはかえって不器用に見える。⇒大巧若拙
泰然自若	たいぜんじじゃく	準2級	何か事が起こっても、落ち着きはらって少しも動じないさま。
頽堕委靡	たいだいび	1級	身体や気力などが、しだいにくずれおとろえること。
大沢　空	だいたくらくう	配当外	大小がひどくかけ離れていることのたとえ。
大胆不敵	だいたんふてき	3級	度胸があって恐れ驚かないこと。
黛蓄膏渟	たいちくこうてい	1級	水面が非常に静かなさま。
大智若愚	だいちじゃくぐ	非見出し	すぐれて知恵のある賢者は、人前で自分の才能をひけらかすことがないから、ちょっと見たところ愚者のように見えるということ。⇒大智如愚
大智如愚	だいちじょぐ	準1級	すぐれて知恵のある賢者は、人前で自分の才能をひけらかすことがないから、ちょっと見たところ愚者のように見えるということ。
大智不智	だいちふち	準1級	本当にすぐれた知者はそれをあらわにせず一見無知のように見えるということ。
帶刀御免	たいとうごめん	非見出し	江戸時代、平民が家柄や功勞によって刀をさすことを許されたこと。⇒名字帶刀
大同小異	だいどうしょうい	5級	細かい点に違いはあるが、だいたいと同じであること。
大同団結	だいどうだんけつ	5級	多くの団体・政党などが、共通の目的のために意見の違いをこえて団結すること。
大道不器	たいどうふき	5級	聖人のふみ行う大いなる道はごく限られた物しか盛ることのできない器とは違い、広く普遍的な作用を発揮できるものであるということ。
大徳不官	だいとくふかん	非見出し	ほんとうの人徳は官位や役職で決まるような瑣末なものではない。⇒大道不器
大貉小貉	たいばくしょうばく	1級	文化程度の低い野蛮人のような為政者のこと。
大兵肥満	だいひょうひまん	準2級	体が大きく太っていること。
太平無事	たいへいぶじ	非見出し	なにごともなく穏やかなこと。⇒平穩無事
泰平無事	たいへいぶじ	非見出し	世の中が穏やかに治まり平和なこと。⇒天下泰平

大弁若訥	たいべんじゃくとつ	非見出し	このうえなく巧みな話しぶりは一見口べたにみえる。本当に技量のあるものはかえって不器用に見える。⇒大巧若拙
体貌閑雅	たいぼうかんが	2級	姿かたちが落ち着いて雅やかなこと。
大法小廉	たいほうしょうれん	3級	上下の臣がすべて皆清く正しいこと。
大本晩成	たいほんばんせい	非見出し	大人物は往々にして、遅れて頭角をあらわすことのたとえ。⇒大器晩成
戴盆望天	たいぼんぼうてん	2級	二つのことを一度に実現させるのは無理だということ。
大味必淡	たいみひったん	4級	淡泊なもののこそ真にすぐれており、良く好まれるものだということ。
大名鼎鼎	たいめいていてい	準1級	名声が世に響きわたっていること。
大欲非道	たいよくひどう	5級	欲が深くて、慈悲人情のないこと。
大慾非道	たいよくひどう	非見出し	欲が深くて、慈悲人情のないこと。⇒大欲非道
帶厲之誓	たいれいのちかい	1級	功臣の家は末長く絶やさせないという約束。
帶礪之誓	たいれいのちかい	非見出し	功臣の家は末長く絶やさせないという約束。⇒帶厲之誓
太牢滋味	たいろうのじみ	準1級	豪華なご馳走のたとえ。
大牢滋味	たいろうのじみ	非見出し	豪華なご馳走のたとえ。⇒太牢滋味
対驢撫琴	たいろぶきん	1級	愚かな者に物の道理を説いても役に立たないたとえ。
大惑不解	たいわくふかい	4級	自分の心の惑いがわかっていない者は一生の間真理を悟ることができない。また、いろいろ疑い迷って、疑問がなかなか解けない。
多岐亡羊	たきぼうよう	3級	方針が多すぎて選択に迷うたとえ。
濯纓濯足	たくえいたくそく	1級	世のなりゆきに応じて進退すること。また、善行をすれば尊ばれ、悪行をすれば卑しまれるということ。また、世俗を超越すること。
択言択行	たくげんたくこう	3級	言行が道理にかなって立派なこと。
託孤寄命	たくこきめい	3級	国の大事を信頼してまかせること。
度徳量力	たくとくりょうりき	4級	自分の信望と力量の有無を考えはかること。
濁流滾滾	だくりゅうこんこん	1級	濁った水が盛んに流れるさま。
踔厲風発	たくれいふうはつ	配当外	議論がうまく風のようにはやく口から出ること。
多言数窮	たげんすうきゅう	準2級	言葉数が多ければ、その結果としてたびたび困窮するということ。
多財餓鬼	たざいがき	非見出し	欲が深く、金銭だけに夢中になる者のこと。⇒有財餓鬼
多財善賈	たざいぜんこ	非見出し	資材や条件が整っていれば成功しやすいということ。⇒多錢善賈
他山之石	たざんのいし	準1級	自分の反省になる他人のまちがった言動。
多士濟濟	たしせいせい	準1級	すぐれた人材が多いこと。
多事多患	たじたかん	非見出し	事件が多く、困難なことが多いこと。⇒多事多難
多事多端	たじたたん	4級	仕事が多くて非常に忙しいこと。
多事多難	たじたなん	5級	事件が多く、困難なことが多いこと。
多事多忙	たじたぼう	非見出し	仕事が多くて非常に忙しいこと。⇒多事多端
多種多様	たしゅたよう	非見出し	さまざまな種類や違いがあること。⇒千差万別
打成一片	だじょういつぺん	準2級	すべてのことを忘れて物事に専念すること。
多情多感	たじょうたかん	5級	感受性が強く、物事の情趣を深く感じる。
多情多恨	たじょうたこん	3級	物事に感じやすいために、うらみや悲しみも多いこと。
多生之縁	たしょうのえん	準1級	多くの生を経て結ばれている因縁。
他生之縁	たしょうのえん	非見出し	多くの生を経て結ばれている因縁。⇒多生之縁
多情仏心	たじょうぶっしん	5級	感情が豊かで移り気だが、薄情にはなれない性質のこと。
多錢善賈	たせんぜんこ	1級	資材や条件が整っていれば成功しやすいということ。
打草驚蛇	だそうきょうだ	準2級	よけいなことをして、かえってつまらない災難を受けること。
多藏厚亡	たぞうこうぼう	4級	欲深い者は人間関係をそこなって、やがてはすべてを失ってしまうということ。
達人大観	たつじんたいかん	5級	道理を極めた人は、物事の全体を見通すので、判断を誤らないということ。
奪胎換骨	だつたいかんこつ	3級	外形はもとのままで中身を取りかえること。また、外見は同じでも内容が違うこと。⇒換骨奪胎
蛇蚺蜺翼	だふちょうよく	配当外	互いにもちつもたれつの関係にあること。

多謀善断	たぼうぜんだん	3級	よくよく考えて、物事を巧みに処理すること。
他力本願	たりきほんがん	5級	自分で努力せず、もっぱら他人の力をあてにすること。
多略善断	たりやくえんだん	非見出し	よくよく考えて、物事を巧みに処理すること。⇒多謀善断
煖衣飽食	だんいほうしょく	1級	物質的になんの不足もない満ち足りた生活。
暖衣飽食	だんいほうしょく	追加	物質的になんの不足もない満ち足りた生活。⇒煖衣飽食
断崖絶壁	だんがいぜつぺき	2級	険しく切り立ったがけ。
短褐穿結	たんかつせんけつ	準1級	貧者や卑しい人の着物。
短褐不完	たんかつふかん	非見出し	貧者や卑しい人の着物。⇒短褐穿結
彈丸雨注	だんがんうちゅう	4級	雨が降り注ぐように激しく弾丸が飛んでくること。
彈丸黒子	だんがんこくし	4級	きわめて狭い土地のたとえ。
彈丸黒痣	だんがんこくし	1級	きわめて狭い土地のたとえ。⇒彈丸黒子
断簡残編	だんかんざんぺん	非見出し	書物の残欠して完全でないもの。⇒断編残簡
断鶴続鳧	だんかんぞくふ	1級	生まれつきの自然のあり方に手を加え損なうこと。
彈丸之地	だんがんのち	準1級	きわめて狭い土地のたとえ。
断簡零墨	だんかんれいぼく	3級	ちょっとした書き物や、書き物のきれはし。
短期決戦	たんきけっせん	非見出し	短時間で決着をつけること。⇒速戦即決
断機之戒	だんきのいましめ	準1級	学問は途中で放棄してしまっではなんにもならないという教え。
断機之誠	だんきのいましめ	非見出し	学問は途中で放棄してしまっではなんにもならないという教え。⇒断機之戒
断金之契	だんきんのちぎり	非見出し	非常に強い友情で結ばれていること。⇒断金之交
断金之交	だんきんのまじわり	準1級	非常に強い友情で結ばれていること。
断金之利	だんきんのり	非見出し	非常に強い友情で結ばれていること。⇒断金之交
諛言微中	だんげんびちゅう	4級	ものごとをはっきり言わず、それとなく人の弱みや急所をつくような話しぶりのこと。
男耕女織	だんこうじょしょく	準2級	男女それぞれの天職のたとえ。
断港絶潢	だんこうぜっこう	配当外	他から孤立した辺鄙なところのこと。
断根枯葉	だんこんこよう	非見出し	災いを根こそぎ除きさること。問題を根本から解決するたとえ。⇒翦草除根
簞食壺漿	たんしこしょう	1級	自分たちを救ってくれた軍隊を歓迎すること。
簞食瓢飲	たんしひょういん	準1級	清貧に甘んじるたとえ。
単純明快	たんじゅんめいかい	5級	はっきりしていてわかりやすいこと。
貧小失大	たんしょうしつだい	非見出し	小さな利益を得ようとして、かえって大きな損失をすること。⇒因小失大
断章取意	だんしょうしゅい	非見出し	抜き出して用いること。他人の詩文の一部を取り出し、原文の前後の意味に無関係に勝手に解釈したり利用したりすること。⇒断章取義
断章取義	だんしょうしゅぎ	5級	抜き出して用いること。他人の詩文の一部を取り出し、原文の前後の意味に無関係に勝手に解釈したり利用したりすること。
断章截句	だんしょうせつく	非見出し	抜き出して用いること。他人の詩文の一部を取り出し、原文の前後の意味に無関係に勝手に解釈したり利用したりすること。⇒断章取義
淡粧濃抹	たんしょうのうまつ	準2級	女性の化粧。また、女性の美しい形容。
淡粧濃沫	たんしょうのうまつ	非見出し	女性の化粧。また、女性の美しい形容。⇒淡粧濃抹
丹書鉄契	たんしょてつけい	3級	天子が功臣に与えた誓文のこと。
断薺画粥	だんせいかくしゅく	1級	貧乏に耐えて勉学に励むこと。
丹石之心	たんせきのこころ	非見出し	このうえないまごころのこと。⇒碧血丹心
袒裼裸裎	たんせきらてい	1級	はなはだ無礼なこと。
胆戦心驚	たんせんしんきょう	3級	恐怖で胸が震えおののくこと。
胆大心細	たんだいしんさい	非見出し	大胆でしかも細心の注意を払うこと。⇒胆大心小
胆大心小	たんだいしんしょう	3級	大胆でしかも細心の注意を払うこと。
断長続短	だんちょうぞくたん	非見出し	過不足がないよううまい具合に整えること。⇒続短断長
断腸之思	だんちょうのおもい	非見出し	非常に辛くて悲しいこと。⇒九腸寸断
談天雕竜	だんでんちょうりょう	1級	弁舌や文章などが広大でみごとなこと。

単刀直入	たんとうちょくにゅう	5級	前置きなしに、いきなり本題に入ること。
断悪修善	だんなくしゅぜん	準2級	仏教で、一切の煩惱を断とうとする誓いのこと。
断髪文身	だんぱつぶんしん	4級	野蛮な風習のたとえ。
耽美主義	たんびしゅぎ	準1級	人生の目的を理性より美におき、官能・感覚を重視する芸術上の態度。
貪夫徇財	たんぷじゅんざい	1級	欲深い者は、金のためならなんでもするということ。
単文孤証	たんぶんこしょう	3級	わずか一つの文章と一つの証拠。
断編残簡	だんぺんざんかん	5級	書物の残欠して完全でないもの。
断篇零楮	だんぺんれいちよ	非見出し	書物の残欠して完全でないもの。⇒断編残簡
断篇零墨	だんぺんれいぼく	非見出し	書物の残欠して完全でないもの。⇒断編残簡
端木辞金	たんぼくじきん	4級	納得のいかない金は受け取らないという潔癖な態度のこと。
断爛朝報	だんらんちょうほう	1級	きれぎれになって、続き具合のわからない朝廷の記録のこと。
探卵之患	たんらんのうれい	準1級	自分の拠点をおそわれることへの恐れ。
探驪獲珠	たんりかくしゅ	1級	驪竜の顎の下を探って珠玉を手に入れる。転じて、危険を冒して大きな利益を得るたとえ。
探驪得珠	たんりとくしゅ	非見出し	驪竜の顎の下を探って珠玉を手に入れる。転じて、危険を冒して大きな利益を得るたとえ。⇒探驪獲珠
短慮軽率	たんりょけいそつ	4級	思慮が足りず、軽はずみなこと。
湛盧之劍	たんろのけん	1級	静かに澄みきった黒い剣。
談論風発	だんろんふうはつ	5級	盛んに話しあい議論すること。
徵羽之操	ちうのそう	準1級	正しい音楽のこと。
地角天涯	ちかくてんがい	準2級	きわめて遠く離れていることのたとえ。⇒天涯地角
遲疑逡巡	ちぎしゅんじゅん	1級	物事に対し、疑い迷って決断できずに、ぐずぐずとためらうこと。
知己朋友	ちきほうゆう	準1級	交際のある友人のすべてのこと。
池魚故淵	ちぎょこえん	非見出し	故郷が懐かしく忘れがたいこと。⇒越鳥南枝
池魚之殃	ちぎょのわざわい	1級	なんのかかわりもないのに、とんだ災難を受けること。
池魚之禍	ちぎょのわざわい	非見出し	なんのかかわりもないのに、とんだ災難を受けること。⇒池魚之殃
池魚籠鳥	ちぎょろうちょう	2級	宮仕えの役人などの不自由な境遇のたとえ。
築室道謀	ちくしつどうぼう	3級	意見ばかり多くてまとまらず、物事が実現しないこと。
竹頭木屑	ちくとうぼくせつ	準1級	役に立たないもののたとえ。また、細かなもの、つまらないものでも役立つことがあるのでおろそかにしないこと。
竹帛之功	ちくはくのこう	1級	名前が歴史に残るような功績のこと。
竹馬之友	ちくばのとも	準1級	幼友達。
竹馬之好	ちくばのよしみ	非見出し	幼友達。⇒竹馬之友
竹苞松茂	ちくほうしょうも	1級	新築家屋の落成を祝う語。
竹林七賢	ちくりん(の)しちけん	3級	竹林で清談をかわした七人の隱者。
知行合一	ちこうごういつ	5級	本当の知は実践を伴わなければならないということ。
智者一失	ちしゃのいっしつ	準1級	どんなに知恵がある人でも、時には過失があるということ。
知者一失	ちしゃのいっしつ	非見出し	どんなに知恵がある人でも、時には過失があるということ。⇒智者一失
知者不言	ちしゃふげん	5級	物事をほんとうに知っているものは言わないものだ。
知者不惑	ちしゃふわく	4級	本当に賢い人は、物事の道理をわきまえているので、判断を誤り迷うことはないということ。
智者不惑	ちしゃふわく	非見出し	本当に賢い人は、物事の道理をわきまえているので、判断を誤り迷うことはないということ。⇒知者不惑
知者楽水	ちしゃらくすい	5級	知恵のある人は、知が滞ることなく自由に働き、そのさまが水に似ているので、水を好んで楽しむということ。
智者楽水	ちしゃらくすい	非見出し	知恵のある人は、知が滞ることなく自由に働き、そのさまが水に似ているので、水を好んで楽しむということ。⇒知者楽水
置酒高会	ちしゅこうかい	5級	盛大に酒宴を催すこと。
知小謀大	ちしょうぼうだい	3級	力もないのに大きなことを企てること。
置錐之地	ちすいのち	準1級	とがった錐の先をやっと突き立てることができるほどの狭い土地。
知崇礼卑	ちすうれいひ	準2級	真の知者は学識が増せば増すほど、へりくだって礼を尽くすものだということ。

知足安分	ちそくあんぶん	5級	高望みをしないこと。
知足者富	ちそくしゃふ	非見出し	節度を超えた欲望をもつことを戒めたもの。⇒知足不辱
知足不辱	ちそくふじょく	3級	節度を超えた欲望をもつことを戒めたもの。
致知格物	ちちかくぶつ	4級	物事の本質をつきつめて理解し、知識を深めること。⇒格物致知
逐禍之馬	ちっかのうま	非見出し	心身に害を及ぼす事物のたとえ。女色におぼれたり、偶然の幸運をあてにすること。⇒伐性之斧
蟄居屏息	ちつきょへいそく	1級	江戸時代、公家・武士に科した刑の一つ。家にこもって外出せず、息を殺して、おそれつつしむこと。
蟄居閉門	ちつきょへいもん	非見出し	江戸時代、公家・武士に科した刑の一つ。家にこもって外出せず、息を殺して、おそれつつしむこと。⇒蟄居屏息
地平天成	ちへいてんせい	5級	世の中が平穏で、万物が栄えること。また、地変や天災がなく、自然界が穏やかなこと。
知謀縦横	ちぼうじゅうおう	非見出し	才知をはたらかせた計略を思いのままにあやつること。⇒知略縦横
智謀浅短	ちぼうせんたん	準1級	知恵や計画があさはかなこと。短慮なこと。
知謀浅短	ちぼうせんたん	非見出し	知恵や計画があさはかなこと。短慮なこと。⇒智謀浅短
遲暮之嘆	ちぼのたん	準1級	しだいに年をとっていくわが身を嘆くこと。
遲莫之嘆	ちぼのたん	非見出し	しだいに年をとっていくわが身を嘆くこと。⇒遲暮之嘆
魑魅魍魎	ちみもうりょう	1級	いろいろな化け物。また、私欲のために悪にくみをする悪人のたとえ。
螭魅罔兩	ちみもうりょう	非見出し	いろいろな化け物。また、私欲のために悪にくみをする悪人のたとえ。⇒魑魅魍魎
着眼大局	ちやくがんだいきょく	5級	ものごとを全体として大きくとらえること。
着手小局	ちやくしゅしょうきょく	非見出し	目の前の小さなことを細心の注意を払って実践する。⇔着眼大局
注意散漫	ちゅういさんまん	追加	注意が定まらず、あれこれと気が散っているさま。集中力を欠いているさま。
中央集権	ちゅうおうしゅうけん	非見出し	地方の権限を抑えて、中央の権力を強くすること。⇒強幹弱枝
忠君愛国	ちゅうくんあいこく	5級	君に忠節をつくし、国を愛すること。
忠言逆耳	ちゅうげんぎやくじ	4級	忠告は聞きにくいものだが、自分にとって真にためになるものだということ。
中権後勤	ちゅうけんこうけい	準1級	戦略・陣容ともに整っていること。
中原逐鹿	ちゅうげんちくろく	準1級	群雄が割拠して天子の位を争いあうこと。
中原之鹿	ちゅうげんのしか	準1級	群雄が割拠して天子の位を争いあうこと。⇒中原逐鹿
智勇兼備	ちゅうけんび	準1級	知恵と勇気をともに持つこと。
知勇兼備	ちゅうけんび	非見出し	知恵と勇気をともに持つこと。⇒智勇兼備
忠孝一致	ちゅうこういっち	4級	忠義と孝行はともに全うすることができること。
忠孝双全	ちゅうこうそうぜん	非見出し	君主に対する忠義と親に対する孝行を二つとも全うすること。⇒忠孝両全
抽黄对白	ちゅうこうたいはく	3級	黄色や白色の美しい色を適切に配合する。巧みに四六駢儷文を作ること。
忠孝不並	ちゅうこうふへい	非見出し	君主に対する忠義と親に対する孝行は両立しないということ。⇔忠孝両全
昼耕夜誦	ちゅうこうやしゅう	1級	貧乏な生活のなかで勉学に励むこと。
忠孝両全	ちゅうこうりょうぜん	5級	君主に対する忠義と親に対する孝行を二つとも全うすること。
忠孝両立	ちゅうこうりょうりつ	非見出し	君主に対する忠義と親に対する孝行を二つとも全うすること。⇒忠孝両全
忠魂義胆	ちゅうこんぎたん	3級	忠義にあふれた心のこと。
鑄山煮海	ちゅうさんしゃかい	準2級	財を多く蓄えること。
中秋玩月	ちゅうしゅうがんげつ	2級	中秋の夜に雅な月見の宴会を催すこと。
中秋翫月	ちゅうしゅうがんげつ	非見出し	中秋の夜に雅な月見の宴会を催すこと。⇒中秋玩月
中秋名月	ちゅうしゅうのめいげつ	5級	陰暦八月十五日の夜の月。
仲秋名月	ちゅうしゅうのめいげつ	非見出し	陰暦八月十五日の夜の月。⇒中秋名月
抽薪止沸	ちゅうしんしふつ	準2級	わざわいなどの問題を根本から解決すること。
誅心之法	ちゅうしんのほう	1級	実際の行為として現れなくても、心の中が正しくなければ、それを処罰する筆法。
疇昔之夜	ちゅうせきのよ	1級	昨夜。ゆうべ。
昼想夜夢	ちゅうそうやむ	5級	昼に思ったことが夜の夢になること。
躊躇逡巡	ちゅうちょしゅんじゅん	1級	ためらって進まないこと。

中通外直	ちゅうつうがいちよく	5級	君子の心と行動が広く正しいことのたとえ。
中途半端	ちゅうとはんぱ	準2級	物事がきちんとかたづかないこと。
綢繆未雨	ちゅうびゅうみう	1級	前もって準備をしてわざわざを防ぐこと。
綢繆牖戸	ちゅうびゅうゆうこ	非見出し	前もって準備をしてわざわざを防ぐこと。⇒綢繆未雨
昼夜兼行	ちゅうやけんこう	4級	昼と夜の区別なく続けて物事を行うこと。
忠勇義烈	ちゅうゆうぎれつ	4級	忠義で勇気があり、正義感が強くはげしいこと。
中流砥柱	ちゅうりゅうのしちゅう	準1級	困難にあってもびくともせず、節義を曲げない人物のたとえ。
仲連蹈海	ちゅうれんとうかい	1級	節操が清く高いたとえ。
沖和之氣	ちゅうわのき	準1級	天地間の調和した気のこと。
黜陟幽明	ちゅつちよくゆうめい	1級	正しい基準に従って人材を評価すること。
寵愛一身	ちようあいいつしん	準1級	多くの人の中から特別に目をかけられ、愛情を一人占めにすること。
懲惡勸善	ちようあくかんぜん	非見出し	善行を奨励して、悪行を懲らしめ、悪い行いをしないようにしむけること。⇒勸善懲惡
長安日辺	ちようあんにつぺん	5級	遠く離れた地のこと。また、才知に富んでいること。
朝衣朝冠	ちよういちょうかん	3級	朝廷に出仕するときに着る制服やかんむり。
超軼絶塵	ちよういつぜつじん	1級	非常に軽やかに速く走ること。
超逸絶塵	ちよういつぜつじん	非見出し	非常に軽やかに速く走ること。⇒超軼絶塵
朝雲暮雨	ちよううんぼう	4級	男女の情交のこと。
朝盈夕虚	ちようえいせききょ	準1級	人生のはかないことのたとえ。
朝榮夕滅	ちようえいせきめつ	非見出し	人生のはかないことのたとえ。⇒朝盈夕虚
張王李趙	ちようおうりちょう	1級	これとって取り柄のない平凡な人のこと。
朝改暮変	ちようかいぼへん	4級	命令や法令がすぐ変わって定まらないこと。⇒朝令暮改
鳥革翬飛	ちようかくきひ	配当外	家の造りが美しくて立派なこと。
朝過夕改	ちようかせきかい	4級	あやまちを犯せばすぐに改めるたとえ。
朝活暮死	ちようかつぼし	非見出し	長生きして死なない。長生きして衰えない。⇒長生不死
朝歌夜絃	ちようかやげん	準1級	朝から晩まで一日中遊樂にあげくれること。
朝覲夕覽	ちようかんせきらん	4級	朝に見て夕べにも見る。朝な夕なに見る。
彫肝琢腎	ちようかんたくじん	非見出し	身を削るような苦勞をすること。⇒彫心鑠骨
張冠李戴	ちようかんりたい	準1級	名と実が一致しないこと。
重熙累洽	ちようきるいこう	1級	光明をかさねて広く恩恵が行きわたること。
長頸烏喙	ちようけいうかい	1級	くびが長く、口のとがった人相のこと。
重見天日	ちようけんてんじつ	5級	暗く苦しい状況から解放されて、以前の明るい状態に戻ることに。
朝憲紊乱	ちようけんびんらん	1級	国家のおきてが乱れること。
懲羹吹膾	ちようこうすいかい	1級	一度失敗したことに懲りて、必要以上に用心深くなりすぎることに。
懲羹吹齎	ちようこうすいかい	非見出し	一度失敗したことに懲りて、必要以上に用心深くなりすぎることに。⇒懲羹吹膾
長江天塹	ちようこうてんざん	1級	長江は天然の塹壕だということ。
朝耕暮耘	ちようこうぼうん	1級	朝に耕し夕べに草ぎる。農耕に精を出すことに。
張甲李乙	ちようこうりいつ	非見出し	ごくありふれた平凡な人のたとえ。⇒張三李四
鳥語花香	ちようごかこう	4級	鳥の鳴き声と花の香り。春ののどかな風物をいう。
兆載永劫	ちようさいようごう	準1級	きわめて長い年月のこと。
朝三暮四	ちようさんぼし	4級	目先の違いにこだわり、事柄の本質を理解しないことに。
張三李四	ちようさんりし	準1級	ごくありふれた平凡な人のたとえ。
張三呂四	ちようさんりよし	非見出し	ごくありふれた平凡な人のたとえ。⇒張三李四
朝四暮三	ちようしぼさん	非見出し	目先の違いにこだわり、事柄の本質を理解しないことに。⇒朝三暮四
長袖善舞	ちようしゅうぜんぶ	2級	事前に周到な準備がしてあれば事は成功しやすいということ。

朝出暮改	ちょうしゅつぽかい	非見出し	命令や法令がすぐに変わって定まらないこと。⇒朝令暮改
朝種暮穫	ちょうしゅぽかく	3級	朝植えて暮れには収穫すること。方針が一定しないこと。
鳥尽弓蔵	ちょうじんきゅうぞう	4級	目的が達せられると、それまでの功績が忘れられ冷たく見捨てられること。
長身瘦軀	ちょうしんそうく	準1級	背が高く痩せていること。
朝真暮偽	ちょうしんぼぎ	準2級	真義の定めがたいたとえ。
朝秦暮楚	ちょうしんぼそ	準1級	住所が定まらず放浪することのたとえ。また、節操なく主義主張が常に変わるたとえ。
彫心鏤骨	ちょうしんるこつ	1級	身を削るような苦勞をすること。
長生久視	ちょうせいきゅうし	5級	長生きをすること。
長生不死	ちょうせいふし	5級	長生きして死なない。長生きして衰えない。
長生不老	ちょうせいふろう	非見出し	長生きして死なない。長生きして衰えない。⇒長生不死
朝齋暮塩	ちょうせいぼえん	1級	極貧のたとえ。
朝成暮毀	ちょうせいぼき	2級	建物などの造営が盛んなことのたとえ。
朝生暮死	ちょうせいぼし	4級	極めて短命なことのたとえ。
朝穿暮塞	ちょうせんぼそく	準1級	建築・造営が頻繁であることのたとえ。
彫題黒歯	ちょうだいこくし	非見出し	おはぐろをした歯と入れ墨をした額のこと。⇒黒歯彫題
長短相形	ちょうたんそうけい	非見出し	長いものと短いものが相対的な関係で存在すること。⇒有無相生
冢中枯骨	ちょうちゅう(の)ここつ	1級	無能でとりえのない人のたとえ。
彫虫篆刻	ちょうちゅうてんこく	1級	取るに足りない小細工。
雕虫篆刻	ちょうちゅうてんこく	非見出し	取るに足りない小細工。⇒彫虫篆刻
雕虫小技	ちょうちゅうのしょうぎ	非見出し	取るに足りない小細工。⇒彫虫篆刻
喋喋喃喃	ちょうちょうなんなん	1級	小声で親しげに話しあうさま。
打打発止	ちょうちょうはっし	準1級	激しく議論をたたかわしあうさま。
打打発矢	ちょうちょうはっし	非見出し	激しく議論をたたかわしあうさま。⇒打打発止
丁丁発止	ちょうちょうはっし	非見出し	激しく議論をたたかわしあうさま。⇒打打発止
朝朝暮暮	ちょうちょうぼぼ	4級	毎朝毎晩。
長枕大被	ちょうちんたいひ	準1級	兄弟の仲むつまじいこと。また交情が親密なこと。⇒大衾長枕
長汀曲浦	ちょうていきよくほ	準1級	はるかに続いている海岸線。
糶糶斂散	ちょうてきれんさん	1級	豊作の年には政府が米を買いあげ、それを凶作の年に安く売ること。
頂天立地	ちょうてんりっち	5級	堂々として誰にも頼らず生きているさま。
張眉怒目	ちょうびどもく	2級	眉をつり上げて目をむく。
凋氷画脂	ちょうひょうがし	準1級	苦勞して効果のないたとえ。力を無用なところに用いるたとえ。
嘲風睥月	ちょうふうろうげつ	1級	風や月を題材にして詩歌を作ること。
嘲風弄月	ちょうふうろうげつ	非見出し	自然の風景に親しみ、風流を好んで楽しむこと。⇒嘯風弄月
雕文刻鏤	ちょうぶんこくる	1級	文章中の字や句を美しく飾ること。
長鞭馬腹	ちょうべんばふく	準1級	強大な力があっても、思わぬ手近なところに力が及ばないことがあるということ。また、長すぎたり大きすぎて役に立たないこと。
朝変暮改	ちょうへんぽかい	非見出し	命令や法令がすぐに変わって定まらないこと。⇒朝令暮改
眺望絶佳	ちょうぼうぜっか	追加	目の前に広がる風景がすばらしくよいさま。
長命富貴	ちょうめいふうき	準2級	長生きして身分高く裕福であること。
鳥面鵠形	ちょうめんこくけい	準1級	飢えのためにひどくやせ衰えているさま。
長目飛耳	ちょうもくひじ	4級	広く情報を収集し、物事を深く鋭く判断すること。
頂門一針	ちょうもんのいっしん	5級	人の急所をつく適切な戒め。
頂門一鍼	ちょうもんのいっしん	非見出し	人の急所をつく適切な戒め。⇒頂門一針
頂門金椎	ちょうもんのきんつい	2級	人の急所をついた適切な戒め。
長夜之飲	ちょうやのいん	準1級	昼夜を通しての大宴会。

長夜之楽	ちょうやのたのしみ	準1級	昼夜を通しての大宴会。⇒長夜之飲
朝有紅顔	ちょうゆうこうがん	5級	人生の無常のたとえ。
長幼之序	ちょうようのじょ	準1級	年長者と年少者の間にある、当然守らなければならない社会的、道德上の秩序のこと。
朝蠅暮蚊	ちょうようぼぶん	準1級	つまらない小人物がはびこるたとえ。
重卵之危	ちょうらんのき	準1級	きわめて危険なことのたとえ。
朝立暮廃	ちょうりつぼはい	非見出し	命令や法令がすぐに変わって定まらないこと。⇒朝令暮改
跳梁跋扈	ちょうりょうばっこ	1級	悪者などがはびこり、勝手気ままに振る舞うこと。
朝令暮改	ちょうれいぼかい	4級	命令や法令がすぐに変わって定まらないこと。
凋零磨滅	ちょうれいまめつ	準1級	しばみ落ちて滅びること。
直往邁進	ちよくおうまいしん	1級	ただ一すじに突き進む。ためらわずに突き進むこと。
直言極諫	ちよくげんきょっかん	準1級	思ったことをはっきり言って強くいさめること。
直言骨鯁	ちよくげんこっこう	配当外	遠慮しないで直言し、意志強固で人に屈しないこと。
直言直行	ちよくげんちよくこう	非見出し	周囲の状況や相手の気持ちにかまわず、自分の思ったとおりにふるまうこと。⇒直情径行
直言無諱	ちよくげんむき	非見出し	思ったことを遠慮せずはっきりと言うこと。⇒直言極諫
直情径行	ちよくじょうけいこう	5級	周囲の状況や相手の気持ちにかまわず、自分の思ったとおりにふるまうこと。
直截簡明	ちよくせつかんめい	1級	くどくどしくなくきっぱりしていること。
佇思停機	ちよしていき	1級	しばらくの間その場に立ちどまって、あれこれ思いなやみ、心のはたらきをやめてしまうこと。
豬突豨勇	ちよとつきゆう	配当外	いのししのように勇ましい武者のこと。
猪突猛進	ちよとつもうしん	準1級	目的にむかってがむしゃらに突き進むこと。
樗櫟散木	ちよれきさんぼく	1級	役に立たない人やもの。⇒樗櫟之材
樗櫟之材	ちよれきのざい	1級	役に立たない人やもの。
樗櫟庸材	ちよれきようざい	非見出し	役に立たない人やもの。⇒樗櫟之材
治乱興廃	ちらんこうはい	非見出し	世の中がよく治まることと、乱れて亡びること。⇒治乱興亡
治乱興亡	ちらんこうぼう	5級	世の中がよく治まることと、乱れて亡びること。
知略縦横	ちりやくじゅうおう	5級	才知をはたらかせた計略を思いのままにあやつること。
智略縦横	ちりやくじゅうおう	非見出し	才知をはたらかせた計略を思いのままにあやつること。⇒知略縦横
沈鬱頓挫	ちんうつとんざ	2級	詩文の風格が高く内容が深くて文章中の字句の意味がすらすらと通らず、とどこおること。
枕戈寢甲	ちんかしんこう	非見出し	闘いの備えをおこたらないこと。⇒枕戈待旦
枕戈待旦	ちんかたいたん	1級	闘いの備えをおこたらないこと。
沈魚落雁	ちんぎょらくがん	準1級	はなやかな美人の形容。
椿萱並茂	ちんけんへいも	準1級	父と母がともに健在なこと。
陳蔡之厄	ちんさいのやく	1級	旅の途中で災難にあうたとえ。
沈思凝想	ちんしぎょうそう	3級	物事を深く考え、じっと思いをこらすこと。
陳思七步	ちんししちほ	非見出し	すぐれた詩文をすばやく作る才能。⇒七歩之才
沈思默考	ちんしもっこう	4級	沈黙して深くじっと考えこむこと。
陳勝呉広	ちんしょうごこう	準2級	ものごとの先駆けをなす人のこと。反乱の最初の指導者をもいう。
沈著痛快	ちんちゃくつうかい	準1級	落ち着きがあり、さっぱりとして心地よいこと。
沈着痛快	ちんちゃくつうかい	非見出し	落ち着きがあり、さっぱりとして心地よいこと。⇒沈著痛快
椿庭萱堂	ちんていけんどう	非見出し	父と母がともに健在なこと。⇒椿萱並茂
沈博絶麗	ちんぱくぜつれい	4級	文章などの意味や内容が深遠で広く表現がはなはだ美しいこと。
珍聞奇聞	ちんぶんきぶん	非見出し	きわめて珍しい話のこと。⇒異聞奇譚
珍味佳肴	ちんみかこう	準1級	たいへんおいしいご馳走。
沈黙寡言	ちんもくかげん	準2級	口数が少なく無口なこと。落ち着いていて無口なこと。
枕流漱石	ちんりゅうそうせき	1級	強情で負け惜しみの強いこと。

墜茵落溷	ついいんらくこん	1級	人には運不運があるということ。
追本究源	ついほんきゅうげん	非見出し	物事の根源を究め求めること。⇒推本溯源
追奔逐北	ついほんちくほく	準2級	逃げる賊を追いかけること。
痛飲大食	つういんたいしょく	非見出し	むやみにたくさん飲み食いをすること。⇒牛飲馬食
痛快無比	つうかいむひ	非見出し	人々を痛快な気持ちにさせる。⇒大快人心
通曉暢達	つうぎょうちょうたつ	準1級	ある事柄を詳しく知りぬいていてのびやかであること。
通儒碩学	つうじゅせきがく	準1級	学問の奥義をきわめた大学者のこと。⇒碩学大儒
痛定思痛	つうていしつう	5級	過ぎ去った苦難を振り返り、いまの戒めとする意。
津津浦浦	つつうらうら	準2級	全国いたる所。
九十九折	つづらおり	準1級	くねくねと何度も折れ曲がっている。
定員削減	ていいんさくげん	非見出し	官庁などでむだな人員を整理すること。⇒冗員淘汰
殢雨尤雲	ていうゆううん	配当外	男女の情交のこと。⇒尤雲殢雨
殢雲尤雨	ていうんゆうう	非見出し	男女の情交のこと。⇒尤雲殢雨
鄭衛桑間	ていえいそうかん	準1級	国を滅ぼすような下品でみだらな音楽のこと。
鄭衛之音	ていえいのおん	準1級	みだらな音楽。
鄭衛之声	ていえいのこえ	非見出し	みだらな音楽。⇒鄭衛之音
低回顧望	ていかいこぼう	3級	行きつもどりつして前後をふりかえるさま。
低徊顧望	ていかいこぼう	非見出し	行きつもどりつして前後をふりかえるさま。⇒低回顧望
低徊顧望	ていかいこぼう	非見出し	行きつもどりつして前後をふりかえるさま。⇒低回顧望
低徊趣味	ていかいしゅみ	1級	世俗を離れて、余裕ある心で自然や芸術にひたる態度。
低回趣味	ていかいしゅみ	非見出し	世俗を離れて、余裕ある心で自然や芸術にひたる態度。⇒低徊趣味
低回趣味	ていかいしゅみ	非見出し	世俗を離れて、余裕ある心で自然や芸術にひたる態度。⇒低徊趣味
棣鄂之情	ていがくのじょう	1級	兄弟が仲良くむつまじくする情。兄弟のうるわしい愛情。
棣華増映	ていかぞうえい	非見出し	兄弟が仲良くむつまじくする情。兄弟のうるわしい愛情。⇒棣鄂之情
低吟微詠	ていぎんびえい	非見出し	小さな声でしんみりと歌うこと。⇒低唱微吟
程孔傾蓋	ていこうけいがい	2級	親しく話をする事。
渟膏湛碧	ていこうたんぺき	1級	水があぶらのように深く静かによどんで深緑色にたたえているさま。
提耳面命	ていじめんめい	4級	懇切に教え諭すことのたとえ。
泥車瓦狗	でいしゃがこう	準1級	役に立たないもののたとえ。
泥首銜玉	でいしゅかんぎょく	1級	頭を土につけ、口に玉をふくむこと。謝罪降伏するときの儀礼のこと。
低唱浅斟	ていしょうせんしん	1級	少々酒を飲んで小声で歌を口ずさむこと。⇒浅斟低唱
低唱微吟	ていしょうびぎん	準2級	小さな声でしんみりと歌うこと。
鼎新革故	ていしんかくこ	準1級	古い制度や習慣を改めて新しいものにすること。⇒革故鼎新
定省温清	ていせいおんせい	1級	親に孝養を尽くすこと。⇒温清定省
泥船渡河	でいせんとか	準2級	人生行路の危険なことのたとえ。
鼎鑪玉石	ていそうぎょくせき	1級	非常な贅沢をするたとえ。
廷諍面折	ていそうめんせつ	1級	面と向かって臆することなく争論すること。⇒面折廷諍
低頭傾首	ていとうけいしゅ	4級	頭を低くして、身をつつしむこと。
低頭平身	ていとうへいしん	非見出し	ひたすら恐縮しへりくだること。また、ひたすらあやまること。⇒平身低頭
剃頭辮髮	ていとうべんぱつ	準1級	中国の周辺民族で行われた髪型。頭の四周をぐりと剃って中央部の残った長い髪を編んで後ろに垂らしたもの。
程邈隸書	ていはくれいしよ	非見出し	程邈が隸書という書体を作った。⇒史籀大篆
剃髮落飾	ていはつらくしょく	準1級	髪を剃って出家すること。
綈袍恋恋	ていほうれんれん	配当外	昔なじみを忘れない友情の厚いことのたとえ。
擲果満車	てきかまんしゃ	1級	非常に人気があり評判なこと。また、非常な美少年のこと。

適材適所	てきざいてきしよ	5級	その人の能力に適した地位や任務につけること。
適者生存	てきしゃせいぞん	5級	環境に最も適したものが生き残り、適していないものは淘汰され滅びること。
擲埴冥行	てきしょくめいこう	配当外	学問をするのに、その方法を知らないことのたとえ。⇒冥行擲埴
滴水成凍	てきすいせいとう	非見出し	冬の厳しい寒さのこと。また、極寒の地のこと。⇒滴水成氷
滴水成氷	てきすいせいひょう	4級	冬の厳しい寒さのこと。また、極寒の地のこと。
滴水嫡凍	てきすいてきとう	準1級	瞬時も気をゆるめないで仏道修行に励むこと。
適楚北轅	てきそほくえん	1級	志と行動とが相反するたとえ。⇒北轅適楚
鉄意石心	てついせきしん	非見出し	強い精神、堅い意志のたとえ。⇒鉄腸石心
鉄肝石腸	てっかんせきちょう	非見出し	強い精神、堅い意志のたとえ。⇒鉄腸石心
鉄硯磨穿	てっけんません	非見出し	猛烈に勉強すること。⇒磨穿鉄硯
鉄樹開花	てつじゅかいか	5級	物事の見込みがないこと。
鉄心石腸	てっしんせきちょう	5級	強い精神、堅い意志のたとえ。⇒鉄腸石心
鉄石心腸	てっせきしんちょう	非見出し	強い精神、堅い意志のたとえ。⇒鉄腸石心
鉄石之心	てっせきのこころ	非見出し	節操が固く何事にも動じない堅固な心のたとえ。⇒匪石之心
鉄中錚錚	てっちゅうのそうそう	1級	凡人の中では少しすぐれている者のたとえ。
鉄腸石心	てっしょうせきしん	5級	強い精神、堅い意志のたとえ。
徹頭徹尾	てっとうてつび	準2級	最初から最後まで。
跌蕩放言	てっとうほうげん	1級	まわりの人をまったく気にしないでしゃべりちらすこと。
哲婦傾城	てっぷけいせい	準1級	賢い女性があれこれ口出しするようになると、家や国を滅ぼしかねないということ。
哲夫成城	てっぷせいじょう	非見出し	道理をわきまえ、優れた見識を持った男性が、国を作る。⇔哲婦傾城
轍鮒之急	てっぷのきゅう	準1級	危険や災難がさしせまっていることのたとえ。
鉄網珊瑚	てつもうさんご	準1級	すぐれた人物や珍しい物を探し求めること。
轍乱旗靡	てつらんきび	1級	軍隊などが敗走する形容。
手前勝手	てまえがって	非見出し	自分の都合のよいように、考えたり事を進めたりすること。⇒我田引水
手前味噌	てまえみそ	準1級	自分で自分のことをほめること。
手練手管	てれんてくだ	5級	人をだまし操る手段や技巧のこと。
天威咫尺	てんいしせき	1級	天子の威光が眼前にあること。
顛委勢峻	てんいせいしゅん	準1級	水源も末流もその勢いが激しく盛んなこと。
天一地二	てんいちちに	5級	天の数と地の数。その数の中に宇宙のすべての変化を含むとされる。
天衣無縫	てんいむほう	3級	飾りけがなく自然であること。
天宇地慮	てんうちろ	1級	天と地。天地。この世。
顛越不恭	てんえつふきょう	準1級	道はずれて、君主の命令をつつしんで行わないこと。
田園将蕪	でんえんしょうぶ	準1級	田畑を耕す働き手がいがないために、雑草がおい茂って田畑が荒れはてていること。
天淵之差	てんえんのさ	準1級	物事の隔たりがはなはだしく大きいことのたとえ。
天淵之別	てんえんのべつ	非見出し	物事の隔たりがはなはだしく大きいことのたとえ。⇒天淵之差
天淵氷炭	てんえんひょうたん	準1級	差のはなはだしいことのたとえ。
天涯一望	てんがいいちぼう	非見出し	ひと目でかなたまで広々と見渡されること。⇒一望無垠
天涯海角	てんがいはいかく	非見出し	きわめて遠く離れていることのたとえ。⇒天涯地角
天涯孤独	てんがいこどく	準2級	身寄りがなくひとりぼっちであること。
天涯地角	てんがいちかく	準2級	きわめて遠く離れていることのたとえ。
天開地辟	てんかいちへき	非見出し	天地のはじまり。これまでの歴史にないような大きな出来事のこと。⇒開天闢地
填海之志	てんかいのこころざし	非見出し	不可能なことを企て、徒労に終わること。また、いつまでも悔やみ続けること。⇒精衛填海
天涯比隣	てんがいひりん	準2級	故郷を遠く離れていても、すぐとなりにいるような親しい関係のこと。
天下御免	てんかごめん	追加	誰にはばかることなく、堂々と言うことを許されていること。世間一般に認められていること。

天下至大	てんかしだい	非見出し	このうえなく大きい。⇒至大至剛
天下第一	てんかだいいち	非見出し	世の中に並ぶものがないほどすぐれていること。⇒海内無双
天下泰平	てんかたいへい	準2級	世の中が穏やかに治まり平和なこと。
天下太平	てんかたいへい	非見出し	世の中が穏やかに治まり平和なこと。⇒天下泰平
伝家宝刀	でんかのほうとう	5級	いざという時以外にはめったに使わない、とっておきの物や手段。
天下法度	てんかはっと	非見出し	命令や法令がすぐに変わって定まらないこと。⇒朝令暮改
天下無双	てんかむそう	3級	天下にくらべる者がいないこと。
天下無敵	てんかむてき	非見出し	学問や芸術などある分野の第一人者。⇒泰山北斗
天花乱墜	てんからんつい	3級	ことのほか話し方がいきいきしていること。また、事実を誇張して話すこと。また、巧みな言葉で人をだますこと。
天華乱墜	てんからんつい	非見出し	ことのほか話し方がいきいきしていること。また、事実を誇張して話すこと。また、巧みな言葉で人をだますこと。⇒天花乱墜
天顔咫尺	てんがんしせき	1級	天子(君主)のおそばに侍ること。
伝観播弄	でんかんはろう	準1級	次から次に人の手にわたして弄ぶこと。またそうされること。
天空海闊	てんくうかいかつ	1級	気性がさっぱりとしていて、心が広いこと。⇒海闊天空
天懸壤隔	てんけんじょうかく	非見出し	へだたりのはなはだしいことのたとえ。⇒天懸地隔
天玄地黄	てんげんちおう	非見出し	天は黒く、地は黄色であること。⇒天地玄黄
天懸地隔	てんけんちかく	準2級	へだたりのはなはだしいことのたとえ。
甜言美語	てんげんびご	非見出し	蜜のように甘く聞いている快い言葉。⇒甜言蜜語
甜言蜜語	てんげんみつご	準1級	蜜のように甘く聞いている快い言葉。
電光影裏	でんこうえいり	4級	人生ははかないものだが、悟りを得た人の魂は滅びることがないということ。
天香桂花	てんこうけいか	準1級	月の中にあるという桂の花。
天香国色	てんこうこくしょく	4級	すばらしい香りと国一番の美しさ。牡丹の別名。⇒国色天香
電光石火	でんこうせっか	5級	動作や振る舞いが非常にすばやいこと。
電光朝露	でんこうちょうろ	4級	ごく短い時間のたとえ。また、人生のはかないことのたとえ。
天潢之派	てんこうのは	配当外	皇室、皇族んこと。
電光雷轟	でんこうらいごう	準1級	勢いのきわめてはげしいことのたとえ。⇒雷轟電撃
甜語花言	てんごかげん	非見出し	蜜のように甘く聞いている快い言葉。⇒甜言蜜語
天閼地垠	てんこんちぎん	配当外	天の門と地の果て。
天災地変	てんさいちへん	5級	天地の間に起こる災難や異変。
天姿国色	てんしこくしょく	5級	生まれながらの絶世の美人をいう。
天日之表	てんじつのひよう	準1級	天子となるべき人相をしていること。
天上五衰	てんじょうごすい	非見出し	天人の死にぎわに現れるという五つの死相のこと。⇒天人五衰
天井棧敷	てんじょうさじき	準2級	劇場で後方最上階に設けた値段の安い席。
天壤之別	てんじょうのべつ	非見出し	物事の隔たりがはなはだしく大きいことのたとえ。⇒天淵之差
天壤無窮	てんじょうむきゆう	準2級	天地とともに永遠に続くこと。
転生輪廻	てんしょうりんね	準1級	仏教で、人の生きかわり死にかわりしてとどまることのないことをいう。⇒輪廻転生
天人感応	てんじんかんのう	非見出し	天意と人事が暗にあう。⇒天人冥合
天人相応	てんじんそうおう	非見出し	天意と人事が暗にあう。⇒天人冥合
天人相関	てんじんそうかん	非見出し	天意と人事が暗にあう。⇒天人冥合
天人相与	てんじんそうよ	非見出し	天意と人事が暗にあう。⇒天人冥合
天神地祇	てんしんちぎ	準1級	天と地すべての神々。
天人冥合	てんじんめいごう	2級	天意と人事が暗にあう。
天真爛漫	てんしんらんまん	1級	純粹で無邪気なさま。
点睛開眼	てんせいかいがん	1級	物事の最も大切なところ。物事を完成するための最後の大切な仕上げ。⇒画竜点睛
天造草昧	てんぞうそうまい	2級	天地の開けはじめ。

天孫降臨	てんそんこうりん	5級	記紀(古事記と日本書紀)の神話の中で、孫の瓊瓊杵尊が天照大神の命を受けて高天原から日向国の高千穂に天降ったこと。
霑体塗足	てんたいとそく	1級	苦勞して労働すること。
椽大之筆	てんだいのふで	1級	重厚で堂々としたりっぱな文章。
恬淡寡欲	てんたんかよく	1級	あっさりして欲の少ないこと。
天地一指	てんちいっし	5級	すべての対立をこえた絶対的な観点からすると、天も地も同じ一本の指にすぎないということ。
天地開闢	てんちかいびやく	1級	天地のはじまり。世界のはじまり。
天地玄黄	てんちげんこう	4級	天は黒く、地は黄色であること。
天地四時	てんちしいじ	準1級	天地と春夏秋冬。
天地神明	てんちしんめい	5級	天と地のすべての神々のこと。
天地創造	てんちそうぞう	非見出し	天地のはじまり。世界のはじまり。⇒天地開闢
天地長久	てんちちょうきゅう	非見出し	天地は永遠で尽きることがないこと。⇒天長地久
天地無用	てんちむよう	5級	荷物の上下を逆さまにしてはいけない。
天長地久	てんちょうちきゅう	5級	天地は永遠で尽きることがないこと。
点滴穿石	てんてきせんせき	準1級	わずかな力でも積み重なると非常に大きな力を發揮すること。
点鉄成金	てんてつせいきん	非見出し	外形はもとのままで中身を取りかえること。また、外見は同じでも内容が違うこと。⇒換骨奪胎
輾転反側	てんてんはんそく	1級	心配したり思い悩んだりして眠れず何度も寝返りをうつこと。
展転反側	てんてんはんそく	非見出し	心配したり思い悩んだりして眠れず何度も寝返りをうつこと。⇒輾転反側
天人五衰	てんにんのごすい	3級	天人の死にぎわに現れるという五つの死相のこと。
天之美禄	てんのびろく	準1級	酒の異称。酒をたたえていう語。
天之曆数	てんのれきすう	準1級	天のまわりああせ。天のめぐりの運命。特に、天命を受けて帝位につく運命をいう。
天之歴数	てんのれきすう	非見出し	天のまわりああせ。天のめぐりの運命。特に、天命を受けて帝位につく運命をいう。⇒天之曆数
顛沛流離	てんぱいりゅうり	非見出し	つまずき倒れながらさまよい歩くこと。⇒顛沛流浪
顛沛流浪	てんぱいるろう	1級	つまずき倒れながらさまよい歩くこと。
天馬行空	てんばこうくう	5級	考え方や行動が何ものにも拘束されず自由奔放なこと。
天罰覲面	てんばつてきめん	1級	悪いことをすると、天の下す罰がすぐに現れること。
天覆地載	てんぷうちさい	準1級	天地のように広くおおらかな心や仁徳のこと。
天覆之心	てんぷうのこころ	非見出し	天地のように広くおおらかな心や仁徳のこと。⇒天覆地載
天保九如	てんぷきゅうじょ	準1級	人の長寿を祈る語。
天府之国	てんぷのくに	準1級	自然の要害の地で地味が肥え、産物に富む土地。
田父之功	でんぷのこう	非見出し	両者が争っているすきに、第三者が勞せず利益を横取りすること。⇒漁夫之利
田夫野人	でんぷやじん	5級	ふるまいが粗野で教養のない人。⇒田夫野老
田夫野老	でんぷやろう	5級	ふるまいが粗野で教養のない人。
天変地異	てんぺんちい	5級	地震・暴風など天地間に起こる自然の異変。
天変地変	てんぺんちへん	非見出し	地震・暴風など天地間に起こる自然の異変。⇒天変地異
天歩艱難	てんぽかんなん	1級	時運に恵まれず非常に苦勞すること。
顛撲不破	てんぼくふは	準1級	動かし破ることができないこと。
典謨訓誥	てんぼくんこう	1級	『書經』にある典・謨・訓・誥の四体の文。『書經』の篇名の併称。転じて、聖人の教え。經典のこと。
転迷開悟	てんめいかいご	3級	迷いを転じて悟りを開くこと。
転迷解悟	てんめいかいご	非見出し	迷いを転じて悟りを開くこと。⇒転迷開悟
天網恢恢	てんもうかいかい	準1級	天は公平で決して悪人・悪事を見のがさないということ。
天網之漏	てんもうのろう	準1級	天罰からもれること。
天門開闔	てんもんかいこう	1級	天の造化の門が開き閉じる。開くと万物が生成し、閉じると消滅することから、万物の生滅変化をいう。
天門登八	てんもんとうはち	5級	仕官して、その頂点に近づけばえって自分の身を危うくすることのたとえ。
天佑神助	てんゆうしんじょ	準1級	天のたすけと神のたすけ。

天祐神助	てんゆうしんじょ	非見出し	天のたすけと神のたすけ。⇒天佑神助
天理人欲	てんりじんよく	5級	天の条理と人の欲望。人にある天然の本性と欲望。
転轆轤地	てんろくろくじ	非見出し	物事が滞ることなくうまく回転すること。また、次から次へと言葉が発せられること。⇒阿轆轤地
東夷西戎	とういせいじゅう	非見出し	古く中国人が東方や西方の異民族をさげすんで称したもの。⇒南蛮北狄
当意即妙	とういそくみょう	4級	機転をきかせて、その場にあった対応をすること。
蕩佚簡易	とういつかんい	1級	のんびりして自由なこと。寛大でやさしいこと。
桃園結義	とうえんけつぎ	4級	義兄弟のちぎりを結ぶこと。
桃園之契	とうえんのちぎり	非見出し	義兄弟のちぎりを結ぶこと。⇒桃園結義
冬温夏清	とうおんかせい	1級	親に孝行を尽くすこと。
東海桑田	とうかいそうでん	非見出し	世の変転のはなはだしいたとえ。⇒滄海桑田
凍解氷積	とうかいひょうしゃく	3級	氷が溶けていくように疑問などが解決していくこと。
東海撈針	とうかいろうしん	非見出し	ほとんど実現不可能なこと。⇒大海撈針
灯火可親	とうかかしん	5級	涼しい秋は、あかりの下で読書するのに適しているということ。
桃花癸水	とうかきすい	1級	女性の月経をいう。
冬夏青青	とうかせいせい	5級	かたく守って変わらない節操のこと。
堂下周屋	どうかのしゅうおく	5級	廊下のこと。
恫疑虚喝	どうぎきょかつ	1級	心中ではびくびくしながら相手をおどすこと。
恫疑虚獨	どうぎきょかつ	非見出し	心中ではびくびくしながら相手をおどすこと。⇒恫疑虚喝
同帰殊塗	どうきしゅと	3級	帰着するところは同じだが、そこに到る道が異なること。
同帰殊途	どうきしゅと	非見出し	帰着するところは同じだが、そこに到る道が異なること。⇒同帰殊塗
東窺西望	とうきせいぼう	準1級	あちこちをちらちら見ること。落ち着きのないさま。
同気相求	どうきそうきゅう	5級	同じ気性のものは互いに自然に求め合い、寄り集まるようになるということ。
同軌同文	どうきどうぶん	3級	天下が広く統一されたさま。⇒同文同軌
道揆法守	どうきほうしゅ	1級	道理をもって物事をはかり定め、法度をみずから守る。
刀鋸鼎鑊	とうきょていかく	配当外	昔の刑罰の道具。また、刑罰。
当機立断	とうきりつだん	5級	時機を失わずに、ただちに決断すること。
同衾共枕	どうきんきょうちん	1級	同じしとねに枕を同じくして寝ること。
董遇三余	とうぐうさんよ	非見出し	読書するのに最も都合のよい三つの余暇のこと。年の余りの冬・日の余りの夜・時の余りの雨降りをいう。⇒読書三余
陶犬瓦鶏	とうけんがけい	2級	格好ばかりで役に立たないもののたとえ。
洞見癥結	どうけんちょうけつ	配当外	隠れたわかりにくい障害をはっきり見抜くこと。
倒懸之急	とうけんのきゅう	準1級	状態が非常に逼迫していること。危急の状況の形容。
同工異曲	どうこういきよく	5級	外見は異なるが、内容は似たり寄ったりであること。
韜光隱迹	とうこういんせき	非見出し	才能などを包み隠して表面にあらわさないこと。⇒韜光晦迹
韜光晦迹	とうこうかいせき	1級	才能などを包み隠して表面にあらわさないこと。
韜光晦跡	とうこうかいせき	非見出し	才能などを包み隠して表面にあらわさないこと。⇒韜光晦迹
刀耕火種	とうこうかしゅ	5級	山林を伐採して、その後に山を焼いて種を植える。
刀耕火耨	とうこうかどう	非見出し	山林を伐採して、その後に山を焼いて種を植える。⇒刀耕火種
騰蛟起鳳	とうこうきほう	1級	才能が特別すぐれていること。
倒行逆施	とうこうぎゃくし	3級	正しい道理にさからって物事を行うこと。
刀光劍影	とうこうけんえい	4級	事態が緊迫して今にも戦いが起こりそうな雰囲気をいう。
堂高三尺	どうこうさんじゃく	非見出し	質素な住居のたとえ。⇒土階三等
灯紅酒緑	とうこうしゅりよく	5級	歓楽と飽食のたとえ。また、繁華街・歓楽街のようす。⇒紅灯緑酒
東行西走	とうこうせいそう	5級	忙しくあちこちと走りまわること。
韜光養晦	とうこうようかい	非見出し	才能などを包み隠して表面にあらわさないこと。⇒韜光晦迹

桃紅柳緑	とうこうりゅうりよく	準2級	紅の桃の花と緑あざやかな柳におおわれた春景色の美しさのこと。
桃弧棘矢	とうこきょくし	1級	災いをとりのぞくこと。
党錮之禍	とうこのわざわい	1級	政党や党派をつくることからおこるわざわい。
倒載干戈	とうさいかんか	1級	戦いがすんで平和になったことの形容。
東西古今	とうざいここん	5級	いつでもどこでも。⇒古今東西
刀山劍樹	とうざんけんじゅ	4級	残酷な刑罰のこと。
桃三李四	とうさんりし	準1級	物事を成しとげるには、それなりの年月がかかること。
道之以徳	どうしいとく	準1級	国民を指導するには道德教育が重要であること。
冬日之温	とうじつのおん	準1級	君恩のあたたかさのたとえ。
鬭志満満	とうしまんまん	追加	鬭争心が満ち満ちているさま。
陶朱猗頓	とうしゅいとん	非見出し	巨万の富、膨大な財産をいう。⇒猗頓之富
同舟共済	どうしゅうきょうさい	非見出し	仲の悪い者どうしが、同じ場所や境遇にいること。もとは、反目しあいながらも利害が一致するときには協力しあう意。⇒呉越同舟
投珠報宝	とうしゅほうほう	非見出し	善に対して善で報いることのたとえ。⇒投桃報李
頭上安頭	とうじょうあんとう	非見出し	無駄なことを繰り返すたとえ。また、真似ばかりして独創性のないたとえ。⇒屋上架屋
同床異夢	どうしょういむ	4級	同じ仲間や同じ仕事をしているものでも、考え方や目的がちがうことのたとえ。
同床各夢	どうしょうかくむ	非見出し	同じ仲間や同じ仕事をしているものでも、考え方や目的がちがうことのたとえ。⇒同床異夢
蹈常襲故	とうじょうしゅうこ	1級	今までのやり方を受け継いでそのとおりにしてゆくこと。
蹈常習故	とうじょうしゅうこ	非見出し	今までのやり方を受け継いでそのとおりにしてゆくこと。⇒蹈常襲故
銅牆鉄壁	どうしょうてっぺき	1級	守りの堅牢なことのたとえ。
桃傷李仆	とうしょうりふ	1級	兄弟が互いに争い、反目することのたとえ。
同仁一視	どうじんいっし	5級	差別することなくすべての人を見て愛すること。⇒一視同仁
同心協力	どうしんきょうりよく	非見出し	物事を一致協力して行うこと。⇒協心戮力
道心堅固	どうしんけんご	非見出し	主義や考えなどを堅く守って変えないこと。⇒志操堅固
同心同徳	どうしんどうとく	非見出し	多くの人が、共通の利益のために心をつにして団結すること。⇒一徳一心
同心戮力	どうしんりくりよく	1級	心をつにして力を合わせ一致協力すること。
同声異俗	どうせいいぞく	4級	人は本性は同じでも後天的な教育や環境によって品行に差を生じるたとえ。
動静云為	どうせいうんい	準1級	人の言動のこと。
同声相応	どうせいそうおう	非見出し	同じ気性のものは互いに自然に求め合い、寄り集まるようになるということ。⇒同気相求
蹈節死義	とうせつしぎ	1級	節操を守り、正義のために命を捨てること。
冬扇夏鑪	とうせんかろ	1級	無用なもの、役に立たないもののたとえ。⇒夏鑪冬扇
陶潜帰去	とうせんききょ	3級	陶潜は俗を嫌い自然を愛し、官を辞して故郷に帰った。
冬簔夏裘	とうそうかきゅう	非見出し	無用なもの、役に立たないもののたとえ。⇒夏鑪冬扇
東走西奔	とうそうせいほん	非見出し	仕事や用事のため四方八方忙しく走りまわること。⇒東奔西走
当代随一	とうだいずいいち	追加	この時代の中では第一番である、同時代に存在する他の何にも勝っている、などの意味の表現。
銅駝荊棘	どうだけいきよく	1級	国の滅亡を嘆くことのたとえ。⇒荊棘銅駝
倒置干戈	とうちかんか	非見出し	戦いがすんで平和になったことの形容。⇒倒載干戈
湯池鉄城	とうちてつじょう	5級	きわめて堅固な備えのこと。
道聴塗説	どうちょうとせつ	3級	学問や知識を正しく理解しないで、いいかげんに知ったかぶりをして他人に話すこと。
洞庭春色	どうていしゅんしよく	準2級	みかんで醸造した酒の名前。
当头一棒	とうとういちぼう	非見出し	人の急所をつく適切な戒め。⇒頂門一針
党同異伐	とうどういぱつ	非見出し	善悪・正否の関係なしに、同じ党派の者に味方し、他の党派のものを排斥すること。⇒党同伐異
堂塔伽藍	どうとうがらん	準1級	寺院の建物の総称のこと。
頭童齒豁	とうどうしかつ	1級	老人のこと。
銅頭鉄額	どうとうてつがく	5級	きわめて勇猛なたとえ。

堂堂之陣	どうどうのじん	準1級	陣容がととのって盛んなさま。
党同伐異	とうどうばつい	3級	善悪・正否の関係なしに、同じ党派の者に味方し、他の党派のものを排斥すること。
塔同伐異	とうどうばつい	非見出し	善悪・正否の関係なしに、同じ党派の者に味方し、他の党派のものを排斥すること。⇒党同伐異
投桃報李	とうとうほうり	準1級	善に対して善で報いることのたとえ。
頭髮上指	とうはつじょうし	4級	激しい怒りで、髪の毛がさかだつこと。
螳臂当車	とうひとうしゃ	1級	微弱な者が自分の力をかえりみず強者に立ち向かうたとえ。⇒螳螂之斧
同病相憐	どうびょうそうれん	準1級	同じ境遇・悩みに苦しむ者どうしは、互いに同情しあうこと。
豆分瓜割	とうぶんかぼう	非見出し	瓜や豆を割るように分裂・分割すること。⇒瓜割豆分
同文同軌	どうぶんどうき	3級	天下が広く統一されたさま。
洞房花燭	どうぼうかしよく	準1級	新婚の夜のこと。また、新婚のこと。
洞房華燭	どうぼうかしよく	非見出し	新婚の夜のこと。また、新婚のこと。⇒洞房花燭
豆剖瓜分	とうぼうかぶん	準1級	瓜や豆を割るように分裂・分割すること。⇒瓜剖豆分
掉棒打星	とうぼうだせい	非見出し	思い通りにいかず、はがゆく、もどかしいこと。⇒隔靴搔痒
同袍同沢	どうほうどうたく	1級	苦労をともにする親密な友。また、戦友のこと。
道傍苦李	どうぼうのくり	準1級	人から見捨てられ、見向きもされないもののたとえ。
東奔西走	とうほんせいそう	準2級	仕事や用事のため四方八方忙しく走りまわること。
稻麻竹葦	とうまちくい	準1級	たくさんあることのたとえ。多くの人や物が群がって入り乱れるさま。
槿末之伎	とうまつのぎ	1級	かるわざ。
唐明有悌	とうめいゆうてい	非見出し	兄弟の仲むつまじいこと。また交情が親密なこと。⇒大衾長枕
瞠目結舌	どうもくけつぜつ	1級	驚いて呆然とすること。
同憂相救	どうゆうそうきゅう	非見出し	同じ境遇・悩みに苦しむ者どうしは、互いに同情しあうこと。⇒同病相憐
桐葉知秋	どうようちしゅう	準1級	わずかな兆しから、物事の衰亡や大勢を察知すること。⇒一葉知秋
桃来李答	とうらいりとう	非見出し	善に対して善で報いることのたとえ。⇒投桃報李
桃李成蹊	とうりせいけい	1級	徳がある人のもとにはだまっても自然に人が集まってくるということ。
党利党略	とうりとうりやく	5級	自分が属する政党・党派の利益とそのためにする策略。
桃李満門	とうりまんもん	準1級	優秀な人材が多く集まること。
等量斉視	とうりょうせいし	準2級	すべての人々を平等に扱うこと。
同類相求	どうるいそうきゅう	非見出し	同じ気性のものは互いに自然に求め合い、寄り集まるようになるということ。⇒同気相求
螳螂之衛	とうろうのえい	1級	微弱な兵力・兵備のたとえ。
螳螂之衛	とうろうのえい	非見出し	微弱な兵力・兵備のたとえ。⇒螳螂之衛
螳螂之斧	とうろうのおの	1級	微弱な者が自分の力をかえりみず強者に立ち向かうたとえ。
螳螂之斧	とうろうのおの	非見出し	微弱な者が自分の力をかえりみず強者に立ち向かうたとえ。⇒螳螂之斧
螳螂之力	とうろうのちから	非見出し	微弱な者が自分の力をかえりみず強者に立ち向かうたとえ。⇒螳螂之斧
土階三尺	どかいさんじゃく	非見出し	質素な生活をする事。⇒堯階三尺
土階三等	どかいさんとう	5級	質素な住居のたとえ。
土階茅茨	どかいぼうし	準1級	宮殿の質素なさま。
兔角亀毛	とかくきもう	準1級	この世にありえないもののたとえ。
奴顔婢膝	どがんひしつ	非見出し	ひたすら恐縮しへりくだること。また、ひたすらあやまること。⇒平身低頭
兔葵燕麦	ときえんばく	準1級	名ばかりで実のないもののたとえ。
兔起鶻落	ときこつらく	1級	書画や文章の筆致に盛んに勢いがあることのたとえ。
兔起鳧拳	ときふきょ	1級	すばやいことのたとえ。
土牛木馬	どぎゅうもくば	非見出し	役に立たないもののたとえ。⇒泥車瓦狗
吐氣揚眉	ときようび	2級	やるべき事を成し遂げて喜ぶさま。⇒揚眉吐氣
蠹居棊処	ときよきしょ	1級	いたるところに悪人がいることのたとえ。

得意忘形	とくいぼうけい	4級	芸術などで精神をとって表面にあらわれた外形や形式を捨て忘れること。また、得意のあまり我を忘れること。
得意忘言	とくいぼうげん	4級	真理を体得すれば言葉の助けはいらない。
得意満面	とくいまんめん	5級	思いどおりになり、誇らしげなようすが顔いっぱいに表れること。
独学孤陋	どくがくころう	1級	師匠や学問上の友もなく一人で学ぶと、見聞が狭くひとりよがりがかたくなになる。
独学固陋	どくがくころう	非見出し	師匠や学問上の友もなく一人で学ぶと、見聞が狭くひとりよがりがかたくなになる。⇒独学孤陋
踔跼科頭	とくかとう	配当外	勇猛な兵士のこと。
得魚忘筌	とくぎょぼうせん	1級	目的を達すると、それまで役に立ったものを忘れてしまうこと。
独弦哀歌	どくげんあいか	準2級	ひとりで弦をつまびきつつ悲しげな歌をうたう。
徳高望重	とくこうぼうじゅう	5級	人徳があって、人々からの信望も厚いこと。
読書三到	どくしょさんとう	4級	読書に大切な三つの心得のこと。目でよく見ること、声を出して読むこと、心を集中して読むことの三つをいう。
読書三余	どくしょさんよ	5級	読書をするのに最も都合のよい三つの余暇のこと。年の余りの冬・日の余りの夜・時の余りの雨降りをいう。
読書尚友	どくしょしょうゆう	準2級	書物を読んで、昔の賢人を友とすること。
読書百遍	どくしょひゃっぺん	準2級	むずかしい書物でも繰り返して読めば意味がわかってくる意。
読書亡羊	どくしょぼうよう	5級	ほかのことに気をとられて肝心な仕事をおろそかにすること。
徳性滋養	とくせいじよう	準2級	徳性を養い育てること。
独断専行	どくだんせんこう	5級	自分一人の判断で勝手に物事を行うこと。
得兔忘蹄	とくとぼうてい	非見出し	目的を達すると、それまで役に立ったものを忘れてしまうこと。⇒得魚忘筌
特筆大書	とくひつたいしょ	5級	特別に人目につくよう大きく書くこと。
独立自主	どくりつじそん	5級	人に頼らずに自分の尊厳を保つこと。
独立独行	どくりつどっこう	非見出し	他人に影響されることなく、自分の信ずる道を進むこと。⇒独立独歩
独立独歩	どくりつどっぽ	5級	他人に影響されることなく、自分の信ずる道を進むこと。
独立不羈	どくりつふき	1級	自分の力や判断で行動し、他から束縛されないこと。
独立不撓	どくりつふとう	1級	他人に頼らず自立して活動し、困難にあってもへこたれないこと。
徳量寛大	とくりょうかんだい	準2級	りっぱな徳をそなえ、度量がひろく大きいこと。
得隴望蜀	とくろうぼうしょく	1級	人間の欲望には限りがないということ。
土豪惡霸	どごうあくは	非見出し	官僚や軍とはかつて農民を搾取する地方豪族や資産家のこと。⇒土豪劣紳
土豪劣紳	どごうれっしん	準2級	官僚や軍とはかつて農民を搾取する地方豪族や資産家のこと。
斗斛之禄	とこくのろく	1級	わずかな俸禄。
吐故納新	とこのうしん	4級	古いものを排除し、新しいものを取り入れること。
菟糸燕麦	としえんぱく	準1級	有名無実のたとえ。役に立たないもののたとえ。
兔死狗烹	としくほう	準1級	利用価値のある間は用いられるが、無用になると捨てられること。
徒手空拳	としゅくうけん	2級	物事を始めようとするとき、頼れるものがないこと。
斗酒隻鷄	としゅせきけい	3級	一斗の酒と一羽の鶏。
斗酒百篇	としゅひゃっぺん	準1級	大いに酒を飲みながら、たくさんの詩を作ること。
斗筭之器	としょうのうつわ	非見出し	器量の小さい人物のたとえ。⇒斗筭之人
斗筭之材	としょうのさい	非見出し	器量の小さい人物のたとえ。⇒斗筭之人
斗筭之子	としょうのし	非見出し	器量の小さい人物のたとえ。⇒斗筭之人
斗筭之人	としょうのひと	1級	器量の小さい人物のたとえ。
斗升之禄	としょうのろく	非見出し	わずかな俸禄。⇒斗斛之禄
屠所之羊	としょのひつじ	準1級	刻々と死に近づいているもののたとえ。
斗折蛇行	とせつだこう	準2級	川や道などがくねくねと折れ曲がるさま。
兔走鳥飛	とそううひ	準1級	歳月がせわしく過ぎ去ること。
斗粟尺布	とぞくしゃくふ	準1級	兄弟の仲が悪いこと。
弩張劍拔	どちようけんぱつ	1級	情勢が緊迫して今にも戦いがはじまりそうなたとえ。また、書道で筆力がはげしくて気迫がこもっているたとえ。⇒劍拔弩張

納言実行	とつげんじっこう	非見出し	あれこれ理屈をいわずに黙って実際に行動すること。⇒不言実行
訥言敏行	とつげんびんこう	1級	人格者はたとえ口は重くても、実行は正しく敏速でありたいということ。
得匣還珠	とっこうかんしゅ	非見出し	外見の立派さにとらわれ、真の価値を見失ってつまらぬものを尊ぶこと。⇒買櫝還珠
咄嗟叱咤	とっさしった	1級	わめき叫びながら大声でしかること。
突怒偃蹇	とつどえんけん	1級	岩石がごつごつと突き出た様子を人が怒った姿、またおごり高ぶるさまにたとえたもの。
咄咄怪事	とつとつかいじ	1級	驚くほど意外で怪しい出来事。
屠毒筆墨	とどくのひつぼく	1級	人を害しそこなう書物。
斗南一人	となんのいちにん	3級	天下の第一人者。
図南鵬翼	となんのほうよく	準1級	大事業や海外雄飛を企てることのたとえ。
図南之翼	となんのよく	非見出し	大事業や海外雄飛を企てることのたとえ。⇒図南鵬翼
駑馬十駕	どばじゅうが	1級	才能のない者でも、たえず努力すれば才能のある者に肩を並べることができるということ。
怒髪指冠	どはつしかん	非見出し	髪の毛が逆立つほど激しく怒ること。⇒怒髪衝天
怒髪衝冠	どはつしょうかん	非見出し	髪の毛が逆立つほど激しく怒ること。⇒怒髪衝天
怒髪衝天	どはつしょうてん	3級	髪の毛が逆立つほど激しく怒ること。
吐哺握髮	とほあくはつ	2級	すぐれた人材を求めるのに熱心なこと。
土崩瓦解	どほうがかい	2級	物事が根底から崩れ、もはや手のほどこしようもない状態のこと。
土崩魚爛	どほうぎょらん	1級	国家や物事が崩壊すること。⇒魚爛土崩
途方途轍	とほうとてつ	準1級	すじみち。理屈。また、方法の意。
土木形骸	どぼくけいがい	2級	体を自然の土や石のようにする。人が飾らず自然のままであることをいう。
土木壯麗	どぼくそうれい	準2級	庭園や建物が壮大で美しいこと。
吐哺捉髮	とほそくはつ	2級	すぐれた人材を求めるのに熱心なこと。⇒吐哺握髮
塗抹詩書	とまつししょ	準2級	幼児のいたずら。また、幼児のこと。
左見右見	とみこうみ	準1級	あっちを見たりこっちを見たりすること。また、あちらこちらに気を配ること。
怒目横眉	どもくおうび	非見出し	激しくいきどおるさま。⇒眦裂髮指
杜默詩撰	ともくしさん	準1級	詩文や著作などに誤りが多く、いいかげんなこと。
怒目切齒	どもくせっし	非見出し	激しくいきどおるさま。⇒眦裂髮指
都門桂玉	ともんけいぎょく	非見出し	よそから物価高の土地に来て、生活に苦労すること。⇒桂玉之艱
屠羊之肆	とようのし	1級	羊を殺してその肉を売る店のこと。
斗量帚掃	とりようそうそう	1級	自分のことを謙遜するという語。また、人や物があり余るほどあること。
屠竜之技	とりようのぎ	1級	学んでも実際には役立たない技術。
吞雲吐霧	どんうんとむ	準1級	仙術(仙人の行う術)を行う方士(医術・占い・仙術を行う人)が、変幻の術で雲をのみ霧をはくこと。
吞花臥酒	どんかがしゅ	準1級	春の行楽をつくすことをいう。
吞牛之氣	どんぎゅうのき	準1級	気持ち幅広く大きいこと。
敦煌五竜	とんこうごりょう	1級	晋代に敦煌の人で太学(朝廷の大学)で名声のあった五人の称。
燉煌五竜	とんこうごりょう	非見出し	晋代に敦煌の人で太学(朝廷の大学)で名声のあった五人の称。⇒敦煌五竜
敦厚周慎	とんこうしゅうしん	非見出し	人情に厚くて心にわだかまりがなく、静かに落ち着いていること。⇒敦篤虚静
吞舟之魚	どんしゅうのうお	準1級	大人物や傑出した才能をもつ者のたとえ。
頓首再拜	とんしゅさいはい	2級	頭を下げてうやうやしく礼をすること。
吞炭漆身	どんたんしっしん	準1級	仇討ちのためにさまざまな苦労をすること。⇒漆身吞炭
豚蹄穰田	とんていじょうでん	準1級	わずかなものから大きな利益を得ようとする事。
吞刀刮腸	どんとうかつちょう	1級	心を入れ替えて善になることのたとえ。
敦篤虚静	とんとくきょせい	準1級	人情に厚くて心にわだかまりがなく、静かに落ち着いていること。
吞吐不下	どんとふげ	準1級	他人に何とも応答できないことのたとえ。
吞波之魚	どんぱのうお	準1級	大人物や傑出した才能をもつ者のたとえ。⇒吞舟之魚

内患外禍	ないかんがいか	非見出し	内部にも外にも問題が多く、心配事が多いこと。⇒内憂外患
内剛外柔	ないごうがいじゅう	準2級	外見は穏やかそうに見えるが、実際は意志が強いこと。⇒外柔内剛
内柔外剛	ないじゅうがいごう	準2級	内心は気が弱いのだが、外見は強そうに見えること。
内清外濁	ないせいがいだく	4級	内心は清潔さを保持しながら、うわべは汚れたさまを装い、俗世間とうまく妥協しながら生きていくこと。
内政干渉	ないせいかんしょう	準2級	ある国の政治・外交などに他の国が口出しすること。
内疎外親	ないそがいしん	準2級	外見は親しそうにしているが内心では疎んじていること。
内憂外患	ないゆうがいかん	準2級	内部にも外にも問題が多く、心配事が多いこと。
南無三宝	なむさんぼう	準2級	仏・法・僧の三宝を唱えて仏に帰依すること。
南轅北轍	なんえんほくてつ	1級	志と行動が相反するたとえ。⇒北轍南轅
南郭濫竽	なんかくらんう	非見出し	無能な者が才能があるように見せかけて、よい地位を占めること。⇒南郭濫吹
南郭濫吹	なんかくらんすい	3級	無能な者が才能があるように見せかけて、よい地位を占めること。
南柯之夢	なんかのゆめ	非見出し	人の世の栄華のはかないことのたとえ。⇒邯鄲之夢
南橘北枳	なんきつほくき	1級	人も住む環境によって、よくも悪くもなること。
難行苦行	なんぎょうくぎょう	5級	たいへんな苦勞をすること。
輦紅香塵	なんこうこうじん	非見出し	繁華な都会の中。⇒輦紅塵中
軟紅車塵	なんこうしゃじん	非見出し	繁華な都会の中。⇒輦紅塵中
輦紅塵中	なんこうじんちゅう	配当外	繁華な都会の中。
軟紅塵中	なんこうじんちゅう	非見出し	繁華な都会の中。⇒輦紅塵中
難攻不落	なんこうふらく	4級	攻めにくく簡単には陥落しないこと。
南行北走	なんこうほくそう	非見出し	あちこち広く旅行すること。⇒南船北馬
南洽北暢	なんこうほくちょう	1級	天子の威光と恩恵が四方八方に広くゆきわたること。
南山之寿	なんざんおじゅ	準1級	南山が欠けず崩れないように、事業がいつまでも栄え続くこと。転じて、長寿を祝う言葉。
南山捷徑	なんざんしょうけい	準1級	終南山には仕官の近道がある。また、正規の段階をふむことなく官職につく法をいう。⇒終南捷徑
南山不落	なんざんふらく	5級	城などが堅固で容易には陥落しないことのたとえ。
南征北討	なんせいほくとう	非見出し	あちこちで戦い、いとまのないたとえ。⇒南征北伐
南征北伐	なんせいほくばつ	3級	あちこちで戦い、いとまのないたとえ。
南船北馬	なんせんほくば	5級	あちこち広く旅行すること。
難中之難	なんちゅうのなん	準1級	むずかしいことの中でも最高にむずかしいこと。
南都北嶺	なんとほくれい	準1級	奈良と比叡山。また、奈良の興福寺と比叡山の延暦寺。
喃喃喋喋	なんなんちょうちょう	非見出し	小声で親しげに話しあうさま。⇒喋喋喃喃
南蛮駟舌	なんばんげきぜつ	1級	うるさいだけで意味のわからない言葉。
南蛮北狄	なんばんほくてき	1級	古く中国人が南方や北方の異民族をさげすんで称したもの。
二河白道	にがびゃくどう	準2級	水と火の二つの川に挟まれたひとすじの白い道。極楽の彼岸に到達する道にたとえたもの。
肉山酒海	にくざんしゅかい	非見出し	ぜいたくな宴会のこと。⇒肉山脯林
肉山脯林	にくざんほりん	1級	ぜいたくな宴会のこと。
肉食妻帯	にくじきさいたい	準2級	僧が肉を食べ妻をもつこと。
肉袒牽羊	にくたんけんよう	1級	降伏して臣下となることを請い願うこと。
肉袒負荊	にくたんふけい	1級	思うままに処罰せよと謝罪する作法のこと。真心からの謝罪のたとえ。
肉袒面縛	にくたんめんばく	非見出し	思うままに処罰せよと謝罪する作法のこと。真心からの謝罪のたとえ。⇒肉袒負荊
二者選一	にしゃせんいつ	非見出し	二つのものごとのうち一つを選ぶこと。⇒二者択一
二者択一	にしゃたくいつ	3級	二つのものごとのうち一つを選ぶこと。
二姓之好	にせいのこう	準1級	夫の家と妻の家との親しい交際のこと。
二束三文	にそくさんもん	5級	極端に安い値で品物を売ること。
二足三文	にそくさんもん	非見出し	極端に安い値で品物を売ること。⇒二束三文

日常坐臥	にちじょうざが	準1級	日常いつでもの意。
日常茶飯	にちじょうさはん	4級	ごくありふれたこと。
日陵月替	にちりょうげったい	3級	日に日に衰えること。
日居月諸	につきよげっしょ	5級	日よ月よ。
日就月将	にっしゅうげっしょう	非見出し	とどまることなく急速に進歩すること。⇒日進月歩
日昃之劳	にっしょくのろう	1級	昼食も食わずに昼過ぎまで苦勞して働くこと。
日新月異	にっしんげつゐ	非見出し	とどまることなく急速に進歩すること。⇒日進月歩
日進月歩	にっしんげつぽ	5級	とどまることなく急速に進歩すること。
二人三脚	ににんさんきゃく	4級	二人が互いに助け合って事に当たること。
入郷従郷	にゅうきょうじゅうきょう	非見出し	その住むところの風俗や習慣に従うのが処世の法である。⇒入境問禁
入境問禁	にゅうきょうもんきん	5級	国境を越えたら、まずその国・地方で禁止されていることをたずね、それを犯さないことがたいせつであるということ。
入木三分	にゅうぼくさんぶ	5級	書道で筆勢が非常に強いこと。また、物事を的確に深くつつこんで考えること。
如是我聞	によぜがもん	準2級	経典の初めにある語。
女人禁制	によにんきんせい	4級	修行の妨げになるとして女人が寺や聖域山内に入ることを禁じたこと。
如法暗夜	によほうあんや	準2級	まっくらやみのこと。
二律背反	にりつはいはん	5級	相互に対立・矛盾する二つの命題が、同等の権利をもって主張されること。
二六時中	にろくじちゅう	5級	一日じゅう。終日。いつも。しじゅう。
人氣絶頂	にんきぜっちょう	追加	世間の評判が非常に高い。
忍気吞声	にんきどんせい	準1級	怒りをこらえて声に出さないこと。
忍之一字	にんのいちじ	非見出し	怒りをこらえて声に出さないこと。⇒忍気吞声
熱願冷諦	ねつがんれいてい	2級	熱心に願うことと冷静に本質を見つめること。
涅槃寂静	ねはんじゃくじょう	1級	涅槃は苦しみのない安穩な理想境であるということ。
拈華微笑	ねんげみしょう	1級	言葉によらず、心から心へ伝えること。
年災月殃	ねんさいげつおう	1級	最も不幸な日のこと。
燃犀之見	ねんさいのけん	非見出し	物事の本質を明らかに見抜く見識のあることのたとえ。⇒燃犀之明
燃犀之明	ねんさいのめい	準1級	物事の本質を明らかに見抜く見識のあることのたとえ。
年頭月尾	ねんとうげつび	非見出し	一年中。いつも。⇒年百年中
年年歳歳	ねんねんさいさい	4級	毎年毎年。
燃眉之急	ねんびのきゅう	準1級	危険が非常にさし迫っていること。
年百年中	ねんびゃくねんじゅう	5級	一年中。いつも。
念仏三昧	ねんぶつざんまい	2級	一心不乱に念仏をとなえ、雑念をはらい、心を統一すること。
囊萤映雪	のうけいえいせつ	非見出し	苦学のたとえ。⇒車胤聚螢
囊沙之計	のうしゃのけい	準1級	漢の將軍韓信が多くの土囊で川の上流をせきとめ、敵が川を渡ろうとするとき一挙に水を流し敵を打ち破ったという計略のこと。
囊中之穎	のうちゅうのえい	非見出し	すぐれた人物は、平凡な人の中にいても必ず才能を発揮し真価があらわれることのたとえ。⇒囊中之錐
囊中之錐	のうちゅうのきり	準1級	すぐれた人物は、平凡な人の中にいても必ず才能を発揮し真価があらわれることのたとえ。
能鷹隠爪	のうよういんそう	準1級	人よりすぐれた能力をもつ人はその力量をやたらに人前で誇示するようなことはしないということ。
佩韋佩弦	はいいはいげん	1級	自分の性格を改めて修養しようと戒めのための物を身につけること。⇒韋弦之佩
吠影吠声	はいえいはいせい	準1級	根拠がないようなことでも、誰かが言い始めると世間の人々がさも本当のこのように言い広めること。
肺肝相照	はいかんそうしょう	非見出し	互いに心の底から理解しあって深くつきあうこと。⇒肝胆相照
稗官野史	はいかんやし	準1級	小説。また、民間のこまごましたことを歴史風に書いたもの。
杯弓蛇影	はいきゅうだえい	非見出し	疑い深くなり、ありもしないことに恐れ悩むこと。⇒杯中蛇影
買牛売劍	ばいぎゅうばいけん	非見出し	戦争をやめて、武器を売り牛を買って、農業を盛んにすること。⇒売劍買牛
敗軍之将	はいぐんのしょう	準1級	失敗して、弁解する資格のない者のこと。
吠影吠声	はいけいはいせい	非見出し	根拠がないようなことでも、誰かが言い始めると世間の人々がさも本当のこのように言い広めること。⇒吠影吠声

杯賢杓聖	はいけんしゃくせい	準1級	杯と杓を聖賢にたとえて言ったもの。
売劍買牛	ばいけんばいぎゅう	4級	戦争をやめて、武器を売り牛を買って、農業を盛んにすること。
梅妻鶴子	ばいさいかくし	準1級	俗世を離れた清らかで風雅な隠遁生活のたとえ。
買妻恥醜	ばいさいちしょう	配当外	夫を棄てた妻がその後の結婚を恥じること。
背山起楼	はいざんきろう	非見出し	殺風景なことのたとえ。⇒焚琴煮鶴
吠日之怪	はいじつのあやしみ	準1級	見識の狭い者が、すぐれた言行をわけもわからず疑って非難すること。
倍日并行	ばいじつへいこう	1級	昼夜をわかつたず急いで行くこと。
杯酒解怨	はいしゅかいえん	2級	互いに酒を酌み交わし心からの会話を通して怨みやわだかまりを忘れる。
悖出悖入	はいしゅつはいにゅう	1級	道理に反した法令を出せば人民の恨みの声となつてはね返ってくる。
背信棄義	はいしんきぎ	3級	信義にそむき、道義を忘れること。
廢寢忘食	はいしんぼうしよく	準2級	ある事に熱中して、他の事をいっさい顧みないこと。また、ある事に専念して励むこと。
杯水車薪	はいすいしゃしん	4級	なんの役にも立たないこと。
背水之陣	はいすいのじん	準1級	必死の覚悟で事に当たること。また、後にひけない困難な状況や立場のこと。
杯水輿薪	はいすいよしん	非見出し	なんの役にも立たないこと。⇒杯水車薪
杯中蛇影	はいちゅうのだえい	準2級	疑い深くなり、ありもしないことに恐れ悩むこと。
倍道兼行	ばいどうけんこう	非見出し	昼夜をわかつたず急いで行くこと。⇒倍日并行
売刀買犢	ばいとうばいとく	非見出し	戦争をやめて、武器を売り牛を買って、農業を盛んにすること。⇒売劍買牛
買犢還珠	ばいとくかんしゅ	配当外	外見の立派さにとらわれ、真の価値を見失ってつまらぬものを尊ぶこと。
悖德没倫	はいとくぼつりん	1級	人間としての道をはずれた行いのこと。
背德没倫	はいとくぼつりん	非見出し	人間としての道をはずれた行いのこと。⇒悖德没倫
悖入悖出	はいにゅうはいしゅつ	1級	道理にそむいた手段で得た財貨は、道理にそむいた方法で出ていく。
杯盤狼藉	はいばんろうぜき	1級	酒宴のあと、杯や皿が散らかっているさま。また、宴席の乱れたさま。
盃盤狼藉	はいばんろうぜき	非見出し	酒宴のあと、杯や皿が散らかっているさま。また、宴席の乱れたさま。⇒杯盤狼藉
廢仏殿釈	はいぶつきしゃく	2級	仏教を排斥すること。
排仏棄釈	はいぶつきしゃく	非見出し	仏教を排斥すること。⇒廢仏殿釈
背本趨末	はいほんすうまつ	非見出し	物事の根幹となることをおろそかにして、つまらないことに関心をもつこと。⇒舍本逐末
敗柳殘花	はいりゅうざんか	準2級	美人の容色が衰えたことのたとえ。
霸王之輔	はおうのほ	準1級	最も強くて力がある者の補佐役のこと。
破戒無慙	はかいむざん	1級	戒律を破っても少しも恥じないこと。
破戒無慚	はかいむざん	非見出し	戒律を破っても少しも恥じないこと。⇒破戒無慙
馬鹿慙慙	ばかいんぎん	1級	度を超してていねいなこと。
馬鹿果報	ばかかほう	2級	思いがけずに大きな幸運を得るたとえ。
馬角烏白	ばかくうはく	非見出し	世の中に絶対にありえないこと。⇒烏白馬角
馬鹿丁寧	ばかていねい	非見出し	度を超してていねいなこと。⇒馬鹿慙慙
破顔一笑	はがんいっしょう	4級	顔をほころばせて、にっこり笑うこと。
破顔大笑	はがんたいしょう	非見出し	顔をほころばせて、大笑いすること。⇒捧腹絶倒
破顔微笑	はがんみしょう	非見出し	言葉によらず、心から心へ伝えること。⇒拈華微笑
波朧雲譎	はきうんけつ	1級	文章が自在で非常に巧妙なこと。
馬牛襟裾	ばぎゅうきんきょ	準1級	見識がなく無教養な者のこと。また、無礼な者のこと。
波及効果	はきゅうこうか	4級	波が広がるように伝わっていく物事の影響。
破鏡重円	はきょうじゅうえん	5級	別れた夫婦がまたいっしょになること。また、離ればなれになっていた夫婦が再会すること。
破鏡不照	はきょうふしょう	非見出し	一度犯した誤りはもとどおりにはならないということ。また、離婚した夫婦の仲はもとにもどらないということ。⇒覆水不返
灞橋驢上	はきょうろじょう	配当外	詩を作るのに絶好な場所のこと。
伯夷叔齊	はくいしゅくせい	準1級	高潔で清廉潔白な人のこと。

白衣蒼狗	はくいそうく	準1級	世の変化のはやいたとえ。
白衣宰相	はくいのさいしょう	準2級	無位無冠の人で宰相のような権勢をもつ人をいう。
白衣三公	はくいのさんこう	5級	無位無冠の人が出世して、高い位につくこと。
伯夷之清	はくいのせい	非見出し	高潔で清廉潔白な人のこと。⇒伯夷叔斉
伯夷之廉	はくいのれん	非見出し	高潔で清廉潔白な人のこと。⇒伯夷叔斉
博引旁証	はくいんぼうしょう	1級	広く資料を引用し、根拠をあげて事を論ずること。
博引旁搜	はくいんぼうそう	非見出し	広く資料を引用し、根拠をあげて事を論ずること。⇒博引旁証
白雲孤飛	はくうんこひ	3級	旅先で親を思うことのたとえ。
白雲親舎	はくうんしんしゃ	非見出し	旅先で親を思うことのたとえ。⇒白雲孤飛
白屋之士	はくおくのし	準1級	仕官せず貧困な読書人をいう。
博学洽聞	はくがくこうぶん	非見出し	見聞が広く知識が深く豊富であること。⇒洽覧深識
博学審問	はくがくしんもん	3級	幅広く学び、深く詳しく問いただすこと。
博学多才	はくがくたさい	5級	広く学問に通じ、才能が豊かなこと。
博学多識	はくがくたしき	非見出し	広く学問に通じ、才能が豊かなこと。⇒博学多才
博学篤志	はくがくとくし	3級	学問をする場合の教え。また、学問が広く熱心なこと。
伯牙絶弦	はくがぜつげん	2級	心からの友人を失った悲しみ。
伯牙絶絃	はくがぜつげん	非見出し	心からの友人を失った悲しみ。⇒伯牙絶弦
白眼青眼	はくがんせいがん	5級	相手によって冷淡になったり、歓迎したりすること。
莫逆之契	ばくぎゃくのちぎり	非見出し	互いに心に逆らうことのない意気投合した親友。⇒莫逆之交
莫逆之友	ばくぎゃくのとも	非見出し	互いに心に逆らうことのない意気投合した親友。⇒莫逆之交
莫逆之交	ばくぎゃくのまじわり	準1級	互いに心に逆らうことのない意気投合した親友。
璞玉渾金	はくぎょくこんきん	1級	人の素質がすぐれていて飾りけのないたとえ。
麦曲之英	ばくきょくのえい	非見出し	酒の異称。⇒清聖濁賢
白玉微瑕	はくぎょくのびか	1級	りっぱな人あるいは物に、わずかな欠点があるたとえ。⇒白璧微瑕
白玉楼成	はくぎょくろうせい	非見出し	文人の死のこと。⇒白玉楼中
白玉楼中	はくぎょくろうちゅう	3級	文人の死のこと。
白虹貫日	はくこうかんじつ	準1級	真心が天に通じること。また、兵乱が起こり危機が迫る兆候のこと。
博識洽聞	はくしきこうぶん	1級	見聞が広く物事をよく知っていること。
博識広聞	はくしきこうぶん	非見出し	見聞が広く物事をよく知っていること。⇒博識洽聞
博施濟衆	はくしさいしゅう	3級	広く恩恵を施して、民衆を苦しみから救うこと。
薄志弱行	はくしじゃっこう	4級	意志が弱く実行力が乏しいこと。
白日昇天	はくじつしょうてん	3級	仙人になること。また、急に富貴になること。
白日青天	はくじつせいてん	5級	晴れわたった青空と日の光で快晴の意から転じて、心にやましいことがまったくないことのたとえ。⇒青天白日
白砂青松	はくしゃせいしょう	4級	美しい海岸の景色のこと。
白沙青松	はくしゃせいしょう	非見出し	美しい海岸の景色のこと。⇒白砂青松
麦秀黍離	ばくしゅうしより	準1級	亡国の嘆きをいう。
麦秀之歌	ばくしゅうのうた	準1級	故国の滅亡を嘆くこと。
麦秀之歎	ばくしゅうのたん	非見出し	故国の滅亡を嘆くこと。⇒麦秀之歌
拍手喝采	はくしゅかつさい	2級	手をたたいて、おおいにほめたたえること。
白首窮経	はくしゅきゅうけい	準2級	老年になるまで学問研究に励むこと。
白水真人	はくすいしんじん	5級	中国後漢王朝の興起を予言したことば。また、銭のこと。
麦穂両岐	ばくすいりょうき	準2級	豊作のまえぶれのこと。
百代过客	はくたいのかかく	準1級	永遠に止まることのない旅人。歳月が過ぎ去って帰らないことを旅人にたとえた言葉。
伯仲叔季	はくちゅうしゅくき	準2級	兄弟の順序の呼称。長兄を伯、次兄を仲、次を叔、末弟を季という。

伯仲之間	はくちゅうのかん	準1級	互いの力が接近していて、優劣がつけにくいこと。⇒勢力伯仲
幕天席地	ばくてんせきち	5級	小さいことにこだわらないこと。また、志の大きいこと。
白兔赤烏	はくとせきう	準1級	時間のこと。
白茶赤火	はくとせきか	1級	一面に軍を展開すること。
漠漠濛濛	ばくばくもうもう	1級	ぼんやりしていてよく分からないさま。
白髮青衫	はくはつせいしん	1級	晩年に官を得ること。また、無位の者のこと。
白馬非馬	はくばひば	5級	こじつけや詭弁をいう。
白板天子	はくはんのてんし	5級	晋が南渡して東晋となり、天子がその象徴である国璽なく即位したことから、北人が東晋の天子を呼んだもの。
白眉最良	はくびさいりょう	2級	多くの中でいちばんすぐれているもののこと。
博物広聞	はくぶつこうぶん	非見出し	見聞が広く物事をよく知っていること。⇒博識洽聞
薄物細故	はくぶつさいこ	4級	ささいな取るに足りないこと。
博聞強記	はくぶんきょうき	5級	広く書物に親しみ、内容をよく記憶していること。また、知識が豊富なこと。
博聞強志	はくぶんきょうし	非見出し	広く書物に親しみ、内容をよく記憶していること。また、知識が豊富なこと。⇒博聞強記
博聞彊識	はくぶんきょうしき	準1級	広く書物を読んで、物事をよく記憶していること。見聞が広く、かつよく記憶していること。
博聞強識	はくぶんきょうしき	非見出し	広く書物を読んで、物事をよく記憶していること。見聞が広く、かつよく記憶していること。⇒博聞彊識
博聞多識	はくぶんたしき	非見出し	見聞が広く知識が深く豊富であること。⇒洽覧深識
博文約礼	はくぶんやくれい	5級	広く文献に目を通して学問を修め、礼をもって学んだことをしめくり実践すること。
白壁断獄	はくへきだんごく	2級	罪の疑わしいものは許し、賞の疑わしい者には賞を与える判決。
白壁微瑕	はくへきのびか	1級	りっぱな人あるいは物に、わずかな欠点があるたとえ。
薄暮冥冥	はくぼめいめい	2級	夕暮れの薄暗いさま。また、夕暮れのように薄暗いさま。
白面書生	はくめんのしょせい	5級	年少で未熟なこと。
伯俞泣杖	はくゆきゅうじょう	1級	親が年老いたことを知り、嘆き悲しむこと。
伯瑜泣杖	はくゆきゅうじょう	非見出し	親が年老いたことを知り、嘆き悲しむこと。⇒伯俞泣杖
伯樂一顧	はくらくのいっこ	準2級	達識の人に能力を認められ重用されるたとえ。
博覧強記	はくらんきょうき	5級	広く書物を読んで、物事をよく記憶していること。見聞が広く、かつよく記憶していること。⇒博聞強記
博覧強識	はくらんきょうしき	非見出し	広く書物に親しみ、内容をよく記憶していること。また、知識が豊富なこと。⇒博聞強記
薄利多売	はくりたばい	4級	利益を少なくして品物を多く売ること。
白竜魚服	はくりょうぎょふく	準1級	貴人がしのび歩きをして危険にあうたとえ。
白竜白雲	はくりょうはくうん	準1級	古代中国の法官のよび名。
馬齒加長	ばしかちょう	非見出し	むだに齢をとること。⇒馬齒徒増
馬氏五常	ばしごじょう	5級	多くの中でいちばんすぐれているもののこと。⇒白眉最良
馬耳東風	ばじとうふう	4級	人の意見や批評を心にとめず聞き流すこと。また、何を言っても反応がないこと。
馬齒徒増	ばしとぞう	5級	むだに齢をとること。
破邪顕正	はじゃけんしょう	準2級	不正を打破し正義を守ること。
破綻百出	はたんひゃくしゅつ	2級	言動がいかげんで、つぎつぎにぼろを出すこと。
破竹之勢	はちくのいきおい	準1級	止めがたいほど勢いが盛んなこと。
八元八愷	はちげんはちがい	配当外	心が清く正しくて、徳の高い人のこと。
馬遲枚速	ばちばいそく	準1級	文章を作るのに司馬相如は遅く枚臯は速かった。
八面玲瓏	はちめんれいろう	1級	四方八方がすき通って明らかなこと。また、心にわだかまりがなく、すっきりと澄みきっていること。
八面六臂	はちめんろっぴ	1級	一人で何人分もの働きをすること。また、多方面でめざましく活躍すること。
撥雲見日	はつうんけんじつ	1級	気がかりなことがなくなって希望が持てるようになること。
撥雲見天	はつうんけんてん	非見出し	気がかりなことがなくなって希望が持てるようになること。⇒撥雲見日
白駒過隙	はっくかけき	非見出し	ほんの一瞬の出来事のこと。また、時の過ぎることがきわめてはやい形容。⇒騏驥過隙
白駒空谷	はっくくうこく	準1級	賢人が登用されず野にあること。

拔苦与楽	ばっくよらく	4級	苦しみを取り除いて、安楽を与えること。
八紘為宇	はっこういう	非見出し	全世界を一つの家として考えること。⇒八紘一宇
八紘一宇	はっこういちう	準1級	全世界を一つの家として考えること。
白黒分明	はっこくぶんめい	5級	よいものと悪いものとの区分がはっきりしていること。
跋扈跳梁	ばっこちょうりょう	1級	悪者などがはびこり、勝手気ままに振る舞うこと。⇒跳梁跋扈
八索九丘	はっさくきゅうきゅう	準2級	古い書籍のこと。
拔山蓋世	ばつざんがいせい	2級	非常に威勢が強いこと。また、気性が勇猛盛んなこと。
跋山涉水	ばつざんしょうすい	1級	困難を克服して長い旅に行く。
拔山倒河	ばつざんとうか	非見出し	非常に威勢が強いこと。また、気性が勇猛盛んなこと。⇒拔山蓋世
拔山倒海	ばつざんとうかい	非見出し	非常に威勢が強いこと。また、気性が勇猛盛んなこと。⇒拔山蓋世
拔山翻海	ばつざんほんかい	非見出し	非常に威勢が強いこと。また、気性が勇猛盛んなこと。⇒拔山蓋世
発縦指示	はっしょうしじ	準1級	戦闘において戦いを指揮すること。また、指揮官。
発蹤指示	はっしょうしじ	非見出し	戦闘において戦いを指揮すること。また、指揮官。⇒発縦指示
発人深省	はつじんしんせい	5級	人を啓発して、物事を深く考えるようにさせること。
伐性之斧	ばっせいのおの	準1級	心身に害を及ぼす事物のたとえ。女色におぼれたり、偶然の幸運をあてにすること。
伐氷之家	ばっぴょうのいえ	準1級	位の高い高貴な家柄のこと。
発憤興起	はっぶんこうき	準2級	気持ちを奮いおこして立ち上がること。
発奮興起	はっぶんこうき	非見出し	気持ちを奮いおこして立ち上がること。⇒発憤興起
発憤忘食	はっぶんぼうしょく	準2級	心を奮い立たせて、物事に夢中になって励むこと。
発奮忘食	はっぶんぼうしょく	非見出し	心を奮い立たせて、物事に夢中になって励むこと。⇒発憤忘食
八方美人	はっぱうびじん	5級	誰にも悪く思われないように如才なく振る舞うこと。
拔本塞源	ばっぼんそくげん	2級	災いの原因を取り除くこと。
発揚蹈厲	はつようとうれい	1級	手足をあげ地を踏んで、激しい勢いで舞を舞うこと。
拔来報往	ばつらいほうおう	4級	速やかに来て、速やかに往くこと。
撥乱反正	はつらんはんせい	1級	乱れた世を治めて、もとの正常な世にもどすこと。
破天荒解	はてんこうかい	4級	今まで誰もしなかったことにはじめて成功すること。型破り。
波濤万里	はとうばんり	準1級	遠い外国のこと。
鼻先思案	はなさきしあん	非見出し	考えが軽薄でうわついていること。⇒輕佻浮薄
破釜沈船	はふちんせん	準1級	生還を考えず、決死の覚悟で出陣すること。
跋鼈千里	はべつもせんり	1級	努力をすれば能力の劣る者でも成功するたとえ。
破帽弊衣	はぼうへいい	非見出し	身なりを構わない、粗野なさま。⇒弊衣破帽
爬羅剔抉	はらてきけつ	1級	隠れた人材をみつけ出して用いること。また、人の秘密や欠点をあばき出すこと。
波瀾曲折	はらんきょくせつ	1級	非常に込み入った事情。
波乱曲折	はらんきょくせつ	非見出し	非常に込み入った事情。⇒波瀾曲折
波瀾万丈	はらんばんじょう	1級	物事の変化がきわめて激しいこと。
波乱万丈	はらんばんじょう	非見出し	物事の変化がきわめて激しいこと。⇒波瀾万丈
罵詈譏謗	ばりざんぼう	1級	ありとあらゆる悪口をいうこと。
罵詈雑言	ばりぞうごん	1級	きたない言葉を吐きかけてののしること。
跛立箕坐	はりゅうきざ	1級	無作法なさま。
馬良白眉	ばりょうはくび	2級	多くの中でいちばんすぐれているもののこと。⇒白眉最良
汜愛兼利	はんあいけんり	2級	すべての人々をあまねく愛し、利益をともに広く分けあうこと。
蛮夷戎狄	ばんいじゅうてき	1級	未開人の住む野蛮な国のこと。
斑衣之戲	はんいのたわむれ	準1級	親孝行のたとえ。親に孝行のかぎりをつくすことのたとえ。⇒老萊斑衣
攀轅臥轍	はんえんがてつ	1級	立派な人の留任を希望して引き留めること。

攀轅扣馬	はんえんこうば	非見出し	立派な人の留任を希望して引き留めること。⇒攀轅臥轍
半覚半醒	はんかくはんせい	非見出し	意識が朦朧としていること。⇒半醒半睡
反間苦肉	はんかんくにく	5級	敵同士の仲を裂き、敵をあざむくこと。
半饑半渴	はんきはんかつ	1級	食料や水が十分でない。
半飢半渴	はんきはんかつ	非見出し	食料や水が十分でない。⇒半饑半渴
反逆縁坐	はんぎゃくえんざ	準1級	謀反に連座して罪を得ること。
反逆縁座	はんぎゃくえんざ	非見出し	謀反に連座して罪を得ること。⇒反逆縁坐
班荆道故	はんけいどうこ	準1級	昔の友達とばったり会って昔の親交を思い、語り合うこと。
万頃瑠璃	ばんけいるり	準1級	青く広々しているさま。
万頃琉璃	ばんけいるり	非見出し	青く広々しているさま。⇒万頃瑠璃
繁劇紛擾	はんげきふんじょう	準1級	非常に忙しくて混乱していること。
繁絃急管	はんげんきゅうかん	準1級	音楽の調子が激しく速いこと。また、その音楽。
煩言碎辞	はんげんさいじ	準2級	くだくだしく細かいことば。
万古千秋	ばんこせんしゅう	4級	過去から未来までずっとということ。
万古長春	ばんこちょうしゅん	非見出し	良い関係がいつまでも続くこと。⇒万古長青
万古長青	ばんこちょうせい	4級	良い関係がいつまでも続くこと。
反顧之憂	はんこのうれい	非見出し	あとに残る気がかり。⇒後顧之憂
万古不易	ばんこふえき	4級	永久に変わらないこと。
槃根錯節	ばんこんさくせつ	1級	事柄が入り組んで、解決が困難なこと。
盤根錯節	ばんこんさくせつ	非見出し	事柄が入り組んで、解決が困難なこと。⇒槃根錯節
万死一生	ばんしいっせい	4級	必死の覚悟で物事を行うこと。また、絶体絶命の状況のなかに、かすかな活路を見つけること。
万死九生	ばんしきゅうしょう	非見出し	ほとんど助かる見込みのない命がかろうじて助かること。⇒九死一生
万紫千紅	ばんしせんこう	非見出し	色とりどりの花が咲き乱れているさま。⇒千紅万紫
万事如意	ばんじによい	非見出し	物事がすべて順調に進んでいるさま。⇒順風満帆
半死半生	はんしはんしょう	5級	今にも死にそうな状態。
盤石之安	ばんじゃくのあん	非見出し	きわめて堅固なこと。⇒盤石之固
盤石之固	ばんじゃくのかため	準1級	きわめて堅固なこと。
磐石之固	ばんじゃくのかため	非見出し	きわめて堅固なこと。⇒盤石之固
反首拔舍	はんしゅばっしゃ	4級	あわれな姿になって野宿すること。
万寿無疆	ばんじゅむきょう	1級	いつまでも長生きをすること。
万乘之君	ばんじょうのきみ	準1級	兵車一万台を出せる大国の君主。大諸侯。一般に天子をいう。
万乘之国	ばんじょうのくに	非見出し	兵車一万台を出すことのできる天子の国。⇒千乘之国
万乘之主	ばんじょうのしゅ	非見出し	兵車一万台を出せる大国の君主。大諸侯。一般に天子をいう。⇒万乘之君
万乘之尊	ばんじょうのそん	非見出し	兵車一万台を出せる大国の君主。大諸侯。一般に天子をいう。⇒万乘之君
伴食宰相	ばんしょくさいしょう	準2級	その職にいて実力が伴わない無能な宰相。
伴食大臣	ばんしょくだいじん	3級	その職にいて実力が伴わない無能な宰相。⇒伴食宰相
蛭触之争	ばんしょくのあらそい	非見出し	きわめてささいなつまらない争いのこと。⇒蝸角之争
班女辞輦	はんじょじれん	1級	班婕妤は車と一緒に乗るのを断った。
万杵千砧	ばんしよせんちん	準1級	きぬたを打つ大勢の婦人のこと。また、あちこちから聞こえるきぬたの音のこと。
半信半疑	はんしんはんぎ	5級	本当かどうか判断に迷うこと。
万水千山	ばんすいせんざん	4級	山また山、川また川の広大で奥深い自然をいう。⇒千山万水
半睡半醒	はんすいはんせい	非見出し	意識が朦朧としていること。⇒半醒半睡
万世一系	ばんせいいっけい	4級	永久に同じ血統が続くこと。
半醒半睡	はんせいはんすい	2級	意識が朦朧としていること。

万世不易	ばんせいふえき	4級	永久に変わらないこと。⇒万古不易
万世不刊	ばんせいふかん	4級	いつまでも滅びることがないこと。
版籍奉還	はんせきほうかん	準2級	各藩主が、領地と領民を朝廷に返すこと。
藩籍奉還	はんせきほうかん	非見出し	各藩主が、領地と領民を朝廷に返すこと。⇒版籍奉還
范冉生塵	はんぜんせいじん	非見出し	非常に貧しいことのたとえ。⇒甑塵釜魚
万全之計	ばんぜんのけい	非見出し	まったく手ぬかりがないはかりごと。⇒万全之策
万全之策	ばんぜんのさく	準1級	まったく手ぬかりがないはかりごと。
万代不易	ばんだいふえき	4級	永久に変わらないこと。⇒万古不易
万代不刊	ばんだいふかん	非見出し	いつまでも滅びることがないこと。⇒万世不刊
半知半解	はんちはんかい	5級	自分のものになっていない、なまはんかな知識や理解のこと。⇒一知半解
班田収授	はんでんしゅうじゅ	5級	大化改新の土地制度。国が公民に一定の規則にもとづいて田地を分け与え、死後これを返させた中国の均田法にならって、わが国では大化改新後に行われた。
万能一心	ばんのういっしん	4級	何事も一心に心を集中して学ばなければ身につかないということ。
万馬奔騰	ばんばほんとう	準2級	非常に勢いが盛んなこと。
万万千千	ばんばんせんせん	4級	きわめて数の多いことの形容。
帆腹飽満	はんぷくほうまん	3級	舟の帆が風をいっぱいにはらんでいるさま。
万物一馬	ばんぶついちば	4級	この世にあるあらゆるものは、すべて同一のものであるということのたとえ。
万物一府	ばんぶついっふ	非見出し	この世にあるあらゆるものは、すべて同一のものであるということのたとえ。⇒万物一馬
万物殷富	ばんぶついんぷ	1級	国が栄えて万物が盛んで豊かなこと。
万物斉同	ばんぶつせいどう	準2級	人間の相対的な知を否定し、唯一絶対の道からすればすべては同じであるとする荘子の学説。
万物逆旅	ばんぶつのげきりょ	準1級	天地のこと。
万物流転	ばんぶつるてん	非見出し	人生ははかないものであるという仏教の根本思想。⇒諸行無常
万夫之望	ばんぶののぞみ	準1級	天下の万人が仰ぎ慕うこと。
万夫不当	ばんぷふとう	4級	多くの男がかかってもかなわないほどの剛勇をいう。
繁文縟礼	はんぶんじょくれい	1級	形式や手続きが複雑で面倒なこと。
反哺之孝	はんぼのこう	非見出し	親の恩に報いること。⇒反哺之羞
反哺之心	はんぼのこころ	非見出し	親の恩に報いること。⇒反哺之羞
反哺之羞	はんぼのしゅう	準1級	親の恩に報いること。
反面教師	はんめんきょうし	5級	まねてはならないが逆に反省の糧となるような人・事物をいう。
半面之識	はんめんのしき	準1級	ほんのちょっとした顔見知りのこと。
汎濫停蓄	はんらんていちく	2級	広い分野にわたって、深い学識があること。
万里同風	ばんりどうふう	4級	世の中が平和であること。
万里之望	ばんりののぞみ	準1級	立身出世しようとする願いのこと。
万里鵬程	ばんりほうてい	準1級	遠大な道程のたとえ。海が限りなく広がることの形容。⇒鵬程万里
万里鵬翼	ばんりほうよく	準1級	非常に遠く隔たった広い空やはらかな旅路などのたとえ。また、大きな気概や勢いのたとえ。
攀竜附驥	はんりょうふき	1級	すぐれた人物に仕えることによって、自分も出世すること。
攀竜附鳳	はんりょうふほう	1級	権勢のある者につき従って出世しようとすること。
万緑一紅	ばんりょくいつこう	4級	多くのものの中に、一つだけすぐれたものが存在すること。
美意延年	びいえんねん	5級	なんの心配事もなく気分が楽しければ、長生きできるということ。
靡衣媮食	びいとうしょく	配当外	美しい着物を好んで一時の食を貪って将来のことを考えないこと。
被害妄想	ひがいもうそう	準2級	ありもしない危害を受けていると思いこむこと。
悲歌慷慨	ひかこうがい	1級	道理に反することや社会の不正・乱れをいきどおって嘆くこと。
悲歌忼慨	ひかこうがい	非見出し	道理に反することや社会の不正・乱れをいきどおって嘆くこと。⇒悲歌慷慨
被褐懷玉	ひかつかいぎよく	準2級	すぐれた才能を包み隠しているたとえ。
飛花落葉	ひからくよう	5級	人の世の無常のたとえ。

眉間一尺	びかんいっしゃく	2級	賢人の相のたとえ。
媚眼秋波	びがんしゅうは	1級	美人のなまめかしい媚びる目つきのこと。
悲願達成	ひがんだっせい	追加	長期間強く望んでいたものが実現すること
悲喜交集	ひきこうしゅう	非見出し	悲しみと喜びが入り交じって、とまどうさま。⇒悲喜交交
悲喜交交	ひきこもごも	準1級	悲しみと喜びが入り交じって、とまどうさま。
卑躬屈膝	ひきゆうくっしつ	非見出し	主義主張を変えてまで、人におもねりこびへつらうこと。⇒卑躬屈節
卑躬屈節	ひきゆうくっせつ	1級	主義主張を変えてまで、人におもねりこびへつらうこと。
匪躬之節	ひきゆうのせつ	1級	自分の利害をかえりみないで、忠節を尽くすこと。
披荆斬棘	ひけいざんきょく	1級	困難を克服し前進すること。
被堅執銳	ひけんしつえい	4級	完全武装をすること。
披堅執銳	ひけんしつえい	非見出し	完全武装をすること。⇒被堅執銳
比肩随踵	ひけんずいしょう	1級	大勢の人があとからあとへと続くこと。
微言精義	びげんせいぎ	非見出し	簡潔な言葉で奥深い意味や道理を含んでいること。⇒微言大義
微言大義	びげんたいぎ	4級	簡潔な言葉で奥深い意味や道理を含んでいること。
美事多磨	びじたま	非見出し	よいことには往々にして邪魔が入りやすいたとえ。⇒好事多魔
飛耳長目	ひじちょうもく	4級	広く情報を収集し、物事を深く鋭く判断すること。⇒長目飛耳
美酒佳肴	びしゅかこう	準1級	大変すばらしいご馳走のこと。
美須豪眉	びしゅごうび	準1級	凜々しい男性のこと。
肥酒大肉	ひしゅたいにく	非見出し	大変すばらしいご馳走のこと。⇒美酒佳肴
悲傷憔悴	ひしょうしょうすい	1級	非常に悲しんで憂いやつれること。
飛絮漂花	ひじょひょうか	1級	女性が苦しい境遇にいて、あてもなく辛苦するさま。
飛絮流花	ひじょりゅうか	非見出し	女性が苦しい境遇にいて、あてもなく辛苦するさま。⇒飛絮漂花
美辞麗句	びじれいく	4級	巧みに飾り立てた美しい言葉。また、うわべだけを飾り立てた内容のない言葉。
美人薄命	びじんはくめい	4級	美しい女性は、とかく不運で短命である。
披星戴月	ひせいたいげつ	2級	朝早くから夜遅くまで一生懸命働くこと。
披星帶月	ひせいたいげつ	非見出し	朝早くから夜遅くまで一生懸命働くこと。⇒披星戴月
尾生之信	びせいのしん	準1級	約束をかたく守ること。また、馬鹿正直で融通がきかないこと。
匪石之心	ひせきのこころ	準1級	節操が固く何事にも動じない堅固な心のたとえ。
皮相浅薄	ひそうせんぱく	4級	物の見方がうわべだけで底が浅いこと。また、知識や学問などに深みがないこと。
皮相之見	ひそうのけん	非見出し	うわべだけで本質をとらえようとしない浅薄な考えのこと。⇒皮膚之見
悲壯淋漓	ひそうりんり	1級	悲しく哀れな中にも意気のあること。
肥大繁殖	ひだいはんしょく	非見出し	肥え太り盛んにふえること。⇒肥大蕃息
肥大蕃息	ひだいはんそく	準1級	肥え太り盛んにふえること。
尾大不掉	びだいふとう	1級	臣下の力が強くてのさばり、君主の統制がとれないこと。
美中不足	びちゅうのふそく	非見出し	りっぱな人あるいは物に、わずかな欠点があるたとえ。⇒白璧微瑕
筆耕硯田	ひっこうけんでん	準1級	文筆で生計を立てること。
筆削褒貶	ひっさくほうへん	1級	批評の態度が公正できびしい「春秋筆法」を表す語。
匹夫之勇	ひっぷのゆう	準1級	考えることもなく、血気にはやるだけの勇氣。
匹夫匹婦	ひっぷひっぷ	4級	教養のない平凡な者のこと。
筆力扛鼎	ひつりょくこうてい	1級	文章の筆力が非常に強いこと。
筆路藍縷	ひつろらんる	1級	たいへん苦勞をして働くこと。
飛兔竜文	ひとりょうぶん	準1級	すぐれた子供のたとえ。
非難囂囂	ひなんごうごう	1級	過失や欠点を責めとがめる声が多く大きいこと。
肥肉厚酒	ひにくこうしゅ	4級	肥えてうまい肉とうまい酒。贅沢な酒食。

肥肉大酒	ひにくたいしゅ	非見出し	肥えてうまい肉とうまい酒。贅沢な酒食。⇒肥肉厚酒
皮肉之見	ひにくのけん	非見出し	うわべだけで本質をとらえようとしない浅薄な考えのこと。⇒皮膚之見
髀肉之嘆	ひにくのたん	1級	実力を発揮する機会に恵まれないのを嘆き悲しむこと。
脾肉之嘆	ひにくのたん	非見出し	実力を発揮する機会に恵まれないのを嘆き悲しむこと。⇒髀肉之嘆
髀肉之歎	ひにくのたん	非見出し	実力を発揮する機会に恵まれないのを嘆き悲しむこと。⇒髀肉之嘆
肥馬輕裘	ひばけいきゅう	1級	たいそう富貴なさま。また、富貴な人の外出のよそおい。
被髮纓冠	ひはつえいかん	1級	非常に急いで行動すること。
被髮左衽	ひはつさじん	1級	野蛮な風俗のこと。
被髮左衽	ひはつさじん	非見出し	野蛮な風俗のこと。⇒被髮左衽
被髮文身	ひはつぶんしん	4級	中華の文明に浴していない異民族の風俗のこと。
被髮佯狂	ひはつようきょう	1級	髪をふり乱して狂人のまねをすること。
皮膚之見	ひふのけん	準1級	うわべだけで本質をとらえようとしない浅薄な考えのこと。
悲憤慷慨	ひふんこうがい	1級	不正や不義に憤りを感じ、嘆き悲しむこと。
悲憤忼慨	ひふんこうがい	非見出し	不正や不義に憤りを感じ、嘆き悲しむこと。⇒悲憤慷慨
微妙玄通	びみょうげんつう	4級	物事の真理を知ること。
被毛求瑕	ひもうきゅうか	非見出し	やたらと人のあらさがしをすること。⇒吹毛求疵
眉目秀麗	びもくしゅうれい	2級	顔かたちが美しくととのっていること。
眉目清秀	びもくせいしゅう	2級	顔かたちが美しくととのっていること。⇒眉目秀麗
百依百順	ひゃくいひゃくじゅん	4級	すべての人のいいなりになること。
百依百随	ひゃくいひゃくずい	非見出し	すべての人のいいなりになること。⇒百依百順
百載無窮	ひゃくさいむきゅう	準2級	永遠にきわまりないこと。天地の永久にきわまりないことにいう。
百舍重趼	ひゃくしゃちょうけん	配当外	困難を乗り越えて遠路に行くこと。
百舍重繭	ひゃくしゃちょうけん	非見出し	困難を乗り越えて遠路に行くこと。⇒百舍重趼
百術千慮	ひゃくじゅつせんりょ	非見出し	あれこれと思いをめぐらすこと。⇒千思万考
百順百依	ひゃくじゅんひゃくい	非見出し	すべての人のいいなりになること。⇒百依百順
百姓一揆	ひゃくしょういつき	1級	江戸時代に、農民が結束して起こした暴動。
百縦千随	ひゃくしょうせんずい	準1級	どんなわがままも聞くこと。また、どんなわがままでもきかれること。
百世之師	ひゃくせいのし	準1級	のちの世まで人の師と仰がれる人のこと。
百世之利	ひゃくせいのり	準1級	永久の利益のこと。
百世不易	ひゃくせいふえき	非見出し	永久に消滅しないこと。⇒百世不磨
百世不磨	ひゃくせいふま	準2級	永久に消滅しないこと。
百尺竿頭	ひゃくせきかんとう	準1級	到達できる最高点のこと。また、向上しうる最高点のこと。
百折不撓	ひゃくせつふとう	1級	何度失敗しても志を曲げないこと。
百川帰海	ひゃくせんきかい	4級	多くの散らばっているものが一か所に集中するたとえ。
百戦百勝	ひゃくせんひゃくしょう	5級	戦ってすべて勝つこと。
百戦錬磨	ひゃくせんれんま	準2級	多くの経験をふんで鍛えられていること。
百戦練磨	ひゃくせんれんま	非見出し	多くの経験をふんで鍛えられていること。⇒百戦錬磨
百鍛千練	ひゃくたんせんれん	3級	字句の推敲を重ねること。
百二河山	ひゃくにのかざん	非見出し	非常に堅固で大事な場所。⇒百二山河
百二山河	ひゃくにのさんが	5級	非常に堅固で大事な場所。
百人百様	ひゃくにんひゃくよう	5級	人によってそれぞれ違った考え方や方法があるということ。
百年河清	ひゃくねんかせい	5級	あてにならないことをいつまでも待ったとえ。
百年之業	ひゃくねんのぎょう	準1級	後々までの仕事。また、古くから伝わった仕事。
百年之柄	ひゃくねんのへい	準1級	後々のことを図る権柄のこと。

百八煩惱	ひやくはちぼんのう	準2級	人間が持っている多くの迷いのこと。
百福莊嚴	ひやくふくしょうごん	準1級	仏像を、数多く積んだ福で飾ること。
百味飲食	ひやくみのおんじき	準1級	いろいろな珍しい飲食物のこと。
百薬之長	ひやくやくのちょう	準1級	酒のこと。また、酒があらゆる薬の中で最もよく効くということ。
百様依順	ひやくよういじゅん	非見出し	どんなわがままも聞くこと。また、どんなわがままでもきかれること。⇒百縦千随
百様玲瓏	ひやくようれいろう	1級	種々の美しさ。
百里之命	ひゃくりのめい	準1級	一国の運命。
百慮一失	ひゃくりょいつしつ	非見出し	どんなに賢い者にも多くの考えの中には一つぐらい誤りがある。⇒千慮一失
百慮一得	ひゃくりょいつとく	非見出し	愚者の考えの中にも一つくらいはよいものがある。⇒千慮一得
百伶百利	ひゃくれいひゃくり	準1級	非常に聡明なこと。
百伶百俐	ひゃくれいひゃくり	非見出し	非常に聡明なこと。⇒百伶百利
百鍊成鋼	ひゃくれんせいこう	3級	心身を鍛えに鍛えてはじめて立派な人間になるのだということ。
百煉成鋼	ひゃくれんせいこう	非見出し	心身を鍛えに鍛えてはじめて立派な人間になるのだということ。⇒百鍊成鋼
百練之鋼	ひゃくれんのごう	非見出し	心身を鍛えに鍛えてはじめて立派な人間になるのだということ。⇒百鍊成鋼
百家九流	ひゃっかきゅうりゅう	非見出し	中国の春秋戦国時代に活躍した多くの学者や学派、またその著書の総称。⇒諸子百家
百花齊放	ひゃっかせいほう	準2級	学問や芸術が、自由にまた盛んに行われること。
百家争鳴	ひゃっかそうめい	5級	さまざまな立場の人が自由に議論をすること。
百下百全	ひゃっかひゃくぜん	3級	百のうち一つも欠けることなく完全であること。
百花繚乱	ひゃっかりょうらん	1級	すぐれた人物や業績が、一時期にたくさん現れること。
百花撩乱	ひゃっかりょうらん	非見出し	すぐれた人物や業績が、一時期にたくさん現れること。⇒百花繚乱
百鬼夜行	ひゃっきやこう	4級	多くの悪人がのさばりはびこるたとえ。
百举百捷	ひゃっきよひゃくしょう	準1級	どんなことも行っただけでうまくいくこと。
百举百全	ひゃっきよひゃくぜん	非見出し	どんなことも行っただけでうまくいくこと。⇒百举百捷
百孔千瘡	ひゃっこうせんそう	1級	短所や欠点がたくさんあること。
百孔千創	ひゃっこうせんそう	非見出し	短所や欠点がたくさんあること。⇒百孔千瘡
百口嘲謗	ひゃっこうちょうぼう	非見出し	たくさんの人にそしられること。⇒万目睚眦
百古不磨	ひゃっこふま	準2級	後々の世まで滅びないこと。
百發百中	ひゃっぱつひゃくちゅう	5級	予想や計画などがすべてそのとおりになること。
百歩穿楊	ひゃっぼせんよう	準1級	射撃の技術がすぐれていること。
謬悠之説	びゅうゆうのせつ	準1級	でたらめでとりとめのない考え方のこと。
氷甌雪椀	ひょうおうせつわん	1級	清らかで上品な文具のこと。また、それを用いて詩文を写すこと。
氷肌玉骨	ひょうきぎょつこつ	準1級	美しい女性のこと。また、梅の花をいう。
氷壺秋月	ひょうこしゅうげつ	準1級	心がたいへん清く明らかであることのたとえ。
飄忽震蕩	ひょうこつしんとう	1級	すばやくゆり動かすこと。
氷散瓦解	ひょうさんがかい	非見出し	物事が次々と崩れてばらばらになること。⇒氷消瓦解
氷姿玉骨	ひょうしぎょつこつ	非見出し	美しい女性のこと。また、梅の花をいう。⇒氷肌玉骨
氷姿雪魄	ひょうしせつぱく	1級	雪のように清らかな魂魄と氷のような姿。梅の形容。また、高潔な人のたとえ。⇒雪魄氷姿
剽疾輕悍	ひょうしつけいかん	1級	すばしこくて強いこと。
氷消瓦解	ひょうしょうがかい	2級	物事が次々と崩れてばらばらになること。
庇葉傷枝	ひょうしょうし	非見出し	少しの欠点を直そうとして、かえって全体をだめにしてしまうこと。⇒矯角殺牛
豹死留皮	ひょうしりゅうひ	準1級	死後に功名を残すたとえ。
飛鷹走狗	ひょうそうく	準1級	狩猟をすること。
猫鼠同処	びょうそどうしょ	非見出し	どろぼうを捕らえる者とどろぼうがなれ合うこと。⇒猫鼠同眠
猫鼠同眠	びょうそどうみん	準1級	どろぼうを捕らえる者とどろぼうがなれ合うこと。

氷炭相愛	ひょうたんそうあい	5級	世の中にありえないことのたとえ。また、友人どうしが互いに戒めあうたとえ。
廟堂之器	びょうどうのき	準1級	政治をつかさどることができる立派な器量の人物のこと。
廟堂之量	びょうどうのりょう	非見出し	政治をつかさどることができる立派な器量の人物のこと。⇒廟堂之器
漂蕩奔逸	ひょうとうほんいつ	準1級	あてもなく走り回ること。
病入膏肓	びょうにゅうこうこう	1級	趣味や道楽に熱中したり、弊害などが手のつけられないほどになったりすることのたとえ。重病で治療が難しい状態のこと。
飛揚跋扈	ひょうばっこ	1級	強くてわがままに振る舞うたとえ。また、臣下がのさばり君主をしのぐたとえ。
標末之功	ひょうまつのこう	配当外	ほんのわずかな功績のこと。
表裏一体	ひょうりいったい	4級	二つのものが表と裏のように密接な関係にあること。また、相反する二つのものが一つになること。
比翼双飛	ひよくそうひ	非見出し	夫婦の仲がむつまじいこと。⇒鳳凰于飛
比翼連理	ひよくれんり	4級	男女の情愛が深く、仲睦まじいことのたとえ。
皮裏春秋	ひりしゅんじゅう	非見出し	口に出しては言わないで、内心で人をほめたり、批判したりすること。⇒皮裏陽秋
皮裏陽秋	ひりのようしゅう	4級	口に出しては言わないで、内心で人をほめたり、批判したりすること。
蜚流之言	ひりゅうのげん	非見出し	確かな根拠のないいいかげんなうわさ。⇒流言蜚語
飛竜乗雲	ひりょうじょううん	準1級	英雄が時世に乗じて勢いを得て、才能を発揮すること。
疲労困憊	ひろうこんばい	1級	つかれはてること。
牝鷄司晨	ひんけいししん	非見出し	妻女が権力を握って、勢力をふるうこと。⇒牝鷄之晨
牝鷄晨鳴	ひんけいしんめい	非見出し	妻女が権力を握って、勢力をふるうこと。⇒牝鷄之晨
牝鷄之晨	ひんけいのしん	1級	妻女が権力を握って、勢力をふるうこと。
牝鷄牡鵲	ひんけいぼめい	準1級	婦人が権力を握ることをいう。
品行方正	ひんこうほうせい	5級	行いや心が正しく、やましい点がないこと。
貧者一灯	ひんじゃのいっとう	5級	まごころの貴いことのたとえ。
貧女一灯	ひんじょのいっとう	非見出し	まごころの貴いことのたとえ。⇒貧者一灯
貧賤憂戚	ひんせんゆうせき	非見出し	貧しくて位低く不幸なこと。⇔富貴福沢
貧富貴賤	ひんぷきせん	準1級	貧しい者と富める者、身分の貴い者と賤しい者。
牝牡驪黃	ひんぼりこう	1級	物事は外見にとらわれず、その本質を見抜くことが大切であるということ。
父為子隱	ふいしいん	非見出し	そこにあるすべてのもののこと。また、ほんのわずかなもののこと。⇒子為父隱
布衣之極	ふいのきょく	準1級	庶民としての最高の出世のこと。
布衣之友	ふいのとも	非見出し	身分や地位などを問題にしない心からの交際。また、庶民的なつきあい。⇒布衣之交
布衣之交	ふいのまじわり	準1級	身分や地位などを問題にしない心からの交際。また、庶民的なつきあい。
馮異大樹	ふういたいじゅ	1級	おごりたかぶらない人のたとえ。
風雨淒淒	ふううせいせい	1級	風が吹き雨が降って、寒く冷たいさま。
風雨対牀	ふううたいしょう	1級	兄弟が会うこと。
風雲月露	ふううんげつろ	4級	なんの役にも立たない、自然の風景を詠んだだけの詩文のこと。
趨炎付熱	ふうえんふねつ	非見出し	時の権力のある者につき従うこと。⇒趨炎附熱
風花雪月	ふうかせつげつ	非見出し	四季折々の自然の美しい景観のこと。⇒雪月風花
風鬟雨鬢	ふうかんうびん	1級	風にくしけずり雨に洗われる。風雨にさらされ苦労して勤労すること。
風岸孤峭	ふうがんこしょう	1級	いかめしくて厳しく、角立って人と融和しないために孤独なこと。
富貴榮華	ふうきえいが	準2級	富んで位高く栄えときめくこと。
富貴在天	ふうきざいてん	準2級	富も位も天命によるので人の思うようにはいかないの意。
富貴長生	ふうきちょうせい	非見出し	長生きして身分高く裕福であること。⇒長命富貴
風紀紊乱	ふうきびんらん	1級	社会風俗や規律が乱れること。
富貴浮雲	ふうきふうん	準2級	財産や地位ははかなく頼りにならないものだということ。
富貴福沢	ふうきふくたく	準2級	富んで位高く幸福なこと。
風魚之災	ふうぎよのわざわい	準1級	海上の暴風による災難のこと。また、海賊や外敵などによってこうむる災難。

富貴利達	ふうきりたつ	準2級	富んで位高くなること。立身出世すること。
風月玄度	ふうげつげんたく	4級	人と長いあいだ会っていないこと。
風光明媚	ふうこうめいび	1級	自然の景色が清らかで美しいこと。
風餐雨臥	ふうさんうが	準1級	旅の苦しみや野外での仕事の苦しみ。また、野宿をすること。
風餐露宿	ふうさんろしゅく	準1級	野宿をすること。
風櫛雨沐	ふうしつうもく	1級	非常に苦勞することのたとえ。⇒櫛風沐雨
風樹之感	ふうじゅのかん	非見出し	父母が亡くなってしまって、孝行を尽くすことができない嘆き。⇒風樹之歎
風樹之歎	ふうじゅのたん	準1級	父母が亡くなってしまって、孝行を尽くすことができない嘆き。
風樹之嘆	ふうじゅのたん	非見出し	父母が亡くなってしまって、孝行を尽くすことができない嘆き。⇒風樹之歎
風声鶴唳	ふうせいかくれい	1級	ささいなことに驚いたりおじけづいたりすること。
風前之灯	ふうぜんのともしび	非見出し	危険や災難がさしせまっていることのたとえ。⇒轍鮒之急
風霜高潔	ふうそうこうけつ	準2級	清らかに澄んだ秋の景色のたとえ。
風霜之任	ふうそうのにん	準1級	司法官のこと。
風俗壊乱	ふうぞくかいらん	4級	世の中の健全な風俗や習慣が乱れること。
風俗潰乱	ふうぞくかいらん	非見出し	世の中の健全な風俗や習慣が乱れること。⇒風俗壊乱
夫婦 合	ふうふはんごう	非見出し	夫婦は一つの物の半分ずつで、両方を合わせて初めて完全になるということ。⇒夫妻 合
風木含悲	ふうぼくがんぴ	非見出し	父母が亡くなってしまって、孝行を尽くすことができない嘆き。⇒風樹之歎
風木之悲	ふうぼくのかなしみ	準1級	父母が亡くなってしまって、孝行を尽くすことができない嘆き。⇒風樹之歎
風木之歎	ふうぼくのたん	非見出し	父母が亡くなってしまって、孝行を尽くすことができない嘆き。⇒風樹之歎
風流韻事	ふうりゅういんじ	準2級	詩歌や書画などの風流な遊び。
風流佳事	ふうりゅうかじ	非見出し	自然を友として詩歌などを作る優雅な遊びに熱中すること。⇒風流三昧
風流閑事	ふうりゅうかんじ	非見出し	自然を友として詩歌などを作る優雅な遊びに熱中すること。⇒風流三昧
風流三昧	ふうりゅうざんまい	2級	自然を友として詩歌などを作る優雅な遊びに熱中すること。
風林火山	ふうりんかざん	5級	物事の時機や情勢に応じた行動のしかたのこと。
浮雲翳日	ふうんえいじつ	1級	悪人が政權を握って世の中が暗くなることのたとえ。
浮雲驚竜	ふうんきょうりゅう	準1級	筆勢がきわめて自由闊達で勢いがあるさま。
巫雲蜀雨	ふうんしよくう	1級	遠く離れ離れになっている夫婦がお互いを思い合っていることのたとえ。
武運長久	ぶうんちょうきゅう	5級	戦いの場での幸運が長く続くこと。
浮雲朝露	ふうんちょうろ	4級	たよりなくはかないもののたとえ。
浮雲之志	ふうんのこころざし	準1級	不正な手段で得た財産や地位は、自分とは関係がないはかないものだという考え方。
不易流行	ふえきりゅうこう	5級	蕉風俳諧の理念の一。常に変化をしない本質的なものを忘れない中にも、一方で新しく変化してやまないものをもとり入れていくのが風雅の根幹であるということ。
不壊金剛	ふえこんごう	準1級	きわめて堅固でこわれないこと。また、志をかたく守って変えないたとえ。⇒金剛不壊
不解衣帶	ふかいいたい	5級	あることに不眠不休で専念すること。
不学亡術	ふがくむじゅつ	非見出し	知恵がなく、物事の道理がわからないこと。⇒無知蒙昧
不可抗力	ふかこうりよく	4級	人の力ではどうすることもできない、大きな外からの力のこと。
浮瓜沈李	ふかちんり	準1級	夏の優雅な遊びをいう。
夫家之征	ふかのせい	準1級	中国周代の税の一。
浮家泛宅	ふかはんたく	1級	船の中に住まうこと。漂泊して暮らすことから、転じて、放浪する隠者の生活。
浮花浪蕊	ふかろうずい	準1級	取り柄のない平凡なさまのたとえ。
不刊之書	ふかんのしょ	準1級	永久に滅びることなく伝わる書物。
不刊之典	ふかんのてん	非見出し	永久に滅びることなく伝わる書物。⇒不刊之書
不刊之論	ふかんのろん	非見出し	永久に滅びることなく伝わる書物。⇒不刊之書
不羈之才	ふきのさい	1級	何事にも拘束されないのびのびした才能。
不羈奔放	ふきほんぼう	1級	なにものにもとらわれることなく、自分の思うままに振る舞うこと。⇒奔放不羈

不朽之書	ふきゅうのしょ	非見出し	永久に滅びることなく伝わる書物。⇒不刊之書
不朽不滅	ふきゅうふめつ	3級	いつまでもほろびないこと。
俯仰之間	ふぎょうのかん	1級	ほんのわずかな間のこと。
俛仰之間	ふぎょうのかん	非見出し	ほんのわずかな間のこと。⇒俯仰之間
覆雨翻雲	ふくうほんうん	3級	世の人の態度や人情がうつろいやすいことのたとえ。⇒雲翻雨覆
伏寇在側	ふくこうざいそく	1級	身の注意を怠らず、言動も慎むべきだということ。
複雑怪奇	ふくざつかいき	3級	事情がこみ入っていて不可解なこと。
複雑多岐	ふくざつたき	3級	物事が多方面に分かれ、しかも入り組んでいること。
複雑多様	ふくざつたよう	非見出し	物事が多方面に分かれ、しかも入り組んでいること。⇒複雑多岐
覆車之戒	ふくしゃのいましめ	準1級	前人の失敗をみて教訓とすること。
腹心之臣	ふくしんのしん	非見出し	君主の手足となり輔佐する大臣。また、そのような部下。⇒股肱之臣
覆水不返	ふくすいふへん	3級	一度犯した誤りはもとどおりにはならないということ。また、離婚した夫婦の仲はもとにもどらないということ。
福善禍淫	ふくぜんかいん	非見出し	わざわざ福はその人自身が招くものだという事。⇒禍福無門
不俱戴天	ふぐたいてん	準1級	この世にともに生存できないほど恨みや憎しみが深いこと。
不屈不撓	ふくつふとう	1級	どんな困難にもくじけないこと。⇒不撓不屈
福德円満	ふくとくえんまん	5級	精神的・物質的に恵まれ、満ち足りていること。
不虞之誉	ふぐのほまれ	準1級	思いがけなく得た名誉のこと。
腹誹之法	ふくひのほう	準1級	口に出さなくても、心の中で非難すれば罰するという法律のこと。
腹非之法	ふくひのほう	非見出し	口に出さなくても、心の中で非難すれば罰するという法律のこと。⇒腹誹之法
伏竜鳳雛	ふくりょうほうすう	準1級	才能を持ちながら機会がなくて実力を発揮できない者のこと。また、将来が有望な若者のたとえ。
不繫之舟	ふけいのふね	準1級	心にわだかまりがなくさっぱりして無心なこと。また、定めなく流れただよっていること。
不言実行	ふげんじっこう	5級	あれこれ理屈をいわずに黙って実際に行動すること。
不言之教	ふげんのおしえ	準1級	言葉にして言わずに、相手に体得させることができる教えのこと。
不言不語	ふげんふご	5級	何も言わないこと。
傳虎以翼	ふこいよく	非見出し	強い者がさらに力をつけること。⇒為虎傳翼
不耕不織	ふこうふしょく	準2級	生産的な仕事をしないこと。
富国強兵	ふこくきょうへい	5級	国の経済力を高め、軍事力を増強すること。
夫妻 合	ふさいはんごう	配当外	夫婦は一つの物の半分ずつで、両方を合わせて初めて完全になるということ。
夫妻判合	ふさいはんごう	非見出し	夫婦は一つの物の半分ずつで、両方を合わせて初めて完全になるということ。⇒夫妻 合
俯察仰觀	ふさつぎょうかん	1級	仰いで天文を見、うつむいて地理を知ること。⇒仰觀俯察
巫山雲雨	ふざんうんう	1級	男女の情交をいう。⇒雲雨巫山
巫山之雨	ふざんのあめ	非見出し	男女の情交をいう。⇒雲雨巫山
巫山之夢	ふざんのゆめ	1級	男女の情交をいう。⇒雲雨巫山
父子相伝	ふしそうでん	5級	学術や芸芸などの奥義を父からわが子だけに伝えること。
無事息災	ぶじそくさい	5級	心配事やわざわいがなく平穩に暮らしていること。
不失正鵠	ふしつせいこく	準1級	物事の重要な点を正確にとらえること。
附耳之言	ふじのげん	準1級	秘密はもれやすいし、すぐに広まるものだという事。
付耳之言	ふじのげん	非見出し	秘密はもれやすいし、すぐに広まるものだという事。⇒附耳之言
無事平安	ぶじへいあん	非見出し	心配事やわざわいがなく平穩に暮らしていること。⇒無事息災
不惜身命	ふしやくしんみょう	準1級	自分の身をささげて惜しまないこと。
俛首帖耳	ふしゅちょうじ	1級	人にこびへつらう卑しい態度のこと。
俯首帖耳	ふしゅちょうじゅ	非見出し	人にこびへつらう卑しい態度のこと。⇒俛首帖耳
膚受之愬	ふじゅのうったえ	1級	身にさしせまった痛切な訴えのこと。
不将不逆	ふしょうふぎやく	非見出し	過ぎ去ったできごとをくよくよと悔やみ、まだ来ないことにあれこれ心を悩ますことをしないこと。⇒不将不迎

不将不迎	ふしょうふげい	4級	過ぎ去ったできごとをくよくよと悔やみ、まだ来ないことにあれこれ心を悩ますことをしないこと。
夫唱婦随	ふしょうふずい	3級	夫婦の仲がとてもよいこと。
夫倡婦随	ふしょうふずい	非見出し	夫婦の仲がとてもよいこと。⇒夫唱婦随
不食之地	ふしょくのち	非見出し	草木や穀物が生じないやせた土地のこと。また、新しい発見もよい結果も得られないこと。⇒不毛之地
負薪汲水	ふしんきゅうすい	準1級	自然の中で簡素な生活を営むこと。⇒採薪汲水
負薪之憂	ふしんのうれい	準1級	自分の病気の称。
負薪之病	ふしんのへい	準1級	自分の病気の称。⇒負薪之憂
鳧趨雀躍	ふすうじゃくやく	1級	喜んで小躍りするさま。
附贅懸疣	ふぜいけんゆう	1級	無用なもののこと。
付贅懸疣	ふぜいけんゆう	非見出し	無用なもののこと。⇒附贅懸疣
附贅懸疣	ふぜいけんゆう	非見出し	無用なもののこと。⇒附贅懸疣
附贅累疣	ふぜいけんゆう	非見出し	無用なもののこと。⇒附贅懸疣
浮声切響	ふせいせっきょう	4級	軽い声と重い声。音韻の軽重や高下にいう。
浮石沈木	ふせきちんぼく	4級	大衆の理に反した無責任な言論が威力をもつこと。
不即不離	ふそくふり	4級	つかず離れずの関係にあること。また、あたらずさわらずの曖昧なさま。
二股膏藥	ふたまたこうやく	準1級	定見がなく、あっちへついたり、こっちへついたりすること。
不断節季	ふだんせっき	5級	一日一日を節季のつもりで、借金をしないで地道でまじめな商売をしていれば、決算期になっても困ることはないということ。
不知案内	ふちあんない	5級	知識や心得がなく、物事の事情やようすがよくわからないこと。
物換星移	ぶっかんせい	3級	自然界の眺めや時世が変わり改まること。
物議洶然	ぶつぎきょうぜん	非見出し	世間のうわさが騒がしいこと。⇒物論囂囂
物議騷然	ぶつぎそうぜん	4級	世論が騒がしいこと。
物質代謝	ぶっしつたいしゃ	非見出し	新しいものが古いものにとって代わること。⇒新陳代謝
物情騷然	ぶつじょうそうぜん	非見出し	世論が騒がしいこと。⇒物議騷然
仏足石歌	ぶつそくせきか	5級	仏足石の歌碑にきざまれた和歌の形式で、三十一音の短歌の末尾にさらに七音を加えた形。
物論囂囂	ぶつろんごうごう	1級	世間のうわさが騒がしいこと。
釜底抽薪	ふていちゅうしん	準1級	問題を解決するためには根本の原因を取り除かなければならないというたとえ。
釜底遊魚	ふていゆうぎょ	非見出し	危険や災難がさしこまれていることのたとえ。⇒轍鮒之急
普天率土	ふてんそつど	4級	天のおおう限り、地のつづく限りのすべての地。
敷天率土	ふてんそつど	非見出し	天のおおう限り、地のつづく限りのすべての地。⇒普天率土
溥天率土	ふてんそつど	非見出し	天のおおう限り、地のつづく限りのすべての地。⇒普天率土
敷天之下	ふてんのもと	準1級	世界中。
普天之下	ふてんのもと	非見出し	世界中。⇒敷天之下
溥天之下	ふてんのもと	非見出し	世界中。⇒敷天之下
不撓不屈	ふとうふくつ	1級	どんな困難にもくじけないこと。
不得要領	ふとくようりょう	5級	要点がはつきりせず、わけのわからないこと。
腐敗墮落	ふはいだらく	準2級	精神がたるみ乱れて、弊害が多く生じる状態になること。
不買美田	ふばいびでん	5級	子孫を甘やかし安楽な生活をさせるような財産を残さないこと。
巫馬戴星	ふばたいせい	非見出し	朝早くから夜遅くまで一生懸命働くこと。⇒披星戴月
不拔之志	ふばつのこころざし	準1級	物事にくじけない強い意志のこと。
舞馬之災	ぶばのわざわい	準1級	火事のこと。
舞文曲筆	ぶぶんきよくひつ	4級	ことさらに言葉を飾り、事実を曲げて文章を書くこと。
舞文巧法	ぶぶんこうほう	非見出し	法を都合のいいように解釈すること。⇒舞文弄法
舞文弄法	ぶぶんろうほう	2級	法を都合のいいように解釈すること。
布韞青鞋	ふべつせいあい	1級	旅行のときの服装のこと。

普遍妥当	ふへんだとう	準2級	どんな場合にも真理として承認されること。
不偏不党	ふへんふとう	準2級	かたよることなく公平中立の立場に立つこと。
樽木之地	ふぼくのち	1級	東方にある太陽が昇る地のこと。また、日本の異称。
扶木之地	ふぼくのち	非見出し	東方にある太陽が昇る地のこと。また、日本の異称。⇒樽木之地
不眠不休	ふみんふきゅう	4級	眠らず休まず事にあたること。
不毛之地	ふもうのち	準1級	草木や穀物が生じないやせた土地のこと。また、新しい発見もよい結果も得られないこと。
蜉蝣一期	ふゆうのいちご	1級	人生の短くはかないことのたとえ。
蜉蝣之命	ふゆうのいのち	非見出し	人生の短くはかないことのたとえ。⇒蜉蝣一期
不埒千万	ふらちせんばん	1級	このうえなくふとどきなこと。非常にけしからぬさま。
夫里之布	ふりのふ	準1級	中国古代の税法の一。
不離不即	ふりふそく	非見出し	つかず離れずの関係にあること。また、あたらずさわらずの曖昧なさま。⇒不即不離
不立文字	ふりゅうもんじ	準2級	文字や言葉によらず、心から心へ伝えること。
武陵桃源	ぶりょうとうげん	3級	俗世間から離れた別天地、理想郷のこと。
不老長寿	ふろうちょうじゅ	3級	いつまでも老いることなく長生きすること。
不老長生	ふろうちょうせい	非見出し	長生きして死なない。長生きして衰えない。⇒長生不死
不老不死	ふろうふし	5級	永久に老いることなく生きること。
附和随行	ふわずいこう	非見出し	自分の主義主張がなく、他人の言動に軽々しく同調すること。⇒附和雷同
附和雷同	ふわらいどう	準2級	自分の主義主張がなく、他人の言動に軽々しく同調すること。
付和雷同	ふわらいどう	非見出し	自分の主義主張がなく、他人の言動に軽々しく同調すること。⇒附和雷同
文化遺産	ぶんかいさん	追加	歴史的な価値があるものとして、現在まで残され、未来に継承されるべき過去の時代の文化財。
焚琴煮鶴	ふんきんしゃかく	準1級	殺風景なことのたとえ。
刎頸之友	ふんけいのとも	非見出し	心を許しあったきわめて親密な交際。⇒刎頸之交
刎頸之交	ふんけいのまじわり	1級	心を許しあったきわめて親密な交際。
文芸復興	ぶんげいふっこう	5級	十四世紀末から十六世紀初めにかけてイタリアを中心として全ヨーロッパにひろがった、ギリシャ・ローマの古典文化を手本とする学術上・芸術上の革新運動のこと。
分合集散	ぶんごうしゅうさん	5級	離れたり集まったりすること。また、協力したり反目したりすること。⇒離合集散
粉骨碎身	ふんこつさいしん	準2級	全力を尽くして努力すること。また、骨身惜しまず働くこと。
蚊子咬牛	ぶんしこうぎゅう	1級	痛くもかゆくもないこと。また、自分の実力をわきまえずに行動すること。
文質彬彬	ぶんしつひんぴん	準1級	外見の美しさと内面の実質がよく調和していること。
文事武備	ぶんじぶび	非見出し	文武の両道を兼ね備えていること。⇒経文緯武
粉愁香怨	ふんしゅうこうえん	2級	美人がうらみ悲しむ姿の形容。
文従字順	ぶんじゅうじじゅん	5級	文章の筋がとおっていて、表現もよどみなくわかりやすいこと。
粉粧玉琢	ふんしょうぎょくたく	準1級	女性の器量がよいたとえ。
文章絶唱	ぶんしょうのぜっしょう	5級	きわめてすぐれた文章のこと。
粉飾決算	ふんしょくけっさん	4級	会社が経営内容を実際よりもよく見せるために、損益計算などの数字を過大もしくは過小表示して決算すること。
扮飾決算	ふんしょくけっさん	非見出し	会社が経営内容を実際よりもよく見せるために、損益計算などの数字を過大もしくは過小表示して決算すること。⇒粉飾決算
焚書坑儒	ふんしょこうじゅ	準1級	思想・学問・言論を弾圧すること。
粉身碎骨	ふんしんさいこつ	非見出し	全力を尽くして努力すること。また、骨身惜しまず働くこと。⇒粉骨碎身
文人墨客	ぶんじんぼっかく	3級	詩文や書画などの風雅なものにたずさわる人のこと。
文恬武嬉	ぶんてんぶき	1級	天下太平なこと。
粉白黛黒	ふんぱくたいこく	非見出し	美人のこと。⇒粉白黛墨
粉白黛墨	ふんぱくたいぼく	準1級	美人のこと。
粉白黛緑	ふんぱくたいりょく	非見出し	美人のこと。⇒粉白黛墨
文武一途	ぶんぶいっと	4級	文官と武官の区別がないこと。
聞風喪胆	ぶんふうそうたん	準2級	うわさを聞いてびっくりする。

文武兼資	ぶんぶけんし	非見出し	学問と武芸。また、その両方にすぐれていること。⇒文武両道
文武兼備	ぶんぶけんび	非見出し	学問と武芸。また、その両方にすぐれていること。⇒文武両道
文武二道	ぶんぶにどう	非見出し	学問と武芸。また、その両方にすぐれていること。⇒文武両道
文武両道	ぶんぶりょうどう	5級	学問と武芸。また、その両方にすぐれていること。
紛紛聚訴	ふんぷんしゅうそ	非見出し	いろいろな意見や説が入り乱れてまとまりがつかないさま。⇒諸説紛紛
蚊虻走牛	ぶんぼうそうぎゅう	準1級	小さなものが強大なものを制すること。また、ささいなことが原因となって大事件や災難を引きおこすこと。
蚊虻之劳	ぶんぼうのろう	準1級	取るに足りない技能のこと。
蚊蟲之劳	ぶんぼうのろう	非見出し	取るに足りない技能のこと。⇒蚊虻之劳
分崩離析	ぶんぼうりせき	準2級	組織がちりぢりばらばらにくずれること。
墳墓之地	ふんぼのち	準1級	生まれ故郷のこと。
文明開化	ぶんめいかいか	5級	人知が開け世の中が進歩して、文化の水準が高くなること。
分憂之官	ぶんゆうのかん	非見出し	国司(諸国におかれた地方官)のこと。⇒分憂之寄
分憂之寄	ぶんゆうのき	準1級	国司(諸国におかれた地方官)のこと。
奮励努力	ふんれいどりよく	3級	氣力を奮い起こして努め励む。
平安無事	へいあんぶじ	非見出し	なにごともなく穏やかなこと。⇒平穩無事
敝衣草履	へいいそうく	非見出し	ぼろぼろで、きたないいでたち。なりふりにかまわぬこと。⇒敝衣蓬髮
弊衣破袴	へいいはこ	非見出し	身なりを構わない、粗野なさま。⇒弊衣破帽
弊衣破帽	へいいはぼう	準2級	身なりを構わない、粗野なさま。
敝衣破帽	へいいはぼう	非見出し	身なりを構わない、粗野なさま。⇒弊衣破帽
敝衣蓬髮	へいいほうはつ	1級	ぼろぼろで、きたないいでたち。なりふりにかまわぬこと。
弊衣蓬髮	へいいほうはつ	非見出し	ぼろぼろで、きたないいでたち。なりふりにかまわぬこと。⇒敝衣蓬髮
米塩博弁	べいえんはくべん	5級	詳細にわたって議論し、話し合うこと。また、くどくどと話すこと。
平穩無事	へいおんぶじ	3級	なにごともなく穏やかなこと。
並駕齊驅	へいがせいく	準1級	力や能力に差がないこと。
兵戈槍攘	へいかそうじょう	1級	武器が乱れ動くこと。兵乱の形容。
平氣虚心	へいききょしん	3級	氣を平らかにして心を虚しくする。心にわだかまりがなく平静な心をいう。
並驅齊駕	へいくせいが	準1級	力や能力に差がないこと。⇒並駕齊驅
閉月羞花	へいげつしゅうか	2級	美しい女性のこと。⇒羞月閉花
閉口頓首	へいこうとんしゅ	2級	どうしようもないほど困りきったさま。また、やりこめられて返答につまること。
平沙万里	へいさばんり	2級	広大な砂漠のこと。
平沙落雁	へいさらくがん	準1級	中国瀟湘八景の一つ。また、琴曲の名。
兵車之会	へいしゃのかい	準1級	武力によって諸侯を会合させること。
兵車之属	へいしゃのぞく	非見出し	武力によって諸侯を会合させること。⇒兵車之会
秉燭夜遊	へいしょくやゆう	1級	人生ははかなく短いので、せめて夜も灯をともして遊び、生涯を楽しもうということ。
平身低頭	へいしんていとう	5級	ひたすら恐縮しへりくだること。また、ひたすらあやまること。
萍水相逢	へいすいそうほう	1級	人と人とが偶然に知りあいになること。
米泉之精	べいせんのせい	準1級	酒をいう。
弊帚千金	へいそうせんきん	1級	身のほどを知らないで思いあがるたとえ。
平談俗語	へいだんぞくご	4級	日常の会話で使われるごくふつうの言葉。
平談俗話	へいだんぞくわ	非見出し	日常の会話で使われるごくふつうの言葉。⇒平談俗語
瓶墜簪折	へいついしんせつ	1級	男女が離れて二度と会い得ないたとえ。
兵者凶器	へいはきょうき	準1級	武器は人をそこなう不吉な道具であるということ。
兵馬倥傯	へいばこうそう	1級	戦争にあけくれて忙しいこと。
平伏膝行	へいふくしっこう	準1級	高貴の人の前で恐縮して進み出るさま。

平平凡凡	へいへいぼんぼん	4級	ごくありふれていて、特別なことがないさま。
閉明塞聡	へいめいそくそう	準1級	世間の事物と接触を断ち切る。
閉目塞聴	へいもくそくちょう	非見出し	世間の事物と接触を断ち切る。⇒閉明塞聡
碧眼紅毛	へきがんこうもう	準1級	西洋人のこと。⇒紅毛碧眼
碧血丹心	へきけつたんしん	準1級	このうえないまごころのこと。
碧落一洗	へきらくいつせん	準1級	大空がからりと晴れわたること。
汨羅之鬼	べきらのき	1級	水死した人のこと。
壁立千仞	へきりつせんじん	1級	断崖が壁のように千仞も高く切り立ちそびえていること。
霹靂一声	へきれきいつせい	1級	突然かみなりがとどろくこと。
霹靂閃電	へきれきせんでん	1級	すばやいことのたとえ。
別有天地	べつゆうてんち	5級	俗世間を離れた理想的な別天地があるということ。
別有洞天	べつゆうどうてん	非見出し	俗世間を離れた理想的な別天地があるということ。⇒別有天地
卞和泣璧	べんかきゅうへき	配当外	正しくすぐれた才能や業績が世に認められず嘆くことのたとえ。
卞和之璧	べんかのへき	非見出し	正しくすぐれた才能や業績が世に認められず嘆くことのたとえ。⇒卞和泣璧
片簡零墨	へんかんれいぼく	3級	ちょっとした書き物や、書き物のされはし。⇒断簡零墨
变幻自在	へんげんじざい	3級	思いのままにすばやく変化すること。また、変わり身がはやいこと。
变幻出没	へんげんしゅつぽつ	非見出し	思いのままにすばやく変化すること。また、変わり身がはやいこと。⇒变幻自在
片言隻句	へんげんせきく	3級	わずかな言葉。ほんのひと言ふた言。
片言隻言	へんげんせきげん	非見出し	わずかな言葉。ほんのひと言ふた言。⇒片言隻句
片言隻語	へんげんせきご	非見出し	わずかな言葉。ほんのひと言ふた言。⇒片言隻句
片言隻辞	へんげんせきじ	非見出し	わずかな言葉。ほんのひと言ふた言。⇒片言隻句
弁才無礙	べんざいむげ	1級	弁舌の才能があり、よどみなく話すこと。
駢四儷六	べんしれいろく	1級	四字句と六字句の対句を多く用いた修辭的な文体。⇒四六駢儷
鞭声肅肅	べんせいしゅくしゅく	準1級	相手に気づかれぬように馬を打つ音も静かにの意。
変態百出	へんたいひやくしゅつ	5級	形をいろいろと変え、また姿も変えること。
偏袒扼腕	へんたんやくわん	1級	激しく怒ったり悔しがったりするさま。
辺地粟散	へんちぞくさん	準1級	粟つぶの散らばったような世界の果ての小さな国。⇒粟散辺地
胼胝之劳	へんちのろう	1級	たいへんな骨折り。
辺幅修飾	へんぷくしゅうしょく	4級	うわべ(外見)を飾ること。
鞭辟近裏	べんぺききんり	1級	外物にとらわれることなく身に切実なことを考えること。また、はげましによって物事の道理に近づくこと。
偏僻蔽固	へんぺきへいこ	準1級	道理に暗く考えがかたよっていて、かたくななこと。
偏旁冠脚	へんぼうかんきやく	1級	漢字を構成する部首の総称。
偏傍冠脚	へんぼうかんきやく	非見出し	漢字を構成する部首の総称。⇒偏旁冠脚
变法自強	へんぼうじきょう	5級	法律や制度を改革して自国を強くすること。
变法自彊	へんぼうじきょう	非見出し	法律や制度を改革して自国を強くすること。⇒变法自強
駢拇枝指	べんぼしし	1級	無用なもののたとえ。
片利共生	へんりきょうせい	4級	いっしょに生活をしていながら、片だけが利益を受けること。
片利共棲	へんりきょうせい	非見出し	いっしょに生活をしていながら、片だけが利益を受けること。⇒片利共生
縫衣浅帯	ほういせんたい	3級	儒者の服。転じて、儒者・文人。
豊衣足食	ほういそくしょく	非見出し	物質的になんの不足もない満ち足りた生活。⇒煖衣飽食
褒衣博帶	ほういはくたい	準2級	儒者の服。
暴飲暴食	ぼういんぼうしょく	5級	度をすぎた飲食をすること。
冒雨剪韭	ぼううせんきゅう	1級	友人の来訪を喜んでもてなすこと。
望雲之情	ぼううんのじょう	非見出し	旅先で親を思うことのたとえ。⇒白雲孤飛

逢掖之衣	ほうえきのい	1級	袖の大きい着物のこと。
報怨以德	ほうえんいとく	2級	自分に怨みをもつ人に愛情をもって接し、恩恵を与えること。
砲煙弾雨	ほうえんだんう	4級	戦闘が激しいさま。
砲烟弾雨	ほうえんだんう	非見出し	戦闘が激しいさま。⇒砲煙弾雨
鳳凰于飛	ほうおううひ	1級	夫婦の仲がむつまじいこと。
鳳皇于飛	ほうおううひ	非見出し	夫婦の仲がむつまじいこと。⇒鳳凰于飛
鳳凰銜書	ほうおうがんしょ	1級	天子の遣わした使者が勅書をたずさえていること。
鳳凰在笈	ほうおうざいど	配当外	すぐれた人材が地位に恵まれず民間に埋もれていること。
鳳凰来儀	ほうおうらいぎ	準1級	世の中が太平なことのたとえ。
鳳皇来儀	ほうおうらいぎ	非見出し	世の中が太平なことのたとえ。⇒鳳凰来儀
茅屋采椽	ぼうおくさいてん	1級	質素な家のこと。
忘恩負義	ぼうおんふぎ	5級	恩を忘れ義理にそむくこと。
法界恻気	ほうかいりんき	1級	他人のことを嫉妬したり、ねたんだりすること。また、他人の恋愛をねたむこと。
放歌高吟	ほうかこうぎん	準2級	あたりかまわず大声で歌い吟ずること。⇒高歌放吟
方駕齊驅	ほうがせいく	非見出し	力や能力に差がないこと。⇒並駕齊驅
泛駕之馬	ほうがのうま	1級	常道に従わない英雄のたとえ。
抱関撃柝	ほうかんげきたく	1級	低い役職の人のこと。
旁觀縮手	ぼうかんしゅくしゅ	非見出し	何もしないでそばで見ていること。⇒袖手旁觀
判官鼯鼠	ぼうがんびいき	1級	弱いほうに同情し、味方したり応援したりすること。
判官鼯鼠	ぼうがんびいき	非見出し	弱いほうに同情し、味方したり応援したりすること。⇒判官鼯鼠
暴虐非道	ぼうぎゃくひどう	3級	乱暴でむごたらしく道理にはずれた行いをする。また、その人。
暴虐無道	ぼうぎゃくむどう	非見出し	乱暴でむごたらしく道理にはずれた行いをする。また、その人。⇒暴虐非道
飽經風霜	ほうけいふうそう	準2級	世の中の辛酸をなめ尽くし、世渡りもうまいが、したたかで悪賢いこと。
放言高論	ほうげんこうろん	5級	言いたい放題に自由に言論すること。
暴言多罪	ぼうげんたざい	5級	手紙などで言い過ぎたこと、失礼なことをわびる語。
奉公守法	ほうこうしゅほう	3級	懸命に公務を遂行し法をきちんと守ること。
貌合心離	ぼうごうしんり	2級	交際するのに表面だけで誠意のないたとえ。
蓬戸甕牖	ほうこおうゆう	非見出し	貧しく粗末な家の形容。⇒甕牖繩枢
暴虎馮河	ぼうこひょうが	1級	向こうみずのたとえ。血気にまかせた無謀な行動のこと。
放語漫言	ほうごまんげん	4級	言いたい放題。⇒漫言放語
方趾円顱	ほうしえんろ	非見出し	丸い頭と四角い足。人類のこと。⇒円顱方趾
方趾円顱	ほうしえんろ	1級	丸い頭と四角い足。人類のこと。⇒円顱方趾
旁時掣肘	ぼうじせいちゅう	1級	他人の仕事にわきから口を出してじゃまをすること。
封豕長蛇	ほうしちょうだ	1級	食欲で残酷な人のたとえ。
茅茨不翦	ぼうしふせん	非見出し	質素な建物のこと。⇒采椽不斲
旁若無人	ぼうじゃくぶじん	1級	人前にもかかわらず、勝手に無遠慮な振る舞いをする。こと。
傍若無人	ぼうじゃくぶじん	非見出し	人前にもかかわらず、勝手に無遠慮な振る舞いをする。こと。⇒旁若無人
放縱不羈	ほうじゅうふき	非見出し	気の向くまま勝手に振る舞う。⇒放蕩不羈
鵬霄万里	ほうしょうばんり	非見出し	遠大な道のりのたとえ。海が限りなく広がることの形容。⇒鵬程万里
飽食終日	ほうしょくしゅうじつ	3級	一日中食べるだけで仕事もせず過ごす。
飽食煖衣	ほうしょくだんい	1級	物質的になんの不足もない満ち足りた生活。⇒煖衣飽食
望蜀之嘆	ぼうしょくのたん	1級	人間の欲望には限りがないということ。⇒得隲望蜀
亡脣寒齒	ぼうしんかんし	1級	密接な関係にあるものの一方が減びると片方も危うくなること。⇒脣亡齒寒
抱薪救火	ほうしんきゅうか	4級	害を除こうとしてかえってその害を大きくしてしまうこと。

方柄円鑿	ほうぜいえんさく	配当外	物事がうまくかみ合わないことのたとえ。⇒円鑿方柄
方正之士	ほうせいのし	準1級	行いの正しい人のこと。
蜂準長目	ほうせつちょうもく	準1級	賢くて抜け目のない人相のこと。
茫然自失	ぼうぜんじしつ	1級	気が抜けてぼんやりしてしまい、どうしてよいかわからなくなること。
呆然自失	ぼうぜんじしつ	非見出し	気が抜けてぼんやりしてしまい、どうしてよいかわからなくなること。⇒茫然自失
包蔵禍心	ほうぞうかしん	準2級	悪いたくらみを心に隠しもつ。
放胆小心	ほうたんしょうしん	3級	文章を書くはじめは大胆に筆を揮って思いきって書くのがよく、ある程度熟練してからは細心の注意を払って書くのがよいこと。また、それら二つの文体。
抱柱之信	ほうちゅうのしん	準1級	約束をかたく守ること。また、馬鹿正直で融通がきかないこと。⇒尾生之信
忙中有閑	ほうちゅうゆうかん	準2級	忙しい仕事の合い間にも、ほっと一息つくひまがあること。
方底円蓋	ほうていえんがい	2級	物事がくいちがって合わないことのたとえ。
鵬程万里	ほうていばんり	準1級	遠大な道程のたとえ。海が限りなく広がることの形容。
宝鈿玉釵	ほうでんぎょくさい	1級	美しいもののたとえ。
蓬頭垢面	ほうとうこうめん	準1級	身だしなみが悪く、むさくるしいさま。
放蕩三昧	ほうとうさんまい	準1級	勝手放題にすること。酒や女におぼれて品行が悪く、勝手気ままなこと。
蓬頭赤脚	ほうとうせききゃく	非見出し	よもぎのように髪が乱れるさま。⇒蓬頭乱髪
朋党比周	ほうとうひしゅう	準1級	同志が団結して助けあい、仲間以外の者を排斥すること。
放蕩不羈	ほうとうふき	1級	気の向くまま勝手に振る舞う。
放蕩無頼	ほうとうぶらい	準1級	酒色にふけり、身をもちくずすこと。
蓬頭乱髪	ほうとうらんぱつ	準1級	よもぎのように髪が乱れるさま。
法統連綿	ほうとうれんめん	非見出し	仏の教えが師から弟子へと連綿と受け継ぎ伝えられるということ。⇒血脈相承
茅堵蕭然	ぼうとしょうぜん	1級	かやぶきの垣根が物寂しいさま。
法爾自然	ほうにじねん	準1級	少しも人為的な力が加わらないあるがままの姿であること。⇒自然法爾
法爾法然	ほうにほうねん	非見出し	少しも人為的な力が加わらないあるがままの姿であること。⇒自然法爾
豊年満作	ほうねんまんさく	5級	農作物が豊かにみのり、収穫の多いこと。
蓬髮垢面	ほうはつこうめん	非見出し	身だしなみが悪く、むさくるしいさま。⇒蓬頭垢面
放馬南山	ほうばなんざん	非見出し	戦いが終わり平和になるたとえ。⇒帰馬放牛
虬眉皓髮	ぼうびこうはつ	1級	白毛がまじったまゆと白い髪。老人のこと。
暴風怒濤	ぼうふうどうとう	非見出し	物事がひどく乱れていること。⇒狂瀾怒濤
捧腹絶倒	ほうふくぜっとう	準1級	腹をかかえて大笑いすること。
抱腹絶倒	ほうふくぜっとう	非見出し	腹をかかえて大笑いすること。⇒捧腹絶倒
捧腹大笑	ほうふくたいしょう	準1級	腹をかかえて大笑いすること。⇒捧腹絶倒
望文生義	ぼうぶんせいぎ	5級	文字の意味をあまり考えず、見当で勝手に解釈すること。
望聞問切	ぼうぶんもんせつ	5級	医者診察で重要な四つの方法。「望」は目で察し、「聞」は耳で聴いて診察し、「問」は言葉で問いただし、「切」は指でさすって診察すること。
放肆邪侈	ほうへきじゃし	1級	わがまま勝手な悪い行為のこと。
蜂房水渦	ほうぼうすいか	2級	家屋が蜂の巣のように密集しているさま。
忙忙碌碌	ぼうぼうろくろく	非見出し	非常に忙しいさま。⇒汲汲忙忙
泡沫夢幻	ほうまつむげん	準1級	人生のはかないことのたとえ。
報本反始	ほうまんはんし	5級	天地や祖先の恩に感謝し報いること。
蜂目豺声	ほうもくさいせい	1級	凶悪で冷酷な人のこと。
忘憂之物	ぼうゆうのもの	非見出し	酒の異称。⇒清聖濁賢
鳳友鸞諧	ほうゆうらんかい	非見出し	男女間の情事、交接のたとえ。⇒鳳友鸞交
鳳友鸞交	ほうゆうらんこう	1級	男女間の情事、交接のたとえ。
亡羊之嘆	ぼうようのたん	準1級	方針が多すぎて選択に迷うたとえ。⇒多岐亡羊
亡羊補牢	ぼうようほろう	準1級	失敗したあとで改めることのたとえ。

蓬萊弱水	ほうらいじゃくすい	準1級	遠くはるかにへだたっていること。
忙裡偷閑	ぼうりとうかん	非見出し	忙しい仕事の合い間にも、ほっと一息つくひまがあること。⇒忙中有閑
方領矩歩	ほうりょうくほ	準1級	儒者の身なりや態度のたとえ。
暴戾恣睢	ぼうれいしき	配当外	横暴で残忍な人物の形容。
暮雲春樹	ぼうんしゅんじゅ	4級	遠くの友を切になつかしむ情。
母猿断腸	ぼえんだんちょう	準2級	腸がちぎれるような激しい悲しみや苦しみのこと。
保革伯仲	ほかくはくちゅう	準2級	保守政党と革新政党の議員数がほぼ同じ状態。
北轅適楚	ほくえんてきそ	1級	志と行動とが相反するたとえ。
撲朔謎離	ぼくさくめいり	準1級	男か女か分からないこと。
墨子泣糸	ぼくしきゅうし	3級	人は習慣や他人の影響などによって善にも悪にもなるたとえ。
墨子兼愛	ぼくしけんあい	3級	墨子は儒家の差別愛に対して博愛平等を主張したこと。
墨子薄葬	ぼくしはくそう	3級	墨子は盛大な儀式を主張する儒家に対して質素な葬儀を唱えたこと。
墨子悲糸	ぼくしひし	3級	人は習慣や他人の影響などによって善にも悪にもなるたとえ。⇒墨子泣糸
墨子悲染	ぼくしひせん	非見出し	人は習慣や他人の影響などによって善にも悪にもなるたとえ。⇒墨子泣糸
墨守成規	ぼくしゅせいき	3級	古くからあるやり方を固く守って、変え改めようとしないこと。
濮上之音	ぼくじょうのおん	配当外	淫乱な音楽のこと。また、国を滅亡にみちびく亡国の音楽のこと。⇒桑間濮上
北窓三友	ほくそうのさんゆう	5級	琴と詩と酒のこと。
墨翟之守	ぼくてきのまもり	配当外	自分の説などを堅く守って改めないこと。
北轍南轅	ほくてつなんえん	1級	志と行動が相反するたとえ。
北斗七星	ほくとしちせい	3級	天の北極に、ひしゃくの形につらなっている大熊座の七つの星のこと。
墨名儒行	ぼくめいじゅこう	準2級	表面は墨者と称しながら、実際には孔子の教えに合った行いをする事。
輔車脣齒	ほしゃしんし	1級	お互いに助けあう密接な関係。
輔車唇齒	ほしゃしんし	非見出し	お互いに助けあう密接な関係。⇒輔車脣齒
輔車相依	ほしゃそうい	準1級	お互いに助けあう密接な関係。⇒輔車脣齒
暮色蒼然	ぼしょくそうぜん	準1級	夕暮れどきのあたりが薄暗くなっている様子。
保泰持盈	ほたいじえい	非見出し	満ち足りて安らかな状態を長く保つこと。⇒持盈保泰
法華三昧	ほつけざんまい	2級	一心不乱に法華經を極めること。
墨痕淋漓	ぼっこんりんり	1級	墨で表現したものが生き生きしているさま。墨の跡がみずみずしいさま。
發菩提心	ほつぼだいしん	準1級	仏門に入って僧になろうと思うこと。また、悟りを開こうという気持ちをもつこと。
捕風捉影	ほふうそくえい	非見出し	雲をつかむようなとりとめなくあてにならないたとえ。⇒繫風捕影
匍匐膝行	ほふくしっこう	1級	膝を床につき、すり足で前に移動すること。
匍匐前進	ほふくぜんしん	非見出し	膝を床につき、すり足で前に移動すること。⇒匍匐膝行
蒲柳之姿	ほりゅうのし	非見出し	若いときから体質が虚弱なこと。⇒蒲柳之質
蒲柳之質	ほりゅうのしつ	準1級	若いときから体質が虚弱なこと。
賁育之勇	ほんいくのゆう	1級	非常に氣力が盛んで強いこと。
奔逸絶塵	ほんいつぜつじん	準1級	非常にはやく走ること。
奔佚絶塵	ほんいつぜつじん	非見出し	非常にはやく走ること。⇒奔逸絶塵
翻雲覆雨	ほんうんふうう	3級	世の人の態度や人情がうつろいやすいことのたとえ。⇒雲翻雨覆
凡聖一如	ぼんしょういちによ	準1級	人には凡人と聖者の別はあるが本性は平等であること。
凡聖不二	ぼんしょうふに	非見出し	人には凡人と聖者の別はあるが本性は平等であること。⇒凡聖一如
翻然大悟	ほんぜんたいご	非見出し	心にわだかまりがなく、至高の境地で真理を悟ること。⇒廓然大悟
本地垂迹	ほんちすいじゃく	1級	仏や菩薩が人々を救う一つ的手段として、神の姿を借りて現れること。
奔南狩北	ほんなんしゅほく	準2級	天子が難を避けて、南北にのがれること。
煩惱菩提	ぼんのうぼだい	準1級	煩惱は悟りの縁であること。

奔放不羈	ほんぼうふき	1級	なにものにもとらわれることなく、自分の思うままに振る舞うこと。
本末転倒	ほんまつてんとう	4級	物事の大事なこととそうでないことを逆にすること。
本末顛倒	ほんまつてんとう	非見出し	物事の大事なこととそうでないことを逆にすること。⇒本末転倒
本来面目	ほんらいのめんもく	5級	人の手を加えないありのままの本性のこと。
本領安堵	ほんりょうあんど	準1級	鎌倉・室町時代、幕府や大名がその支配下にある者に対して、ある特定の領地が間違いなくその者の領地であることを承認し証明の書面を出すこと。
真一文字	まいちもんじ	5級	まっすぐなこと。一直線であること。
摩訶止観	まかしかん	非見出し	人格を完成した究極の境地をいう。⇒円頓止観
摩肩接踵	まけんせっしょう	非見出し	大勢の人があとからあとへと続くこと。⇒比肩随踵
麻姑搔痒	まこそうよう	1級	物事が思いのままになること。また、行きとどくこと。
磨穿鉄硯	ませんてっけん	準1級	猛烈に勉強すること。
股座膏藥	またぐらこうやく	非見出し	定見がなく、その時の都合であつちについたり、こつちについたりすること。⇒内股膏藥
麻中之蓬	まちゅうのよもぎ	準1級	よい環境の中では悪しきものも正されるというたとえ。
摩頂放踵	まちょうほうしょう	1級	自分の身を犠牲にして、他人のために尽くすこと。
末法末世	まっぽうまつせ	5級	時代がくだり、道徳が衰え乱れた末の世のこと。
末路窮途	まつろきゅうと	準2級	追いつめられて苦境から逃れようもない状態。また、苦境におちいって困りはてること。⇒窮途末路
磨礱砥礪	まろうしれい	配当外	知らず知らずのうちに、物が減ってしまうたとえ。
万言倚馬	まんげんいば	非見出し	すらすらと名文を書き上げる才能。⇒倚馬七紙
漫言放語	まんげんほうご	4級	言いたい放題。
滿腔春意	まんこうしゅんい	準1級	全身になごやかな気分が満ちていること。
万劫末代	まんごうまつだい	準1級	遠い後の世。
滿場一致	まんじょういっち	非見出し	その場にいる全員の意見や考えが一つにまとまること。⇔甲論乙駁
滿身傷痕	まんしんしょうい	非見出し	精神的にひどく痛めつけられていること。また、さまざまな病気で苦しんでいること。⇒滿身創痕
滿身創痕	まんしんそうい	1級	精神的にひどく痛めつけられていること。また、さまざまな病気で苦しんでいること。
万目睚眦	まんもくがいさい	1級	たくさんの人ににらまれること。
滿目荒涼	まんもくこうりょう	準2級	見渡すかぎり荒れはてているさま。
滿目荒寥	まんもくこうりょう	非見出し	見渡すかぎり荒れはてているさま。⇒滿目荒涼
滿目蕭条	まんもくしょうじょう	1級	見渡すかぎりもの寂しいさま。
滿目蕭然	まんもくしょうぜん	非見出し	見渡すかぎりもの寂しいさま。⇒滿目蕭条
曼理皓齒	まんりこうし	1級	美人のこと。
密雲不雨	みつうんふう	5級	前兆があるのに、まだ事が起こらないこと。また、恩恵が下に行きわたらないこと。
三日天下	みっかてんか	5級	権力の座にあることがきわめて短期間であること。
三日法度	みっかはっと	非見出し	命令や法令がすぐに変わって定まらないこと。⇒朝令暮改
三日坊主	みっかぼうず	4級	何をしても飽きっぽくて長続きしないこと。
三月庭訓	みつきていきん	非見出し	何をしても飽きっぽくて長続きしないこと。⇒三日坊主
妙計奇策	みょうけいきさく	4級	人の意表をついた奇抜ですぐれたはかりごと。
名字御免	みょうじごめん	非見出し	江戸時代、平民が家柄や功労によって姓を名のることを許されたこと。⇒名字帯刀
名字帯刀	みょうじたいとう	5級	江戸時代、平民が家柄や功労によって姓を名のり、刀をさすことを許されたこと。
苗氏帯刀	みょうじたいとう	非見出し	江戸時代、平民が家柄や功労によって姓を名のり、刀をさすことを許されたこと。⇒名字帯刀
苗字帯刀	みょうじたいとう	非見出し	江戸時代、平民が家柄や功労によって姓を名のり、刀をさすことを許されたこと。⇒名字帯刀
名詮自性	みょうせんじしょう	2級	名はそのものの本質を表すということ。
名詮自称	みょうせんじしょう	非見出し	名はそのものの本質を表すということ。⇒名詮自性
妙法一乘	みょうほういちじょう	4級	法華經の教え。
名聞利養	みょうもんりよう	準2級	名誉と財欲に執着すること。
未来永久	みらいえいきゅう	非見出し	これから先はるかに長く。⇒未来永劫

未来永劫	みらいえいごう	準1級	これから先はるかに長く。
無為自然	むいしぜん	4級	何もしないであるがままにまかせる。
無為徒食	むいとしょく	4級	何もしないで、ただぶらぶらと日を過ごすこと。
無位無冠	むいむかん	3級	位のないこと。
無位無官	むいむかん	5級	位階も官職もないこと。
無為無策	むいむさく	4級	なんの対策もないまま、腕をこまねいて見ていること。
無為無知	むいむち	非見出し	何もしないし、何も知らない。⇒無為無能
無為無能	むいむのう	4級	何もしないし、何もできない。
無影無踪	むえいむそう	2級	行方のしれないこと。
無援孤立	むえんこりつ	3級	ひとりぼっちで頼るものがないこと。⇒孤立無援
無学無能	むがくむのう	非見出し	何も知らないし、何もできない。⇒無為無能
無学文盲	むがくもんもう	準2級	学問がなく、字も読めないこと。
无何之郷	むかのきょう	配当外	何もなく、果てしなく広い所。
無我夢中	むがむちゅう	4級	あることに没頭して自分を忘れること。また、何かに熱中するあまり、他のことを気につけないこと。
無稽荒唐	むけいこうとう	非見出し	言説に根拠がなく、現実性に欠けること。でたらめ。⇒荒唐無稽
無芸大食	むげいたいしょく	5級	これといった特技や才能もなく、ただ人並み以上に食べるだけのこと。
無稽之言	むけいのげん	非見出し	根拠のないでたらめな話。⇒無稽之談
無稽之談	むけいのだん	準1級	根拠のないでたらめな話。
無芸無能	むげいむのう	非見出し	何の芸も持たないし、何もできない。⇒無為無能
無礙自在	むげじざい	非見出し	行動や思考がものにとらわれずのびのびしていること。⇒融通無礙
無間地獄	むけんじごく	3級	仏教でいう八大地獄の一つ。
夢幻泡影	むげんほうよう	準1級	人生がはかないことのたとえ。
無告之民	むこくのたみ	準1級	訴える術をもたない無力な人びと。
無辜之民	むこのたみ	1級	罪なき人びと。
無根無蒂	むこんむてい	1級	よりどころがまったくないこと。
無財餓鬼	むざいがき	非見出し	財物のない餓鬼。きわめて貧しくて食物を食おうとしてもそれができない餓鬼。⇔有財餓鬼
無慙無愧	むざんむき	1級	まったく恥じることなく悪いことを平気で行うこと。
無始無終	むしむじゅう	5級	始めもなく終わりもないこと。
無私無偏	むしむへん	準2級	私心がなく公平なこと。
矛盾撞着	むじゅんどうちゃく	準1級	前後がくいちがって論理があわないこと。
無常迅速	むじょうじんそく	準2級	人の世は移り変わりが速く、はかないものであるということ。
無声無臭	むせいむしゅう	準2級	誰にも知られず、まったく目立たないこと。事の影響がないこと。
無駄方便	むだほうべん	準2級	一見するとなんの役にも立たないように見えるものも、なんらかの役に立っている場合があるということ。
無恥厚顔	むちこうがん	4級	あつかましくて、恥知らずなさま。⇒厚顔無恥
無知低能	むちていのう	非見出し	知恵がなく、物事の道理がわからないこと。⇒無知蒙昧
無知無学	むちむがく	非見出し	知恵がなく、物事の道理がわからないこと。⇒無知蒙昧
無知無能	むちむのう	非見出し	知恵がなく、物事の道理がわからないこと。⇒無知蒙昧
無知蒙昧	むちもうまい	準1級	知恵がなく、物事の道理がわからないこと。
無智蒙昧	むちもうまい	非見出し	知恵がなく、物事の道理がわからないこと。⇒無知蒙昧
無茶苦茶	むちゃくちゃ	5級	筋道が立たないこと。
無二無三	むにむさん	5級	ただ一つであること。転じて、ひたすら、一心不乱なさま。
無念無想	むねんむそう	5級	無我の境地に入り、何も考えないこと。
無病呻吟	むびょうしんぎん	1級	大したことはないのに大げさに騒ぎたてること。
無病息災	むびょうそくさい	5級	病気をしないで健康であること。

霧鬢風鬟	むびんふうかん	1級	美しい髪のとえ。
無辺無礙	むへんむげ	1級	広大で限りがなく自由で煩惱のさまたげがない。
無偏無党	むへんむとう	非見出し	かたよることなく公平中立の立場に立つこと。⇒不偏不党
無縫天衣	むほうてんい	3級	飾りけがなく自然であること。⇒天衣無縫
無妄之福	むぼうのふく	準1級	思いがけない幸運。
毋望之福	むぼうのふく	非見出し	思いがけない幸運。⇒無妄之福
毋妄之福	むぼうのふく	非見出し	思いがけない幸運。⇒無妄之福
毋望之禍	むぼうのわざわい	1級	思いがけないわざわい。
無望之禍	むぼうのわざわい	非見出し	思いがけないわざわい。⇒毋望之禍
無妄之禍	むぼうのわざわい	非見出し	思いがけないわざわい。⇒毋望之禍
無味乾燥	むみかんそう	4級	内容がなく、味わいやおもしろみがないこと。
無明長夜	むみょうじょうや	5級	衆生が煩惱にとらわれ悟りを得られないこと。
無用之用	むようのよう	準1級	一見役に立たないと見えるものが、かえって役に立つ。
無欲恬淡	むよくてんたん	1級	あっさりしていて欲がなく、物にこだわらないこと。
無欲恬憺	むよくてんたん	非見出し	あっさりしていて欲がなく、物にこだわらないこと。⇒無欲恬淡
無欲恬澹	むよくてんたん	非見出し	あっさりしていて欲がなく、物にこだわらないこと。⇒無欲恬淡
無余涅槃	むよねはん	1級	肉体など形の制約から解放された悟りの境地。
無理往生	むりおうじょう	5級	むりやり押しつけて従わせること。
無理算段	むりさんだん	追加	苦しいやりくりをして、物事や金銭の都合をつけること。
無理難題	むりなんだい	追加	理屈に合わない無理な注文。実現がとうてい不可能な要求。
無理無体	むりむたい	5級	相手のことなど考えず、むりやり強制すること。
無量無辺	むりょうむへん	5級	限りなく広大なこと。
冥頑不靈	めいがんふれい	2級	頑固で道理に暗く、頭の働きの鈍いこと。
迷頑不靈	めいがんふれい	非見出し	頑固で道理に暗く、頭の働きの鈍いこと。⇒冥頑不靈
明鏡止水	めいきょうしすい	5級	邪念がなくすっきりと澄みきった心境。
銘肌鏤骨	めいきるこつ	1級	心に深くきざみこんで忘れないこと。
明月之珠	めいげつのたま	準1級	暗闇でもみずから光を放って照らすという宝玉。
迷悟一如	めいごいちによ	準2級	仏教で、迷いというも、悟りというも、たどりつくところは一つであるということ。
冥行擲埴	めいこうてきしよく	配当外	学問をするのに、その方法を知らないことのたとえ。
明察秋毫	めいさつしゅうごう	1級	眼力の鋭いこと。
名実一体	めいじついったい	5級	名称と実質、評判と実際とが一致していること。
名実相応	めいじつそうおう	非見出し	名はそのものの本質を表すということ。⇒名詮自性
迷者不問	めいしゃふもん	4級	わからないことがあったら積極的に人に尋ねるべきだということ。
明珠暗投	めいしゅあんとう	準2級	どんなに貴重なものも、人に贈るときに礼儀を失すれば、かえって恨みを招くたとえ。
名所旧跡	めいしょきゅうせき	追加	景色が優れていることで名高い所や歴史的に名高い所。
盟神探湯	めいしんたんとう	5級	わが国の古代、真偽正邪を裁くのに神に誓って手で熱湯を探らせたこと。神に誓って湯を探ると正しい者はただれず、邪な者はただれるとしたもの。
銘心鏤骨	めいしんるこつ	非見出し	心に深くきざみこんで忘れないこと。⇒銘肌鏤骨
名声赫赫	めいせいかくかく	準1級	よい評判が盛んにあがること。
名声過実	めいせいかじつ	5級	実際よりも評判のほうが高いこと。
名声嘖嘖	めいせいさくさく	非見出し	評判がよく、人々からほめそやされるさま。⇒好評嘖嘖
名声日月	めいせいじつげつ	非見出し	よい評判が盛んにあがること。⇒名声赫赫
命世之英	めいせいのえい	非見出し	世にすぐれた才能。⇒命世之才
命世之才	めいせいのさい	準1級	世にすぐれた才能。
鳴蟬潔飢	めいせんけつき	準1級	高潔の士はどのようなときにも節操を変えないたとえ。

明窓淨几	めいそうじょうき	1級	清潔で快適に勉強できる書斎。
明窓淨机	めいそうじょうき	非見出し	清潔で快適に勉強できる書斎。⇒明窓淨几
名存実亡	めいそんじつぼう	5級	名前だけが残って実質が失われること。
明哲防身	めいてつぼうしん	非見出し	聡明で事理にくだしい人は危険を避けて身の安全を保つこと。また、賢く世に処して自分の地位を守ること。⇒明哲保身
明哲保身	めいてつほしん	3級	聡明で事理にくだしい人は危険を避けて身の安全を保つこと。また、賢く世に処して自分の地位を守ること。
明眸皓齒	めいぼうこうし	1級	美人のたとえ。
明明赫赫	めいめいかくかく	準1級	明らかに光りかがやくさま。
冥冥之志	めいめいのこころざし	準1級	人知れず努力してつとめ励むこと。また、人知れず心の中に期すること。
明明白白	めいめいはくはく	5級	はっきりとして疑う余地がないこと。
名誉回復	めいよかいふく	非見出し	失敗して落ちた信用や名声をその後の行いでとりもどすこと。⇒名誉挽回
名誉挽回	めいよばんかい	準1級	失敗して落ちた信用や名声をその後の行いでとりもどすこと。
明朗快活	めいろうかいかつ	非見出し	明るくほがらかで、小さなことにこだわらないこと。⇒明朗闊達
明朗闊達	めいろうかつたつ	1級	明るくほがらかで、小さなことにこだわらないこと。
明朗豁達	めいろうかつたつ	非見出し	明るくほがらかで、小さなことにこだわらないこと。⇒明朗闊達
名論卓説	めいろんたくせつ	3級	見識の高いすぐれた説論。
迷惑至極	めいわくしごく	非見出し	たいへん迷惑なこと。⇒迷惑千万
迷惑千万	めいわくせんばん	4級	たいへん迷惑なこと。
滅茶苦茶	めちゃくちや	非見出し	筋道が立たないこと。⇒無茶苦茶
滅私奉公	めっしほうこう	3級	自分の利益や欲望を捨てて、公のために尽くすこと。
免許皆伝	めんきょかいでん	3級	極意を伝授すること。
面向不背	めんこうふはい	5級	どこから見ても、整っていて美しいこと。また、どこから見ても同じであること。
麪市塩車	めんしえんしゃ	準1級	雪の積もる形容。
面従後言	めんじゅうこうげん	5級	面と向かつてはこびへつらって従い、裏にまわっては悪口を言うこと。
面従背毀	めんじゅうはいき	非見出し	面と向かつてはこびへつらって従い、裏にまわっては悪口を言うこと。⇒面従後言
面従腹背	めんじゅうふくはい	5級	表面だけ服従するふりをして内心は反抗していること。
面従腹誹	めんじゅうふくひ	非見出し	表面だけ服従するふりをして内心は反抗していること。⇒面従腹背
面折廷諍	めんせつていそう	1級	面と向かつて臆することなく争論すること。
面折廷争	めんせつていそう	非見出し	面と向かつて臆することなく争論すること。⇒面折廷諍
面張牛皮	めんちょうぎゅうひ	5級	つらの皮の厚いこと。
面壁九年	めんぺきくねん	4級	長年わきめもふらず勉強すること。
面目一新	めんもくいっしん	5級	今までとは違う高い評価を得ること。また、今までとは外見や内容がすっかり変わること。
面目躍如	めんもくやくじょ	3級	世間の評価にふさわしい活躍をして、いきいきとしていること。また、世間に対して顔が立つこと。
綿裏之針	めんりのはり	非見出し	表面は柔和で当たりがよいが、ひそかに悪意を抱いていること。⇒綿裏包針
綿裏包針	めんりほうしん	4級	表面は柔和で当たりがよいが、ひそかに悪意を抱いていること。
妄画蛇足	もうがだそく	非見出し	無用なものをつけ足すこと。⇒画蛇添足
盲亀浮木	もうきふぼく	2級	出会うことがきわめて難しいこと。
罔極之恩	もうきょくのおん	1級	父母の恩。
妄言多謝	もうげんたしゃ	準2級	いいかげんな言葉を並べたことを深くおわびしますの意。手紙文などの末尾に置く語。
孟光拳案	もうこうきょあん	非見出し	夫婦の間に礼儀がいきとどいていること。⇒拳案齊眉
毛骨悚然	もうこつしょうぜん	1級	ひどく恐れおののくさま。
毛骨竦然	もうこつしょうぜん	非見出し	ひどく恐れおののくさま。⇒毛骨悚然
猛虎伏草	もうこふくそう	非見出し	才能を持ちながら機会がなくて実力を発揮できない者のこと。また、将来が有望な若者のたとえ。⇒伏竜鳳雛
妄想之縄	もうぞうのなわ	準1級	仏教で、限りなく身を苦しめる迷い。
妄誕無稽	もうたんむけい	非見出し	言説に根拠がなく、現実性に欠けること。でたらめ。⇒荒唐無稽

孟仲叔季	もうちゅうしゅくき	準1級	兄弟姉妹の長幼の順。長子・次子・三子・四子の称。
妄評多罪	もうひょうたざい	準2級	見当はずれの批評を深くわびること。他人の文章への批評のあとに書く謙称。
孟母三居	もうぼさんきょ	非見出し	子供の教育には環境が大切であるというたとえ。⇒孟母三遷
孟母三遷	もうぼさんせん	準1級	子供の教育には環境が大切であるというたとえ。
孟母断機	もうぼだんき	準1級	学問は途中で放棄してしまっではなんにもならないという教え。⇒断機之戒
朦朧模糊	もうろうもこ	非見出し	はっきりとしないさま。あやふや・不明瞭。⇒曖昧模糊
目指氣使	もくしきし	5級	言葉を出さず、目くばせや顔つきだけで、目下の者をこき使うこと。
目食耳視	もくしょくじし	4級	外見にとらわれ、衣食の本源を忘れてぜいたくに流れること。
目挑心招	もくちょうしんしょう	準2級	遊女が流し目で客を誘うさま。
沐浴斎戒	もくよくさいかい	1級	神仏にお祈りする前に、飲食や行動を慎み身を洗い清めること。⇒斎戒沐浴
沐浴抒溷	もくよくじょこん	1級	髪やからだを洗い清めて、けがれをとり除くこと。
百舌勘定	もずかんじょう	準1級	うまいことを言っただけが得をするような勘定のしかた。
物我一体	もつがいったい	4級	仏教で、他の物(者)と自己が一つになり、他もなく我もない境地。
両刃之剣	もろはのつるぎ	準1級	利便なものも扱い方によってはたいへんな危険をもたらすたとえ。
門外不出	もんがいふしゅつ	5級	秘蔵して、人に見せたり持ち出したりしないこと。
問牛知馬	もんぎゅうちば	追加	相手の隠している心情を、巧みに誘導して聞き出すこと。
門巷填隘	もんこうてんあい	1級	人が多く集まりくる形容。
門巷填集	もんこうてんしゅう	非見出し	人が多く集まりくる形容。⇒門巷填隘
門戸開放	もんこかいほう	5級	制限を廃し、自由にすること。
文殊知恵	もんじゅのちえ	3級	すぐれたよい知恵。
悶絶蹙地	もんぜつびやくじ	1級	転げまわって悶え苦しむこと。
門前雀羅	もんぜんじゃくら	準1級	訪れる人もなくさびれ果てたさま。
門前成市	もんぜんせいし	5級	人が多く集まることのたとえ。
問鼎輕重	もんでいけいちょう	準1級	その人の権威・実力を疑うこと。
問答無益	もんどうむえき	5級	話し合ってもなんのたしにもならないということ。話を打ち切るときに用いる。
問答無用	もんどうむよう	5級	問い答えをする必要がない。
問柳尋花	もんりゅうじんか	準2級	春に柳や花をめでること。
夜雨対牀	やうたいしょう	1級	兄弟や友人の間柄がたいへん親密なたとえ。
冶金踊躍	やきんようやく	2級	自分が置かれている立場に安んじることができないたとえ。
藥石無効	やくせきむこう	5級	薬や医者の治療もききめがないこと。
約法三章	やくほうさんしょう	5級	簡単な法やとり決めを作って民衆と約束すること。
夜光之璧	やこうのへき	非見出し	暗闇でもみずから光を放って照らすという宝玉。⇒明月之珠
夜行被繡	やこうひしゅう	非見出し	功名をあげ、また出世しても故郷に錦を飾らなければ誰も知るものがないたとえ。⇒衣繡夜行
野戦攻城	やせんこうじょう	4級	野原や平地で戦い、城を攻めること。
八咫之鏡	やたのかがみ	1級	三種の神器の一。
山雀利根	やまがらりこん	準1級	広く世の中を知ることせず、自分の知っていることだけにこだわることのたとえ。
夜郎自大	やろうじだい	4級	自分の力量も知らず、偉そうな顔をしていばるたとえ。
唯一不二	ゆいいつふじ	非見出し	ただそれ一つきりで、他に同じものはないこと。⇒唯一無二
唯一無二	ゆいいつむに	準2級	ただそれ一つきりで、他に同じものはないこと。
唯我独尊	ゆいがどくそん	準2級	自分だけがすぐれているとうぬぼれること。
唯美主義	ゆいびしゅぎ	非見出し	人生の目的を理性より美におき、官能・感覚を重視する芸術上の態度。⇒耽美主義
維摩一默	ゆいまいちもく	準1級	多弁より沈黙がまさっていることのたとえ。
黝堊丹漆	ゆうあくたんしつ	1級	建物が古いしきたりにかなって作られていることをいう。
游雲驚竜	ゆううんきょうりょう	1級	空にながれ行く雲と空翔ける竜。能書(すぐれた筆跡)の形容。

尤雲殢雨	ゆううんていう	配当外	男女の情交のこと。
勇往邁進	ゆうおうまいしん	1級	目的をめざしまっしぐらに突き進むこと。
勇往猛進	ゆうおうもうしん	非見出し	目的をめざしまっしぐらに突き進むこと。⇒勇往邁進
勇氣勃勃	ゆうきぼつぼつ	非見出し	雄々しい勇氣がふつふつと湧いてくること。⇒雄心勃勃
有脚陽春	ゆうきゃくようしゅん	4級	行く先々で恩徳を施す人。
勇氣凜凜	ゆうきりんりん	1級	ものに恐れず勇ましいさま。
雄鷄生卵	ゆうけいせいらん	非見出し	物事の見込みがないこと。⇒鉄樹開花
邑犬群吠	ゆうけんぐんばい	準1級	つまらない者どうしが集まって、あれこれ騒ぎたてること。
右賢左戚	ゆうけんさせき	2級	親戚の者を低い地位(左)におき、賢者を高い地位(右)におくこと。⇒左戚右賢
有言実行	ゆうげんじっこう	5級	言ったことはかならず実行すること。
有厚無厚	ゆうこうむこう	4級	ほんとうに厚いものは厚薄をいうことができないから厚さがないのとかわらない。
雄材大略	ゆうざいたいりゃく	4級	すぐれて大きい才能とはかりごと。
宥坐之器	ゆうざのき	準1級	座右において戒めとする道具。
勇者不懼	ゆうしゃふく	非見出し	勇氣のある者は恐れないこと。⇒仁者不憂
幽愁暗恨	ゆうしゅうあんこん	準2級	深く人知れないうれいと恨み。
幽愁闇恨	ゆうしゅうあんこん	非見出し	深く人知れないうれいと恨み。⇒幽愁暗恨
優柔寡断	ゆうじゅうかだん	非見出し	いつまでもぐずぐずして物事の決断ができないこと。⇒優柔不断
有終完美	ゆうしゅうかんび	非見出し	終わりを全うすること。⇒有終之美
有終之美	ゆうしゅうのび	準1級	終わりを全うすること。
優柔不断	ゆうじゅうふだん	4級	いつまでもぐずぐずして物事の決断ができないこと。
優勝劣敗	ゆうしょうれつぱい	4級	まさっている者が勝ち、劣っている者が負けること。
雄心勃勃	ゆうしんぼつぼつ	2級	雄々しい勇氣がふつふつと湧いてくること。
融通自在	ゆうずうじざい	非見出し	行動や思考がものにとらわれずのびのびしていること。⇒融通無礙
融通無礙	ゆうずうむげ	1級	行動や思考がものにとらわれずのびのびしていること。
遊生夢死	ゆうせいむし	非見出し	何をなすこともなく、ぼんやりと生涯を過ごすこと。⇒醉生夢死
悠然自得	ゆうぜんじとく	非見出し	ゆったりとした気持ちでのんびり過ごすこと。⇒悠悠自適
有職故実	ゆうそくこじつ	準1級	朝廷や武家の古来の法令や儀式・風俗・習慣のこと。
雄大豪壮	ゆうだいごうそう	準2級	雄々しく大きくて盛んで立派なこと。
遊蕩三昧	ゆうとうさんまい	非見出し	仏の境地に遊んで何のものにもとらわれないこと。また、遊びたわむれふけること。⇒遊戯三昧
有備無患	ゆうびむかん	準2級	ふだんから準備を整えておけば、万一の場合にも心配がないということ。
右文左武	ゆうぶんさぶ	5級	文武両道を兼ね備えること。
有名亡実	ゆうめいぼうじつ	非見出し	名ばかり立派で実質がそれに伴わないこと。⇒有名無実
有名無実	ゆうめいむじつ	5級	名ばかり立派で実質がそれに伴わないこと。
優孟衣冠	ゆうもういかん	準1級	他人のまねをする人、演技をする人のたとえ。また外形だけは似ていて実質の伴わないもののたとえ。
勇猛果敢	ゆうもうかかん	3級	勇ましくて強く、決断力に富むこと。
勇猛精進	ゆうもうしょうじん	4級	積極的に物事を行うこと。
優游涵泳	ゆうゆうかんえい	1級	ゆったりとした気持ちで学問や技芸の深い境地を味わう。
悠悠閑閑	ゆうゆうかんかん	準2級	ゆったりして急がないさま。
優優閑閑	ゆうゆうかんかん	非見出し	ゆったりして急がないさま。⇒悠悠閑閑
悠悠緩緩	ゆうゆうかんかん	非見出し	ゆったりして急がないさま。⇒悠悠閑閑
悠悠自適	ゆうゆうじてき	準2級	ゆったりとした気持ちでのんびり過ごすこと。
優遊自適	ゆうゆうじてき	非見出し	ゆったりとした気持ちでのんびり過ごすこと。⇒悠悠自適
優游自適	ゆうゆうじてき	非見出し	ゆったりとした気持ちでのんびり過ごすこと。⇒悠悠自適
悠悠自得	ゆうゆうじとく	非見出し	ゆったりとした気持ちでのんびり過ごすこと。⇒悠悠自適

優游不斷	ゆうゆうふだん	非見出し	いつまでもぐずぐずして物事の決断ができないこと。⇒優柔不斷
遊戯三昧	ゆげざんまい	準1級	仏の境地に遊んで何ものにもとらわれないこと。また、遊びたわむれふけること。
油断強敵	ゆだんきょうてき	非見出し	注意を怠れば必ず失敗を招くから警戒せよという戒め。⇒油断大敵
油断大敵	ゆだんたいてき	5級	注意を怠れば必ず失敗を招くから警戒せよという戒め。
余韻嫋嫋	よいんじょうじょう	1級	音声が鳴りやんでもなお残るひびきが、細く長く続くさま。
余音嫋嫋	よいんじょうじょう	非見出し	音声が鳴りやんでもなお残るひびきが、細く長く続くさま。⇒余韻嫋嫋
用意周到	よういしゅうとう	4級	心づかいがゆきとどいて、準備に手ぬかりのないさま。
揚威耀武	よういようぶ	非見出し	武力や威力をあげ示すこと。⇒耀武揚威
要害堅固	ようがいけんこ	4級	備えのかたいこと。
要害之地	ようがいのち	非見出し	四方を山や川に囲まれて攻めにくく守りやすい要害の国をいう。⇒四塞之国
妖怪変化	ようかいへんげ	2級	人間には理解できないふしぎな化け物。
用管窺天	ようかんきてん	準1級	視野や見識が狭いことのたとえ。
陽関三疊	ようかんさんじょう	4級	別れを繰り返して惜しむこと。
羊裘垂钓	ようきゅうすいちょう	1級	羊のかわごろもを着て釣り糸をたれる。隠者の姿をいう。
鷹犬之才	ようけんのさい	準1級	自分が手先に使って役に立つ才能の持ち主。
庸言庸行	ようげんようこう	準2級	ふだんの言行。
妖言惑衆	ようげんわくしゅう	2級	あやしげなことを言いふらして多くの人を惑わせること。
用行舍蔵	ようこうしゃぞう	5級	出处進退をわきまえていること。
羊很狼貪	ようこんろうどん	1級	荒々しくて道理にそむき、また飽くことなく欲ばること。
楊子岐泣	ようしききゅう	非見出し	人は習慣や他人の影響などによって善にも悪にもなるたとえ。⇒墨子泣糸
容姿端麗	ようしたんれい	4級	姿かたちの美しいこと。
羊質虎皮	ようしつこひ	2級	外見は立派だが中身がないこと。
妖姿媚態	ようしびたい	1級	いかにもなまめかしく美しい姿。
用舍行蔵	ようしゃこうぞう	5級	出处進退をわきまえていること。⇒用行舍蔵
楊朱泣岐	ようしゅきゅうき	非見出し	人は習慣や心がけ次第で、善人にも悪人にもなるということ。⇒哭岐泣練
傭書自資	ようしょじし	準1級	文章を書いて生活の糧とすること。
擁書万卷	ようしょばんかん	非見出し	蔵書が非常に多いことのたとえ。⇒汗牛充棟
鷹視狼歩	ようしろうほ	準1級	猛々しく食欲で残忍な人物のたとえ。また、勇猛ですきを与えない豪傑のたとえ。
揚清激濁	ようせいげきだく	3級	清潔なものの善なるものを押し上げ、汚濁のものの悪しきものを除去するたとえ。⇒激濁揚清
養生喪死	ようせいそうし	準2級	生きているものを十分に養い、死んだものを手厚く弔う。
養生生死	ようせいそうし	非見出し	生きているものを十分に養い、死んだものを手厚く弔う。⇒養生喪死
庸中佼佼	ようちゅうのこうこう	準1級	平凡な者の中でややすぐれた者の意。
傭中佼佼	ようちゅうのこうこう	非見出し	平凡な者の中でややすぐれた者の意。⇒庸中佼佼
羊腸小径	ようちょうしょうけい	5級	羊のはらわたのように曲がりくねった山道や小道をいう。
羊頭狗肉	ようとうくにく	準1級	見せかけはりっぱでも実質が伴わないこと。
蠅頭細書	ようとうさいいしょ	準1級	細かい文字のこと。
搖頭擺尾	ようとうはいび	1級	人に気に入られるようにこびへつらうさま。
羊頭馬脯	ようとうばほ	非見出し	見せかけはりっぱでも実質が伴わないこと。⇒羊頭狗肉
揚眉吐気	ようびとき	2級	やるべき事を成し遂げて喜ぶさま。
耀武揚威	ようぶようい	準1級	武力や威力をあげ示すこと。
揚武揚威	ようぶようい	非見出し	威厳に満ち溢れてりっぱなこと。氣勢が大いに盛んなこと。⇒威風堂堂
容貌魁偉	ようぼうかいい	準1級	顔つきや体つきがたくましく堂堂としてりっぱなさま。
瑤林瓊樹	ようりんけいじゅ	1級	人品が卑しくなく高潔で、人並みすぐれていること。
用和為貴	ようわいき	4級	人と人とが仲よくすることが最もたいせつであるということ。

薏苡明珠	よくいめいしゅ	1級	無実の嫌疑をかけられること。
翼覆嫗煦	よくふうく	1級	翼で包み抱き温める。転じて、いつくしむこと、愛撫すること。
沃野千里	よくやせんり	2級	土地のよく肥えた広々とした原。
沃埜千里	よくやせんり	非見出し	土地のよく肥えた広々とした原。⇒沃野千里
抑揚頓挫	よくようとんざ	2級	勢いが途中でくじけること。
欲求不満	よつきゅうふまん	非見出し	何らかの原因によって欲求の満足を妨げられている状態、またはそれによって気がいらだち緊張が高まった状態。フラストレーション。⇔心滿意足
輿馬風馳	よばふうち	準1級	非常に速いことのたとえ。
夜目遠目	よめとおめ	5級	(女の人は)はっきり見定められないときのほうが美しく見えるということ。
余裕綽綽	よゆうしゃくしゃく	1級	ゆったりと落ち着いてあせらないさま。
雷轟電撃	らいごうでんげき	準1級	勢いのきわめてはげしいことのたとえ。
雷轟電転	らいごうでんてん	準1級	町中の喧騒の激しいことのたとえ。
雷陳膠漆	らいちんこうしつ	1級	友情が深く堅いこと。
雷霆万鈞	らいていばんきん	1級	威勢がきわめて大きく防ぎとめることのできないたとえ。
雷騰雲奔	らいとううんぽん	準2級	一時もとどまらず過ぎ去っていくことのすみやかなたとえ。
雷同附和	らいどうふわ	非見出し	自分の主義主張がなく、他人の言動に軽々しく同調すること。⇒附和雷同
来来世世	らいらいせせ	非見出し	永久に続くことのたとえ。⇒永永無窮
磊磊落落	らいらいらくらく	1級	心が広くて、小さなことにこだわらないさま。
落英繽紛	らくえいひんぷん	1級	散る花びらが乱れ舞うさま。
樂禍幸災	らくかこうさい	準2級	他人の不幸を見てよろこぶこと。⇒幸災樂禍
落雁沈魚	らくがんちんぎょ	非見出し	はなやかな美人の形容。⇒沈魚落雁
落月屋梁	らくげつおくりょう	準1級	友人を思う情が切なこと。
落羿下石	らくせいかせき	1級	人の危機につけ込んでさらに痛めつけることをいう。
落井下石	らくせいかせき	非見出し	人の危機につけ込んでさらに痛めつけることをいう。⇒落羿下石
落筆点蠅	らくひつてんよう	準1級	過ちをうまくとりつころうこと。
洛陽紙価	らくようのしか	準1級	著書が世にもてはやされて、よく売れること。
落落晨星	らくらくしんせい	1級	しだいに仲のよい友人がいなくなること。また、友人が年とともにだんだん死んでいなくなること。⇒晨星落落
落花流水	らっかりゅうすい	5級	散る花と流れ去る水のこと、去りゆく春をいった語。転じて、人や物がおちぶれることのたとえ。また、男女の気持ちが互いに通じあうことのたとえ。
落花狼藉	らっかるうぜき	1級	落ちた花びらなどが入り乱れ取り散らかっているさま。また、女性に乱暴を働くこと。
乱離骨灰	らりこっぱい	非見出し	世の乱れに遭って、人々が離れ離れになること。⇒乱離抔散
乱離粉灰	らりこっぱい	非見出し	世の乱れに遭って、人々が離れ離れになること。⇒乱離抔散
濫竽充数	らんうじゅうすう	1級	無能の者が才能のあるよう見せかけること。また、実力もないのに、分以上の位にいること。
嵐影湖光	らんえいここう	準1級	山の青々とした気と湖面のかがやき。山水の風景の美しいことの形容。
爛額焦頭	らんがくしょうとう	1級	根本を忘れ瑣末なことを重視すること。また、物事を非常に苦勞してすること。⇒焦頭爛額
蘭薰桂馥	らんくんけいふく	1級	蘭や桂が香りたつ。子孫が繁栄することのたとえ。⇒蘭桂騰芳
蘭桂騰芳	らんけいとうほう	準1級	蘭や桂が香りたつ。子孫が繁栄することのたとえ。
覽古考新	らんここうしん	5級	古きをかえりみて、新しきを考え察すること。
蘭摧玉折	らんさいぎよくせつ	1級	賢人や美人などの死をいう。
乱雑無章	らんざつむしょう	5級	めちゃめちゃですじみちが立たないこと。
鸞翔鳳集	らんしょうほうしゅう	1級	賢才が集まり来るたとえ。
乱臣逆子	らんしんぎやくし	非見出し	国を乱す悪臣と親に背く子供。⇒乱臣賊子
乱臣賊子	らんしんぞくし	3級	国を乱す悪臣と親に背く子供。
蘭亭殉葬	らんていじゆんそう	準1級	書画や骨董、器物などを非常に愛好するたとえ。
藍田生玉	らんでんしょうぎよく	2級	家柄のよい家から懸命な子弟の出るたとえ。
乱暴狼藉	らんぼうろうぜき	1級	荒々しい振る舞いや無法な行為をすること。

乱離拡散	らんりかくさん	4級	世の乱れに遭って、人々が離れ離れになること。
利害得失	りがいとくしつ	5級	自分の利益になることとそうでないこと。
利害得喪	りがいとくそう	非見出し	自分の利益になることとそうでないこと。⇒利害得失
李下瓜田	りかかでん	準1級	人に疑われるようなことはしないほうがよいというたとえ。
李下之冠	りかのかんむり	非見出し	人に疑われるようなことはしないほうがよいというたとえ。⇒李下瓜田
力戦奮闘	りきせんふとう	4級	力の限り努力すること。
六言六蔽	りくげんりくへい	準1級	人には六つの徳があるが、学問や教養を積まなければ六つの弊害を生むということ。
六合一和	りくごういちわ	非見出し	天下が統一され、風俗や教化を同じくすること。⇒六合一和
六合同風	りくごうどうふう	準1級	天下が統一され、風俗や教化を同じくすること。
六菖十菊	りくしょうじゅうぎく	準1級	時期が過ぎて役に立たないことのたとえ。
六尺之孤	りくせきのこ	準1級	未成年の孤児。
六韜三略	りくとうさんりゃく	1級	中国の有名な兵法書である『六韜』と『三略』のこと。
戮力一心	りくりょくいっしん	非見出し	物事を一致協力して行うこと。⇒協心戮力
戮力協心	りくりょくきょうしん	1級	物事を一致協力して行うこと。⇒協心戮力
戮力齐心	りくりょくせいしん	非見出し	物事を一致協力して行うこと。⇒協心戮力
戮力同心	りくりょくどうしん	1級	心を一つにして力を合わせ一致協力すること。⇒同心戮力
離群索居	りぐんさっきょ	準2級	同朋や友人、仲間と離れて一人でいること。
離合集散	りごうしゅうさん	4級	離れたり集まったりすること。また、協力したり反目したりすること。
李広成蹊	りこうせいけい	非見出し	徳がある人のもとにはだまっけていても自然に人が集まってくるということ。⇒桃李成蹊
履霜堅氷	りそうけんぴょう	準2級	前兆を見て災難を避けよという戒め。⇒履霜之戒
履霜之戒	りそうのいましめ	準1級	前兆を見て災難を避けよという戒め。
立身出世	りっしんしゅっせ	5級	社会的に高い地位につき、世に認められること。
立身揚名	りっしんようめい	非見出し	社会的に高い地位につき、世に認められること。⇒立身出世
立錐之地	りっすいのち	準1級	とがった錐をやっと立てることができるほどのごく狭い土地。
立錐之土	りっすいのど	非見出し	とがった錐をやっと立てることができるほどのごく狭い土地。⇒立錐之地
利鈍斉列	りどんせいれつ	非見出し	賢者が愚者と同じ待遇を受けること。⇒牛驥同皁
理非曲直	りひきょくちよく	5級	道理にかなったことと道理にかなわないこと。また、正しいことと間違っていること。
柳暗花明	りゅうあんかめい	準2級	春の野の美しい景色のこと。また、花柳界・遊里のこと。
流汗淋漓	りゅうかんにんり	1級	汗が体中から流れ出て、したたり落ちること。
流金鑠石	りゅうきんしゃくせき	1級	厳しい暑さのたとえ。
流金焦土	りゅうきんしょうど	非見出し	厳しい暑さのたとえ。⇒流金鑠石
流言蜚語	りゅうげんひご	1級	確かな根拠のないいいかげんなうわさ。
流言飛語	りゅうげんひご	非見出し	確かな根拠のないいいかげんなうわさ。⇒流言蜚語
流言飛文	りゅうげんひぶん	非見出し	確かな根拠のないいいかげんなうわさ。⇒流言蜚語
流言流説	りゅうげんりゅうせつ	非見出し	確かな根拠のないいいかげんなうわさ。⇒流言蜚語
柳巷花街	りゅうこうかがい	準1級	遊里・色町のこと。
流觴曲水	りゅうしょうきょくすい	1級	曲折した水の流れに杯を浮かべ、それが自分の前を流れ過ぎないうちに詩を作り、杯の酒を飲むという風雅な遊び。⇒曲水流觴
柳絮才高	りゅうじょさいこう	非見出し	文才のある女性をいう。⇒詠雪之才
柳絮之才	りゅうじょのさい	非見出し	文才のある女性をいう。⇒詠雪之才
流水行雲	りゅうすいこううん	非見出し	物事に執着せず、自然のなりゆきに任せて行動すること。⇒行雲流水
流水高山	りゅうすいこうざん	非見出し	すぐれて巧みな音楽のこと。また、妙なる演奏のこと。⇒高山流水
流水落花	りゅうすいらっか	非見出し	散る花と流れ去る水のこと、去りゆく春をいった語。転じて、人や物がおちぶれることのたとえ。また、男女の気持ちが互いに通じあうことのたとえ。⇒落花流水
流星光底	りゅうせいこうてい	5級	勢いよく振り下ろす刀の光を流星にたとえていう。
柳陌花街	りゅうはくかがい	非見出し	遊里・色町のこと。⇒柳巷花街

柳媚花明	りゅうびかめい	非見出し	春の野の美しい景色のこと。また、花柳界・遊里のこと。⇒柳暗花明
柳眉倒豎	りゅうびとうじゅ	準1級	女性が眉を逆立てて怒るさま。
流芳後世	りゅうほうこうせい	非見出し	名声や良い評判を後世まで残すこと。⇔遺臭万載
粒粒辛苦	りゅうりゅうしんく	3級	こつこつと努力や苦労を重ねること。
柳緑花紅	りゅうりよくかこう	準2級	人の手を加えていない自然のままの美しさのこと。⇒花紅柳緑
柳緑桃紅	りゅうりよくとうこう	非見出し	紅の桃の花と緑あざやかな柳におおわれた春景色の美しさのこと。⇒桃紅柳緑
流連荒亡	りゅうれんこうぼう	4級	家にも帰らず酒食や遊興にふけて仕事をなまけること。
亮遺巾幘	りょういきんかく	非見出し	めめしい考えや行為をはずかしめること。⇒巾幘之贈
凌雲意気	りょううんいき	非見出し	俗世間を遠く超越したいと願う高尚なころざし。⇒凌雲之志
凌雲之気	りょううんのき	非見出し	俗世間を遠く超越したいと願う高尚なころざし。⇒凌雲之志
凌雲之志	りょううんのころざし	準1級	俗世間を遠く超越したいと願う高尚なころざし。
陵雲之志	りょううんのころざし	非見出し	俗世間を遠く超越したいと願う高尚なころざし。⇒凌雲之志
竜淵太阿	りょうえんたいあ	非見出し	名剣の名。⇒干将莫邪
梁冀跋扈	りょうきばっこ	1級	後漢の梁冀は朝廷でогり高ぶり「跋扈將軍」と呼ばれた。
良弓難張	りょうきゅうなんちょう	4級	才能ある人物は使いこなすのは難しいが、上手に使えば非常に役に立つということ。
良玉精金	りょうぎょくせいきん	5級	性格が穏やかで純粋なこと。⇒精金良玉
竜吟虎嘯	りょうぎんこしょう	1級	同類は相応じ従うということ。
良禽択木	りょうきんたくぼく	準1級	かしこい人物は自分の仕える主人をよく吟味して仕官するものであるということ。
竜駒鳳雛	りょうくほうすう	準1級	才知ある賢い少年のこと。
竜興致雲	りょうこうちうん	準1級	聖徳ある天子が立つと賢明な臣下があらわれるたとえ。
陵谷遷貿	りょうこくせんぼう	準2級	世の中の移り変わりの激しいこと。
陵谷之变	りょうこくのへん	非見出し	世の中の移り変わりの激しいこと。⇒陵谷遷貿
陵谷変遷	りょうこくへんせん	非見出し	世の中の移り変わりの激しいこと。⇒陵谷遷貿
両虎相闘	りょうこそうとう	非見出し	きわめて激しい争いのたとえ。⇒竜騰虎闘
竜虎相搏	りょうこそうはく	1級	強い者どうしが激しく戦うこと。
良妻賢母	りょうさいけんぼ	3級	夫にとっては良い妻であり、子にとっては賢明な母であること。
量才取用	りょうさいしゅよう	非見出し	人それぞれの才能をよく考えて登用すること。⇒量才録用
量才録用	りょうさいろくよう	5級	人それぞれの才能をよく考えて登用すること。
竜舟鷁首	りょうしゅうげきしゅ	1級	風流を楽しむ舟のこと。⇒竜頭鷁首
竜舟鳳艫	りょうしゅうほうぼう	配当外	天子の乗る船。また美しい船。
竜驤虎視	りょうじょうこし	1級	世に威勢を示し、意気が盛んなこと。
竜攘虎搏	りょうじょうこはく	1級	強い者どうしが激しく戦うこと。
竜驤虎歩	りょうじょうこほ	非見出し	世に威勢を示し、意気が盛んなこと。⇒竜驤虎視
竜驤虎躍	りょうじょうこやく	非見出し	世に威勢を示し、意気が盛んなこと。⇒竜驤虎視
梁上君子	りょうじょうのくんし	準1級	盗賊、どろぼうのこと。
凌霄之志	りょうしょうのころざし	1級	俗世間を遠く超越したいと願う高尚なころざし。⇒凌雲之志
竜章鳳姿	りょうしょうほうし	準1級	すぐれて立派な容姿をいう。
竜驤麟振	りょうじょうりんしん	1級	首を高く上げて竜のように上り、麒麟が勢いよく振るい立つように、威力や勢力の盛んなたとえ。
竜戦虎争	りょうせんこそう	非見出し	強い者どうしが激しく戦うこと。⇒竜攘虎搏
量体裁衣	りょうたいさいい	5級	状況に応じて物事を現実的に処理すること。
竜拏虎擲	りょうだこてき	配当外	英雄が戦うたとえ。⇒虎擲竜拏
竜跳虎臥	りょうちょうこが	準1級	筆勢が縦横自在ですばらしいことのたとえ。
良知良能	りょうちりょうのう	5級	人間が生まれながらにそなえている知恵と才能のこと。
竜頭鷁首	りょうとうげきしゅ	1級	風流を楽しむ舟のこと。

竜騰虎鬪	りょうとうことう	準1級	きわめて激しい争いのたとえ。
竜頭蛇尾	りょうとうだび	準1級	最初は盛んであるが、終わりの方になると振るわなくなること。
遼東之豕	りょうとうのいのこ	1級	世間知らずで、自分だけ得意になっていること。
竜瞳鳳頸	りょうどうほうけい	準1級	竜のひとみと鳳凰の首。きわめて高貴な人の人相をいう。
竜蟠虺肆	りょうばんげんし	配当外	聖人も民間にあれば俗人にあなどられるたとえ。
竜蟠虎踞	りょうばんこきょ	1級	険しい地勢。攻めるのに困難で守るのに便利な地勢。
良風美俗	りょうふうびぞく	4級	良く美しい風俗習慣。
両鳳斉飛	りょうほうせいひ	非見出し	二羽の鳳凰が並び飛ぶ。兄弟がそろって栄達することのたとえ。⇒両鳳連飛
両鳳連飛	りょうほうれんぴ	準1級	二羽の鳳凰が並び飛ぶ。兄弟がそろって栄達することのたとえ。
綾羅錦繡	りょうらきんしゅう	準1級	目をみはるほど美しいもの。また、美しく着飾ること。
緑酒紅灯	りょくしゅこうとう	5級	歓楽と飽食のたとえ。また、繁華街・歓楽街のようす。⇒紅灯緑酒
緑林好汉	りょくりんのこうかん	非見出し	盗賊の異名。⇒緑林白波
緑林白波	りょくりんはくは	5級	盗賊の異名。
驪竜之珠	りりょうのたま	1級	命懸けで求めなければ得られない貴重な物のたとえ。また、危険を冒して大きな利益を得ることのたとえ。
理路整然	りろせいぜん	5級	話や考えの筋道がよく通っていること。
霖雨蒼生	りんうそうせい	1級	恵みを与えること。また、民を苦しみから救う人のこと。
臨淵羨魚	りんえんせんぎょ	準1級	いたずらに空しい望みを抱くたとえ。
臨淵之羨	りんえんのせん	非見出し	いたずらに空しい望みを抱くたとえ。⇒臨淵羨魚
麟角鳳嘴	りんかくほうし	1級	非常にまれにしか存在しないもののたとえ。
臨河羨魚	りんがせんぎょ	非見出し	いたずらに空しい望みを抱くたとえ。⇒臨淵羨魚
輪奐一新	りんかんいっしん	1級	建築が新しくなり、壮大で美しいことの形容。
臨機応変	りんきおうへん	5級	状況や事態の変化に応じて適切な処置をすること。
鱗次櫛比	りんじしっぴ	準1級	うろこや櫛の歯のように続き並ぶこと。
麟子鳳雛	りんしほうすう	準1級	麒麟の子と鳳凰のひな。前途有望な子のたとえ。
臨終正念	りんじゅうしょうねん	5級	死に臨んで心静かに乱れないこと。
輪廻転生	りんねてんしょう	準1級	仏教で、人の生きかわり死にかわりしてとどまることのないことをいう。
麟鳳龜竜	りんぼうきりょう	準1級	太平の世にあらわれるというめでたい霊獣・霊鳥。
琳琅珠玉	りんろうしゅぎょく	1級	非常に美しい玉。すぐれた人物や美しい詩文のたとえ。
琳琅满目	りんろうまんもく	1級	美しいもの、すばらしいものが満ち溢れていることのたとえ。
累世同居	るいせいどうきょ	準2級	幾代にもわたる同族が子々孫々同じ家にいっしょに住むこと。
累卵之危	るいらんのき	非見出し	きわめて危険なことのたとえ。⇒重卵之危
流転輪廻	るてんりんね	非見出し	仏教で、人の生きかわり死にかわりしてとどまることのないことをいう。⇒輪廻転生
縷縷綿綿	るるめんめん	1級	話が長くてくどいこと。
冷汗三斗	れいかんさんと	3級	非常に恐ろしい目にあったり、恥ずかしい思いをすること。
冷眼傍觀	れいがんぼうかん	非見出し	冷静・冷淡な態度で、脇から眺めること。⇒拱手傍觀
零絹尺楮	れいけんせきちよ	1級	書画の小片。絹や紙のきれはし。
鴿原之情	れいげんのじょう	1級	兄弟の深い情愛のこと。
靈魂不滅	れいこんふめつ	3級	人間の魂は肉体の死後も存在しているという考え方。
礪山帶河	れいざんたいが	準1級	永く変わらない堅い誓約のこと。また、国が永遠に栄えること。⇒河山帶礪
藜杖韋帶	れいじょういたい	1級	あかざの杖となめし皮の帯。質素なことの形容。
冷水三斗	れいすいさんと	非見出し	非常に恐ろしい目にあったり、恥ずかしい思いをすること。⇒冷汗三斗
励声疾呼	れいせいしっこ	非見出し	大声で激しく叫ぶこと。⇒大声疾呼
冷暖自知	れいだんじち	5級	自分のことは他人から言われなくても自分で分かることのたとえ。
冷嘲熱罵	れいちょうねつば	2級	冷ややかにあざけり熱心になじること。

零丁孤苦	れいていこく	3級	落ちぶれて助ける者もなく、独りで苦しむこと。
伶仃孤苦	れいていこく	非見出し	落ちぶれて助ける者もなく、独りで苦しむこと。⇒零丁孤苦
冷土荒堆	れいどうたい	2級	墓のこと。
烈士殉名	れっしじゅんめい	1級	道理のとあった正しい行いをする人は名誉のために命をかける。
蓮華往生	れんげおうじょう	準1級	死んで極楽浄土に行くこと。
隣香惜玉	れんこうせきぎよく	準1級	香や玉をいつくしむ。
連日連夜	れんじつれんや	非見出し	昼夜をわかつたず急いで行くこと。⇒倍日并行
連城之壁	れんじょうのへき	非見出し	この世にめったにない宝物。⇒和氏之璧
連戦連勝	れんせんれんしょう	非見出し	戦ってすべて勝つこと。⇒百戦百勝
廉頗負荊	れんぱふけい	非見出し	思うままに処罰せよと謝罪する作法のこと。真心からの謝罪のたとえ。⇒肉袒負荊
聯袂辞職	れんべいじしょく	1級	大ぜいが行動を共にして、いっせいに職を辞すること。
連袂辞職	れんべいじしょく	非見出し	大ぜいが行動を共にして、いっせいに職を辞すること。⇒聯袂辞職
連璧賁臨	れんぺきひりん	1級	二人の客が同時に来るのをいう。
螻蟻潰堤	ろうぎかいてい	1級	ほんの些細なことが、大きな事件や事故の原因となること。
螻蟻之誠	ろうぎのせい	1級	螻や蟻のような小さな生き物の誠意。
老驥伏櫪	ろうきふくれき	1級	人が年老いてもなお大きな志をいだくことのたとえ。
蠟蛄之才	ろうこのさい	非見出し	専門のないことのたとえ。⇒梧鼠之技
狼子獸心	ろうしじゅうしん	非見出し	凶暴な人のたとえ。また、凶暴な人を教化しがたいたとえ。⇒狼子野心
狼子野心	ろうしやしん	準1級	凶暴な人のたとえ。また、凶暴な人を教化しがたいたとえ。
老少不定	ろうしょうふじょう	5級	人間の寿命は年齢に関係なく、予知できないものだということ。
鏤塵吹影	ろうじんすいえい	1級	無駄な努力。やりがいのないことのたとえ。⇒吹影鏤塵
老成円熟	ろうせいえんじゅく	5級	経験が豊富で、人格・知識・技能などが十分に熟達して、ゆたかな内容をもっていること。
老成持重	ろうせいじちょう	5級	十分な経験があり、そのうえ慎重なこと。
籠鳥檻猿	ろうちょうかんえん	1級	自由を奪われ自分の思いどおりに生きることのできない境遇のたとえ。
籠鳥恋雲	ろうちょうれんうん	2級	捕らえられている者が自由になるのを望むこと。
狼貪虎視	ろうどんこし	準1級	野心の盛んなさま。また、無道で食欲なさま。
老婆心切	ろうばしんせつ	3級	必要以上に世話を焼きすぎること。
老馬之智	ろうばのち	準1級	長い経験を積んで得たすぐれた知恵や知識。
老馬之知	ろうばのち	非見出し	長い経験を積んで得たすぐれた知恵や知識。⇒老馬之智
鏤氷雕朽	ろうひょうちょうきゅう	非見出し	苦勞して効果のないたとえ。また、力を無用なところに用いるたとえ。⇒画脂鏤氷
老萊斑衣	ろうらいはんい	準1級	親孝行のたとえ。親に孝行のかぎりをつくすことのたとえ。
露往霜来	ろおうそうらい	準2級	時の過ぎるのがはやいことのたとえ。
路花牆柳	ろかしょうりゅう	非見出し	遊里・色町のこと。⇒柳巷花街
魯魚亥豕	ろぎょがいし	1級	文字の書き誤り。
魯魚章草	ろぎょしょうそう	準1級	文字の書き誤り。
魯魚帝虎	ろぎょていこ	非見出し	文字の書き誤り。⇒魯魚章草
魯魚陶陰	ろぎょとういん	非見出し	文字の書き誤り。⇒魯魚章草
魯魚之誤	ろぎょのあやまり	非見出し	文字の書き誤り。
魯魚之謬	ろぎょのあやまり	準1級	文字の書き誤り。
六十耳順	ろくじゅうじじゅん	4級	六十歳で人の言うことが素直に受け入れられるようになった。
六趣輪廻	ろくしゅりんね	非見出し	この世に生きとし生けるものは六道の世界に生死を繰り返して迷い続けるということ。⇒六道輪廻
六道輪廻	ろくどうりんね	準1級	この世に生きとし生けるものは六道の世界に生死を繰り返して迷い続けるということ。
盧生之夢	ろせいのゆめ	1級	人の世の栄華のはかないことのたとえ。⇒邯鄲之夢
六根清浄	ろっこんしょうじょう	準2級	欲や迷いから脱け出て、心身が清らかになること。

魯般雲梯	ろはんうんてい	準1級	魯の名工の魯般が作った雲まで届く高いはしご。
魯盤雲梯	ろはんうんてい	非見出し	魯の名工の魯般が作った雲まで届く高いはしご。⇒魯般雲梯
魯般之巧	ろはんのこう	非見出し	魯の名工の魯般が作った雲まで届く高いはしご。⇒魯般雲梯
炉辺談話	ろへんだんわ	3級	いろりのそばでくつろいでする、うちとけた話。
驢鳴牛吠	ろめいぎゅうばい	非見出し	拙劣でつまらない文章や聞くに値しない話のたとえ。⇒驢鳴犬吠
驢鳴狗吠	ろめいくばい	非見出し	拙劣でつまらない文章や聞くに値しない話のたとえ。⇒驢鳴犬吠
驢鳴犬吠	ろめいけんばい	1級	拙劣でつまらない文章や聞くに値しない話のたとえ。
路柳墻花	ろりゅうしょうか	非見出し	遊里・色町のこと。⇒柳巷花街
論功行賞	ろんこうこうしょう	追加	功績の有無や大きさの程度を調べ、それに応じてふさわしい賞を与えること。
論旨不明	ろんしふめい	非見出し	議論の主旨・要旨が、筋道が通っておらずわかりにくいこと。⇔論旨明快
論旨明快	ろんしめいかい	4級	議論の主旨・要旨が、はっきり筋道が通っていてわかりやすいこと。
論旨明解	ろんしめいかい	非見出し	議論の主旨・要旨が、はっきり筋道が通っていてわかりやすいこと。⇒論旨明快
矮子看戲	わいしかんぎ	1級	見識のないことのたとえ。
矮人看戲	わいじんかんぎ	非見出し	見識のないことのたとえ。⇒矮子看戲
矮人觀場	わいじんかんじょう	非見出し	見識のないことのたとえ。⇒矮子看戲
我儘放題	わがままほうだい	非見出し	わがまま勝手な悪い行為のこと。⇒放肆邪侈
和顔愛語	わがんあいご	5級	なごやかで親しみやすい態度のこと。
和顔悦色	わがんえつしょく	非見出し	なごやかで親しみやすい態度のこと。⇒和顔愛語
和氣藹藹	わきあいあい	1級	なごやかな気分が満ちあふれているさま。
和氣靄然	わきあいぜん	非見出し	なごやかな気分が満ちあふれているさま。⇒和氣藹藹
和氣洋洋	わきようよう	非見出し	なごやかな気分が満ちあふれているさま。⇒和氣藹藹
和敬清寂	わけいせいじゃく	4級	主人と客が心を和らげて敬い、茶室など身のまわりを清らかで静かに保つこと。
和羹塩梅	わこうあんばい	1級	主君の施政を助けて天下をうまく治める大臣、宰相のこと。
和光垂迹	わこうすいじゃく	非見出し	自分の才能や徳を隠して、世間に目立たないように暮らすこと。⇒和光同塵
和光同塵	わこうどうじん	準1級	自分の才能や徳を隠して、世間に目立たないように暮らすこと。
和魂漢才	わこんかんさい	3級	日本固有の精神を持ちながら、中国伝来の学問の才もそなえもつこと。
和魂洋才	わこんようさい	3級	日本固有の精神を持ちながら、西洋伝来の学問の才もそなえもつこと。
和衷共济	わちゅうきょうさい	準2級	心を同じくしてともに力を合わせること。⇒和衷協同
和衷協同	わちゅうきょうどう	準2級	心を同じくしてともに力を合わせること。
和風慶雲	わふうけいうん	準2級	穏やかに吹く和らいだ風とめでたい雲。
和容悦色	わようえつしょく	非見出し	なごやかで親しみやすい態度のこと。⇒和顔愛語
和洋折衷	わようせっちゅう	準2級	日本と西洋の様式を取り合わせること。
和洋折中	わようせっちゅう	非見出し	日本と西洋の様式を取り合わせること。⇒和洋折衷